

長野県松本市

松本城下町跡

HONMACHI

本 町

—第8次発掘調査報告書—









2019.3

松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成27年8月3日～平成28年9月13日に実施された、長野県松本市中央2丁目20番2ほかに所在する松本城下町跡本町の第8次発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、信濃毎日新聞株式会社松本本社移転新築事業に伴う緊急発掘調査であり、信濃毎日新聞株式会社より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆分担について、本文冒頭に記名のないものについては、以下のとおりである。
第1章を宮下亮、第2章第2節を鈴木仁美、第3章第4節1・2を竹内靖長、第3章第4節3を高山いず美、第3章第4節5を小山奈津実、その他を原田健司が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。
遺物洗浄・注記 天野雅代・井内南奈香・内田和子・洞澤文江・三澤栄子
遺物保存処理・接合復元 天野雅代・内田和子・洞澤文江・三澤栄子
遺物実測・トレース (土器・陶磁器、瓦、埴埴) 久保田瑞恵・竹内直美・竹平悦子
(木製品) 久保田瑞恵・竹内直美・中澤温子
(石製品) 白鳥文彦・原田健司 (金属製品) 洞澤文江・古林舞香
陶磁器デジタルカラー実測 直井慎之介・直井由加理
遺構図整理・トレース 荒井留美子
写真撮影 (遺構) 白鳥文彦・鈴木仁美・竹内靖長・原田健司
(空中写真) 株式会社地図測量 (遺物) 宮嶋洋一
DTP 白鳥文彦・高山いず美・竹内直美・直井慎之介・直井由加理・原田健司・古林舞香・壬生量子
- 5 本書で用いた略記は次のとおりである。
第○号建物址→建○、第○号敷地境遺構→敷地境○、第○号石列→石列○、第○号溝状遺構→溝○、第○号炭範囲→炭○、第○号土坑→土○、第○号ピット→P○
- 6 図中で使用した方位は真北を示す。また、遺構図中に示した国家座標値(世界測地系・第8系)は、東北太平洋沖地震後の補正值である。
- 7 図類の縮尺は、遺構：1/40・1/80、土器・陶磁器・瓦・埴埴：1/4、木製品：1/3・1/4・1/8、石製品：2/3・1/3、金属製品：1/1・2/3・1/2で掲載した。写真図版の縮尺は、遺構：不同、遺物(俯瞰)：不同、遺物(平置き)：木製品1/4・1/3、石製品は2/3・1/3、金属製品は1/1・1/2・不同で掲載した。
- 8 本書では以下のものを遺構図にスクリーントーンで表した。

	焼土		攪乱
	粘土		推定ライン
	炭化物		遺物
- 9 土色色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版標準土色帖』に準拠している。
- 10 土器・陶磁器実測図の断面の塗り分けは、白：土師質土器・瓦、黒：陶磁器である。
- 11 発掘調査実施と報告書作成にあたり次の方々からご指導、ご助言をいただいた。記して感謝申しあげる。
梅崎恵司、河西克造、北垣總一郎、後藤芳孝、笹本正治、菅沼加那、諏訪問順、関口かをり、原明芳、平林彰、藤沢良祐、保柳康一、満田良順、南山孝
- 12 本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館(〒399-0823 長野県松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189)に保管している。

目次

例言	
目次	
第Ⅰ章 調査の経過	
第1節 調査の経緯	6
第2節 調査体制	7
第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史	
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	12
第Ⅲ章 調査の方法と成果	
第1節 過去の調査	18
第2節 調査の方法	19
第3節 遺構	
1 A区第Ⅰ検出面	20
2 A区第Ⅱ検出面・B区第Ⅰ検出面	22
3 B区第Ⅱ検出面	23
4 A・B区第Ⅲa・b検出面	24
5 A・B区第Ⅳ検出面	24
6 A・B区第Ⅴ検出面	26
第4節 遺物	
1 土器・陶磁器	56
2 瓦	60
3 木製品	85
4 石製品	95
5 金属製品	98
6 自然遺物	101
第Ⅳ章 鑄造関連資料について	105
第Ⅴ章 自然科学分析	
第1節 樹種同定	123
第2節 放射性炭素年代測定	124
第Ⅵ章 調査のまとめ	134
写真図版	
報告書抄録	

写真図版目次

写真図版 1	調査区から松本城を望む合成写真	写真図版 18	石製品
写真図版 2～7	遺構	写真図版 19	金属製品
写真図版 8～13	土器・陶磁器、貝類	写真図版 20～24	鑄造関連資料
写真図版 14～17	木製品		

表目次

表 1	御使者宿の変遷表	表 18	石製品一覧表
表 2	本町に係る災害年表	表 19	金属製品一覧表
表 3	過去の調査一覧表	表 20	金属製品分布表
表 4	建物址一覧表	表 21	哺乳類骨出土地別一覧表
表 5	敷地境遺構一覧表	表 22	鳥類・爬虫類・魚類骨出土地別一覧表
表 6	石列一覧表	表 23	二枚貝出土地別一覧表
表 7	集石遺構一覧表	表 24	巻き貝出土地別一覧表
表 8	溝状遺構一覧表	表 25	種子類出土地別一覧表
表 9	水道遺構一覧表	表 26	種名表
表 10	礎石一覧表	表 27	錢座一覧表 (中世・近世・近代)
表 11	炭範囲一覧表	表 28	古銭 (中国銭) 一覧表
表 12	土坑一覧表	表 29	古銭 (寛永通寶) 一覧表
表 13	ビット一覧表	表 30	古銭分布表
表 14	土器・陶磁器一覧表	表 31	増場一覧表
表 15	軒丸瓦一覧表	表 32	放射性炭素年代測定結果
表 16	平瓦一覧表	～ 34	
表 17	木製品一覧表	表 35	松本城下町跡 (本町第8次調査) における樹種同定結果

図目次

図 1	調査地の位置と周辺遺跡	図 36	A・B区IV検 遺構図
図 2	事業対象地と調査区の範囲	図 37	土器・陶磁器 (1)
図 3	調査地周辺の航空写真	図 38	土器・陶磁器 (2)
図 4	土層断面図	図 39	土器・陶磁器 (3)
図 5	元禄 10 年 (1697) 5 月本町家主間数絵図	図 40	土器・陶磁器 (4)
図 6	本町好味御預り家屋敷目録	図 41	土器・陶磁器 (5)
図 7	4 丁目へ移転後の御使者屋敷間取り図	図 42	土器・陶磁器 (6)
図 8	寛文 9 年 (1669) 本町復元図	図 43	土器・陶磁器 (7)
図 9	享保 9 年 (1724) 本町復元図	図 44	土器・陶磁器 (8)
図 10	幕末期 (1853～1869) 本町復元図	図 45	土器・陶磁器 (9)
図 11	屋敷移転の願い書	図 46	土器・陶磁器 (10)
図 12	A 区 I 検 全体図	図 47	土器・陶磁器 (11)
図 13	A 区 II 検・B 区 I 検 全体図	図 48	土器・陶磁器 (12)
図 14	B 区 II 検 全体図	図 49	土器・陶磁器 (13)
図 15	A・B区III a 検 全体図	図 50	瓦
図 16	A・B区III b 検 全体図	図 51	木製品 (1)
図 17	A・B区IV 検 全体図	図 52	木製品 (2)
図 18	A 区 I 検・B 区 II 検 推定御使者宿範囲図	図 53	木製品 (3)
図 19	A 区 II 検・B 区 I 検 推定御使者宿範囲図	図 54	木製品 (4)
図 20	A 区 I 検 遺構図①	図 55	木製品 (5)
図 21	A 区 I 検 遺構図②	図 56	木製品 (6)
図 22	A 区 I 検 遺構図③	図 57	木製品 (7)
図 23	A 区 I 検 遺構図④	図 58	石製品
図 24	A 区 I 検 遺構図⑤	図 59	金属製品
図 25	A 区 II 検・B 区 I 検 遺構図①	図 60	寛永通寶 (1)
図 26	A 区 II 検・B 区 I 検 遺構図②	図 61	寛永通寶 (2)・中国銭
図 27	A 区 II 検・B 区 I 検 遺構図③	図 62	鋳放 (バリ付寛永通寶) (1)
図 28	A 区 II 検・B 区 I 検 遺構図④	図 63	鋳放 (バリ付寛永通寶) (2)
図 29	B 区 II 検 遺構図	図 64	増場 (1)
図 30	A 区 III b 検・A 区 IV 検 遺構図	図 65	増場 (2)
図 31	A 区 IV 検区画 1 遺構図	図 66	暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)
図 32	A 区 IV 検区画 2 遺構図	図 67	暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)
図 33	A 区 IV 検区画 3 遺構図	図 68	長州藩銭座図模式図
図 34	A 区 IV 検区画 4 遺構図	図 69	大阪「摂津国西成郡難波村鋳銭出張所之近景全図」
図 35	A 区 IV 検区画 5 遺構図		

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査の経緯

信濃毎日新聞株式会社（以下「信毎」という。）により松本市中央 2 丁目 20 番 2 ほかで松本本社移転新築事業が計画されたが、予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である松本城下町跡（本町）に該当していた。平成 26 年 12 月 10 日付で文化財保護法 93 条に基づく土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書が信毎から長野県教育委員会（以下「県教委」という。）宛に提出された。松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では既存建物の解体に立ち会い、土層状況を確認するため、平成 27 年 6 月 18 日～7 月 13 日に事業地内で工事立会調査を実施した。立会調査の結果をふまえ、事業者である信毎と保護協議を行い、発掘調査とこれに係る事務処理については市教委が実施することとし、信毎と松本市の間に平成 27 年 8 月 3 日付で発掘調査業務の委託契約が締結された。

現地での発掘調査は平成 27 年 8 月 3 日～平成 28 年 9 月 13 日に実施した。調査終了後、平成 28 年 10 月 3 日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。また、9 月 16 日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、10 月 4 日付で県教委より埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け平成 29 年 4 月 6 日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、4 月 12 日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

本発掘調査に係る文書等の記録は以下のとおりである。

〈平成 26 年度〉

- 12 月 10 日 「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」を信毎が市教委に提出
- 12 月 16 日 上記届出と「松本城下町跡に関わる保護意見書」を市教委が県教委に進達、提出
- 12 月 18 日 「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」県教委から信毎と市教委に通知（立会）
- 1 月 14 日 第 1 回埋蔵文化財保護協議実施

〈平成 27 年度〉

- 4 月 3 日 第 2 回埋蔵文化財保護協議実施
- 6 月 18 日～7 月 13 日 市教委が工事立会調査実施
- 7 月 1 日 第 3 回埋蔵文化財保護協議実施
- 7 月 13 日 第 4 回埋蔵文化財保護協議実施
- 8 月 3 日 信毎と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結
- 8 月 3 日～3 月 31 日 市教委が発掘調査実施
- 3 月 31 日 松本市が信毎に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

〈平成 28 年度〉

- 4 月 1 日 信毎と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結（発掘・整理作業）
- 4 月 1 日～9 月 13 日 市教委が発掘調査実施
- 9 月 16 日 「埋蔵物発見届」「埋蔵文化財保管証」を市教委が松本警察署、県教委に提出
- 10 月 3 日 「発掘調査終了報告書」を市教委が県教委に提出
- 10 月 4 日 「文化財の認定及び帰属について」県教委から市教委に通知
- 10 月 17 日 「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」を信毎が市教委に提出
- 10 月 20 日 上記届出と「松本城下町跡に関わる保護意見書」を市教委が県教委に進達、提出
- 10 月 24 日 「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」県教委から信毎と市教委に通知
- 3 月 31 日 松本市が信毎に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

〈平成 29 年度〉

- 4 月 1 日 信毎と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結（整理作業）
- 4 月 6 日 「出土文化財譲与申請書」を市教委が県教委へ提出
- 4 月 12 日 「出土文化財の譲与について」県教委から市教委に通知
- 3 月 27 日 松本市が信毎に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

〈平成 30 年度〉

- 4 月 1 日 信毎と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結（報告書作成）

第2節 調査体制

<平成27年度(発掘調査)>

調査団長：赤羽郁夫(松本市教育長)

調査担当：竹内靖長(課長補佐・埋蔵文化財担当係長)、原田健司(主事)、白鳥文彦(嘱託)、鈴木仁美(同)

発掘協力者：井内南奈香、井口方宏、岩井健一郎、白田岳大、大滝清次、折井次次、加藤朝夫、金井秀雄、黒崎奨、小岩井洋、坂口ふみ代、曾根原裕、田中勇一郎、西村一敏、平出賢一、道浦久美子、宮澤文雄、百瀬二三子、百瀬泰宏、柳さおり、矢満田伸子、古屋美江

整理協力者：荒井留美子、井内南奈香、市川二三夫、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、村山牧枝

事務局：内城秀典(課長)、直井雅尚(課長補佐・埋蔵文化財担当係長)、竹内靖長(課長補佐・埋蔵文化財担当係長)、三村竜一(埋蔵文化財担当係長)、櫻井了(主査)、吉見寿美恵(嘱託)

<平成28年度(発掘調査・整理事業)>

調査団長：赤羽郁夫(松本市教育長)

報告担当：原田健司(主事)、白鳥文彦(嘱託)、鈴木仁美(同)

発掘協力者：朝倉秀明、芦沢雅量、井口方宏、今井文雄、大滝清次、折井次次、加藤朝夫、金井秀雄、坂口ふみ代、曾根原裕、田中勇一郎、古屋美江、道浦久美子、宮澤文雄、百瀬二三子、百瀬泰宏、柳さおり、山崎素行、矢満田伸子

整理協力者：天野雅代、中澤温子、原田梨恵、前沢里江、三澤栄子

事務局：木下守(課長)、直井雅尚(埋蔵文化財担当係長)、櫻井了(主査)、吉見寿美恵(嘱託)

<平成29年度(整理事業)>

調査団長：赤羽郁夫(松本市教育長)

調査担当者：三村竜一(課長補佐・埋蔵文化財担当係長)、原田健司(主事)、島岡祐輔(事務員)、白鳥文彦(嘱託)、鈴木仁美(同)

整理協力者：天野雅代、荒井留美子、内田和子、柏原佳子、沢柳宜子、竹内直美、中澤温子、洞澤文江、三澤栄子

事務局：大竹永明(課長)、三村竜一(課長補佐・埋蔵文化財担当係長)、百瀬耕司(主査)、吉見寿美恵(嘱託)

<平成30年度(整理事業・報告書刊行)>

調査団長：赤羽郁夫(松本市教育長)

報告担当：竹内靖長(課長補佐・南・西外堀整備担当係長)、玉川元気(主任)、原田健司(主事)、小山奈津実(同)、白鳥文彦(嘱託)、宮下亮(同)、高山いず美(同)、鈴木仁美(同)、古林舞香(同)、壬生量子(同)

調査員：宮嶋洋一

整理協力者：荒井留美子、柏原佳子、久保田瑞恵、佐々木正子、竹内直美、竹平悦子、直井慎之介、直井由加理、洞澤文江、宮本章江

事務局：大竹永明(課長)、三村竜一(課長補佐・埋蔵文化財担当係長)、百瀬耕司(主査)、吉見寿美恵(嘱託)

第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史

第1節 地理的環境

1 松本城下町跡付近の地形・地質の外観

調査地は、松本城天守閣の南約600m、標高約587m地点に位置する。北には女鳥羽川、南には薄川が流れており、それぞれ約150mと約750mの地点にある。

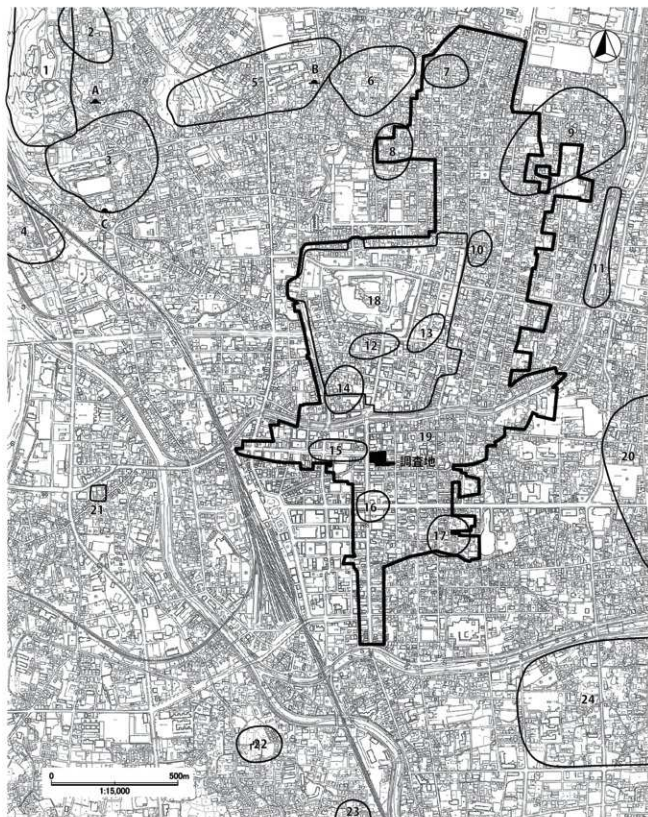
松本市街地は海拔600mの等高線が円形に取り囲み、付近では最も標高が低くなっている。ここに女鳥羽川や薄川、田川などの河川が流れ込み、複合扇状地を形成している。ボーリング調査によると、基盤である第三紀層の上に100m前後の河川堆積物が確認できる。

女鳥羽川の旧流路は稲倉から城山の山頂部に向かって流れていたと言われている。城山方面の隆起とともに川筋が東へ移動し、水汲方面へ流路を変えていったと考えられている。そのため、女鳥羽川扇状地を開析して右岸には河岸段丘が形成されている。薄川は三峰山北西斜面を源流とし、大小様々な支流が合流し、田川へ注ぐ。下流部では舟付橋付近を扇頂として扇状地ができています。この女鳥羽川扇状地と薄川扇状地の扇端部付近に松本城が築かれ、扇状地の伏流水を利用した堀が造られている。

2 調査地点の地形・地質

今回の発掘調査地点は松本市中央2丁目にあり、すぐ北側を蛇川が西流する。調査地付近の旧地形は基本的には北東から南西にかけて緩やかに傾斜している。

地山面を最大2.6m覆う土壌は、すべて戦国時代～現代までの整地客土層である。その基本構成は、現地表から-0.6mまでが碎石等現代の客土、以下-1.5mまでが現代の建築基礎構造物及び客土で、それ以下が江戸時代後半以前の整地土層である。-0.6から-1.5mの間には、現代の建築基礎構造物の攪乱を受けていない範囲が限定的だが残っており、遺物等から幕末から明治初期の整地土層と考えられる。江戸期整地土層は、A区で上位から第Ⅰ検出面(17世紀後半～18世紀後半)、第Ⅱ検出面(17世紀中頃～18世紀中頃)、第Ⅲ検出面(16世紀末～17世紀初頭)、第Ⅳ検出面(14～15世紀、16世紀末～17世紀初頭)があり、B区で第Ⅰ検出面(17世紀中頃～18世紀中頃、A区第Ⅱ検出面に相当)、第Ⅱ検出面(17世紀中頃～18世紀初頭)、第Ⅲ検出面(16世紀末～17世紀初頭)、第Ⅳ検出面(14～15世紀、16世紀末～17世紀初頭)が確認された。A区Ⅰ・Ⅱ検とB区Ⅰ・Ⅱ検に差が出るのは、A区調査時に捉えきれなかった土層をB区調査時に捉えたためである。従って検出面にA区もしくはB区を追記して遺構・遺物の所属を区別した。また、同検出面中の各遺構の帰属時期に大きく幅ができるのは、調査区内に複数の武家屋敷地が存在するため、各屋敷地の整地面の成立時期に時期差があったためである。第Ⅳ検出面の直下は地山である女鳥羽川起因の堆積土が確認できた。調査区北西部では、厚さ0.9m以上の礫層が、中央部では腐食したアシ・ヨシなどの繊維を多く含むシルト層が、西部ではシルト質土と砂礫層が混在する土石流を捉えることができた。シルト層上端から9世紀代の須臾器杯が出土したことから、9世紀以降に堆積した土層と考えられる。



遺跡

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 犬甘城址 | 7 堂町遺跡 | 13 丸の内遺跡 | 19 松本城下町跡 |
| 2 放光寺遺跡 | 8 田町遺跡 | 14 土居尻遺跡 | 20 泉町遺跡 |
| 3 城山腰遺跡 | 9 岡の宮遺跡 | 15 伊勢町遺跡 | 21 渚城址 |
| 4 宮測本村遺跡 | 10 片幡遺跡 | 16 本町南遺跡 | 22 井川城址 |
| 5 壺ヶ崎遺跡 | 11 女鳥羽川遺跡 | 17 天神西遺跡 | 23 小島遺跡 |
| 6 沢村遺跡 | 12 大名町遺跡 | 18 松本城址 | 24 筑摩遺跡 |

古墳

- | |
|------------|
| A 開き松古墳 |
| B 鐘頭塚古墳 |
| C 勢多賀神社裏古墳 |

図1 調査地の位置と周辺遺跡 (S=1/15000)

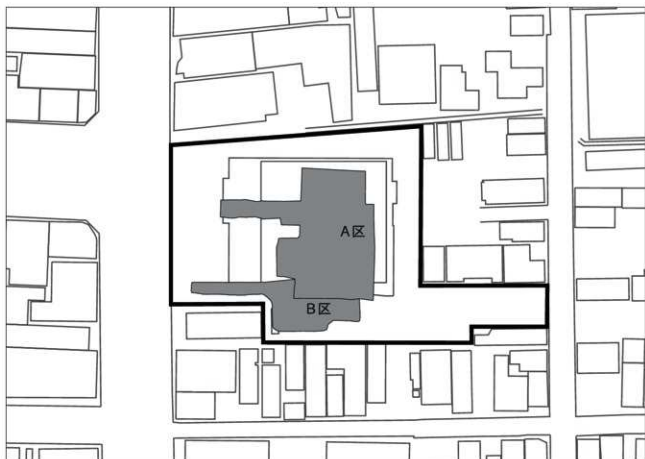


図2 事業対象地と調査区の範囲 (S=1/1000)

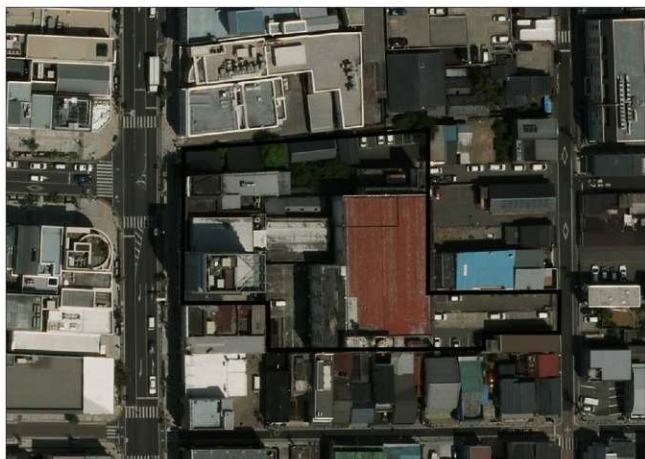


図3 調査地周辺の航空写真 (S=1/1000、平成25年撮影)

第2節 歴史的環境

1 松本城下町の略史

松本城下町跡伊勢町第23次調査において、城下町下層より12～13世紀の遺構・遺物が見つかったことにより、周辺に中世の集落があったことが判明した。この中世集落は、伊勢町東部から本町にかけて広がる安定した砂質層上にあり、低湿地のなかに縞状に残った微高地上に形成されたと考えられる。この地に鎌倉期の集落が形成され、やがて城下町時代に野麦街道や善光寺街道を通し、伊勢町・本町等の主要な城下町が造られたと推定できる。

松本城は、本丸・二の丸・三の丸とその曲輪の周囲に水をたたえた内堀・外堀・総堀で囲んだ城内と、本町を中心とした城下町で構成される。今からおおよそ420年前、関白豊臣秀吉が天下人であった頃に和泉国(現大阪府南部)から移封した石川数正・康長父子によって松本城の築城が始められた。松本は善光寺道(北国西街道)と千国街道、西は野麦街道などのいくつもの街道が交差し、物資や文化の中継地として古くから栄えていた要衝の地であり、西国の秀吉にとっては東国の大名たちを監視・牽制するにあたっての重要な場所であった。

天正18年(1590)の天下統一後、秀吉の拠点整備が急速に行われるなか、石川氏も天守をはじめ城下町の建設を進め、城域を拡大しながらその後入封した水野氏の頃(1642～1725)に凡その完成をみたとされる。今も松本城域の地割はほぼ当時のまま残っており、これは松本城を軸に町が発展してきた証である。

2 文献史料にみる調査地周辺の様相

松本城下町の様子を記した絵図は、17世紀から幕末期に至るまで原本・写しともに多数現存する。ここでは、史料を通して本町が持つ特徴や位置的役割についてみていくこととする。

(1) 問屋・酒屋が多かった本町

城下町建設以来、交通・交易の要衝であった親町には問屋・大店・旅籠を扱う商家が集中していた。親町以外の枝町・小路には、それぞれ医者業、紺屋業、鍛冶屋業など、中小手工業者を中心に配置されており、町ごとに住み分けがされていた。後述する「御使者宿」が常設で置かれ始めた寛文7年(1667)頃は、松本では酒造業が発達し、城下に75軒あった酒造屋のうち3割が本町に集中していた。また、18世紀初頭の『松本市中記』^{文獻3)}には、松本に酒造関係者が63人(酒屋54人・杜氏9人)いたと記されており、やはり酒造が盛んであったことがうかがえる。その下支えとなったのには、源智の井戸などの松本ならではの豊富な湧水と、安曇郡などから集まった米などによるもの大きい。

元禄10年(1697)5月作成の本町家主問数絵図によると、本調査地一帯には「御使者屋敷」をはじめ北隣に「山田や」「大坂や」「嶋や」といった商家が並んでいたことがわかる(図5)。間口6間の町屋がこれだけ建ち並ぶのは中でもこの箇所だけである。立派な店構えの大店が建ち並ぶさまは、当時松本を訪れた人々の目をさざかし引いたことであろう。



図5 元禄10年(1697)5月本町家主間数絵図^{文8)}

(2) 本町におかれた御使者宿

先に述べたとおり、主要街道に面する親町三町は宿場町の機能や流通交易の中心的役割を果たしているが、本町のもう一つの特徴として、大名や幕府要人・諸藩からの使者を接待し、御用飛脚などを宿泊させる「御使者宿」という藩の公的施設が挙げられる。宿は、身分の高い人が宿泊する場合にも差支えないだけの立派なものであり、城の細工師によってつくられた内部は、まるで御殿と同じ作りになっていたと言われる。御使者宿については、藤枝氏の先行研究^{文7)}を参考とし、再検討を試みることにする。

ア 立地と運営者

図5に示したように、伊勢町を通る野麦街道との突き当たりに「御使者屋敷 今井六角衛門」とある。ここが現在信濃毎日新聞株式会社松本本社ビルが建つ敷地の一角にあたる。入宿の運営を担った今井家には、屋敷の規模を記した文書が伝えられてきた(図6)。

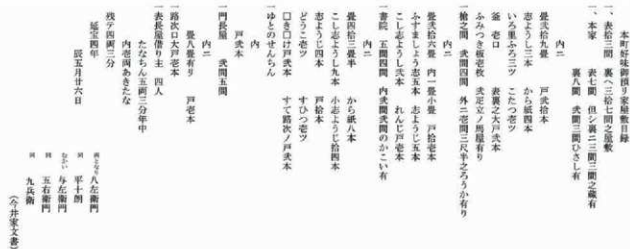


図6 本町好味御預り家屋敷目録(文献8をもとに作成)

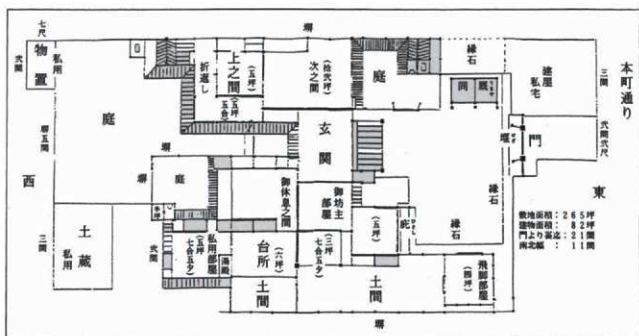


図7 4丁目へ転移後の御使者屋敷間取り図^{文獻5・6}

御使者宿の変遷については、藤牧氏の研究^{文獻7}に則り中村家から今橋家、そして明治初期まで最も長く運営を担った今井家に至るまでの3段階に分けて辿り、表1にまとめた。

表1 御使者宿の変遷表

(ア) 中村家段階	(イ) 今橋家段階	(ウ) 今井家段階
時期：天正～寛文6年	時期：寛文7年～延宝元年	時期：延宝2年～幕末
運営者：中村三二郎 同 三郎右衛門 同 六兵衛	運営者：今橋好味 同 恵介 (のち6日間吉田伝十郎預り)	運営者：今井六右衛門(世襲)、 俊之、貞知、之造、俊之、 俊高、俊克、俊英
場所：親町三町の持ち回り	場所：本町2丁目東側 (旧中村邸)	場所：旧中村邸 天明3年以降は同4丁目西側

(ア) 中村家段階

御使者宿が寛文7年(1667)に常設として設けられる以前の様子については、「倉科家文書」^{文獻8}に「他所より御使者有之節ハ、三町二面廻りニ御宿相勤候」とあり、宿の運営やその人足は親町が当番制で勤めていたことがわかる。中村氏は元武士で、山家城主折野氏の家臣であった。三十郎の子三二郎が、慶長14年(1610)に本町に下って城下建設に携わり、町人へ転身して代々本町庄屋役を勤めたとされる。

世襲で庄屋役を勤めてきた中村家だが、六兵衛とその子が早世したことで、後継がなく断絶となる。これにより、中村邸の所有を巡る騒動が起り、その結果所有権を得た三郎右衛門の妹婿の村山氏が中村邸を藩に献納した^{文獻8}。

(イ) 今橋家段階

藩預りとなった旧中村邸は、藩が寛文7年(1667)に常設の御使者宿とした。こうして城下町の中に本陣並みの機能を有する施設が設けられた。本調査地の南側の一角がそこにあたり、藩はこの宿の管理・運営

を今橋家に命じた。今橋家については、高野聖の家とあるが詳細ははっきりとしない。2代勤めるが、中村家同様に後継がなく断絶となってしまう。

(ウ) 今井家段階

今橋家の断絶後、藩は延宝元年（1673）に中町の吉田伝十郎という者に運営を申し付けるが、その死亡により翌年、本町5丁目の大商人であった今井六右衛門俊之が選ばれることとなった（庄屋役も兼ねる）。中村氏と同様、元武士で小笠原氏の家臣であった今井氏は、小笠原貞慶が松本を領有した天正10年（1582）の城下町整備が本格化する頃に総町支配となる肝煎2役の一人に任命された。その後、城主が目まぐるしく交代していく中であっても町支配の上役を代々任命されており、城主の信任の厚い有力者であった。

天明3年に、本町2丁目から4丁目西側へ場所を移し、江戸時代を通して今井家7代が管理・運営を勤めるが、明治21年に起きた火災によって御使者宿は焼失し、その役割を終えた。

イ 御使者宿と本陣・脇本陣

他藩から訪れる大名や役人などの宿泊施設といえば、本陣や脇本陣が挙げられる。松本藩も所有していたにも関わらず、なぜ本町といった城内に程近い地で似た施設を設けて町人に運営・管理を任せただろうか。それには、使者の滞在目的や有力町人ならではの優れた経営的手腕が関係している。例えば、来訪する使者のうち休息のみの場合は本陣を利用することが多く、また、小笠原家が旧領松本へ祖先の廟所参詣の折に休息は本陣でとり、藩への用事の際には御使者宿を利用するなど用向きによって分けていたとわかる記録が残っている。このように、御使者宿は本陣・脇本陣とはその機能を異にする。あくまでも御使者宿の機能範囲は、公務上来藩した人々が任を果たす場としてのみに止まるのである。

御使者宿を管理・運営していた中村家・今井家に共通していることは、元は上位の武士という点である。今井氏は、領主に従い各地を回るなどして培われた優れた情報収集能力や、遠方との取引に強く広い人脈を持ち合わせており、小笠原長時（貞慶の父・1583年没）に黄金を献上し喜ばれたエピソードを持つなど、経済に明るく商いを得手とする武士であったことがわかる。中村家についての記録は少ないが、御使者宿として利用された旧中村邸は城主も度々訪れていたと言われていた。再建せずとも迎賓施設として申し分ない佇まいの屋敷の規模からみても、中村氏の身分や待遇に相応の理由を推察することができそうである。このように、藩から認められた有力な町人によって御使者宿が運営されていたことが読み取れる。

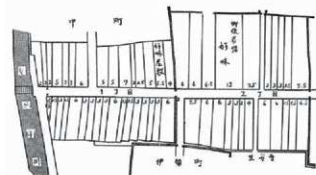


図8 寛文9年（1669）本町復元図^{文献6}

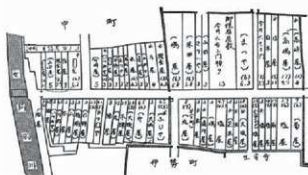


図9 享保9年（1724）本町復元図^{文献6}

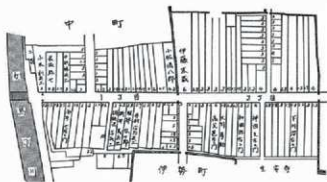


図10 幕末期(1853~1869)本町復元図^{文献6}
本町4丁目に移転後調査地は間口3間程の町屋が建ち並ぶ。

(3) 災害と本町

江戸時代を通して城下町は災害に見舞われることが多く、特に火災による被害は甚大であった(表2参照)。木造建の家々が密集した地でひとたび火災が起きると、町はたちまち火の海となった(松本城下町で瓦が葺かれ始めるのは明治21年以降)。安永5年の大火では、三の丸や本町を含め北は安原町、南は小池町に至るまで城下町の東半部のほとんどが焼失する被害が出た。水害についても薄川、田川、女鳥羽川といった一級河川に囲まれた松本周辺は、大雨の際に川が度々決壊し町中が浸水する被害が多発した。安永8年(1779)の洪水では、本町1丁目および2丁目一帯の家屋が床上や腰まで水が及んだとの記録がある。

御使者宿が移転を余儀なくされた一因にこうした天災が含まれていたことが記録から窺うことができる。天明3年(1783)、今井六右衛門が藩の町奉行に宛てた願い書を見ると、生安寺への参詣客で平日であっても物騒がしく用務に差し障ることのほか、四方を建物に囲まれる立地のために火災時の類焼が多いこと、東側の地面が高く水捌けも悪いため雨天の際に西側の玄関一帯が水溜りになることなどを述べ、4丁目への移転を強く申し出ている(図11)。

覚

一 本町式丁目 御客家の儀、本町飯田町并生安寺小路等、四方共建込之中故、古来方火災之節ニ相通れ不申、類焼仕候、殊ニ生安寺小路近候故、平日物騒敷、御用向節ニ差障ニ相成候

一 右地所之儀、裏高ニ水吐悪敷、雨天之節者玄関前一圓ニ水堪、御用向之節甚差障申候、水之節猶以之儀ニ御座候

一 四丁目之儀者、本町通表家斗ニ、式丁目ト違、格別物静ニ御座候、殊ニ裏下リニ御座候而水吐甚宜、別ニ満水節水吐宜御座候

一 家作之儀、成丈裏に引寄相建、玄関前広仕、并両隣境等明候様ニ仕、万一火災之節防方手都合宜様仕申度候、殊ニ式丁目ト違近辺空地広御座候

一 本町西側之儀、生安寺大門方光明院前之間、切レ間一向無御座候間、表門別ニ相建、三間程切間明置、両脇長屋之家根高塀作ニ仕、万一火災之節者、門引崩し候様相建候ハハ防方宜可有御座奉存候

一 西裏広御座候間、万一 御休泊之節等火災等御座候ニ茂御退場宜御座候、右之通心附候故奉申上候、宜御勘考可被下候

以上

天明三(1783)八月
今井六右衛門

関口稲右衛門様
村瀬磯口七様

図11 屋敷移転の願い書(文献8をもとに作成)

御使者宿は藩の施設のため修築・再建は藩の負担で行うが、時代が下るにつれ逼迫していく藩財政の中では、実質的には御使者宿再建の資金の調達、立て替えなどを今井氏が負担していた。御用達の今井家としても度重なる高額出費には頭を悩ませたことだろう。御使者宿は、城下町建設以来藩と密接な結びつきをもった町人の経営手腕が成せた特殊な「宿」であったと言える。

表2 本町に係る災害年表

発生年	災害の種類	詳細
享保13年 (1728)	水害	降雨10日間続き、13日午前薄川は小松下で切れ、蛇川・中川と合して源習へ浸水、続いて南町全体浸水。女鳥羽川は御堀と合水し一面浸水、白坂村人家押流さる、一ツ橋・新小路橋流失、また新橋・熊倉橋落ち、川西方面との交通は半月ばかり耐えた ^{文1} 。
安永5年 (1776)	火災	中町錦屋より出火。城内の東と南ほぼ焼く、大手門東門が焼ける。六九御馬屋、町役所、郡役所、御預役所、大手橋落ちる。二の丸御蔵2棟、生安寺、浄林寺山門以外、全久院山門以外、乾瑞寺、光明院、彌勒院、北馬場数軒、高榎矢倉、城内屋敷57軒、土蔵295棟焼く ^{文1} 。
同8年 (1779)	水害	25日女鳥羽川が氾濫し繩手の堀と川が一つになり六九通りは水深が腰まで及んだ。薄川が小松で切れ宮村町・小池町・飯田町が浸水。本町1～2丁目も床上、腰まで浸水し、27日に大橋付近の家が流される ^{文1} 。
天明2年 (1782)	火災	中町裏小路ふじやより出火。中町147軒、本町127軒、伊勢町49軒、鍛冶小路5軒、全久院焼失 ^{文2} 。
寛政7年 (1795)	火災	本町3丁目西側茶屋治左衛門宅裏屋より出火。本町1～4丁目、中町、飯田町、小池町、宮村町の西裏通り、正安寺小路、新小路一ツ橋表小路が焼失(『万留書』 ^{文2})。
文化5年 (1808)	火災	本町1丁目大坂屋七郎兵衛宅より出火。本町3丁目以北、中町、宮村町、大手、正安寺小路両側飯田町境まで全焼、伊勢町から鍛冶小路両側、鍋屋小路東角、全久院、332軒焼失(『松本城主代々記』 ^{文2} ほか)。
天保5年 (1835)	火災	本町5丁目松屋全左衛門宅より出火し130軒焼失(『庚申講連申勘定帳』 ^{文3})。4・5丁目両側、船屋小路、飯田町142軒が焼失 ^{文2} 。
弘化4年 (1847)	地震	善光寺地震。城内の屋根・壁・瓦が落ちる。侍屋敷・土蔵の壁が落ちる。城下町は土蔵2棟全壊し2棟が半壊。49脚の橋が落ちる(『むしくら日記』)。二の丸の石垣20間崩れ、櫓2か所・家中屋敷17か所壊れる ^{文4} 。
文久2年 (1862)	火災	本町1丁目飛騨屋より出火。2丁目まで69軒、土蔵3ヶ所焼失 ^{文2} 。

参考文献

- 文献1 松本市教育委員会 1933 『松本市史』上巻
 文献2 松本市教育委員会 1995 『松本市史』第2巻歴史編Ⅱ近世
 文献3 松本市教育委員会 1995 『松本市史』第4巻旧市町村編Ⅰ
 文献4 東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編集会 1957 『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』第2巻歴史上・下
 文献5 松本城下町研究会 2004 『よみがえる城下町 松本』郷土出版
 文献6 中藤 淳 1986 「近世松本城下町における変遷課程」東京学芸大学大学院修士論文
 文献7 藤牧志津 2002 「松本藩の御使者宿」『信濃』54巻10号 信濃史学会
 文献8 『今井家文書』、『倉科家文書』松本市立博物館所蔵

第三章 調査の方法と成果

第1節 過去の調査

本町ではこれまでに7回の発掘調査が実施されており、16世紀後半から19世紀後半までの間に複数回整地盛土造成が行われたことを確認している。整地盛土造成が最も厚く堆積した箇所では3m程度を測り、9層以上の整地層が認められた。各調査次の詳細は表3を参照されたい。

表3 過去の調査一覧表

調査次	調査年	調査原因	調査面積	発見された遺構	特記事項			
1次	平成8年(1996)	中央 西区 画整理事業	のべ 約177㎡	1棟(17c末)	建物2軒、集石遺構1基	戦国時代末～江戸中期の7つの整地層を確認した。第1棟は出たは火災後の整地層で、出土遺物と古文書の記録から元禄3年(1696)の火災の痕跡と推定できる。また、各面から建物の基礎部分、良好な状態で検出された。		
				2棟(17c後)	建物跡1軒、ビット1基			
				3棟(17c中～後)	建物跡1軒、土坑3基、ビット2基			
				4棟(17c前～中)	建物1軒、土坑3基、澁治巾着1基			
				5棟(17c初)	建物跡1軒、土坑3基、ビット3基、集石遺構1基			
				6棟(16c末)	土坑1基、ビット12基			
				7棟(16c後)	ビット4基(建物址か?)			
2次	平成8年(1996)	中央 西区 画整理事業	のべ 約163㎡	1棟(18c末～19c初)	土坑6基、礎石1基、土間状遺構1基	5つの整地層が良好に遺存していた。このうち、文献資料でも確認されている4回の火災の痕跡を確認した。また、部分的に35cmまで深く掘り下けたところ、16世紀後半～19世紀までの生活面(整地層)が13層確認できた。		
				2棟(18c末)	土坑1基、建物址1軒(礎石1列1基、礎石3基)、土間状遺構1基			
				3棟(18c後)	礎石3基、土間状遺構1基			
				4棟(18c後)	礎石2基、土坑1基			
				5棟(18c前～中)	礎石2基			
3次	平成9年(1997)	中央 西区 画整理事業	のべ 約360㎡	1棟(18c末～19c前)	建物址1軒、土坑2基(寛政7(1795)年の火災痕)	6つの整地層を確認した。第1～3棟は出たは火災の痕跡がみられ、出土遺物と古文書の記録から実用年代が比定できる。敷地内の土地利用は、18～19世紀は、敷地内土蔵等の建物が位置したが、17世紀以前では、ゴミ捨て場として使用されていた。		
				2棟(18c前)	建物址1軒、土坑7基(天明2(1782)年の火災痕)			
				3棟(18c後)	建物址1軒、土坑9基(安政5(1776)年の火災痕)			
				4棟(18c中～後)	建物址1軒、土坑3基、ビット2基			
				5棟(18c前)	建物址1軒			
				6棟(17c中～後)	土坑11基(ゴミ穴部)			
4次	平成9年(1997)	中央 西区 画整理事業	のべ 約247㎡	1棟	水道跡10軒、土坑38基、埋設溝5基 水遺構2条(木樋1、竹質1、溜橋3、溜井1)、 溝状遺構3条	2つの整地層を確認した。遺存状態の良い水道遺構、基礎構造がよくわかる建物址、2000点以上の瓦石が出た盛土層、遺構では廃棄土坑から出土した人形代、墨書札「文政十年」「文化二年」の墨書のある桶蓋などが注目される。		
				2棟	土坑3基、埋設溝1基、建物址複数軒			
5次	平成11年(1999)	民間 貸店舗 ビル建設事業	のべ 約574㎡	1棟(19c後)	建物址1軒	掘削層階の跡から7つの整地層が確認できた。上面(第1～3棟出た)は昭和40年の区画整理の際に殆ど失われている。第3～5棟出た面において19世紀初、18世紀中という二つの時期の水道施設が検出された。特に第5棟出た面は出土竹筒は、凡そ2～3尺置きにジョイントを嵌合し、その上に板を渡し竹筒を保護しているのが確認された。原敷地境を越え、集水罐で分水して2軒の屋敷内の桶に溜まる構造になっている。		
				2棟(19c中)	建物址1軒			
				3棟(19c初)	建物址3軒、土坑2基、ビット1基、石組遺構1基			
				4棟(18c末)	建物址5軒、ビット2基、集水井戸2基			
				5棟(18c中)	建物址3軒、土坑1基、ビット1基、集水井戸1基			
				6棟(17c中)	建物址3軒、土坑3基、ビット7基			
				7棟(17c初?)	建物址1軒、土坑5基、ビット2基、石組遺構1基			
6次	平成15年(2003)	民間 貸店舗 ビル建設事業	のべ 約119㎡	1棟	建物址1軒、木樋1基	80mの表土下から、9つの整地層を確認した。第4棟出た面では、焼土塵埃土坑を中心に、多くの布帯が出た。また被熱した2朱金が出ている。第6棟出た面では上面と様相が異なり、原敷地内を南北に通る溝状遺構が確認されている。第7棟出た面においてもこの溝はみられる。面的には第9棟出た面までの調査を実施した。その下についても、重複による深掘りを行ったところ、さらに下からゴミが確認された。それより下は、シルト層、礫層となっている。		
				2棟				
				3棟(17～19c)	集石遺構2基			
				4棟(17～19c)	土坑3基(内1基は焼土塵埃土坑)			
				5棟(17～19c)	礎石1基、石列1条			
				6棟(17～19c)	礎石1基、溝状遺構1条、炭化物(炭素?)			
				7棟(17～19c)	礎石1基、溝状遺構1条			
				8棟(17～19c)	集積遺構1条			
				9棟(17～19c)	土坑1基			
9棟より下層	ゴミ穴1基以上							
7次	平成15年(2003)	中央 西区 画整理事業	のべ 約119㎡	東側		西側		地下約60～280cmの間に6つの整地層を確認した。深さ約150cmで東西方向にのびる水道を確認した。火災層は少なくとも2面見られ、出土状況や遺物等により19世紀前半と18世紀後半の火災に対応すると考えられる。その焼土層の下から認められた東西に長くつながる石列は、原敷地を示すものと考えられる。調査区西側では、4段の階石を確認した。裏込めの土2段と下2段の間に火災層が見え、構造的に異なることが分かる。原敷地の推定澁治巾着に関連するフイゴや鉄滓はなかったが、川原が出土している。また、西側の埋設溝はトイレの可能性が考えられる。
				1棟(19c前半)	木樋、石列、焼土範囲	1棟(17c前～19c初)	間知石列	
				2棟(17c前～19c初)	石列、土坑3基	2棟(17c前～19c初)	埋設溝、石列	
				3棟(17c前～19c初)	石列、土坑3基	3棟(17c前～19c初)	間知石列、木樋み遺構	
				4棟(17c前～19c初)	石列、溝状遺構、木樋み遺構、焼土範囲、土坑5基、ビット1基	4棟(17c前～19c初)	集石	
				5棟(17c前～19c初)	土坑2基	5棟(17c前～19c初)	東側の3棟に対応	
6棟(16c末～17c初)	溝状遺構、土坑1基							

第2節 調査の方法

1 調査区の設定

今回の事業予定地は3,930㎡に及ぶものであった。事前の工事立会において、遺構面が残存している範囲を確認し、建物建設予定範囲を中心に1,115㎡を調査区として設定した。調査はA区とB区に分けて行った。B区は、A区の南側を拡張するように設定した。

2 発掘手順

解体工事立会の結果、地表面から深さ1.5m前後が以前の建物の基礎によってほぼ全域が破壊されていた。まずパワーショベルを使用して、A区の攪乱土を除去し、最上面で検出された生活面を第Ⅰ検出面とした。その後、人力による検出を行い、検出の終わった遺構から遺構番号を命名し、人力による掘り下げを開始した。なお、遺構番号は各面ごとに1番から順に命名した。掘り下げの終了した遺構は写真と測量図を作成し、記録を行った。すべての遺構の掘り下げと記録が終了した後、重機を使用して第Ⅱ検出面までの掘り下げを行った。その後、第Ⅴ検出面まで同様の手順を繰り返した。A区第Ⅳ検出面を調査中にB区の掘削を開始した。A区同様に第Ⅴ検出面まで調査を行った。なお、発掘調査終了後すぐに建設工事が着手する予定であったため、A・B区共に埋め戻しは行わず、発掘調査の現場における工程を終了した。

3 測量・写真記録

遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系）を用いた。調査地周辺にある四等三角点、3級基準点を基に調査地内に基準点を複数設置し、これらを基に3mグリッドを設定した。測量基準点はX=25971.000、Y=47642.000をNS0、EWOとした。

平面図は簡易遺り方測量により作成し、部分的に光波測距儀を併用した。平面図・断面図の縮尺は1/20を原則とし、詳細図が必要なものは1/10で作成した。

写真は発掘調査の各調査段階と遺構等の遺物出土状況及び完掘状況を35mm一眼レフカメラ（リバーサル、白黒フィルム）とデジタル一眼カメラで撮影した。また、調査区全景はラジコンヘリコプターによる空中写真を撮影した。

4 整理作業

発掘作業に並行して写真・図面等の整理を行った。図面類は平面図・土層断面図の点検・照合を行い、報告書に掲載するものについてはトレース作業を行った。遺物は洗浄・クリーニングを行った後、土器・陶磁器、瓦は注記（遺跡名、調査次、通し番号、所属遺構名等）を行い、木製品、石製品、金属製品、自然遺物は台帳登録を行った。その後、遺構単位で接合作業を行い、遺存度の良好なものや特徴的な遺物を中心に実測・トレースを行った。

第3節 遺構

今回の調査では両地区を通じて数多くの遺構を検出し、遺構番号を付した。しかし、中には整地土中の土質の差を遺構として認定した可能性のある遺構があると考えられる。また、遺構の名称が適切かどうか、あるいは検出面の設定の問題、遺構の帰属検出面の問題もあるが、本書では現場段階で欠番とした遺構以外はすべて遺構図に掲載した。屋敷地境の遺構が検出され、区画が明瞭に分かったことから、図化した遺構を中心に各屋敷地ごと検出面ごとに以下に概要を述べる。

1 A区第1検出面

東西に延びる石列や杭列など敷地境と考えられる遺構が4条検出され、調査内において5区画分の屋敷地が見つかった。出土遺物から検出面全体として17世紀後半から18世紀後半の面であり、さらに各屋敷の廃絶時期に若干の差があることがわかった。18世紀前半に描かれた絵図(図9)を参考にすると、今回の調査で確認できた各屋敷の間口とほぼ整合することがわかり、南端の区画は御使者宿跡である可能性が非常に高い。調査区の北から町屋1~4と命名し、南端の区画は推定御使者宿として、それぞれの概要を述べる。

(1) 町屋1(帰属時期不明)

A区石列3・4とA区建2の間に敷地境があったと想定され、それより北側を町屋1とした。調査区の北端で敷地境が検出されたため、石列以外の遺構は検出されなかった。

(2) 町屋2(18世紀中頃~後半)

A区建2 町屋2で検出された2~3段に積まれた石列状の建物基礎である。規模は南北9.4m、東西14.8m以上ある。石材の多くは間知石状に加工されており、サイズが概ね統一されている。敷地境2とははっきりとした切り合いの土層は確認できなかったことから、同時期に造られたものであろう。建2の内側の空間に、土坑3基、溝1条、石列3条が確認できたが、建物との関係は不明である。

A区石列1・2・6 いずれも建2の内側に位置しているため、建2と関連していたものと考えられるが、根拠は見つからなかった。

A区土39 長径2.6mを超える大型の土坑で、礫片や木片を主体に陶磁器片や木製品が大量に認められた。検出面からの深さは0.5m近くあり、シルト層と砂層が交互に堆積している状況が確認できた。これは、廃棄したごみを隠すためにその上に砂を入れるという行為を複数回行っていったと考えられる。

A区土60・76 直径約70cmの木桶が並んで検出された。当初、土60と土76は切り合い関係にあると考え、別々に遺構番号を付したが切り合いの土層は確認できなかった。遺構名はそのまま使用しているが、1つの遺構である。

A区土72 東半には、長さ50~70cm程の長細い礫が横列しに敷かれ、その両脇は礫を立たせて据えられている。これらの礫は焼土塊や炭化物が多く混ざる土で覆われていた。また、西半は木板で南北を囲われ、その中に20本以上の薪と考えられる棒状の木材が出土している。本址は、検出状況から竈跡と考えられ、東半が炉床で、西半が燃料のストック場と推定される。本遺構の直上は現代の掘乱を受け、上部構造は不明であった。

A区土73・75 竈跡で、軸が約90度違う状態で切り合うように検出された。土73は土75を切り、東西方向に長軸をもつ石組の竈跡である。竈内に粘土が敷き詰められ、レンガ状の礫が組まれている。火床に

は長細い礫が敷かれ、表面が被熱により脆くなっている。埋土は竈を壊したときに発生した粘土と礫が多量に含まれていた。石組の無い東半は部分的に木製の囲いが検出され、竈本体との位置関係から、作業スペースのような場所であったと推測される。土 75 は南北に長軸をもつ。土 73 と違い、石組みはなく、半地下に掘り込まれただけのものである。北半に焼土が広範囲に確認でき、火床部分と思われる。南半は土 73 の東半と同様に木製の囲いが確認できた。

(3) 町屋 3 (17 世紀後半～18 世紀中頃)

敷地境 2 町屋 2 と 3 の敷地境で、建 1 と建 2 の間に胴木と石列が確認できた。敷地境 1 と同様に 2 条の胴木と石列でできている。南側の胴木は建 1 の北側の胴木とほぼ接しており、寸法など似たような木材が用いられている。石列は胴木の上に置かれているが、東側の一部では胴木の下にも石列が確認できた。これがどういう意図なのかは判然としなかったが、地盤固めや、高さ調整のためなどが推測できる。

A 区建 1 町屋 3 に長軸 7.92m と短軸 4.28m を測る建物基礎の胴木が検出された。胴木は全部で 14 本確認され、それぞれにホゾやホゾ穴がみられる。これらは建築部材を転用し、建物基礎として用いられたと考える。また胴木を設置した際の掘方が不明瞭であったことから、盛土造成と同時に並行して建物基礎が造られた可能性がある。屋敷地内の位置関係やその規模から、土蔵の基礎であると考えられる。

A 区土 25 剥板を 1 辺約 45cm の正方形になるように並べられ、その内側にそれぞれの剥板を固定するための横木が打ち付けてあるような、箱形の木製品が据えられていた。底は作られておらず、遺物の出土も皆無であった。

A 区土 31 建 1 のすぐ西側に位置する直径 40cm 程の貯蔵用と考えられる木桶が据えられた土坑である。

(4) 町屋 4 (18 世紀中頃～後半)

掘乱が大きく入り、遺構の残存状況は良くない。西半では、遺構がほとんど検出されなかった。町屋 3 との境は、はっきりとした敷地境遺構は確認できなかったが、杭が東西に延びるように列状に検出されたことと絵図に見る敷地割りから、1 つの屋敷割りがあったと考えられる。

A 区土 22 木材や瓦片、陶器製摺鉢片、肥前産染付碗等の遺物が多量に廃棄されており、ごみ穴と考えられる。

(5) 推定御使者宿 (18 世紀前半～後半)

A 区敷地境 1 町屋 4 と御使者宿の敷地境である。布掘基礎状の溝に胴木が 2 条平行するように敷いていた。胴木には、固定のためと考えられる杭が複数打ち込まれており、部分的に胴木上に石列が確認できた。敷地境 1 の南側は、推定御使者宿の敷地である。

A 区土 12 遺物の出土状況からごみ穴と考えられる。18 世紀後半に製作された骨背茶碗や、漆継ぎの肥前産磁器碗、灰軸の仏飯具などが出土している。

A 区土 16・20 木桶が埋設された土坑である。側板の損傷が大きく、遺存状態は悪い。土 20 からは、18 世紀中頃から後半にかけての陶器碗が出土している。また、「今」と焼印された桶蓋と考えられる木製品も認められた。

礎石 扁平な大礫が複数個並んでいるのが確認できることから、礎石建物があったと考えられ、その規模は東西 7 間以上、南北 2 間以上と推定される。松本城下町では、17 世紀前半から 18 世紀中頃まで礎石建物が主流で、18 世紀後半から布掘基礎建物が多く見られるようになる。町屋 1～4 で検出された建物は、布掘基礎建物に移行していたが、御使者宿では礎石建物のままであったことがわかる。

出土遺物から本検出面の推定御使者宿の帰属時期は18世紀前半～後半と考えられる。御使者宿は天明3年(1776)に本調査地のある本町2丁目から本町4丁目へ移転している^{文獻7}ため、移転直前の様子が検出されたことになる。

2 A区第Ⅱ検出面・B区第Ⅰ検出面

当初、A区Ⅱ検とB区Ⅱ検が同時期と考えていたが、遺構図や遺物の整理によってB区Ⅰ検がA区Ⅱ検と同時期の面であると判明した。B区Ⅱ検はA区に対応する面がなく、Ⅱ検より若干時期が遡ると考えられる。3区画分の屋敷地が確認できた。北半に町屋5・6が位置し、南半の屋敷地の範囲はA区Ⅰ検とほぼ同じで、推定御使者宿である。17世紀後半に描かれた絵図(図8)と各屋敷地の間口幅が一致することがわかった。

(1) 町屋5(17世紀中頃～18世紀前半)

A区水道3・5・6 竹樋で造られた水道管である。水道3と6は、途中、調査区外のエリアを挟むが、同一の水道遺構である。水道5と6の間は、土125に埋設されている集水枡で繋がる。水道6の東端と土125の間にジョイントがかましてあり、無理やり水道6と土125が繋がられている。

A区水道7 水道5の敷設時に破壊されている。また、土125付近で切り取られている。位置関係から、水道6と繋がっていたと考えられる。

A区水道8 町屋5に位置し、木を削り抜いて作られた木樋である。その勾配から東から西に水が流れていたと想定でき、途中で南西方向に向きを変え、土133に据えられている口径1.2mを越す大型の木桶に接続している。木桶に接続している樋は1か所だけであることから、ここで水が貯められていたと考えられる。

A区土82 竈と考えられる遺構である。西半は、土141に切られており、全形を把握することはできない。東半の壁面は被熱のために赤化し、硬化していた。底は、灰が固められたように、著しく硬く引き締まっていることから火床面と考えられる。また、火床面から西に60cmほど離れた位置で直径約40cmの範囲に炭化物が集中して検出されている。

A区土93・99 遺物の出土状況から、いずれもごみ穴と考えられる。土93は、直径2.74m、深さ0.43mを測り今回調査で検出されたごみ穴としては大型の部類である。本址からは、漆塗りの膳や匙、9点の大小の楔等の木製品が多量に見つかったが、陶磁器類の出土はほとんど認められなかった。土99は、長さ3.2m、幅0.7mの細長いプランをしている。出土遺物は、木製品が主で、陶磁器類はわずかであった。

(2) 町屋6(17世紀中頃～18世紀前半)

A区石列1 位置関係と規模から敷地境の機能があると考えられる。1～2段の石列で、その背面には幅1m前後のグリ石層が確認できた。石列に使用されている石は、A区Ⅰ検で検出された石列の間知石積みとは違い、基本的には野面積みで、扁平な石材が用いられ、荒割り加工されている箇所もあった。すぐ北脇を石列と平行するように水道3が位置している。

A区土56・136 遺物の出土状況から、いずれもごみ穴と考えられる。土56は、長軸2.94m、短軸1.49mを測る隅丸長方形を呈し、木札や曲物などの木製品や陶磁器類が多く出土している。土136は、長径2m程の隅丸長方形をしており、その最大深度は1.58mを測る大型のごみ穴である。羽子板や子供用の下駄など多量の木製品が出土したほか、17世紀前半の瀬戸・美濃産の天目茶碗や美濃産の肩衝茶入れなど陶磁器類、砥石など様々な遺物が認められた。

(3) 推定御使者宿（17世紀中頃～18世紀中頃）

A区の南端とB区は、上層であるA区I検の状況と出土陶磁器類の帰属時期から御使者宿の推定位置と考えられる。

溝3・4 S17～18の間を東西に延びる溝で、A区I検の敷地境1とほぼ同位置にあるため、溝3・4も敷地境に係る遺構と考えられる。A区I検の敷地境遺構で見られるような胴木や石列は確認できなかったが、おそらく敷地境遺構の掘方のみが検出されたのであろう。溝3と4は平行しており、場所によって接するところや、プランが不明瞭なところもあった。A区I検と同様に、御使者宿の北側に設けられた敷地境で、複数回改修した痕跡であると考えられる。

A区水道1・2とB区水道1～3 それぞれ繋がって1つの水道施設を形成している。水道管は竹製で、約0.75～1.5mおきに竹樋の口径に合わせた穴があけられた木製の台形状部材に通されていた。台形状部材は全部で25点確認でき、そのうち上部に「か」や「た」等の平仮名が墨書されていたものも確認できた。これは各部材を設計通りの位置に配置するための記号であると考えられる。A区水道1と2の接合部分は、集水槽ではなく丸太を削り抜いたジョイントが使われていた。B区水道1と3の接合部は、攪乱を受けていたものの、木桶の枡が確認できた。また、B区水道2の中間に、木桶の枡が据えられ、町屋6から伸びてきているA区水道4と繋がっている。

B区建1 南側は調査区外に続き、西側は遺構のプランがはっきりせず、全形は把握できなかったが、東側に胴木と石列がL字状に検出されたため建物の布掘基礎と考える。北辺の東西に延びる基礎は、東半に石列のみ、西半に胴木のみが検出された。建1以外にも、礎石が複数見つかったため、礎石建ちの建物もあったと想定している。

B区溝1～3 胴木のような木材が「コ」の字状に出土した。出土状況からこれらの溝群は合わさって一つの建物の基礎を構成している可能性がある。

出土遺物から、本検出面での御使者宿の帰属時期は17世紀中頃～18世紀中頃と推定される。A区I検で見られた礎石建ち建物の位置には礎石は確認できず、土坑が集中して検出された。礎石建ち建物は西側でみられ、南側には布掘基礎の建物が認められる。これは時期によって建物の配置が異なっており、敷地の利用を考える上で重要である。宿の北側敷地境沿いを通っていた水道管は、途中で南に方向を変えた後にまた西方向へ流れることが確認できた。

3 B区第Ⅱ検出面

出土遺物から17世紀中頃～18世紀初頭の生活面であると考えられ、推定御使者宿の範囲内である。

(1) 石列遺構

B区石列1 30～40cm大の扁平な礫を、途中抜けているところもあるが、長さ8mに渡って9石確認でき、それぞれ30～40cmの間隔を空けて並べてあった。石列の長軸が方位に関係ないことや、建造物の基礎にするには不要に間隔があけられていること、石列の位置が敷地の中央やや裏側よりであることから、裏庭に据えられた飛石である可能性がある。石列の設置は、土層断面を見ると各石材に対して掘方が確認できなかったため、B区Ⅱ検を整地造成する際に、同時に据え付けられたものであろう。

(2) 溝状遺構

B区溝1 長さ12m以上、幅約1mの東西に延びる溝状遺構である。溝の東半では、拳大から人頭大の大礫が平らな面を上にして並べられている。大礫の周囲は拳大のグリ石が敷かれている。溝の西半では大礫やグリ石は希薄になる。大礫は一直線ではなく、意図的にジグザグに置かれているため、建造物の基礎とい

うよりは、石列2と同様に庭に設置された飛石の類と考えられる。

4 A・B区Ⅲa・b検出面（16世紀末～17世紀初頭）

出土遺物がきわめて多いため面調査を実施したが、遺構は少なく生活の痕跡が希薄であった。屋敷地の存在が確認できなかったため、A区とB区を一括して扱う。Ⅲ検の整地層は複数層に分けることができ、大きく上層をa、下層をbとし、調査を実施した。出土遺物の多くは被熱しており、高級茶器や白かわラケが多く含まれている。遺物の特徴や組成から、城内で火災等により発生した瓦礫を、本町の盛土造成に使用されている可能性が考えられる。造成土の帰属時期は、戦国時代末から慶長・元和期までの間と考えられる。

(1) 溝状遺構

B区Ⅲa 検溝1 長辺約5mの「コ」の字状で検出された。本址から遺物はほとんど出土していない。

B区Ⅲb 検溝1・2 約5mの間隔で溝1と溝2が南北に平行になるように位置する。溝2からは、イヌの骨が117点まとまって出土し、その骨の同定を行ったところ、最小個体数が4匹であることがわかった。

(2) 炭範囲・焼土範囲

浅い掘り込みを持ち、炭化物もしくは灰が集中して認められた範囲を、特に炭範囲として扱った。焼土範囲は、炭化物や灰を伴わず焼土のみが検出された範囲を指す。Ⅲ検では、検出された遺構の大半が炭範囲である。内耳鍋や火鉢を伴うことがあることから、整地造成中に焼き火等をした痕跡と考えられる。

A区Ⅲa 検炭15・21 内耳鍋片が出土している。炭21は、他に土師質灯明皿の完形品が逆位の状態で見つかった。

A区Ⅲa 検炭19、B区Ⅲa 検炭1・2 灰層の直下で、焼土化した火床面が検出された。

A区Ⅲb 検炭1 土師質火鉢が据えられており、その直下は炭化物と灰が堆積していた。

(3) 土坑

A区Ⅲb 検土4 西側壁面沿いに木桶の箍と考えられる木材が半周程度見つかり、その木材に接するように粘土塊が検出された。木桶と粘土がセットで見られるのは、A区Ⅱ検土125や土133、B区Ⅰ検土18のように、水道遺構に係る集水榎である可能性が高い。ただ、Ⅲ検では他に生活痕跡がほぼみられないため、水道遺構があったのかどうかは検討が必要である。

A区Ⅲb 検土2・3 土坑の中心部に直径20cm程度の丸太が据えられ、さらに2本の角材が十字になるように丸太に取り付けられてあった。これと似たような遺構が松本城三の丸跡六九第4次調査のⅢ検で検出されている。報告書では、同軸上に三間程度の間隔で並んでおり、構造物の基礎と解釈されている。

5 A・B区Ⅳ検出面（14世紀～15世紀、16世紀末～17世紀初頭）

I～Ⅲ検と比べると遺物量はかなり減少し、遺構の分布状況も激変する。Ⅳ検で検出した溝状遺構が東西方向と南北方向に伸び、方形状の区画を造る。近世の短冊状屋敷割りができる以前の、中世によくみられる屋敷割りである。上層の面に比べ出土遺物は非常に少なく、帰属時期の決定は困難であるが、概ね2時期に分かれ、古い時期は14～15世紀、新しい時期はⅢ検とほぼ同時期である16世紀末～17世紀初頭と推定される。このうち新しい方の時期は、小笠原貞慶期～石川数正・康長期の城下町の形成時期であると考えられる。遺構の検出状況から、城下町の初期段階は、まだ中世的な雰囲気を残していたことがわかった。5つの区画を想定し、以下に区画ごと概要を述べる。

(1) 溝状遺構

A・B区で計8条の溝状遺構を確認した。このうち4条は、位置関係やその規模から各屋敷地を仕切る敷地境の性格を持つと考えられる。

A区溝1 A区の南端部に東西方向に延びる溝状遺構で、区画2と3の間の敷地境と考えられる。

A・B区溝2 南北方向にやや蛇行しながら延び、その長さは30m以上で幅は0.2～1.3mを測る。溝の両岸に1,000本以上の杭が打たれていた。さらに、溝の中央部の最深部にも杭が打たれていた箇所が確認できた。多くの杭の先端は、手斧のような道具で上から下に向かって削られ、尖らせてあったことから、先端の加工は打ち付けた後に行われたことがわかる。また、杭の多くは先端部の表面が被熱で炭化していることも確認できた。これは腐食防止のために意図的に焼き目を付けたものと考えられる。ただ、被熱していない杭も多く確認されている。密集した杭の中で狙った何本かだけに焼き目を付けることは困難であるため、打ち込まれた時期が違う杭が混ざっていると解釈した方が自然である。

溝の覆土から、砂層が底の方に堆積していることから、水が流れていたと考えられる。また、杭の先端部が水磨による、加工とは違う先細りが観察できたため、水面が杭の先端部付近まであったと考えられる。

本址から東に約1.4m離れたところに、径3～4cmほどの杭の列1条が本址と並行するように検出された。本址に関連するものと考えられるが、詳細は不明である。

A区溝3 (B区溝1) 南北に延び、ちょうどその両岸をA・B区溝2とA区溝7に切られる。覆土には直径10～40cm大の礫が敷き詰められていた。遺物は少なく、年代観やその用途は不明である。

A区溝4 A区溝2から西に延びる。幅は0.6m程度である。溝4も敷地境遺構と想定している。

A区溝5 東西に延びる溝状遺構である。東端は調査区外に延び、不明である。西半は、浅く覆土がわずかし確認できず、W12あたりで途切れる。さらに西側では、A区溝7があり、若干膨れるところが検出され、本遺構と繋がる可能性がある。つまり、A区溝5と7は同時期に造られた溝であると考えられる。

A区溝7 A・B区溝2とA区溝3 (B区溝1) に平行するように位置し、南端は溝1に切れ終息する。

(2) 区画1

A区溝5とA区溝7で区画された範囲で、その北東側は調査区外に延びている。

A区土44 長径1.39m、深さ0.72mのごみ穴である。上層で検出されたごみ穴と同様に出土遺物の主は木製品であり、下駄や円板の出土が特に目立つ。

ピット群 掘方から柱穴痕と考えられるものが多く見つかった。P92やP100、P101等は柱材も確認されている。

(3) 区画2

A区溝1とA区溝5、A区溝2・3・7で区画された範囲で、その東側は調査区外へ延びている。

A区土10・19 いずれも長径1mを越す円形のプランで、大量の礫が投げ込まれている土坑である。

A区土18 長軸3.41m、短軸1.28mを測る細長いプランをした土坑で、出土遺物に17世紀前半の志野皿や黒織部沓茶碗が含まれている。時期的にⅢ検以降に帰属するため、上層に帰属すべき遺構の可能性がある。

A区土30 長径1.7mを越す大型の土坑で、底には木材が廃棄されており、その上の直径25cm大の礫3石が敷かれてあった。

ピット群 掘方から柱穴と考えられるものが複数基検出できた。柱穴の中には、P42やP44、P45などのように柱材を残すものも多く見られる。土27はその直径から土坑と命名したが、掘方から柱穴痕が2基見

つかり、そのうち1基は柱材が残る。

(4) 区画3

B区溝1・2とA区溝1で区画された範囲で、その南東側は調査区外に延びている。本区画の北側で、10～40cm大の礫が広範囲に多量に検出されている。

B区土2 本址北半で礫がまとまって検出されているが、本址に帰属するというよりは、本区画北側の礫群の一連と考えるべきであろう。

B区P9 直径20cm大の大礫が据えられてあり、礎石と考えられるが、周辺に同様の礎石は確認できなかった。

ピット群 他の区画と同様に、ピットの多くは柱穴と考えられ、B区P12のように柱材が残るものが見つかっている。

(5) 区画4

A区溝2・3・7とA区溝5で区画された範囲で、その北西側は調査区外に延びている。

A区土50・73 長軸2mを超す大型の土坑で、浅い掘り込みの中から礫や木材が出土した。用途は不明である。

A区P85・87・124 おおよそ1間間隔に南北に並んで検出された柱穴である。

A区P90・91・123 3基の柱穴が1間間隔にL字に位置している。北東側では柱穴が検出されなかったが、これらを合わせて、1間×1間の小屋のような建造物があったと想定される。

(6) 区画5

A区溝2・3・7とB区溝1・2、A区溝5で区画された範囲で、その南西側は調査区外に延びている。

B区土6・7 長楕円形を呈し、B区溝3・4と同軸上に位置していることから、これらはもともと1条の溝を形成し、底の部分が断片的に検出されたものと推測される。

ピット群 A区P50・51・53は等間隔に南北方向に並ぶ。P51・53はA区溝2に切られる。B区P20・26・42・46・60は南北にほぼ1間間隔に並び、さらにその東側にもP21・32・50が南北に並んでいる。これらのピットの中には柱材が残っているものもあり、合わせて1軒の掘立柱建物を構成している可能性が考えられる。柱穴と考えられるピットは本区画に密集しており、複数回建て替えがあったと推定される。

6 A・B区第V検出面

城下町建設に係る盛土造成前の自然面をV検として調査を実施した。遺構は検出されなかったが、女鳥羽川由来の堆積層が確認でき、調査地一帯の旧地形を垣間見ることができた。

A区北西部に設定した東西トレンチでは、拳大以上の礫を主体とする礫層が検出された。西端は調査区外へさらに続いている。礫層の堆積状況から、本流規模の流路であると想定される。

A区東壁は、女鳥羽川の氾濫土と湿地堆積土が交互に見られる。A区東壁の南端部で見られる砂礫層には土や植物が混ざっているため、土石流の可能性もある。旧地形の傾斜から、氾濫原の中心はもっと北側と考えられ、調査地以東に北から南に流れる小河川があったと考えられる。

上記の礫層と氾濫層の間は粗砂から砂質シルト土が堆積しており、西に向かうほど砂の粒度が細かくなっている。調査地以東にあったと考えられる小河川があふれて形成された堆積である。砂層上面からは須恵器杯が出土していることから、この小河川の堆積物は9世紀前半以降に形成されたと推定できる。

表 4 建物址一覽表

區	樓層	No.	新目標線		備考
			前	新	
A	1	1			
A	1	2			
B	1	1			

表 5 敷地境遺構一覽表

區	樓層	No.	新目標線		備考
			前	新	
A	1	1			
A	1	2			

表 6 石列一覽表

區	樓層	No.	新目標線		備考
			前	新	
A	1	1			
A	1	2			
A	1	3			
A	1	4			
A	1	5			
A	1	6			
A	1	7			
A	1	8			
A	2	1			
B	2	1			±3・P4

表 7 集石遺構一覽表

區	樓層	No.	新目標線		備考
			前	新	
A	1	1		±47	
A	1	2			
A	1	4			
A	1	6			

表 8 溝狀遺構一覽表

區	樓層	No.	新目標線		備考
			前	新	
A	1	1			
A	1	2			
A	1	3			
A	2	1			
A	2	2			
A	2	3			
A	2	4			
A	2	5			
B	1	1			
B	1	2			
B	1	3			
B	2	1		P2・17	
B	2	2		P7	
B	2	3	溝4	±26	
B	2	4		溝3	
A	IV	1	溝7	P116・1・8・1・72・溝3	
A	IV	2	溝5		
A	IV	3		溝2・7	
A	IV	4			
A	IV	5		±44	
A	IV	6		±52	
A	IV	7	溝3	溝1	
B	IV	1	溝2	P13	
B	IV	2		溝1	
B	IV	3		P54・55・56	
B	IV	4		P38・37・36・35・5・8	

表 9 水道遺構一覽表

樓層	No.	No.	新目標線		備考
			前	新	
A	1	1			
A	2	1			
A	2	2			
A	2	3			
A	2	4			
A	2	5			
A	2	6			
A	2	7			
A	2	8			
B	1	1	±19	±14・18	
B	1	2			
B	1	3	±19	±14・18	
B	1	4			A区B線水道4之共通

表 10 礎石一覽表

樓層	No.	No.	新目標線		備考
			前	新	
A	1	1			
A	1	2			
A	1	3			
A	1	4			
A	1	5			

表 11 炭範圍一覽表

區	樓層	No.	平面形	距離(m)			新目標線		備考
				前後	東西	深さ	前	新	
A	2	7	扇形	27	22	2			
A	2	8	不整形	91	87	13			
A	2	9	不整形	111	54	2			
A	2	10	扇形	212	99	12			木村
A	2	11	不整形	152	121	9			杭
A	2	12	円形	21	20	3			
A	2	13	円形	27	24	6			
A	2	14	不整形	137	92	3			
A	2	15	方形	127	127	12			杭
A	2	16	扇形	52	37	4			
A	2	17	不整形	128	68	12			
A	2	18	扇形	54	41	3			
A	2	19	長方形	77	56	2			内証線
A	2	20	円形	38	35	6			
A	2	21	扇形	77	40	4			
A	2	22	不整形	40	23	7			
A	2	23	扇形	37	28	5			杭
A	2	24	扇形	55	40	4			火線
A	2	25	扇形	35	28	7			
A	2	26	扇形	61	51	3			
A	2	27	円形?	32	25	3			
A	2	28	扇形	69	57	11			
A	2	29	不整形	160	118	30			杭
A	2	30	円形	55	53	3			
A	2	31	円形	30	25	2			
A	2	32	扇形	30	20	4			
A	2	33	扇形	33	23	3			
A	2	34	扇形	40	30	6			
B	2	a	1	扇形	22	15	4		
B	2	a	2	扇形	58	35	6		
B	2	a	3	円形	26	26	5		
B	2	a	4	不整形	117	95	9		

表 12 土坑一覽表

坑 號	坑 名	平面形	面積 (cm ²)		最大直徑		備考
			長徑	短徑	長	寬	
A. 1	3	十字形	358	162	49		
A. 1	6	橢圓形	79	58	8		雜多
A. 1	8	內形?	94	(46)			瓶瓦
A. 1	9	橢圓形	(52)	67	4		瓶瓦
A. 1	12	橢圓形	364	86	22		遺物多由土上
A. 1	16	內形	114	112	32		木釘
A. 1	20	內形	96	92	15		木釘
A. 1	22	橢圓形	388	100	13		遺物多由土上
A. 1	23	橢圓形	126	71	11		
A. 1	24	橢圓形	71	34	8		
A. 1	25	方形	(96)	(96)			木釘(尚純)
A. 1	26	橢圓形	69	29	15		雜多
A. 1	27	橢圓形	85	68	17		
A. 1	28	橢圓形?	137	174		±29×43	
A. 1	29	橢圓形?				±28×43 44×45	
A. 1	30	橢圓形?	(74)	89	13		瓶瓦 雜多
A. 1	31	內形?	66	(66)	28		木釘
A. 1	32	橢圓形	62	48	7		
A. 1	34	內形	56	55	16		筒瓦石(瓦)
A. 1	36	橢圓形	(132)	93	15		±42
A. 1	37	橢圓形	81	71	15		瓶瓦
A. 1	39	橢圓形	296	162	47	棟 2	雜多、心石穴?
A. 1	42	內形	79	68	16	±36	
A. 1	43	橢圓形	(174)	(90)	12	±28-29	±44×45 雜多
A. 1	44	橢圓形	109	84	21	±43	±45
A. 1	45	內形?	(50)	62	8	±43×44	
A. 1	46	橢圓形	66	53	11		
A. 1	47	內形	58	53	29	集石 1	雜多
A. 1	48	內形	58	54	17		
A. 1	80	內形	76	76	42		木釘、土 76 之遺 之
A. 1	63	內形?	59				瓶瓦?
A. 1	65					±74	水直溝(木釘)
A. 1	66	內形	123	118	22		雜多
A. 1	67	內形?	111	(52)	9		雜多
A. 1	68	不整形	265	108	31		瓶多・雜多
A. 1	69	不整形					雜多
A. 1	71	橢圓形	192	102	24		雜多、黏土胎瓦
A. 1	72	長方形	222	89	30	土 8 1	木釘之胎瓦、黏土胎 瓦、木多
A. 1	73					集石 2、 ±75	木釘(方形)、雜多、 心石、木多
A. 1	74	橢圓形	(98)	58	10	±65	雜多
A. 1	75					±73、 P17	木釘(方形)一張、 心石
A. 1	76	內形	76	75	29		瓶瓦、木釘、木釘、 木釘上蓋土
A. 1	81	橢圓形?	215	(153)	31	±72	
A. 1	B 1	內形?	61	(36)	7		
A. 1	B 2	內形?	(71)	(44)	5	±3	
A. 1	B 3	橢圓形	(216)	(86)	11	±2×4	
A. 1	B 4	橢圓形	321	82	10	±3	±5
A. 1	B 5	內形	58	49	8		±4
A. 1	B 6	橢圓形	117	69	10		雜多
A. 1	B 7	橢圓形	86	40	8	±8	
A. 1	B 8	橢圓形	(87)	80	15	±7	雜多
A. 1	B 9	內形	48	42	10	溝狀 4	雜多
A. 1	B 10	內形	75	(69)	24	±11	
A. 1	B 11	橢圓形	254	138	3	溝狀 4	±19×48
A. 1	B 12	橢圓形?	76	(63)	10		瓶瓦
A. 1	B 13	長方形	68	76	19		柱礎?
A. 1	B 14	內形	82	67	21	±15×P11	
A. 1	B 15	橢圓形	(59)	52	4	±14	
A. 1	B 16	內形	52	42	6		礎石?
A. 1	B 17	不整形	108	(16)	22		P10
A. 1	B 18	橢圓形	62	(63)	8		±11
A. 1	B 19	內形	59	48	10		±9
A. 1	B 20	內形	79	64	7		雜多
A. 1	B 21	橢圓形?	(201)	(84)	4		
A. 1	B 22	內形	52	50	14		雜多
A. 1	B 23	橢圓形	105	65	9	±24	P21
A. 1	B 24	橢圓形	(68)	50	7	±25	
A. 1	B 25	橢圓形	154	123	14	±28×34	內形 雜多
A. 1	B 26	橢圓形	108	(84)	18	±25×34	
A. 1	B 28	橢圓形	(84)	77	16		
A. 1	B 29	橢圓形	(87)	55	6	P30	
A. 1	B 30	長方形	222	48	26	±34	±33 雜多
A. 1	B 31	橢圓形	(80)	61	12		
A. 1	B 32	不整形	94	(54)	20		±33
A. 1	B 33	內形	89	84	24	±32×30	
A. 1	B 34	橢圓形	384	(163)	19	±30×25	
A. 1	B 35	橢圓形	79	(32)	23	±36	
A. 1	B 36	橢圓形	122	57	12	±35	
A. 1	B 38	內形	56	54	24	±41	±42
A. 1	B 39	內形?	(99)	18	4		±44
A. 1	B 40	橢圓形	45	(27)	7		±44
A. 1	B 41	橢圓形	128	47	3		±38
A. 1	B 42	橢圓形	(28)	88	10	±38×P32	
A. 1	B 43	長方形	114	44	17		
A. 1	B 44	橢圓形	78	75	11	±39×40	

坑 號	坑 名	平面形	面積 (cm ²)		最大直徑		備考
			長徑	短徑	長	寬	
A. 1	45	內形	86	(80)	26		
A. 1	47	橢圓形	85	(78)	14		±55
A. 1	48	橢圓形	96	58			±11
A. 1	49	橢圓形	82	68	13		
A. 1	50	橢圓形	119	66	9		
A. 1	51	橢圓形	154	96	19		
A. 1	52	內形	154	18	11		溝狀
A. 1	53	橢圓形	85	56	7		
A. 1	55	橢圓形	80	(72)	31	±47	瓶瓦、雜多
A. 1	56	橢圓形	294	149	53		
A. 1	81	橢圓形	(86)	58	7	±141	
A. 1	82	不整形	(238)	111	45		±141
A. 1	84	橢圓形	126	89	21		±96
A. 1	86	不整形	114	82	12		雜多
A. 1	87	橢圓形	122	(54)	13	溝 5	±86
A. 1	89	橢圓形?	(116)	(77)	12	石洞 1	
A. 1	90	橢圓形?	(79)	60	35	溝 5	雜多・礎石?
A. 1	93	橢圓形?	274	243	43		±105
A. 1	96	橢圓形	256	174	10	±84	±97
A. 1	97	內形	104	92	11	±96	
A. 1	99	長方形	320	70	17		木釘瓦、瓶瓦、木釘
A. 1	100	不整形	76	48	11		
A. 1	102	溝狀	(344)	143	15		
A. 1	103	橢圓形	(290)	91	35		
A. 1	104	橢圓形	74	58	6		
A. 1	105	橢圓形	108	45	7	±93	雜多
A. 1	106	內形	62	(51)	13	P37	
A. 1	107	橢圓形	69	42	11		雜多
A. 1	108	橢圓形	62	52	8		±43
A. 1	109	橢圓形	53	29	6		
A. 1	110	內形	96	89	14		
A. 1	111	橢圓形	68	52	4		±113、 ±114
A. 1	112	內形?	56	(42)	8		±114
A. 1	113	內形	76	74	7	±114	±111 雜多
A. 1	114	橢圓形?	(286)	(113)	25		±113、 ±111、±112
A. 1	115	橢圓形	118	59	13		±114
A. 1	118	橢圓形	71	58	7		礎石?
A. 1	119	橢圓形?	(161)	(122)	8	水道?	±121
A. 1	121	內形?	(81)	(24)	9	±119	
A. 1	122	方形	95	82	17		
A. 1	123	橢圓形	52	32	5	水道 5	
A. 1	124	橢圓形	(73)	(79)	20		±142 雜多
A. 1	125	橢圓形	(78)	(65)	34	水道 6	
A. 1	126	內形?	237	68	3	水道 6	
A. 1	127	橢圓形?	296	148	33		雜多
A. 1	128	橢圓形	106	(69)	10		±129
A. 1	129	不整形	128	53	18	±128	
A. 1	130	不整形	92	75	6		
A. 1	131	橢圓形	213	148	10		
A. 1	132	橢圓形	65	39	7		雜多
A. 1	133	內形	80	69	10		±134
A. 1	134	橢圓形?	268	104	23		±133 雜多
A. 1	135	橢圓形	134	70	12	±133	
A. 1	136	橢圓形	217	204	158		
A. 1	141	橢圓形	272	(218)	50	±82	±81
A. 1	142	橢圓形?	102	(22)	26	±124	木釘多
B. 1	1	內形?	98	(72)	10		
B. 1	2	不整形	(164)	65	8		溝 1
B. 1	3	橢圓形	65	58	10		雜多
B. 1	4	不整形	139	(76)	11		雜多
B. 1	5	內形	47	45	7		
B. 1	6	橢圓形	72	48	7		
B. 1	7	橢圓形	60	46	28		遺土(瓶瓦)多
B. 1	8	長方形	137	75	35		瓶瓦、木釘
B. 1	9	橢圓形	111	55	11		±10
B. 1	10	橢圓形?	(210)	(40)			
B. 1	11	橢圓形?	57	43	21		
B. 1	12	橢圓形?	104	(44)	11		P10
B. 1	13	不整形	176	(103)	21		內形(瓶瓦)多
B. 1	14	橢圓形	114	107	25	水道 1、 ±102	±18
B. 1	15	橢圓形	100	64	11		
B. 1	16	方形	(108)	98	60		
B. 1	17	橢圓形	50	37	12	P7	
B. 1	18	橢圓形	68	53	41	±19	±14 瓶
B. 1	19	長方形?	(205)	127	25	±14、 ±18(水道)	一張木釘
B. 1	20	內形?	(330)	(98)	9		
B. 1	1	橢圓形	80	58	9		
B. 1	3	橢圓形	70	50	8		±26
B. 1	4	不整形	208	(159)	3		瓶
B. 1	7	橢圓形	(79)	63	13		±19
B. 1	8	橢圓形	61	36	7	±9	
B. 1	10	橢圓形	59	48	11		
B. 1	11	內形?	128	(72)	32		雜多
B. 1	13	內形	177	46	9		
B. 1	14	內形	50	49	5		木釘多
B. 1	15	內形	56	54	50		
B. 1	16	橢圓形	73	62	12		

区	種別	番号	平座形	幅員 (cm)			床	目	扉	扉取	全仕込み		備考
				扉長	扉幅	扉厚					目	扉	
B	17	内扉	50	47	5								
B	19	内扉	46	42	7								
B	20	内扉	74	65	6								
B	21	内扉?	46	43	29								
B	22	内扉?	91	45	19								継・木口多
B	23	内扉	83	81	12								継多
B	24	内扉	54	37	7								
B	25	内扉	55	44	5								継多
B	26	内扉	51	50	31		溝 3						継・木口 (継)
B	27	内扉?	84	31	47								
A	1	内扉											継・木口
A	2	内扉											継・木口
A	3	内扉											継・木口
A	4	内扉	180	98	25			土 5					継
A	5	内扉	116	98	27		土 4						継
A	6	内扉	164	148	17								継・木口
A	7	内扉											継・木口
A	8	内扉	185	160	26								継・木口
A	9	内扉	111	71	10								継・木口
A	10	内扉	41	40	11								継・木口
A	11	内扉?	150	68	8								継・木口
A	12	内扉	120	98	6								継・木口
A	13	内扉	382	134	7		土 7・18						継・木口
A	14	内扉	130	110	19								継・木口
A	15	内扉	118	113	34								継・木口
A	16	内扉	160	114	6								継・木口
A	17	内扉	274	123	8								継・木口
A	18	内扉	411	128	45								継・木口
A	19	内扉	113	110	24		溝 7						継・木口
A	20	内扉	72	44	7		溝 7						継・木口
A	21	内扉	108	61									継・木口
A	22	内扉	163	90	4								継・木口
A	23	内扉	78	66	33								継・木口
A	24	内扉	176	167	48								継・木口
A	25	内扉	114	83	8								継・木口
A	26	内扉	168	74	4		溝 7						継・木口
A	27	内扉	110	81	10			土 34					継・木口
A	28	内扉	97	71	8		土 33						継・木口
A	29	内扉	61	46	10		P90・90						継・木口
A	30	内扉	66	58	7								継・木口
A	31	内扉	51	50	25								継・木口
A	32	内扉	50	48	10								継・木口
A	33	内扉	94	62	4								継・木口
A	34	内扉	315	100	4		土 13						継・木口
A	35	内扉	71	58	7								継・木口
A	36	内扉	139	137	22		溝 5						継・木口
A	37	内扉?	28	13	3								継・木口
A	38	内扉	100	42	11								継・木口
A	39	内扉	47	43	27								継・木口
A	40	内扉	70	43	11								継・木口
A	41	内扉	116	72	7								継・木口
A	42	内扉	229	133	9								継・木口
A	43	内扉	156	104	6		溝 6						継・木口
A	44	内扉	95	22	5								継・木口
A	45	内扉	60	57	3								継・木口
A	46	内扉	77	51	23		溝 2・7						継・木口
A	47	内扉	53	46	3								継・木口
A	48	内扉	68	65	10								継・木口
A	49	内扉	86	64	5								継・木口
A	50	内扉	55	50	11								継・木口
A	51	内扉	80	75	12								継・木口
A	52	内扉	41	34	29		溝 7						継・木口
A	53	内扉	78	52	6								継・木口
A	54	内扉	92	75	10		溝 1						継・木口
A	55	内扉	223	186	20								継・木口
A	56	内扉	55	50	17								継・木口
A	57	内扉	135	70									継・木口
A	58	内扉	68	65	12								継・木口
A	59	内扉	210	152	16								継・木口
A	60	内扉	165	71	7								継・木口
A	61	内扉	79	23	8								継・木口
A	62	内扉	60	13	3								継・木口
A	63	内扉	54	50	12								継・木口
A	64	内扉	35	28	11								継・木口
A	65	内扉	43	39	16								継・木口
A	66	内扉	46	33	19								継・木口
A	67	内扉?	40	24	8								継・木口
A	68	内扉	40	26	14								継・木口

※ () 内仕込みは残存

表 13 ヒットー覧表

区	種別	番号	平座形	幅員 (cm)			床	目	扉	扉取	全仕込み		備考
				扉長	扉幅	扉厚					目	扉	
A	1	内扉	41	32	8								
A	1	内扉	24	23	7								
A	1	内扉	75	55	17								継・木口多
A	1	内扉	36	32	9								継多
A	2	内扉	13	11	5								継多
A	3	内扉	15	13	9								継多
A	4	内扉	22	22	5								継多
A	5	内扉	14	13	9								継多
A	6	内扉	23	22	10								継多
A	7	内扉	42	27	5								継多
A	8	内扉	26	24	3								継多
A	9	内扉	21	17	6								継多
A	10	内扉	38	26	6								継多
A	11	内扉	33	28	4								継多
A	12	内扉	46	26	13								継多
A	13	内扉	41	25	18								継多
A	14	内扉	50	28	37								継多
A	15	内扉	60	48	19								継多
A	16	内扉	50	38	32								継多
A	17	内扉	31	30	5								継多
A	18	内扉	28	27	2								継多
A	19	内扉	38	33	27								継多
A	20	内扉	20	17	4								継多
A	21	内扉	46	44	7								継多
A	22	内扉	44	38	12								継多
A	23	内扉	60	52	12								継多
A	24	内扉	66	57	7								継多
A	25	内扉	46	25	7								継多
A	26	内扉	24	24	2								継多
A	27	内扉	24	18	2								継多
A	30	内扉	56	34	11								継多
A	31	内扉	46	30	8								継多
A	32	内扉	26	23	32								継多
A	34	内扉	60	60	20								継多
A	35	内扉	62	44	16								継多
A	36	内扉	33	26	9								継多
A	37	内扉	24	20	9								継多
A	38	内扉	36	25	15								継多
A	39	内扉	32	30	8								継多
A	40	内扉	18	18	8								継多
A	41	内扉	33	23	12								継多
A	42	内扉	25	25	4								継多
A	43	内扉	26	25	11								継多
A	45	内扉	26	26	6								継多
B	1	内扉	45	45	23								継多
B	1	内扉	35	30	16								継多
B	1	内扉	32	26	11								継多
B	1	内扉	57	57	10								継多
B	1	内扉	44	41	4								継多
B	1	内扉	28	28	2								継多
B	1	内扉	49	3	5								継多
B	2	内扉	35	34	10								継多
B	3	内扉	31	24	3								継多
B	4	内扉	48	28	2								継多
B	5	内扉	45	34	5								継多
B	7	内扉	38	28	4								継多
B	8	内扉	22	20	5								継多
B	9	内扉	33	30	15								継多
B	10	内扉	44	37	24								継多
B	11	内扉	52	45	31								継多
B	13	内扉	49	45	11								継多
B	14	内扉	40	32	3								継多
B	15	内扉	40	37	26								継多
B	16	内扉	45	44	21								継多
B	17	内扉	30	18	10								継多
B	1	内扉	40	33	10								継多
B	2	内扉	31	27	24								継多
B	3	内扉	39	35	23								継多
B	4	内扉	29	28	17								継多
B													

駅	種別	番	手番	到着時刻 (km)			駅間距離		備考
				日誌	時刻	遅延	日	新	
A	N	36	内車	49	40	36		机・機	
A	N	39	籠内車	070	51	4			
A	N	40	内車	58	55	7			
A	N	41	内車	26	23	7			
A	N	42	内車	37	37	5	満7		
A	N	43	内車	40	39	4		右	
A	N	44	内車	34	34	10		机	
A	N	45	内車	28	26	5	満7	机	
A	N	46	内車	39	37	5	満7		
A	N	47	内車	22	20	4	満7		
A	N	48	内車	22	21	10	満7		
A	N	49	内車	21	20	28		机	
A	N	50	内車	24	23	19		机・右	
A	N	51	内車	26	03	31		満2	机
A	N	52	不整形	52	43	7			
A	N	53	内車	39	03	32		満2	机
A	N	54	内車	39	37	10			
A	N	55	籠内車	43	33	5			
A	N	56	籠内車	42	31	45		P117	机・機
A	N	57	内車	37	36	12		機多	
A	N	58	籠内車	38	03	21		満4	机
A	N	59	内車	026	33	6		満2	
A	N	60	内車	29	28	12		機	
A	N	61	籠内車	059	36	10		籠内	机・機
A	N	62	籠内車	44	28	5			
A	N	63	内車	34	29	22		機	
A	N	68	籠内車	35	29	9	土48		
A	N	69	籠内車	35	29	5		右	
A	N	70	内車	27	26	5		右	
A	N	71	籠内車	35	18	7		機多	
A	N	72	籠内車	22	15	6			
A	N	73	内車	22	21	2			
A	N	74	内車	15	15	3			
A	N	75	籠内車	17	13	22			
A	N	80	内車	27	26	11			
A	N	85	内車	26	24	10			
A	N	87	内車	29	28	23			
A	N	89	内車	54	029	4	土37		
A	N	90	内車	025	26	30	土37		
A	N	91	内車	38	35	34	机	机	
A	N	92	籠内車	25	18	12	満7	机	
A	N	93	籠内車	46	33	33	満7		
A	N	94	籠内車	37	29	12	満7		
A	N	95	内車	31	19	7	満7		
A	N	96	内車	28	27	22	満7	右	
A	N	97	籠内車	30	25	40		机	
A	N	98	籠内車	30	17	22			
A	N	99	内車	28	26	12			
A	N	100	内車	24	22	5		机	
A	N	101	内車	35	32	33		机・机	
A	N	102	籠内車	22	17	6			
A	N	103	内車	24	21	6	P100		
A	N	104	籠内車	32	20	31		机	
A	N	105	内車	19	18	8			
A	N	106	内車	24	23	7			
A	N	107	内車	23	19	7			
A	N	108							
A	N	108	内車	23	20	5		机	
A	N	109	籠内車	41	28	10	P103		
A	N	110	籠内車	35	23	15		机	
A	N	111	内車	23	20	9			
A	N	112	内車	22	20	15			
A	N	113	内車	31	26	12			
A	N	114	内車	22	21	8			
A	N	115	籠内車	028	25	13			
A	N	116	籠内車	26	21	11	満1	机・機	
A	N	117	籠内車	39	20	11	P06	机	
A	N	118	籠内車	40	27	25			
A	N	119	籠内車	28	22	9			
A	N	120	内車	18	17	16			
A	N	121	籠内車	24	18	8	満7		
A	N	122	内車	28	24	49	土19・P09	机	机・机
A	N	123	籠内車	35	27	19		機多	
A	N	124	籠内車	30	24	28		機多	
A	N	125	内車	19	19	35	満7		
A	N	126	内車	24	21	52	満7		
A	N	127	籠内車	19	16	11	P144		
A	N	128	内車	24	21	7			
A	N	129	内車	25	24			A-4 直下層	
A	N	130	内車	25	22			A-4 直下層	
A	N	132	内車	30	24		P20	A-4 直下層, 机	
A	N	133	内車	24	23			A-4 直下層	
A	N	134	内車	24	21			A-4 直下層	
A	N	135	籠内車	21	16			A-4 直下層	
A	N	136	内車	25	24			満1	A-4 直下層
A	N	137	内車	25	23				
A	N	138	籠内車	20	19				A-4 直下層, 机
A	N	139	籠内車	23	16				A-4 直下層
A	N	140	内車	24	21				A-4 直下層

駅	種別	番	手番	到着時刻 (km)			駅間距離		備考
				日誌	時刻	遅延	日	新	
A	N	142	内車	19	19			土8	A-4 直下層
A	N	143	内車	15	13			土8	A-4 直下層
A	N	144	籠内車	22	14			P127	A-4 直下層
A	N	145	内車	24	24			P7・8	A-4 直下層
A	N	146	内車	25	24			土20	A-4 直下層
A	N	147	籠内車	30	(14)			P148?	A-4 直下層, 机
A	N	148	籠内車	030	32			P147?	A-4 直下層
A	N	149	内車	25	24			土15	A-4 直下層, 机
A	N	151	内車	21	16	6			A-4 直下層
A	N	152	内車	22	20	11		土25	A-4 直下層
A	N	153	内車	26	24	13		土25	A-4 直下層, 机
A	N	154	内車	22	19	21		土25	A-4 直下層
A	N	155	内車	27	26	6			A-4 直下層
A	N	156	内車	25	24	7		満1	A-4 直下層
A	N	157	内車	26	20	10			A-4 直下層
A	N	158	籠内車	30	26	10			A-4 直下層
A	N	159	内車	27	25	11		土30	A-4 直下層
A	N	160	内車	18	14	12			A-4 直下層
A	N	161	内車	14	14	11			A-4 直下層
A	N	162	籠内車	13	8	4			A-4 直下層
A	N	163	内車	12	9	14			A-4 直下層
A	N	165	内車	12	9	6			A-4 直下層
A	N	166	内車	8	7	6			A-4 直下層
B	N	1	籠内車	26	26	5			
B	N	2	籠内車	32	22	26			機
B	N	3	内車	23	22	4			
B	N	4	内車	21	20	8			A-4 直下層
B	N	5	籠内車	38	26	6			A-4 直下層
B	N	6	内車	21	21	2			A-4 直下層
B	N	7	籠内車	25	18	7			A-4 直下層
B	N	8	籠内車	25	21	30			A-4 直下層
B	N	9	内車	28	25	6			機
B	N	10	内車	20	20	7			機
B	N	11	内車	26	25	9			
B	N	12	内車	29	26	7			机
B	N	13	内車	32	30	26	満1		机
B	N	15	内車	14	7	7			机
B	N	16	内車	25	24	30			机
B	N	17	内車	23	22	19			机
B	N	18	内車	18	18	6			機多
B	N	19	内車	31	27	10			
B	N	21	内車	25	24	22			
B	N	22	内車	30	26	7			
B	N	23	籠内車	30	25	5			
B	N	24	内車	23	20	3			
B	N	25	内車	34	24	18			
B	N	26	内車	22	22	6			
B	N	27	内車	21	21	11			
B	N	28	籠内車	32	20	9			
B	N	30	内車	24	24	13			
B	N	31	内車	38	33	6			
B	N	32	内車	25	22	6			
B	N	33	内車	17	17	2			
B	N	35	内車	30	28	8	満4・P08		
B	N	36	内車	12	12	5	満4		
B	N	37	内車	11	10	16	満4・P08		
B	N	38	内車	34	(00)	10		P07・39	機
B	N	39	内車	26	23	12		P08	
B	N	40	内車	36	35	17			机
B	N	41	内車	27	24	8		P42	
B	N	42	内車	23	20	10	P41		机
B	N	43	内車	17	16	6			
B	N	44	内車	25	24	17	P45		机
B	N	45	籠内車	31	24	10		P44	
B	N	46	籠内車	33	26	28			机・機
B	N	47	内車	18	15	9			
B	N	48	内車	28	27	10			
B	N	49	内車	25	22	14			机
B	N	50	内車	14	14	9			机
B	N	51	内車	14	14	6			
B	N	52	籠内車	25	18	9			
B	N	53	籠内車	26	22	13			
B	N	54	内車	23	21	12	P55		
B	N	55	内車	28	26	9	満3・P56	P54	机, 机
B	N	56	内車	32	30	15	満3	P55	
B	N	57	籠内車	21	10	6			
B	N	58	籠内車	18	9	6			
B	N	59	内車	25	23	20			机・机
B	N	60	内車	26	22	13	P61		机
B	N	61	内車	18	16	14		P60	
B	N	63	内車	17	(12)	11			
B	N	64	籠内車	23	15	17			
B	N	65	籠内車	21	15	4			
B	N	66	内車	20	17	3			
B	N	67	内車	22	20	30			
B	N	68	内車	22	20	7			

※ () 内0数は現在値



图12 A区I棟 全体图

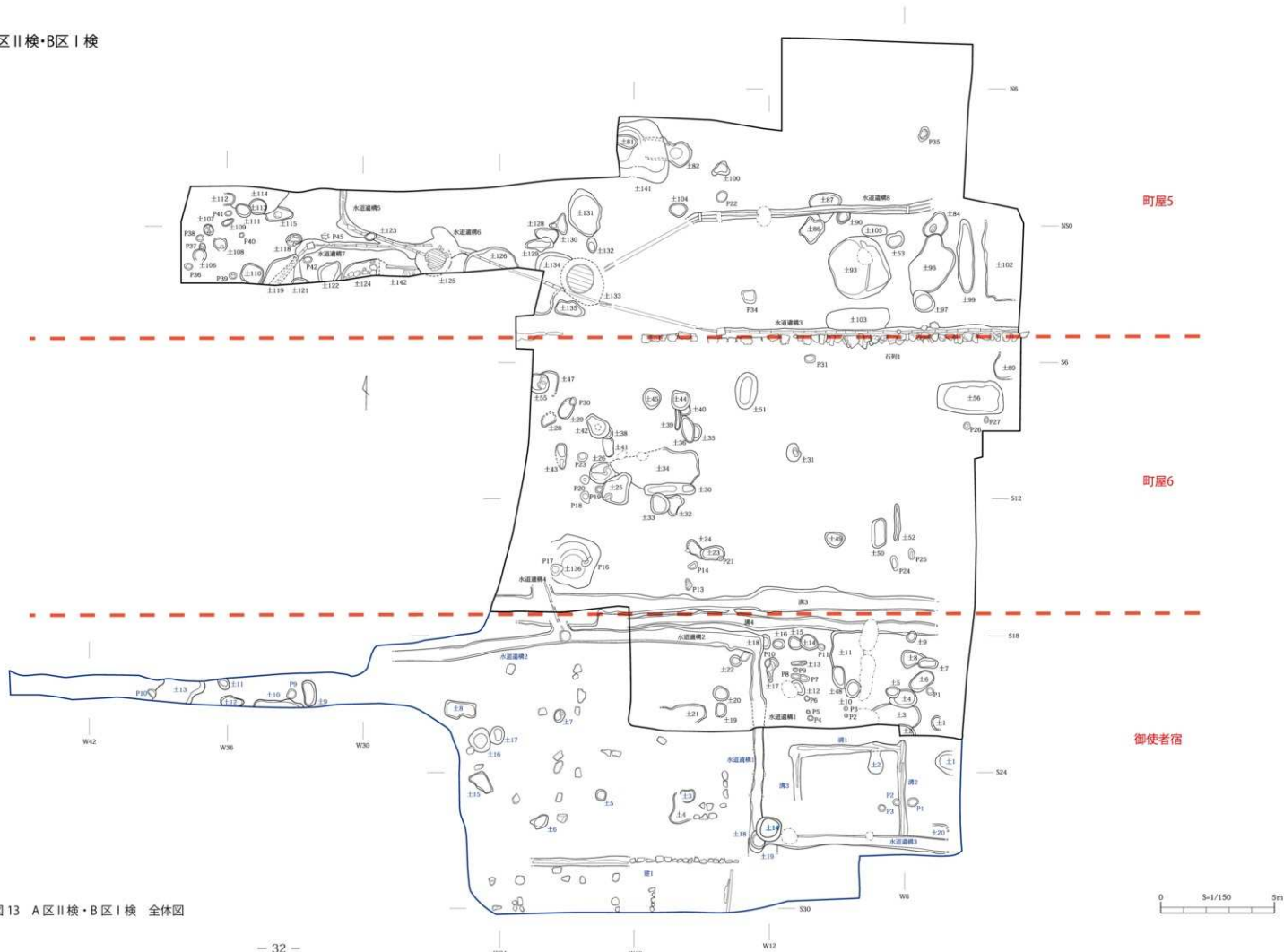


图13 A区II検・B区I検 全体图

B区II検

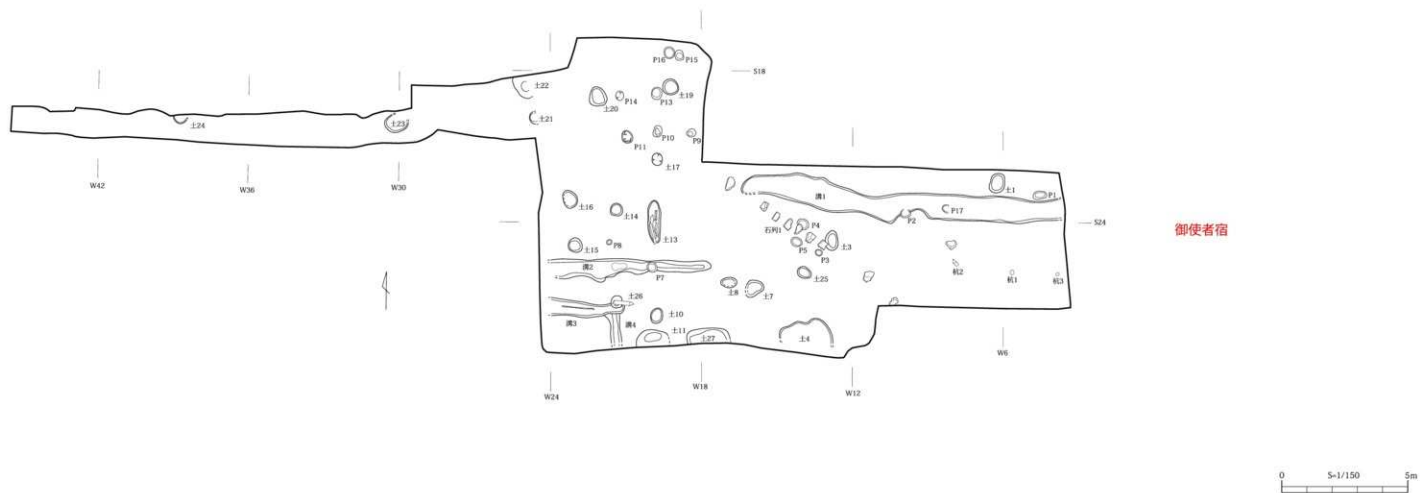


图 14 B区II検 全体图

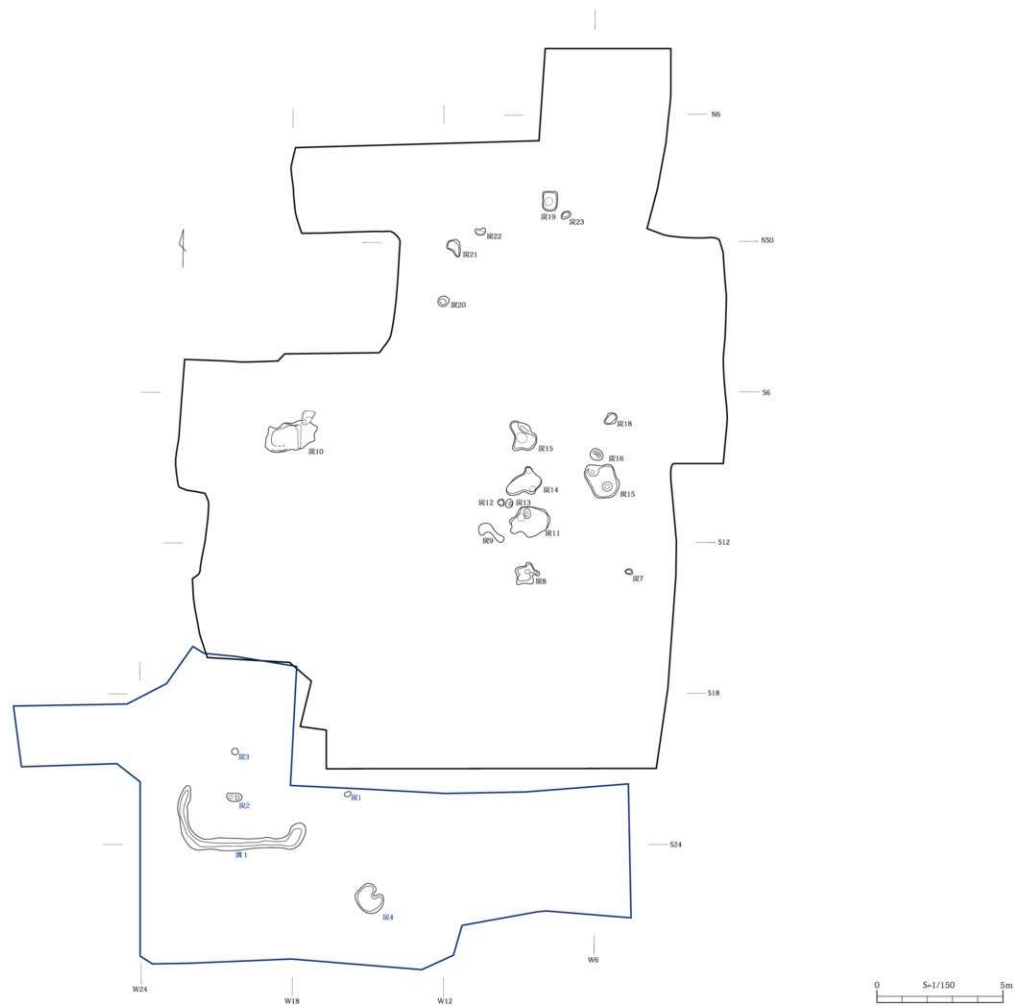


图 15 A·B区Ⅲa棟 全体图

A·B区Ⅲb検



图 16 A·B区Ⅲb 全体图

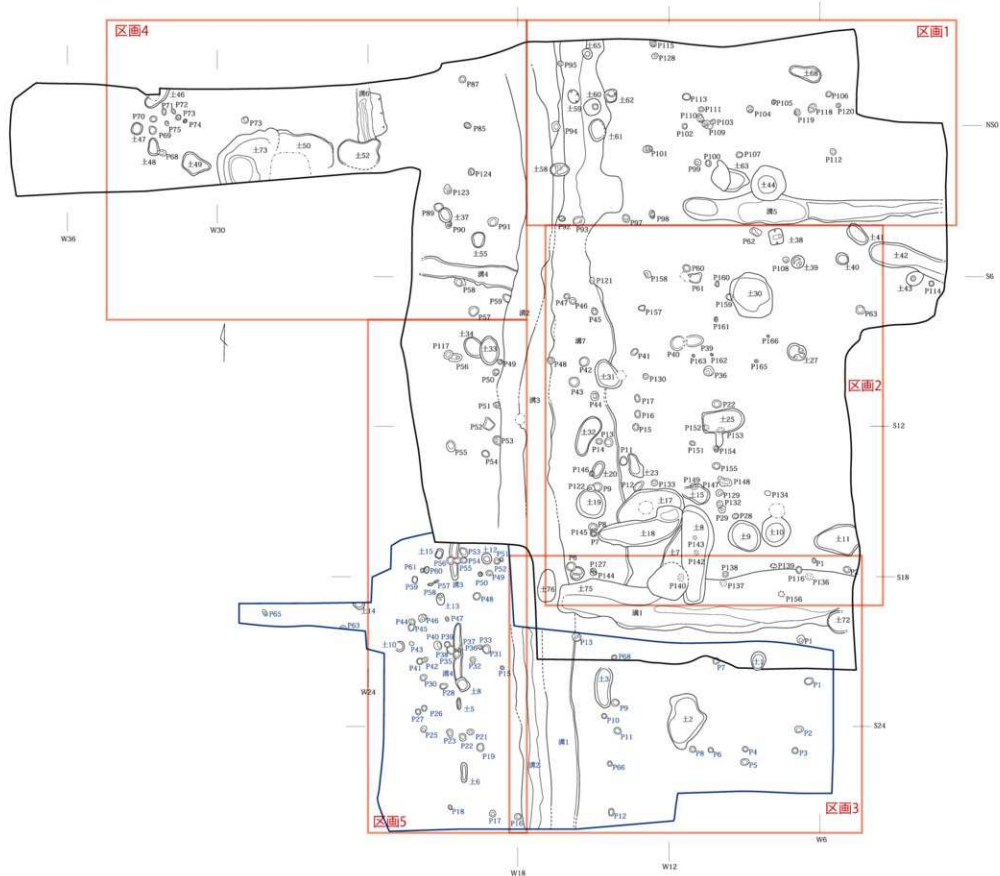
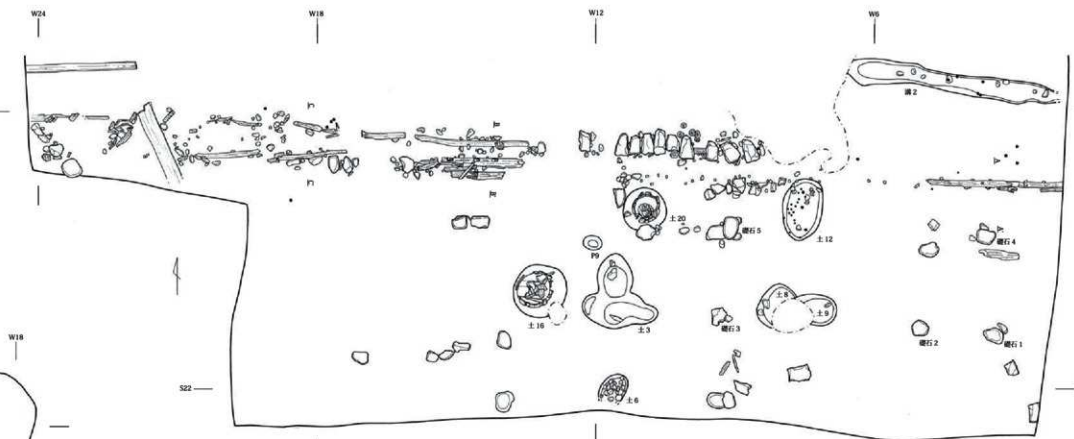


図 17 A·B区IV検 全体図

A区I棟
御使者宿



B区II棟
御使者宿

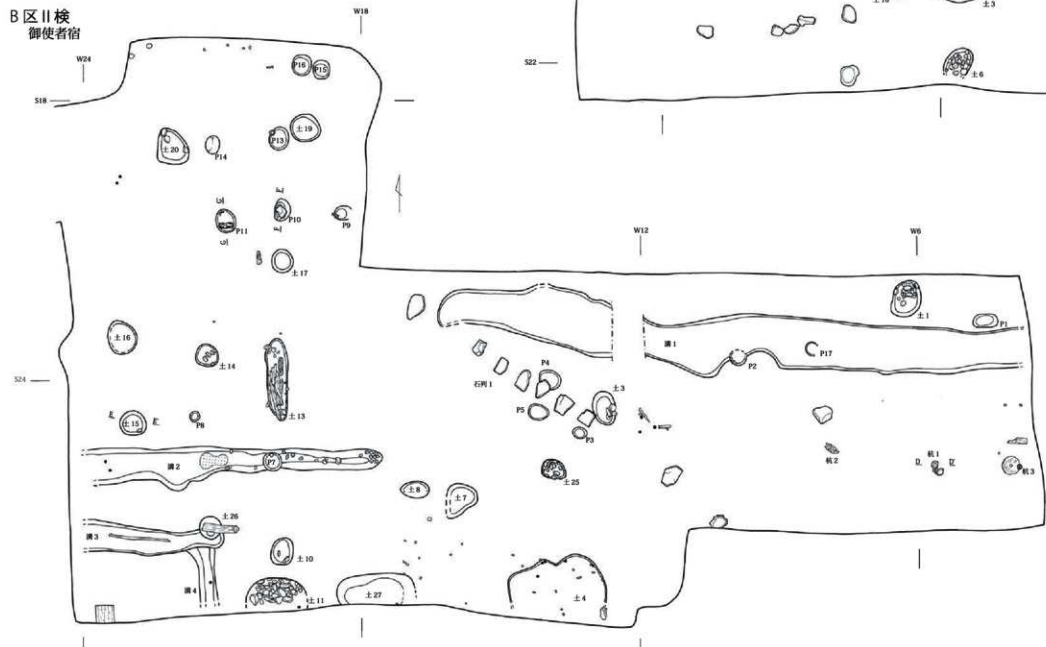


図18 A区I棟・B区II棟 推定御使者宿範囲図

A区II棟B区I棟
御使者宿 2

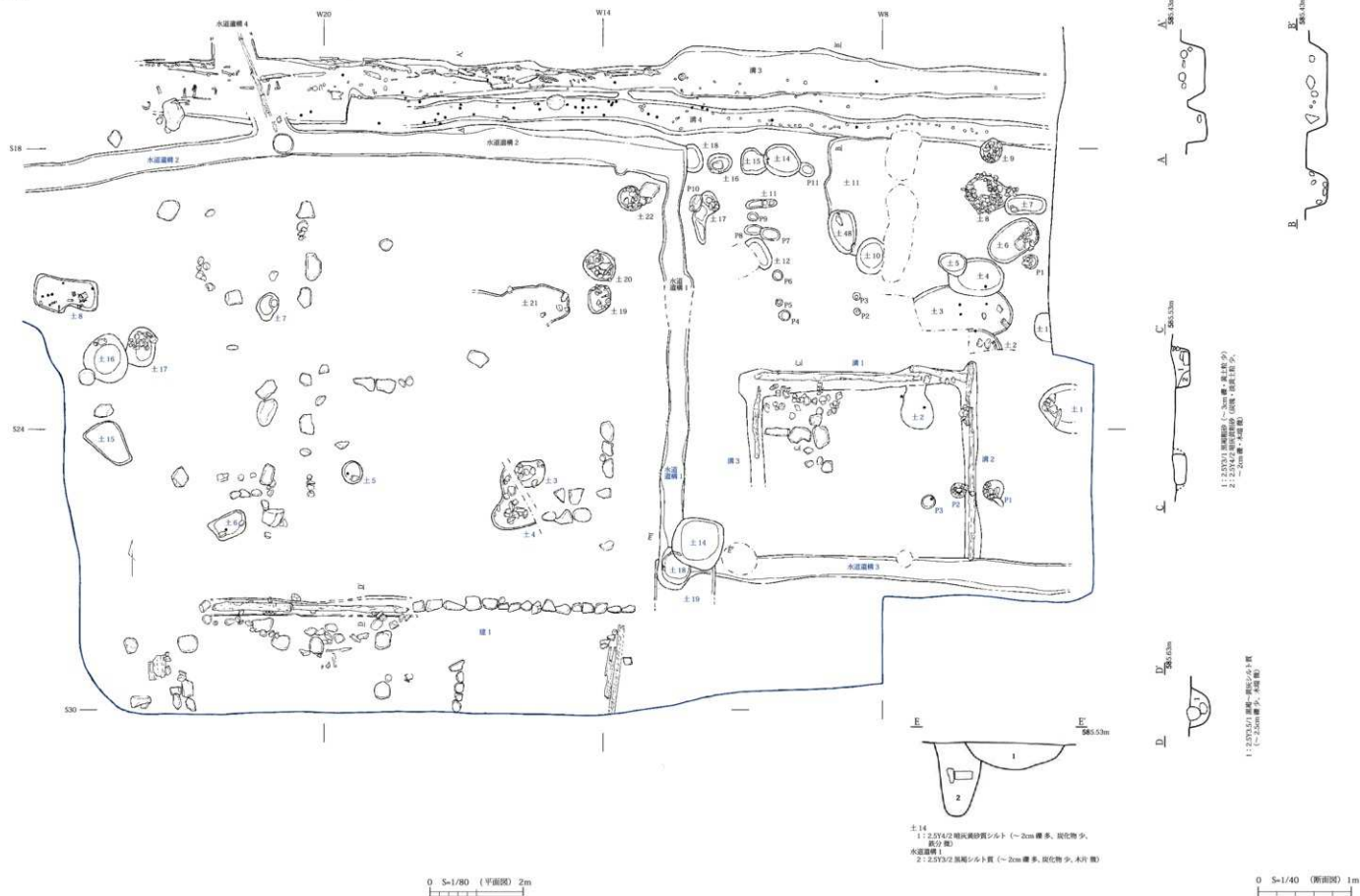
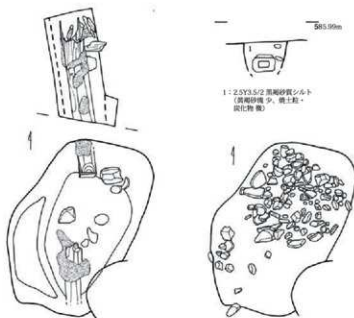
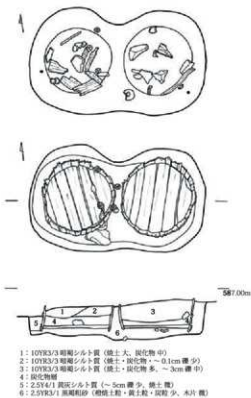


図19 A区II棟・B区I棟 推定御使者宿範囲図

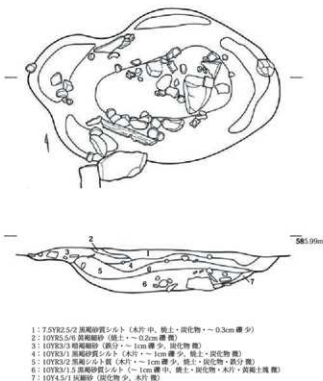
A区I検

土60・土76

土65・水道遺構I



土39



土72

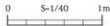
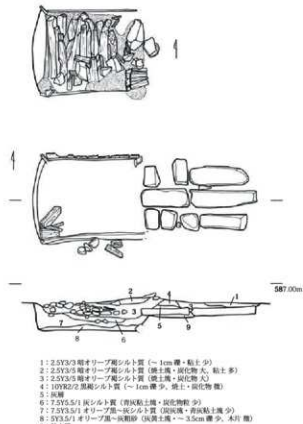
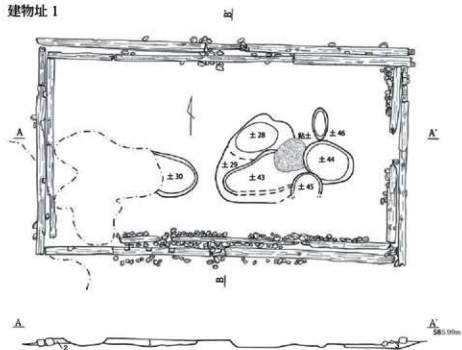


図20 A区I検 遺構図①

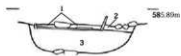
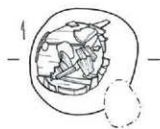
A区I検

建物址1



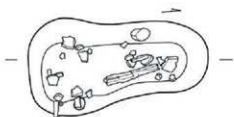
- 1: 2.5Y3.5/2 黒褐色砂 (黄褐色砂・~1cm 厚少)
- 2: 10YR3/2 黒褐色砂 (~1cm 厚少, 炭化物 微)
- 3: 7.5YR3/1 黒褐色シルト質 (暗灰黄土層少, 炭化物・鉄片・木片・~1cm 厚薄)
- 4: 10YR3.5/2 黒褐色砂 (~2cm 厚多, 赤褐色土層少)
- 5: 10YR2/2 黒褐色シルト (~0.2cm 厚少, 未付載)
- 6: 10YR1.5/2 黒褐色シルト (~2cm 厚薄, 炭化物・粘土粒・黄褐色腐葉)

土16



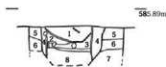
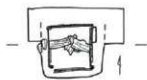
- 1: 10YR2/1 黒砂質シルト (炭化物・木片大, 粘土多)
- 2: 2.5Y3.6 黒褐色シルト質 (~10cm 厚少)
- 3: 10YR3/2 黒褐色シルト質 (粗砂多, 赤風粘土塊・~3cm 厚少)

土22



- 1: 10YR3/4 暗褐色砂 (粘土・~0.2cm 厚少)
- 2: 10YR2/3 黒褐色砂質シルト (炭化物・~1cm 厚少, 粘土 微)

土25



- 1: 10YR3/3 暗褐色シルト質 (木片中, 炭化物・~3cm 厚少)
- 2: 10YR2/2 黒褐色粘質シルト (黄褐色砂粒少)
- 3: 10YR3/2 黒褐色粘質シルト (粘土少)
- 4: 10YR2/1 黒シルト質 (~5cm 厚・白砂粒少)
- 5: 10YR4/1 黄砂質シルト (~1cm 厚中, 粘土少)
- 6: 10YR3/1 黒褐色シルト質 (炭化物・~0.5cm 厚少)
- 7: 10YR3/1 黒褐色粘質シルト (炭化物・0.3cm 厚薄)
- 8: 10YR2/1 黒砂質シルト (~0.2cm 厚少, 粘土 微)

土31



- 1: 10YR2/1 黒砂質シルト (炭化物大, 粘土多)
- 2: 10YR3/2 黒褐色砂 (炭化物・~1cm 厚薄)

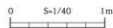
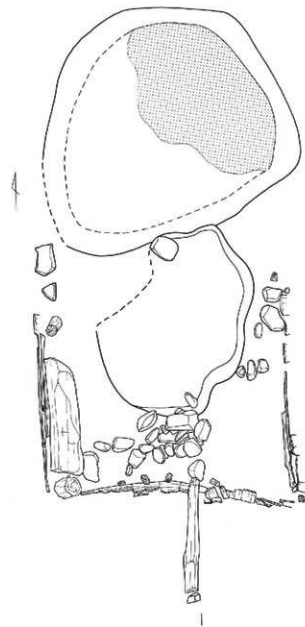
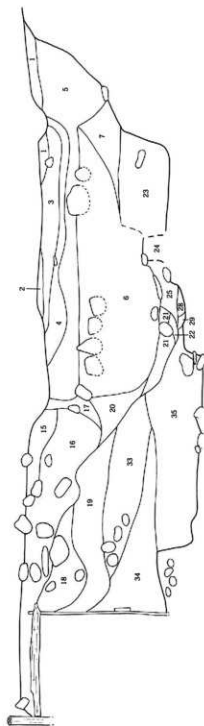


図21 A区I検 遺構図②

A区I検
土75



300.1mm



土73・75共通

- 1: 2.5Y4/2 胡瓦質シルト層 (胡瓦中, ~1cm 厚少, 底部に木炭集中)
- 2: 2.5Y5/6 炭粉砂 (底部に木炭集中)
- 3: 10YR3/2 炭粉シルト質 (~20cm 厚多, 2 層中)
- 4: 10YR2/2 炭粉砂 (炭化物・灰質 少)
- 5: 2.5Y3/1 炭粉シルト質 (炭化物・焼土塊・灰質粘土塊, ~1cm 厚少)
- 6: 2.5Y4.5/3 炭粉土 (焼土粒 少, 炭片層)
- 7: 2.5Y4/1 炭粉砂 (胡瓦質粘土多)
- 8: 10YR3/1 炭粉粘質シルト (炭化物, ~0.5cm 厚少, 焼土塊 薄)
- 9: 2.5Y4.5/2 炭粉粘質シルト (炭化物・灰質粘土塊, ~1cm 厚薄)
- 10: 2.5Y3.5/1 炭粉粘質シルト (灰質粘土塊 薄)
- 11: 2.5Y3/1 炭粉粘質シルト (灰質粘土塊 薄)
- 12: 10YR2/1 炭粉粘質シルト
- 13: 灰層
- 14: 粘土層
- 15: 2.5Y4.5/4 オリーブ層 (炭化物, ~1cm 厚少, 焼土塊 薄)
- 16: 10YR2/1 炭粉砂質シルト (炭化物 少, 木片・焼土粒 散)
- 17: 2.5Y3.5/1 炭粉シルト質 (炭化物・灰質粘土塊 薄)
- 18: 10YR3/1 炭粉粘質シルト (炭化物, ~0.5cm 厚少, 焼土塊 薄)
- 19: 2.5Y4.5/2 胡瓦粘質シルト (炭化物・灰質粘土塊, ~1cm 厚薄)
- 20: 2.5Y3.5/2 胡瓦粘質シルト (炭化物・灰質粘土塊 少)

- 21: 2.5Y4/1 炭粉粘砂 (灰質粘土, ~2cm 厚少)
- 22: 2.5Y4/1 炭粉粘砂
- 23: 2.5Y3.5/1 炭粉-炭粉粘砂 (焼土粒中, ~10cm 厚少)
- 24: 2.5Y3/4 土系炭粉-灰質・灰土粘層 (炭粉粘)
- 25: 2.5Y3/2 炭粉粘・灰質粘土, 焼土粒層 (~1cm 厚少)
- 26: 10YR2/1 炭粉粘質シルト
- 27: 粘土層 (土より灰くボンボン)
- 28: 粘土層
- 29: 粘土層 (土より灰ずり)
- 30: 炭土層
- 31: 2.5Y2.5/1 炭粉シルト質 (炭化物 少, ~1cm 厚薄)
- 32: 10YR2.5/1 炭粉粘質シルト (炭化物 少)
- 33: 2.5Y5.5/2 灰質粘土 (焼土塊多, 炭化物 少)
- 34: 2.5Y4/1.5 炭粉粘質シルト (炭化物・焼土粒 少)
- 35: 2.5Y3.5/1 炭粉-炭粉粘土層 (粘土・灰質土, ~0.5cm 厚多)
- 36: 2.5Y3.5/1 炭粉-炭粉粘土
- 37: 10YR3/2 炭粉粘質シルト (炭土塊中, ~0.5cm 厚少, 灰層)
- 38: 10YR2/2 炭粉粘質シルト (~3cm 厚中, 炭少, 木片 散)
- 39: 10YR2/2 炭粉粘質シルト
- 40: 2.5Y4/4 オリーブ粘砂
- 41: 粘土層 (土より灰ずり)

図22 A区I検 遺構図③

A区I椽
土73

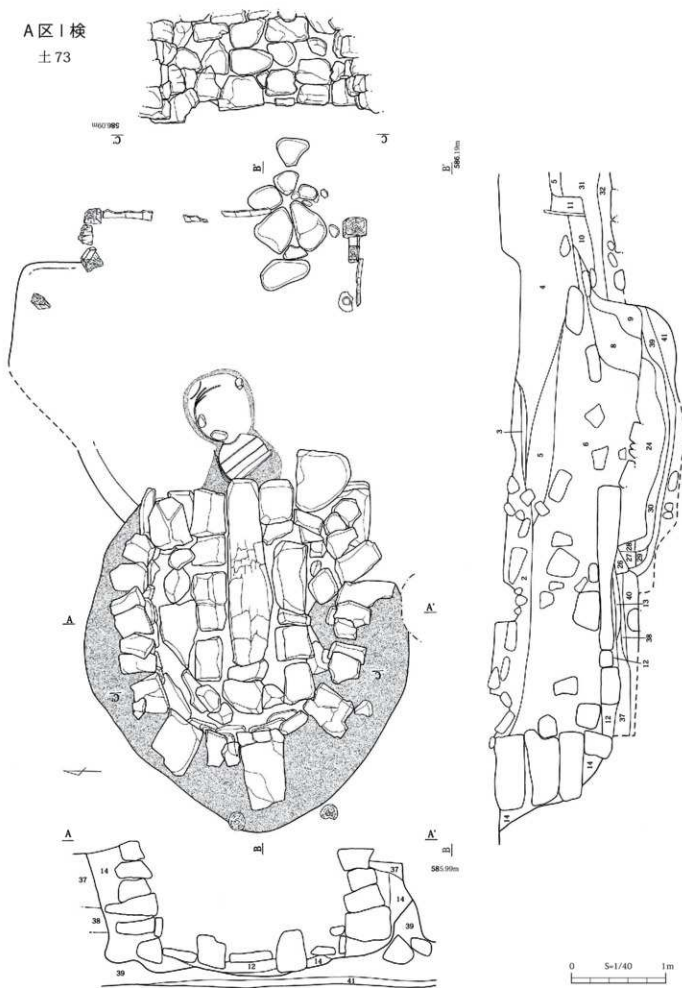


图23 A区I椽 遗構図④

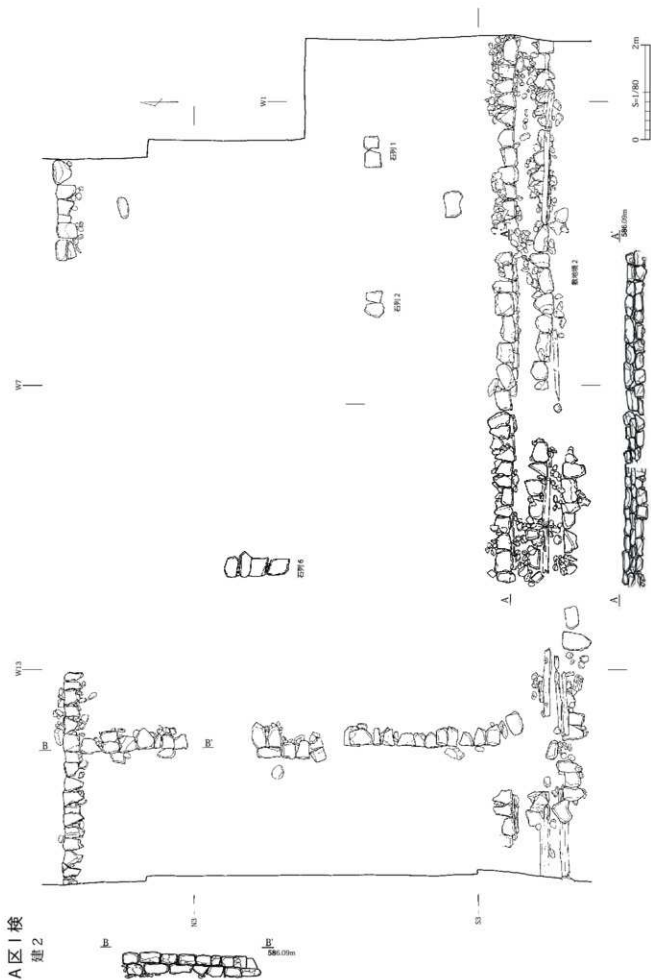


图24 A区I栋 遗構図⑤

A区II検・B区I検
水道遺構1・2・3・4

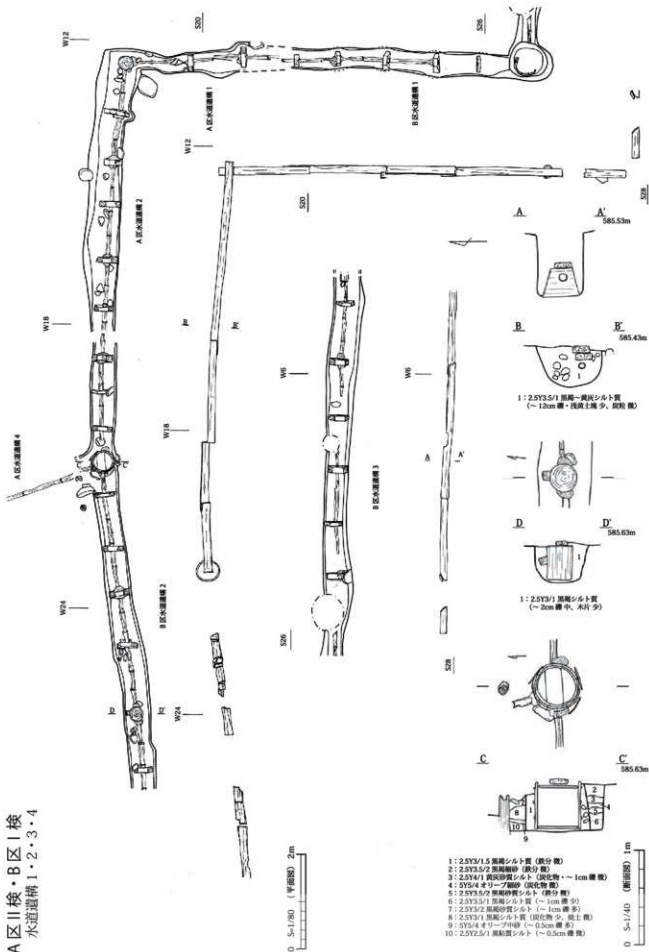


図25 A区II検・B区I検 遺構図①

A区II検
水道遺構 3・8

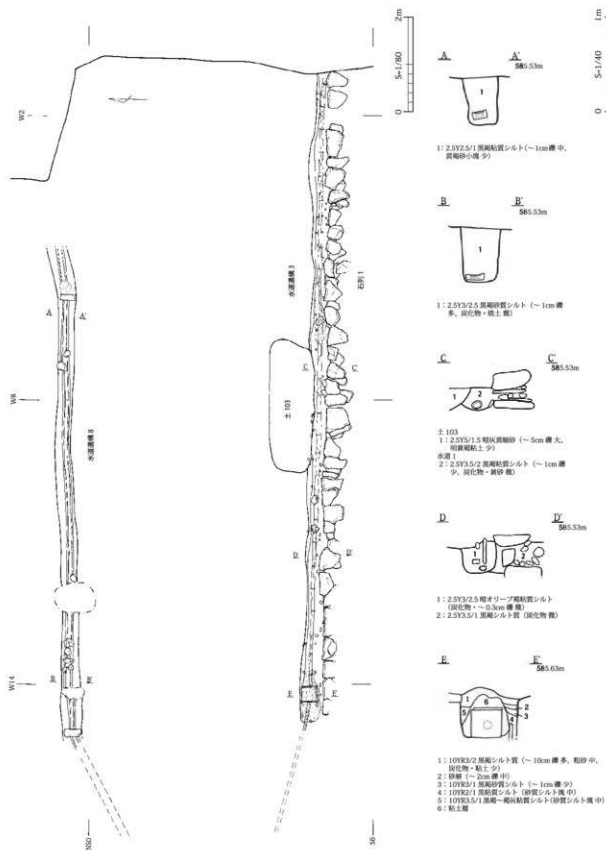


図 26 A区II検・B区I検 遺構図②

A区II検
水道遺構 5・6・7

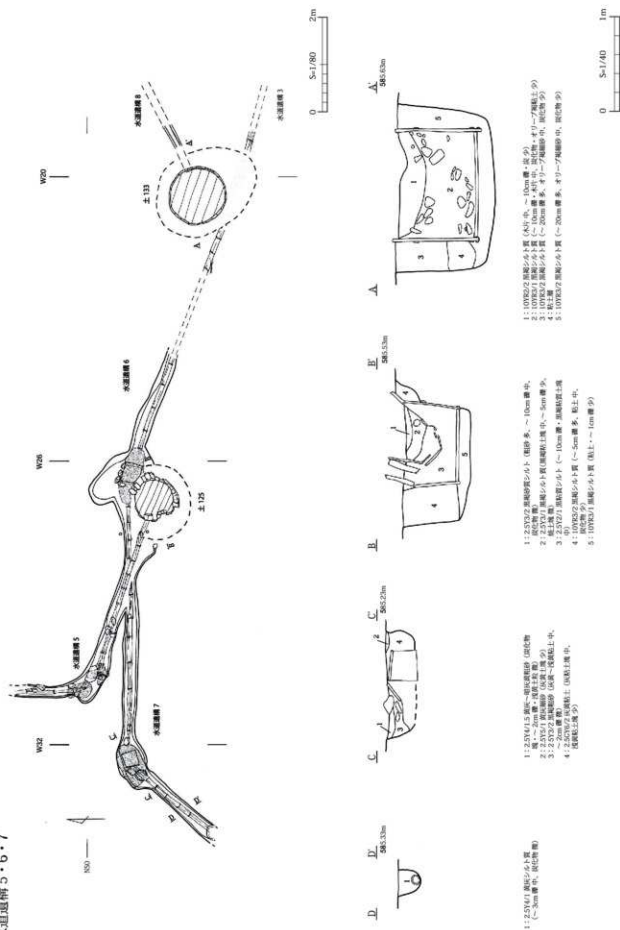
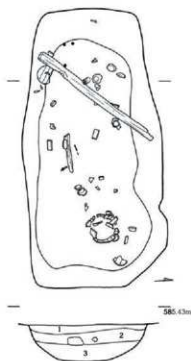


図27 A区II検・B区I検 遺構図③

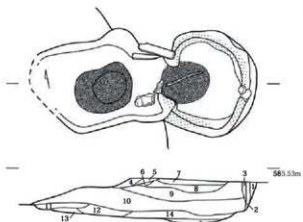
A区II検

±56



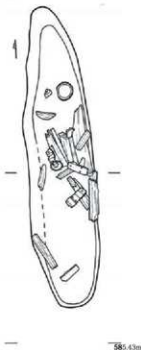
- 1: 5Y3/1 オリーブ黒粘砂 (木片、～4cm 層少)
- 2: 5Y3/1 オリーブ黒粘砂 (炭化物中、炭質土塊、～4cm 層、木片少)
- 3: 5Y3.5/1 オリーブ黒粘砂 (粘がくす状、木片少、明黄緑土粒 散)

±82



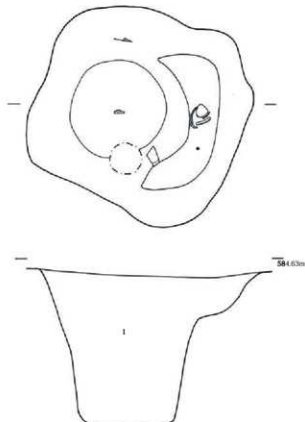
- 1: 5Y5/2 灰オリーブ粘砂 (～1cm 層、炭質土塊、炭粘 散)
- 2: 10YR3/2 黄粘粘砂 (炭質塊) 粘土
- 3: 10YR5.5/4 土赤・黄粘粘砂 粘土
- 4: 5Y4.5/1 黄粘砂 (炭粒、明黄緑土粒、炭質土粒 散)
- 5: 2.5Y4/2 暗灰黄粘砂 (炭質土塊 少、炭化物塊、～1cm 層 散)
- 6: 2.5Y5.5/2 黄粘粘砂 (炭質土塊 少、～1cm 層 散)
- 7: 5Y5/2 灰オリーブ粘砂 (炭質土塊、炭塊 少、木片、明黄緑土粒 散)
- 8: 2.5Y5/1 土黄粘粘砂 (炭質土塊、炭粒 少、～1cm 層 散)
- 9: 5Y4.5/2 灰オリーブシルト質 (明黄緑土塊中、炭塊 少、～1cm 層 散)
- 10: 2.5Y6/2 灰黄シルト質 (炭質土塊、粘土中、黄緑粘土塊、炭塊 少)
- 11: 2.5Y6/2 灰黄粘砂 (炭化物塊 少)
- 12: 炭塊 (明黄粘土塊 少)
- 13: 2.5Y6/2 灰黄粘土 (～2cm 層 散)
- 14: 2.5Y6/2 灰黄シルト質 (炭質土塊、炭 少)
- 15: 炭塊 土層は火床面

±99



- 1: 10YR3/3 暗黒シルト質 (炭中、～2cm 層 少)

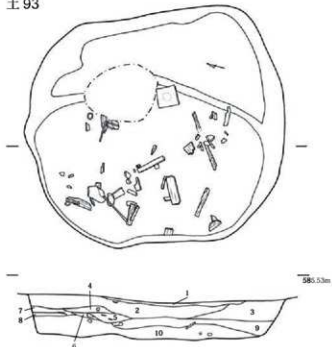
±136



- 1: 2.5Y3/2 黒粘シルト質 (木片多、～1cm 層中、炭分少)

0 5=1/40 1m

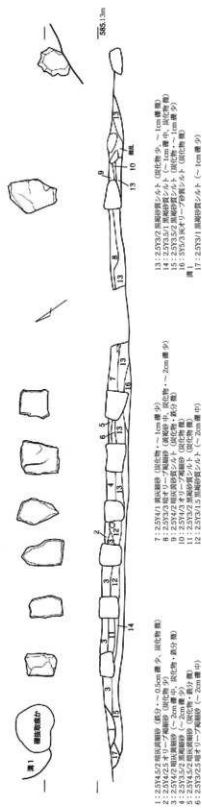
±93



- 1: 2.5Y3/1.5 黄緑シルト質 (炭化物、木片 散)
- 2: 2.5Y3.5/1 黄粘砂質シルト (木片 少、炭化物 散)
- 3: 2.5Y3.5/2 黄粘シルト質 (炭化物、木片 散)
- 4: 2.5Y4.5/1 黄粘シルト質 (炭質粘土 少、炭粘 散)
- 5: 10YR3.5/1 黄粘シルト質 (炭質粘土 少)
- 6: 2.5Y4/1.5 暗灰黄シルト質 (炭化物 少、～1cm 層 散)
- 7: 2.5Y5.5/1 黄粘シルト質 (炭化物 散)
- 8: N2.5.0 暗灰粘砂 (炭化物 散)
- 9: 2.5Y3/2.5 暗オリーブ粘粘質シルト (木片 中、炭化物 少)
- 10: 10YR2.5/2 黄粘粘質シルト (木片 多、～1cm 層 中、炭化物 散)

図28 A区II検・B区I検 遺構図④

B区II検
石列1

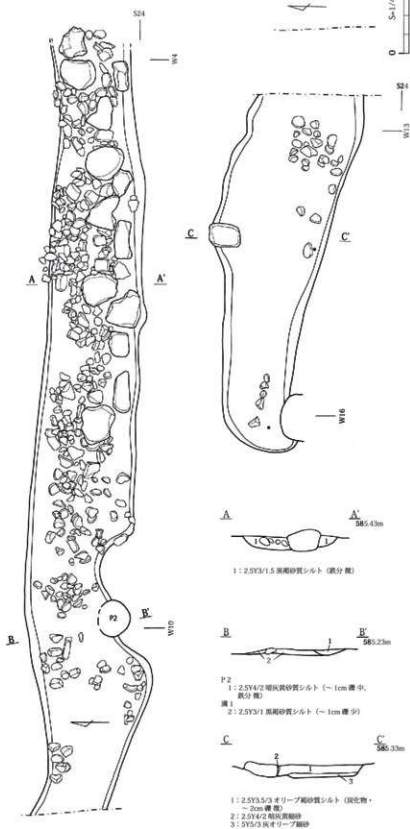


- 1: 2.5Y3/5.5 奥イリブ編砂質シルト (炭化物・
~2cm 層厚)
2: 2.5Y4/2 増戻炭砂質シルト (炭化物・
炭分層)
3: 2.5Y4/2 増戻炭砂質シルト (炭化物・炭分層)
4: 2.5Y3/1.5 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
5: 2.5Y3/2.5 増イリブ編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
6: 2.5Y3/2.5 増イリブ編砂質シルト (炭化物・
炭分層)

- 7: 2.5Y3/1 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
8: 2.5Y3/3 増イリブ編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
9: 2.5Y4/2 増戻炭砂質シルト (炭化物・炭分層)
10: 2.5Y3/2 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
11: 2.5Y3/2 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
12: 2.5Y3/1.5 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)

- 13: 2.5Y3/2 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
14: 2.5Y3/1 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
15: 2.5Y3/5.2 奥イリブ編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
16: 3.5Y3/3 奥イリブ編砂質シルト (炭化物・
炭分層)
17: 2.5Y3/1 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)

溝1



- B
1: 2.5Y4/2 増戻炭砂質シルト (炭化物・
炭分層)
2: 2.5Y3/1 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)

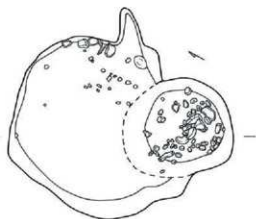
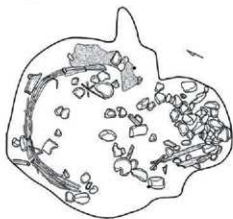
- P2
1: 2.5Y4/2 増戻炭砂質シルト (炭化物・
炭分層)
溝1
2: 2.5Y3/1 黒編砂質シルト (炭化物・
炭分層)

- C
1: 2.5Y3.5/3 オリーブ編砂質シルト (炭化物・
~2cm 層厚)
2: 2.5Y4/2 増戻炭砂質シルト (炭化物・
炭分層)
3: 5Y5/3 奥イリブ編砂質シルト (炭化物・
炭分層)

図29 B区II検 遺構図

A区IIIb検

土4・土5



土5

1: 2.5Y3/1 黒褐色砂 (~3cm 層・灰黄土層中)

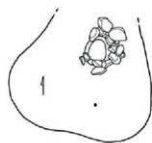
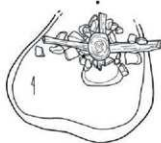
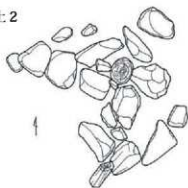
2: 2.5Y4/1 黒灰砂 (灰化物塊 散)

土4

3: 2.5Y3.5/1 黒褐色~黄灰褐色砂 (~3cm 層・灰黄土層中、明灰黄土層少)

4: 2.5Y3/1 黒褐色砂 (灰黄土層・~5cm 層少)

土2

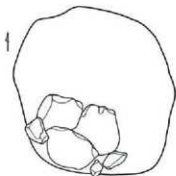


土3



A区IV検

土30



1: 2.5Y3/1.5 黒褐色黄シルト (~5cm 層多、木片少)

0 S=1/40 1m

図30 A区IIIb検・A区IV検 遺構図

A区IV校
区画図①

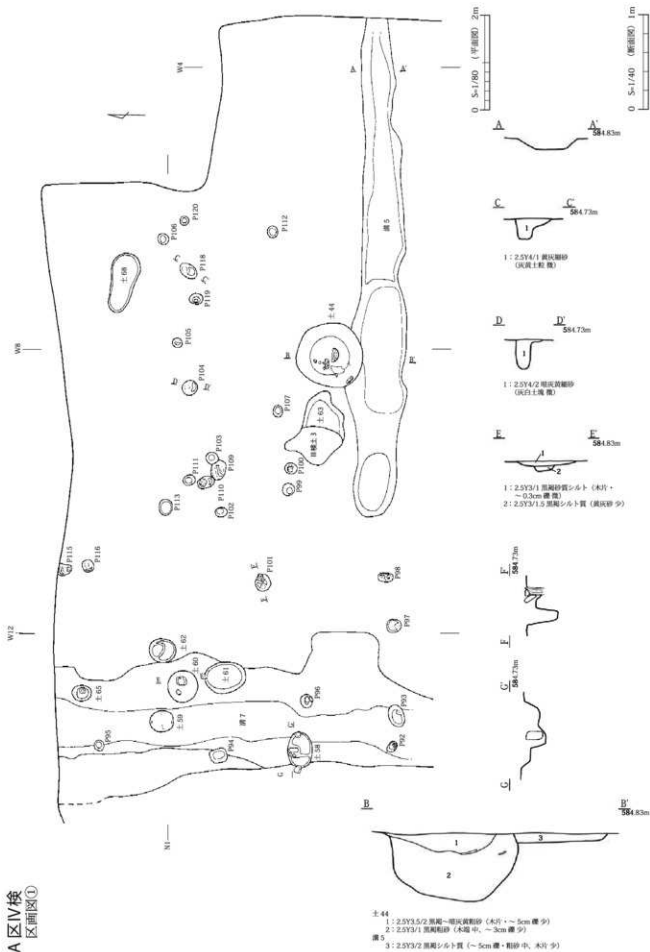


図31 A区IV校区画1 遺構図

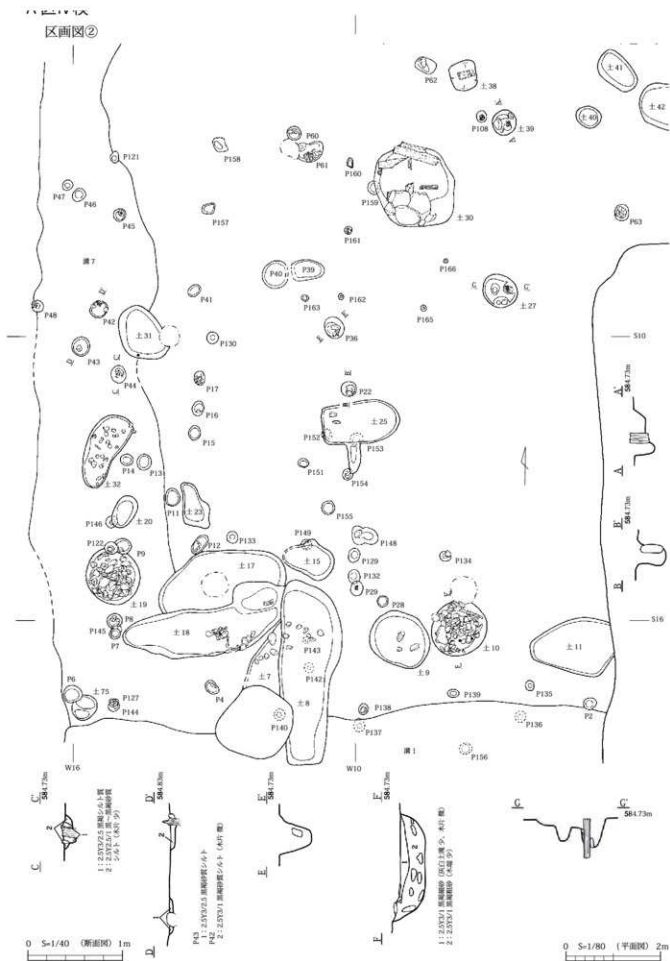


図 32 A 区 IV 校区画 2 遺構図

文・B区IV検
平面図③

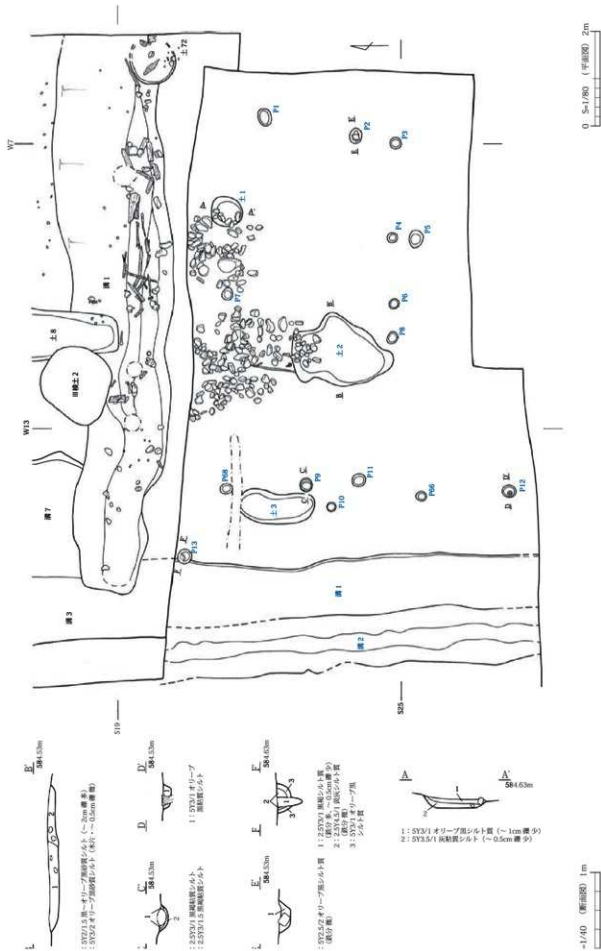


図33 A区IV検区画3 遺構図

A区IV校
区画図④

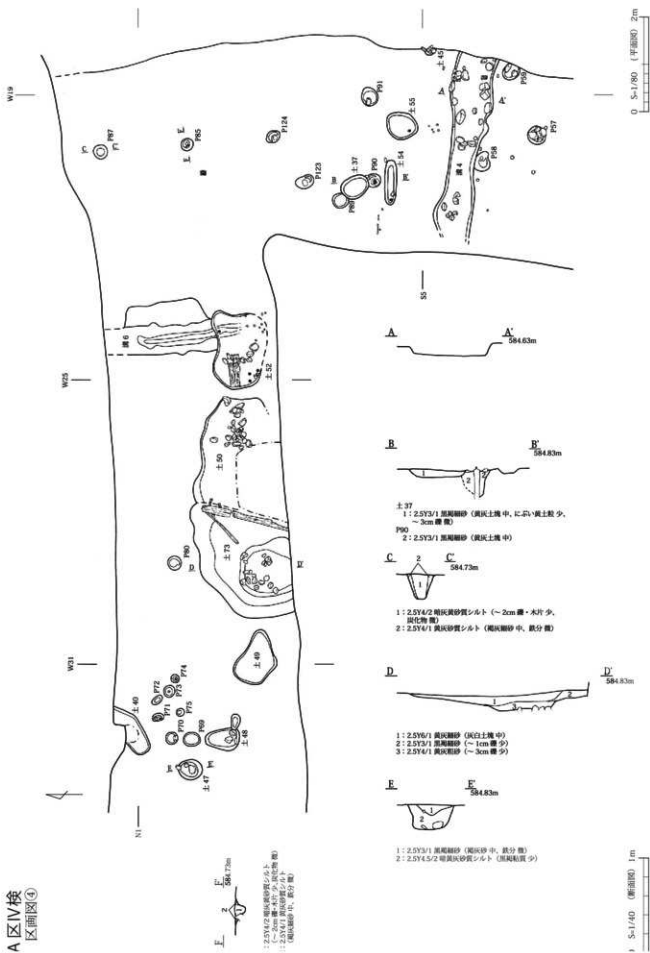


図34 A区IV校区画4 遺構図

A・B区IV検

区画図⑤

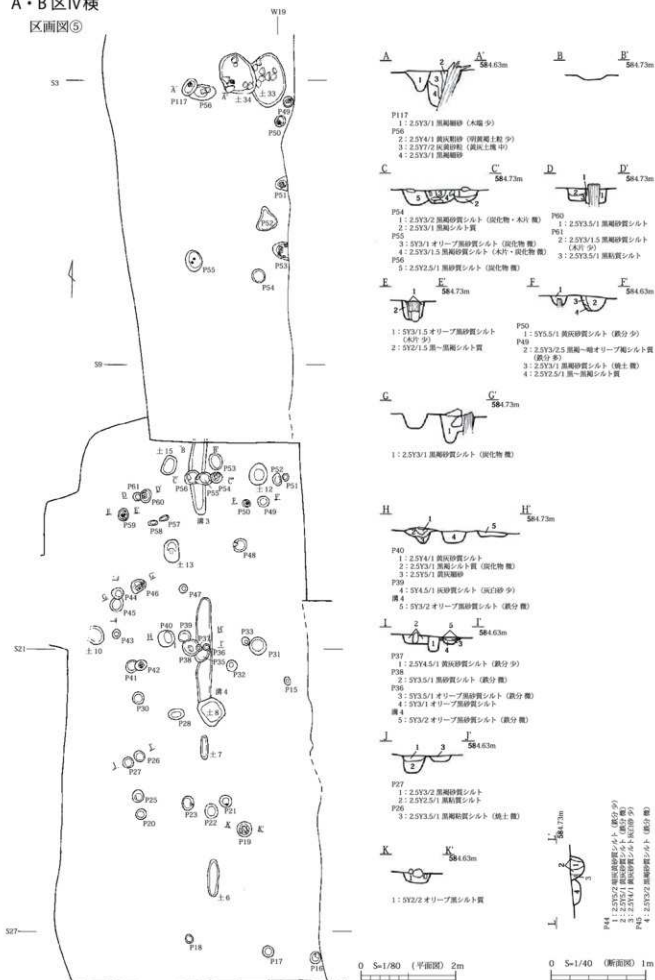


図35 A区IV検区画5 遺構図

A・B区IV検

溝2・3・7

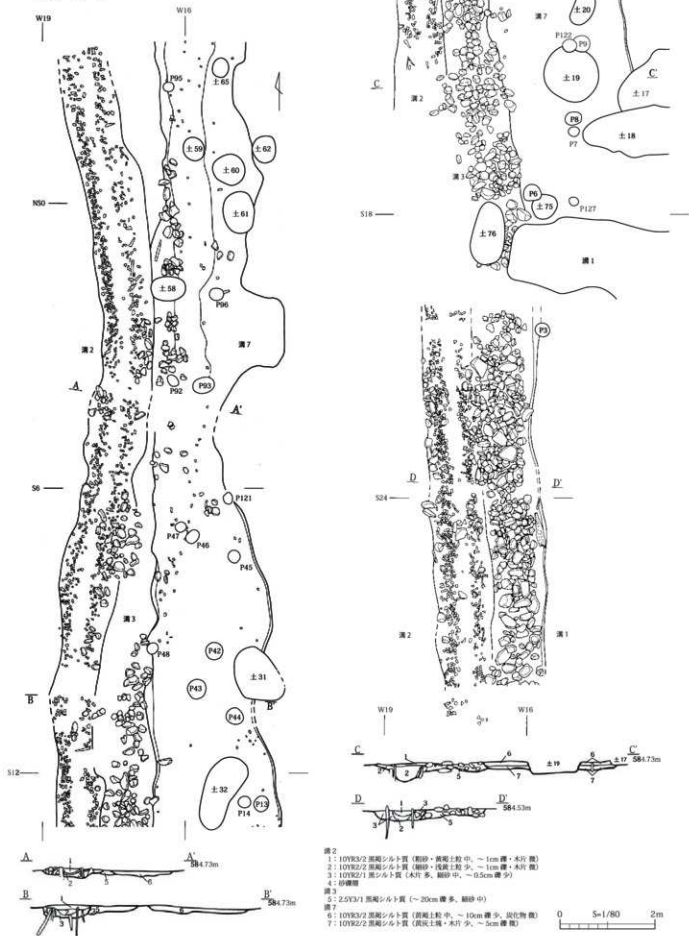


図36 A・B区IV検 遺構図

第4節 遺物

1 土器・陶磁器(表14、図37～49、写真図版8～13)

今回の調査で出土した土器・陶磁器は、総数コンテナ36箱にのぼる。これらの出土総重量は、205kgを測る。このうち、図示可能な469点の実測図を掲載した。各遺物の細かな観察については、表14で提示したので、本項目では各検出面および各町屋区画から出土した土器・陶磁器群の様相と、推定される年代観を記している。

なお、本項で用いる陶磁器の製作年代判定と判断基準は、肥前産は大橋康二氏の編年Ⅰ期～Ⅴ期(Ⅱ期はⅠ・Ⅱ期に細分)、瀬戸・美濃系は藤沢良祐氏の本業焼の4段階Ⅰ小期に分けた編年観を参照した。瀬戸・美濃本業焼編年は、本項では小期で表現している。

(1) A区第Ⅰ検出面の様相

第Ⅰ検出面では、4つの町屋区画(町屋1～4)と御使者宿と推定される区画を捉えた。このうち遺物が出土した町屋2～4及び御使者宿について、区画ごとに出土した土器・陶磁器群を概観する。

ア 町屋2出土土器・陶磁器群

この区画から出土した土器・陶磁器の実測個体数は、56点である。種別は、磁器・陶器・瓦質陶器・土器がみられる。これらの推定生産地は、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、在地である。肥前産は24点で、全体の42%を占める。すべて磁器で、碗・湯呑碗・皿がみられる。碗・湯呑碗は、内面見込み部中央に五弁花のコンニャク印判と口縁内面に四方禪文が施されている。皿は、ほとんどがハリ支えであるが、2のように蛇ノ目凹形高台で底裏に角福文のあるものが一部にみられる。52の高台脇には、連続した○×文がみられる。これらのことから肥前編年第Ⅳ期(18世紀中～後半)の様相が認められる。

瀬戸・美濃産は25点で、全体の44.6%にあたる。すべて陶器で、摺絵のある皿(23)、陶胎染付(45・46)、螺旋文碗(43・44)、鍔手碗(29)などがみられることから、登窯第8小期(18世紀中～後半)に該当するものとみられる。

このほか、京・信楽系とみられる碗(18)・壺類(19)と、在地産とみられる火鉢(4)、皿(27)などがある。

以上の結果から、町屋2から出土した土器・陶磁器の推定年代観は、18世紀中～後半に比定される。

イ 町屋3出土土器・陶磁器群

この区画からは、20点を図化・提示した。種別は、陶器・磁器・土師器がみられる。産地は、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽である。肥前産は10点提示したが、磁器と陶器の両方がみられる。磁器は17世紀後半頃とみられる皿(65)・碗(66)や、18世紀中頃とみられる湯呑碗(72)、御神酒徳利(73)がみられる。古い様相のものは、建物址1の基礎部分からの出土であるため、構築時期に係るものと考えられる。肥前産陶器は、17世紀末と考えられる現川焼(長崎)の碗(58・68)と京焼肥前陶器碗(62)がみられる。70は陶器製の灯籠で、笠部上面には銅緑軸が施されている。京焼系の軟質陶器か。

以上のことから、町屋3出土陶磁器群は、17世紀後半～18世紀中頃に比定される。

ウ 町屋4出土土器・陶磁器群

出土量は少なく、図示できたのは8点にとどまった。肥前産は、77の染付碗のみで、肥前編年のⅣ期(18世紀中頃)の所産とみられる。瀬戸・美濃産は、碗(79)、搦鉢(75・82)、甕(78)が出土しており、瀬戸・美濃登窯編年の第8小期(18世紀後半)に比定される。これらのことから、町屋4出土土器・陶磁器群は、18世紀中～後半と推定される。

エ 推定御使者宿出土土器・陶磁器群

18点図示した。産地は肥前、瀬戸・美濃、京・信楽がある。肥前産は7点で、すべて磁器である。碗は2点(87・88)あるが、87の内面見込み部には、手書きの五弁花文が記されている。皿は3点(89・91・96)あるが、すべてハリ支えて、89の見込み部にはコンニャク印判による五弁花がある。

瀬戸・美濃産は10点あるが、すべて陶器である。92は陶胎染付の鉢、93・100は鉄釉に白色の「うのふ軸」が一部に掛けられているものである。94は京焼の瓢形の瓶類で、鉄絵が描かれているものである。これらの様相から、本土器・陶磁器群は、18世紀前半～後半の特徴がみられる。

(2) A区第Ⅱ検出面の様相

この面では、2つの町屋区画(町屋5・6)と御使者宿とみられる区画を捉えた。以下、区画ごとの様相を概観していく。

ア 町屋5出土土器・陶磁器群

21点を図示した。肥前産磁器・陶器、瀬戸・美濃産陶器、京、伊賀がみられる。肥前産磁器は4点で、このうち2点は青磁である。117は青磁碗、130は底部が蛇ノ目軸刺ぎされた青磁香炉である。116は、寿文の染付碗、126はハリ支えて、内面見込みにコンニャク印判の五弁花が記されているものである。121は銅緑釉が掛けられ、内面見込み部が蛇ノ目軸刺ぎされた肥前産陶器皿である。特徴から、内野山北窯の17世紀末～18世紀に生産された製品と考えられる。

瀬戸・美濃産陶器は、13点図化した。古い様相のものは、17世紀初頭に比定される133の銅緑釉が流し掛けされた黄瀬戸鉢、128の黒織部沓茶碗がある。しかし、それ以外は、鉄釉・灰釉掛け分け碗(119)、天目茶碗(128)、志野丸皿(134)など、17世紀中～18世紀初(第3小期～第6小期)に比定される。したがって、本陶磁器群の時期は、17世紀中頃～18世紀前半と推定される。

イ 町屋6出土土器・陶磁器群

28点を図化した。肥前産磁器と陶器、瀬戸・美濃産陶器、京・信楽産陶器、在産土師器皿、内耳鍋が出土している。肥前産磁器では、型紙摺の小皿(158)、底裏に角福文のある小杯(159)、墨弾きのある皿(144)などから、肥前Ⅳ期(17世紀末～18世紀)に比定される。肥前産陶器は、現川窯産の打ち刷毛目碗が3点(139・145・147)出土している。いずれも17世紀末～18世紀前半のものである。

瀬戸・美濃産陶器は、12点提示した。137は内面見込み部を輪壳にしている陶胎染付皿、153は肩衝茶入、148は長石釉皿である。瀬戸・美濃産の様相は、編年の登窯3～6小期(17世紀中～18世紀初)に比定される。これらのことから、本陶磁器群は、17世紀中～18世紀前半の時期と考えられる。

ウ 推定御使者宿出土土器・陶磁器群

40点を図示した。肥前産磁器・陶器、瀬戸・美濃産陶器、土師器で構成される。肥前産磁器は、8点ある。175は、内面見込み部に陰刻文及びスタンプ文様が施され、口縁端部に錆釉(口錆)を塗っている青磁皿である。184の碗は、体部外面にコンニャク印判による文様が施されている。その他の肥前産磁器も含め、Ⅲ～Ⅳ期(17世紀中頃～18世紀中頃)の特徴がみられるもので構成される。

瀬戸・美濃産製品は18点ある。これらの時期は、17世紀中頃～18世紀中頃(登4～登7)の時期幅の中に入る。190は、外面に鉄釉摺絵のある香炉(18世紀初頭)である。191は、御深井型打ち成形の皿(17世紀中頃)である。171は、内面に銅緑釉が流し掛けされている黄瀬戸鉢である。

その他では、168は、精製された白土で作られた手づくね成形のかわらけである。在産の褐色土系の胎土でロクロ成形されたものとは、明らかに異なる。京都系のかわらけを意識した儀礼用のものか。

194の水指は、粘土紐巻き上げ成形のちロクロ成形されたものである。非常に精良な胎土で、肩部に耳

部が付き、胴部中位と下方にヘラ状工具による沈線の文様が施されている。16世紀末～17世紀初頭の肥前産のものか。

本区画から出土した土器・陶磁器群の時期は、17世紀中頃～18世紀中頃と考えられる。

(3) B区Ⅰ検出面の様相

ア 推定御使者宿出土土器・陶磁器群

総数47点を図化した。産地別にみると、瀬戸・美濃、肥前、京、丹波がみられる。磁器製品は、すべて肥前産で、肥前編年Ⅳ期（17世紀中頃～18世紀中頃）の特徴をもつものが多くみられる。231は、見込み部に型紙摺された文様のある皿である。222は色絵碗で、緑・赤色が上絵付されている。

瀬戸・美濃産は、登窯製品編年3～6期（17世紀中～18世紀中）と考えられる製品が見られる。213は、見込み部に陰刻により木の葉状の文様が施された灯明受け皿である。文様部分にも釉が入っているので、施釉される前に文様が付けられたものである。236は、鉄軸・灰釉掛け分け碗である。224は、花びら形に成形された湯冷ましである。把手が付けられ、体部側面の1か所に、大根の絵模様型紙摺で付けられている。

特殊品として、227の焼塩壺がある。外面に「泉州麻生」の刻印が確認できる。松本城および城下町において焼塩壺が出土した地点は限定的で、二の丸御殿跡（59点）、城下町跡本町第1次調査（推定塩間屋跡：1点）と本調査地点（推定御使者宿跡：1点）の3か所のみである。

本土器・陶磁器群は、瀬戸・美濃産・肥前産陶磁器の編年観から、17世紀中頃～18世紀中頃の様相と考えられる。

(4) B区Ⅱ検出面の様相

ア 推定御使者宿出土土器・陶磁器群

この区画からは26点出土した。肥前産は磁器だけでなく陶器もある。磁器は、6点図化した。256の碗は、外面に網目文が描かれ、破断面の一部には漆継痕が残る。269・270は肥前産の皿である。270には、墨弾き文が施されているものである。いずれも肥前編年Ⅲ期（17世紀中頃）に比定されるものである。陶器は、264は唐唐津皿と276の唐津刷毛目皿の2点で、いずれも17世紀の所産である。

瀬戸・美濃産は、登2～6の時期のものがみられる。古い時期のものは、255の鳴海織部、260の小天目、267の織部鉢がある。いずれも瀬戸・美濃登窯編年1～2（17世紀初）とみられるが、この3点だけが特に古い様相である。その他の資料は、登窯3（17世紀中頃）の時期と考えられる資料が多い。

これ以外の特殊品としては、275の中国漳州窯産と考えられる青花皿がある。

以上の様相から、本遺構出土陶磁器群の時期は、17世紀中頃～18世紀初と考えられる。

(5) A・B区Ⅲa・b検出面の様相

A・B区に跨って広がる厚い複数の整地層であるⅢ層は、調査では大きくa・b2回の地業層を捉えたため、上層をa層、下層をb層として調査を実施した。出土した陶磁器類は、ほとんどがこの整地層中から出土しているが、a・b層の上面で検出された焼土面・炭範囲の遺構から出土しているものも若干ある。以下、Ⅲa層とⅢb層出土遺物群に分けて概観する。

ア A・B区Ⅲa層出土土器・陶磁器群

Ⅲa層では、73点を図化した。種別は、瀬戸・美濃産陶器、肥前産陶器、青花、在地産土師器（皿・火鉢）、内耳鍋で構成される。

瀬戸・美濃産陶器で確認される器形は、天目茶碗（白天目・小天目も含む）・小杯・徳利・志野皿・向付（織

部・鳴海織部）・織部鉢・志野鉢・黄瀬戸鉢・茶入で、日常雑器というよりは茶器・酒器などの特殊品が多い。天目茶碗は4点（279・280・289・290）ある。279は白天目茶碗（長石釉）で、鉄絵が描かれている。280は、口径6.9cmの小天目茶碗（鉄釉）である。酒器として、小杯4点（284～287）と徳利4点（317～320）がある。小杯は、灰釉のかかるもの1点（284）と、長石釉がかかるもの3点（285～287）がある。いずれも連房期のものである。

向付は12点出土している。織部向付、志野向付、志野織部向付、唐津向付がある。312は鳴海織部向付で、赤土と白土を繋いで成形している。342は志野織部の平向付である。底裏に半環足が貼り付けられ、内面列点状文様の内側に鉄絵が描かれているものである。304・305は、脚付の織部鉢である。内面に同心円状の文様が描かれている。皿は、丸皿・菊皿がある。丸皿は、長石釉が掛けられた志野皿（295～301・337・338）と灰釉が掛けられた灰釉皿（292～294）と、織部皿（291）がみられる。この他、志野菊皿（281）がある。

鉢では、織部鉢（302・304・305）、黄瀬戸鉢（312）がある。織部鉢は脚部が付き、内面に同心円状の文様が描かれているものである。黄瀬戸鉢は、内面に櫛描き文が入られ、銅緑釉が流し掛けされているものである。

中国産の青花及び赤絵は6点出土した。282・321は鈎状に外反する皿F群、上絵付のある皿（322・323・346）と大皿（324）がある。

土師器は、皿・内耳鍋・火鉢の器種がある。皿は11点（325～333・347・348）出土した。すべてのものに煤が付着しており、灯明皿として使用された痕跡が確認できる。このうち330は、松本城下で見られる一般的な土師器皿と異なり、内面は板状工具ナデ、外面はミガキ調整、腰部は削り調整される特異なものである。他地域からの搬入品である可能性が高い。

349の内耳鍋は、口縁内面に2条のヨコナデが観察でき、外面の煤から使用痕が確認できる。334は火鉢である。底部には推定で3か所に脚部が付き、口縁外面には鈎状の凸帯が巡る。体部外面には、印刻が施されている。

Ⅲ a 層から出土した土器・陶磁器群は、16世紀末～17世紀初頭の時期に比定される。

Ⅲ A・B区Ⅲ b層出土土器・陶磁器群

Ⅲ b層出土品で図示したのは69点である。種別は、瀬戸・美濃産陶器、肥前産陶器、中国産磁器、土師器（在産地ほか）で構成される。

瀬戸・美濃産陶器は、天目茶碗・灰釉丸皿・灰釉折縁皿・灰釉稜皿・灰釉小杯・志野小天目碗・志野丸皿・志野菊皿・志野水注・志野半筒茶碗・志野小杯・織部向付・黒織部沓茶碗・織部鉢・播鉢・黄瀬戸鉢がみられる。Ⅲ a層出土土器・陶磁器群の様相と同様に、日常雑器というよりは茶器などの特殊品が多くみられる。古い様相のものは、内禿皿（368・369）、稜皿（367）、志野菊皿（356）、折縁皿（366・383）、志野半筒茶碗（370）など一群で、大窯Ⅳ期のものである。下限は、黒織部沓茶碗（375・376）、織部鉢（387）、織部向付（386・408）、志野鉄絵皿（笹文）（381）、黄瀬戸鉢（352）などで、登窯第1段階第1～2小期の時期に比定されるものである。

肥前産陶器は、鉄絵のある唐津鉢（386）がある。時期は、17世紀初頭のものともみられる。

中国産磁器は、青花と赤絵がある。青花は、384・385・412の皿と、377・378の小杯がある。皿は口縁端部が鈎状に外反するE群の皿である。小杯は、やや古い様相で16世紀第2四半期～中頃の時期と考えられる。赤絵は、413の合子とみられる破片がある。

土師器は、内耳鍋・皿・火消壺の蓋・炬燵または七輪がある。351の内耳鍋は、外面に煤が付着し、底部もかなり摩滅していることから、明らかな使用痕が認められる。特にⅢ b炭範囲Ⅰでは、被熱面に内耳鍋

が正位で置かれたような状況で出土した。使用状況を示すような出土であるため興味深い。

土師器皿は、褐色系の胎土でロクロ調整されている一群と、精製された白土を用いて手づくね成形で作られているものがある。褐色系のロクロ皿は、ほとんどの個体の口縁部に煤が付着していることから、灯明皿として使用された可能性が高い。白土のかわらけは2点(396・418)出土している。396は、被熱し内外面に煤が付着している。これらは、在地産の褐色系胎土の皿とは異なり、精製された白土が用いられ、調整もロクロ成形ではなく手づくね成形のものである。これまでの三の丸跡や城下町跡の調査では出土事例がないため、一般的ではない特殊品として位置付けられる。

Ⅲb層から出土した土器・陶磁器群は、Ⅲa層と同一の16世紀末～17世紀初頭と考えられる。Ⅲa・Ⅲbの両層出土土器・陶磁器群を比較しても器種構成や年代観などがほぼ同一で、日常雑器ではなく茶器・酒器・白かわらけなどに代表されるハレの席で用いられるような器種がみられる。

(6) A・B区第Ⅳ検出面の様相

37点図化提示した。これらは、新旧2つの時期の様相が確認できる。

古段階のものは、須恵器質播鉢(420)、古瀬戸折縁深皿(426・451・452)、折縁皿(437・450)、土師質播鉢(453)、中国産白磁碗(454)、中国産青磁壺類(455)がある。時期的には、14～15世紀とみられる。

新段階とみられるものは、志野皿(422・429・430・434・435)、志野筒茶碗(431)、黄瀬戸鉢(424)、黒織部茶碗(423)、天目茶碗(449)、中国青花(439～444)など美濃大窯Ⅳ期～登窯Ⅱ期(16世紀末～17世紀初)が核となる土器・陶磁器群である。

(7) A・B区第Ⅴ検出面の様相

須恵器杯が2点(456・457)出土した。Ⅳ検で出土した須恵器(447)も含め、いずれも平安時代の9世紀前半代のものとみられる。456の底部には、「本意」と読める墨書が確認できる。

2 瓦(表15・16、図50)

今回の調査で出土した瓦は、破片点数が121点、重量では34.5kgに及ぶ。これらは小破片のものが大部分で、整地層からの出土である。このうち、図化可能な9点を提示した。内訳は、軒丸瓦6点、平瓦3点である。以下、種別ごとに記述する。

(1) 軒丸瓦

瓦当面の文様が、連珠左巻三つ巴文のもの(1・2・4・5)と、連珠右巻三つ巴文(3)がある。このうち、Ⅲa層から出土した4・5は、長く伸びる巴文や珠文の数などから、古い様相が観察できる。4・5ともに、瓦当面と丸瓦部の接合には、強いヨコナデが観察できる。ただし、5の瓦当部裏面の周縁部には、指ナデ痕が1周確認できる。1は、第1検出面から出土した左巻き三つ巴文の瓦当面であるが、大きさから棧瓦の瓦当面と考えられる。

(2) 平瓦

3点図化した。7は、1検から出土したもので、瓦当面に「勝」の刻印がある。9の平瓦の凹面には刻印が1か所確認できる。8は、軒平瓦の瓦当部で、文様は中心三つ葉文唐草文とみられる。瓦当裏面の平瓦接合部には、強いヨコナデが顕著に観察できる。

表 14 土器・陶磁器一覧表

No.	地区	区画	検出地	発掘番号	遺構	種類	器形	法層 (cm)		技法・文様・形彫の特徴	胎土	胎調	製造年代	所在地	
								口径	底径						
1	A	町2	I	A1土39-1	土坑39	磁器	湯呑碗		3.8	口縁内面四方禿文	白	染付	古暦(18c-中)	肥前産	
2	A	町2	I	A1土39-2	土坑39	磁器	皿	8.8		白	染付	古暦(18c-中)	肥前産		
3	A	町2	I	A1土39-3	土坑39	陶器	狗火			白→淡灰期	灰焼	不明	美濃		
4	A	町2	I	A1土47-1	土坑47	土器	火鉢	29.6	22	13.0	外面：体部手持ちへラズリのちみず手調整。底部：脚部取り付け(三足)。体部輪彫成形	陶器	一	不明	在地産か
5	A	町2	I	A1土60-1	土坑60	陶器	灯明皿	9.8	4.8	1.9	体部下→底部回転へラズリ	淡灰	踏輪	18c後半登8期	瀬戸・美濃
6	A	町2	I	A1土60-2	土坑60	陶器	灯明受皿	10.2	4.8		体部下→底部回転へラズリ	淡灰	踏輪	18c後半登8期	瀬戸・美濃
7	A	町2	I	A1土65-1	土坑65	磁器	湯呑碗	7	3.4	5.4	外面：七宝刺ぎ文・體部松葉文。内面：口縁部に四方禿文。足込み部：五弁花のコンニャク目印	白	染付	古暦(18c-中)	肥前
8	A	町2	I	A1土65-2	土坑65	磁器	湯呑碗	6.6	3.6	5.4	外面：七宝刺ぎ文・體部松葉文。内面：口縁部に四方禿文。足込み部：五弁花のコンニャク目印	白	染付	古暦(18c-中)	肥前
9	A	町2	I	A1土65-3	土坑65	磁器	小瓶	1.8	5	15.0	外面：山水文・草花文。高台端部磨削。砂目	白	染付	18c後半	肥前
10	A	町2	I	A1土67-1	土坑67	磁器	皿		9.2		淡灰	染付	不明	不明	
11	A	町2	I	A1土68-1	土坑68	陶器	植木鉢	30.8	21.4	23.5	底部足込み部に穿孔。底部側面透かしあり(単位不明)	淡灰	灰焼	18c後半登8-9期	瀬戸・美濃
12	A	町2	I	A1土68-2	土坑68	磁器	皿	22.4	14	3.4	内面草花文。高台輪彫面磨削。粒熟資料	白	染付	18c-中	肥前
13	A	町2	I	A1土68-3	土坑68	磁器	皿	22.4	14	3.4	内面草花文。高台輪彫面磨削。粒熟資料	白	染付	18c-中	肥前
14	A	町2	I	A1土69-1	土坑69	磁器	皿	17.6	10.4	2.4	外面：唐草文。内面：草花文	白	染付	18c-中	肥前
15	A	町2	I	A1土72-1	土坑72	陶器	鉢鉢	35			内面口部に使用面あり	陶器	一	18c	在地不明
16	A	町2	I	A1土72-2	土坑72	陶器	唾壺または杯洗	5	5.1	6.5	細輪斗壁より下平部に刷線輪彫。内面は全面刷線輪彫	淡灰	踏・刷線	18c後半登8期	瀬戸・美濃
17	A	町2	I	A1土72-3	土坑72	磁器	角皿		7.1		白	染付	18c-中	肥前	
18	A	町2	I	A1土73-1	土坑73	陶器	碗	10.8	4.3	6.7	体部中に鉄粒	灰	灰焼・鉄粒	18c後半	京・信濃
19	A	町2	I	A1土73-2	土坑73	陶器	碗	6.2	3.6	6	内面は口縁一部分が輪彫とほど。足裏部。外面に鉄粒。底部磨削	白	灰焼	18c後半	京焼
20	A	町2	I	A1土73-3	土坑73	陶器	灯明受皿	10.3	4.4	1.8	受け部に穿孔1か所。受け部底面に使用面あり	淡灰	灰焼	18c後半	瀬戸・美濃
21	A	町2	I	A1土73-4	土坑73	磁器	皿	9.8	5.7	1.5	外面：山水文。外面：唐草文。高台部に3本の刷線	白	染付	18c後半	肥前
22	A	町2	I	A1土73-5	土坑73-75	陶器	灯明皿	8.8	4.8	2.1	口縁部に取付帯(灯明皿としての使用面)	淡灰	灰焼	18c後半登8期	瀬戸・美濃
23	A	町2	I	A1土73-75-2	土坑73-75	陶器	皿		6.7		淡灰	灰焼	18c後半登8期	瀬戸・美濃	
24	A	町2	I	A1土73-75-3	土坑73-75	瓦質陶器	鉢鉢	30.6			外面：手持ちへラズリのちみず手調整面あり	灰	一	不明	不明
25	A	町2	I	A1土75-1	土坑75	陶器	碗		4.2		内外灰焼。高台骨付のみ磨削	灰	灰焼	18c後半登8期	瀬戸・美濃
26	A	町2	I	A1土75-2	土坑75	陶器	鉢	27			外面回転へラズリ面	淡灰	刷線輪彫	18c後半登8期	瀬戸・美濃
27	A	町2	I	A1土75-3	土坑75	土器	皿	9.7	5	3.3	内面取付帯	陶	一	不明	在地
28	A	町2	I	A1土76-1	土坑76	磁器	蓋	10.4	4.2	2.6	外面：唐草文・龍文	白	染付	18c後半	肥前
29	A	町2	I	A1土81-1	土坑81	陶器	碗	8.5	4.2	6.3	磨子	淡灰	鉄粒	18c後半	瀬戸・美濃
30	A	町2	I	A1土81-2	土坑81	陶器	碗	11.6			灰焼丸蓋	淡灰	灰焼	18c後半	瀬戸・美濃
31	A	町2	I	A1建2-1	建物2	陶器	鉢鉢	12.8			外面：回転へラズリ	灰	踏輪	不明	不明
32	A	町2	I	A1建2-2	建物2	陶器	香子	2.4	3	1	型打成形か	白	白磁	不明	肥前
33	A	町2	I	A1シキ1-2	敷地場1(7-8)	陶器	陶製染付	(7.5)			高台端部磨削。欠損部に鉄粒あり	淡黄陶	灰焼	不明	瀬戸
34	A	町2	I	A1シキ2-1	敷地場2	陶器	鉢		8.8		外面→底部：回転へラズリ調整。内面：口縁あり	灰白	鉄粒	不明	瀬戸・美濃
35	A	町2	I	A1シキ2-2	敷地場2	陶器	香炉(三足)	11.3	8.0	6.4	赤み著しい。脚部底部に鉄粒付着(鉄粒製品に重ね焼きか)	灰白	鉄粒	不明	瀬戸・美濃
36	A	町2	I	A1シキ2-3	敷地場2	陶器	鉢鉢		11.0		外面回転へラズリ調整	白	踏輪	18c後半	瀬戸・美濃
37	A	町2	I	A1シキ2-4	敷地場2	磁器	碗	11.9			外面：体部下平部回転へラズリ	白	染付	Ⅲ-Ⅳ期(18c前)	肥前
38	A	町2	I	A1シキ2-5	敷地場2	磁器	皿	14.2	8	4.4	口縁：輪花底彫(型打ちか)。内面足込み：五弁花に唐草文。外面：唐草文。底部：底黄濁稲文。ハリ支え	白	染付	古暦(18c-前)	肥前
39	A	町2	I	A1シキ2-6	敷地場2	磁器	皿		4.2		内面足込み部に彫の自動輪彫。高台砂目	白	白磁	古暦(18c-中～後)	肥前
40	A	町2	I	A1シキ2-7	敷地場2	磁器	皿		4.4		内面足込み部に彫の自動輪彫。高台砂目	灰白	白磁	古暦(18c-中～後)	肥前
41	A	町2	I	A1シキ2-8	敷地場2	陶器	鉢鉢		11		内面口部。外面→底部回転へラズリ	白	踏輪	18c後半登8期	瀬戸・美濃
42	A	町2	I	A1棟-1	検出地	陶器	碗	12.4	4.4	6.8	高台端部のみ磨削	淡灰	灰焼	18c後半登8期	肥前
43	A	町2	I	A1棟-2	検出地	陶器	輝堂文碗	12.2			体部外面強い沈線4条	淡灰	鉄粒	18c後半登8期	瀬戸・美濃
44	A	町2	I	A1棟-3	検出地	陶器	輝堂文碗	9.4			体部外面強い沈線6条。鉄粒の上に沈線2度付け	灰白	鉄粒	18c後半登8期	瀬戸・美濃

No.	地区	区画	棟出	実測番号	遺構	種類	形状	法層 (cm)		技法・文様・彫刻の特徴	粘土	釉調	想定製作年代	想定産地	
								口径	底径						
45	A	町2	1	A 1棟-4	横出面	陶器	碗		5.4	陶器染付、外面腹部に染付陶線、高台端部のみ露出	淡灰	灰釉	18c 後 登8期	瀬戸・美濃	
46	A	町2	1	A 1棟-5	横出面	陶器	皿か		8.8	陶器染付、内面見込み部に染付、高台端部のみ露出	白	灰釉	18c 後 登8期	瀬戸・美濃	
47	A	町2	1	A 1棟-6	横出面	陶器	茶碗	(5.4)	2.6	(2.5)	底心立て欠陥、底部に転糸切痕	淡黄灰	灰釉	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
48	A	町2	1	A 1棟-7	横出面	陶器	鉢鉢	21.2			内面腹部、外面回転ヘラケズリ痕	淡灰	踏輪	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
49	A	町2	1	A 1棟-8	横出面	陶器	鉢鉢	27.4			内面腹部、外面回転ヘラケズリ痕	淡灰	踏輪	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
50	A	町2	1	A 1棟-9	横出面	青磁	皿		6.2		内面見込みに彫刻文あり、高台端部露出砂目	灰白	青磁	17c 末～ 18c 前	肥前
51	A	町2	1	A 1棟-10	横出面	磁器	碗	9.8	4.0	5.1	外面染付	淡灰	染付	17c 末～ 18c 前	肥前
52	A	町2	1	A 1棟-11	横出面	磁器	鉢		7.0		内面見込み部染付山水、型打成形八角形か、高台輪〇×連続文	白	染付	18c 前～後	肥前
53	A	町2	1	A 1棟-12	横出面	磁器	皿	13.2	8.4	3.8	内面染付文、見込み部コンニャク印付五弁花、底裏面編文、高台外面2重陶線、ハリ支え	白	染付	青期(18c 中)	肥前
54	A	町2	1	A 1棟-13	横出面	磁器	皿		7.4		底裏高台内1重陶線、高台外面2重陶線、ハリ支え	淡灰	染付	青期(18c 中)	肥前
55	A	町2	1	A 1棟-14	横出面	磁器	皿	10.1	6.0	2.0	内面：染付文・花文、外面：磨製文・磨製痕あり	白	染付	青期(18c 後)	肥前
56	A	町2	1	A 1棟-15	横出面	磁器	皿	9.8	5.8	1.5	内面見込みに五弁花、外面：磨製文	白	染付	青期(18c 後)	肥前
57	A	町3	1	A 1土28-29-1	土坑28・29	陶器	碗	(11.6)	(4.5)	6.6	高台端部のみ露出	灰白	灰釉	18c 中	瀬戸・美濃
58	A	町3	1	A 1土28-29-2	土坑28・29	陶器	碗		4.2		鉄輪のち打ち刷毛目、高台端部砂目	暗灰	鉄輪	17c 末～ 18c 前	肥前(現川)
59	A	町3	1	A 1土31-1	土坑31	陶器	皿		(8.7)		転写野(見込みに鉄給あり)。鉄給	白	灰石	16c 末～ 17c 初	美濃
60	A	町3	1	A 1土32-1	土坑32	陶器	碗	(11.5)			平球形、外面回転ヘラケズリ	白	灰釉	18c 中 登7期	瀬戸・美濃
61	A	町3	1	A 1土32-2	土坑32	陶器	鉢		(8.4)		腹部～底部露出、内面見込みに白線	淡黄白	踏輪	18c 前～後 登7～8期	瀬戸・美濃
62	A	町3	1	A 1土43-1	土坑43	陶器	碗か皿		(5.0)		口縁端部露出陶線、高台輪～底部露出、内面見込みに鉄給、底部中央に円筒・染付切印あり、胎土磨製	灰白	灰釉	17c 後	肥前
63	A	町3	1	A 1土43-2	土坑43	磁器	皿	(13.4)	(8.1)	3.4	体部内面磨きの染付、見込み部中央コンニャク印付五弁花	灰	染付	17c 後	肥前(波佐見)
64	A	町3	1	A 1土44-1	土坑44	陶器	茶入		3.1		底部回転糸切痕、腹部～底部に漆付帯(意図的に漆布か)	暗灰	鉄輪	不明	瀬戸・美濃か
65	A	町3	1	A 1建1-1	建物1	磁器	皿	(9.0)			内面見込みに染付	白	染付	17c 後	肥前
66	A	町3	1	A 1建1-2	建物1	磁器	小碗か小杯		(2.0)		内面見込みに染付	白	染付	17c 後	肥前
67	A	町3	1	A 1建1-3	建物1	陶器	碗				内面見込みに鉄の目録刺ぎ、高台砂目	白	白磁	17c 前 (17c 1期)	肥前
68	A	町3	1	A 1建1-4	建物1	陶器	碗		(5.2)		外面：白染による文様、内面：打ち刷毛目	褐色	鉄輪	17c 末～ 18c 前	肥前(現川)
69	A	町3	1	A 1建1-5	建物1	土師器	火消盃	(27.0)			外面：裏まはし斜め方向の土びり、内面：ロクワナデ	褐色	—	不明	在地か
70	A	町3	1	A 1建1-6	建物1	陶器	灯籠	10.7	10.8	6.1	型打ち成形、内面指通し筋・指すず調整、胴部内面に笠部と火袋を接合するブリッジ状あり(欠損)。胴部の立味は、漆花彫に欠き露出。釜し込みでいる。内面に一部墨書あり	黄褐色	踏輪	不明	京焼か
71	A	町3	1	A 1棟-1	横出面	陶器	皿	3.1		1.4	口縁端部保存着(灯明筋)	白	踏輪	不明	瀬戸・美濃
72	A	町3	1	A 1棟-2	横出面	磁器	面倉碗	(7.5)			外面：松竹梅文、内面：口縁部に四方摩文	白	染付	青期(18c 中)	肥前
73	A	町3	1	A 1棟-3	横出面	磁器	御神酒徳利		(4.8)		体部外面に花文、底部～高台まで黄陶	白	染付	青期(18c 初)	肥前
74	A	町3	1	A 1棟-4	横出面	磁器	碗		5.2		口縁端部露出陶線、底部中央に刷毛目あり、内面見込みに鉄給あり	淡灰	灰釉	17c 中	肥前
75	A	町4	1	A 1土22-1	土坑22	陶器	鉢鉢	(31.9)			外面回転ヘラケズリ	黒	踏輪	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
76	A	町4	1	A 1土22-2	土坑22	陶器	鉢鉢	(30.9)			口縁外面に漆塗之差	暗灰	鉄輪	不明	不明
77	A	町4	1	A 1土22-3	土坑22	磁器	碗		(3.8)		内面見込みに五弁花コンニャク印付	白	染付	青期(18c 中)	肥前
78	A	町4	1	A 1調-1	溝状遺構2	陶器	裏	(21.5)			外面口縁部付近に漆付帯	灰	灰釉	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
79	A	町4	1	A 1調-2	溝状遺構2	陶器	碗		(4.6)		高台磨付露出	灰	鉄輪	18c 後 登8期	肥前
80	A	町4	1	A 1棟-1	横出面	陶器	灯明皿	(10.8)	(4.9)	2.5	口縁端部に保存着	暗灰	踏輪	18c 後 登8期	肥前
81	A	町4	1	A 1棟-2	横出面	磁器	面倉碗	(8.6)			体部外面に松竹梅文様	淡灰	染付	不明	京焼か?
82	A	町4	1	A 1棟-3	横出面	陶器	鉢鉢	(36.8)			内面の磨目使用により摩滅	淡灰	踏輪	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
83	A	宿	1	A 1土12-1	土坑12	陶器	争持茶碗	(10.8)	5.2	6.7	内面見込みに目録1か所、底部磨り出し高台	白	鉄輪・うのふ	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
84	A	宿	1	A 1土12-2	土坑12	陶器	争持茶碗	(11.6)	4.9	7.1	底部磨り出し高台	白	鉄輪・うのふ	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
85	A	宿	1	A 1土12-3	土坑12	陶器	皿	(10.3)	(4.2)	2.1	底部回転糸切痕	黄白	踏輪	18c 後 登8期	瀬戸・美濃
86	A	宿	1	A 1土12-4	土坑12	陶器	碗		2.25		陶器染付	白	灰釉	18c 後 登8期	瀬戸・美濃

No.	地区	築出	出土	実測番号	遺構	種類	形状	法層 (cm)		技法・文様・形態の特徴	粘土	胎土	製造年代	推定産地	
								口径	残存						
87	A	窟	I	A 1 土12-5	土坑12	磁器	碗	(8.55)	3.1	5.6	内面見込みに五弁花(手掻き)	白	染付	V期(18c中)	肥前
88	A	窟	I	A 1 土12-6	土坑12	磁器	碗			(3.2)	漆漉ぎ	白	染付	不明	肥前
89	A	窟	I	A 1 土12-7	土坑12	磁器	皿				内面見込みに中央にコシヤク印明、ハリス支え	白	染付	18c中(V期)	肥前
90	A	窟	I	A 1 土20-1	土坑20	陶器	碗			3.9	底面に帯書あり	白	鉄軸	18c後半8期	瀬戸・美濃
91	A	窟	I	A 1 土1-1	敷地境1	磁器	皿			(7.4)	内面見込みに五弁花、唐文文、紙黄・大明二年製	白	染付	V期(18c中)	肥前
92	A	窟	I	A 1 土1-2	敷地境1	陶器	鉢			(7.5)	高台部分、高台端部輪刺ぎあり	淡黄陶	染付	18c初登8期	瀬戸・美濃
93	A	窟	I	A 1 横-1	横出面	陶器	碗	(11.9)	(4.5)	7.7	うのふ・内面に鉄軸が垂れている場所多数あり	淡灰	鉄軸	18c後半8期	瀬戸・美濃
94	A	窟	I	A 1 横-2	横出面	陶器	壺形瓶			(4.0)	京焼印付、鉄軸のち灰軸	黄白	灰軸	17c後半	京焼
95	A	窟	I	A 1 横-3	横出面	磁器	碗					白	染付	V期(18c中)	肥前
96	A	窟	I	A 1 横-4	横出面	磁器	皿	(13.3)	(7.6)	底裏ハリ支え	白	染付	V期(18c中)	肥前	
97	A	窟	I	A 1 横-5	横出面	陶器	仏草瓶			8.5	底面見込みに布目あり	白	鉄軸	不明	瀬戸・美濃
98	A	窟	I	A 1 横-6	横出面	陶器	鉢鉢	(12.3)				白	灰軸	18c末登8期	瀬戸・美濃
99	A	窟	I	A 1 横南-1	横出面	陶器	御神酒徳利			2.7	底面二か所に付着物あり	白	灰軸・鉄軸	V期18c末～19c	肥前
100	A	窟	I	A 1 横南-2	横出面	陶器	切立碗	(11.75)	8.05	10.4	内面見込みに3か所目跡あり、外面にうのふ	黄白	鉄軸・うのふ	18c末登8期	瀬戸・美濃
101	A	横	I	A 1 横北-1	横出面	陶器	碗			3.1	灰軸の上貼	淡灰	灰軸	18c	京・信濃
102	A	横	I	A 1 横(南東・北)-1	横出面	陶器	皿			(10.7)	外面鉄軸、高台一部割高台。	淡灰	灰軸	17c中～後半	肥前
103	A	横	I	A 1 横(南東・北)-2	横出面	磁器	碗			(3.5)	内面1本開脚	白	染付	18c初	肥前
104	A	横	I	A 1 T-1	横出面	磁器	碗			4.7	外面高台付け脚に開脚1本、高台端部に砂目	白	染付	18c	肥前
105	A	横	I	A 1 T-2	横出面	青花	碗	(19.1)			内面口縁近くの開脚1本、外面唐文	灰	染付	17c初	澤州
106	A	横	I	横A 1 横-1	横出面	陶器	碗	11.1	4.4	6.9	底面は赤土、腰部～口縁部は淡灰色の粘土、外面に鉄軸	淡黄灰	鉄軸	17c末	肥前か
107	A	横	I	横A 1 横-2	横出面	陶器	磨り碗	(9.6)	3.9	5.05	上貼	白	上貼	18c前	瀬戸・美濃
108	A	横	I	横A 1 横-3	横出面	陶器	蓋				内面に、一九一の墨書あり	白	鉄軸	不明	瀬戸・美濃
109	A	横	I	横A 1 横-4	横出面	陶器	飯椀	(5.0)			白・灰軸	不明	瀬戸・美濃		
110	A	横	I	横A 1 横-5	横出面	陶器	壺	(7.6)			輪軸筋あり、外面～底面に覆付着	淡灰	灰石軸	18c以降	瀬戸・美濃
111	A	横	I	横A 1 横-6	横出面	陶器	壺	(9.6)			輪軸筋～ヘラウズリ	白	鉄軸	不明	瀬戸・美濃
112	A	横	I	横A 1 横-7	横出面	磁器	皿			4.7	靴ノ目凹形高台	白	染付	18c後半	肥前
113	A	横	I	横A 1 横-8	横出面	磁器	皿	(13.7)	(8.9)	3.7	底面見込みに輪刺ぎ、靴ノ目凹形高台	淡灰	染付	V期18c末～19c	肥前
114	A	横	I	横A 1 横-9	横出面	染付	皿	(11.3)	(7.2)	3.7	外面唐文文、内面草花文	淡灰	染付	18c中	肥前
115	A	横	I	横A 1 横-10	横出面	染付	碗				内面見込みに手掻きの五弁花・付着物あり、外面に鉄軸	白	染付	V期18c末～19c	肥前
116	A	町5	II	A Ⅱ 土93-1	土坑93	磁器	碗	(9.2)			赤文	白	染付	17c	肥前
117	A	町5	II	A Ⅱ 土99-1	土坑99	青磁	碗	(12.2)	(5.0)	(7.2)	純熟釉あり	白	青磁	17c	肥前
118	A	町5	II	A Ⅱ 土126-1	土坑126	陶器	碗	(5.6)		(5.6)		淡灰	踏輪	不明	瀬戸・美濃
119	A	町5	II	A Ⅱ 土127-1	土坑127	陶器	碗	(9.8)	(6.6)	8.3	高台端部輪刺ぎ、鉄・灰軸跡分け	灰	鉄軸	17c後半	瀬戸・美濃
120	A	町5	II	A Ⅱ 土131-1	土坑131	陶器	香炉		6.1		口縁部と蓋部分の欠損意図あり	暗灰	灰軸	17c後半	瀬戸・美濃
121	A	町5	II	A Ⅱ 土133-1	土坑133	陶器	皿			(4.4)	内野山土窯製品、内面見込みに靴ノ目刺ぎ高台附近多量に付着	淡陶	灰軸・踏輪	17c後半	肥前(嶺野)
122	A	町5	II	A Ⅱ 土133-2	土坑133	陶器	黒呑碗	7.15	2.6	4.1	外面：色絵松の絵	白	長石軸	17c	京焼
123	A	町5	II	A Ⅱ 土133-3	土坑133	陶器	鉢鉢			22.7		淡陶	透明軸	18c末登8期	瀬戸・美濃
124	A	町5	II	A Ⅱ 土133-4	土坑133	陶器	花入				口縁部2か所	暗灰	踏輪・灰軸	不明	伊賀か
125	A	町5	II	A Ⅱ 土141-1	土坑141	陶器	碗(皿に加工)	(7.0)	4.3		碗の底部を皿に転用、端部を平手に研削した後に端部に輪かく彫られている。	淡陶	長石軸	不明	瀬戸・美濃
126	A	町5	II	A Ⅱ 141-3	土坑141	磁器	皿			(7.7)	内面見込みに中央にコシヤク印明付五弁花、高台端部砂目、部縁外面3重、ハリ支え	暗灰	染付	Ⅱ～Ⅳ期17c後半～18c初	肥前
127	A	町5	II	A Ⅱ 土82・土141-1	土坑82・土141-1	磁器	皿				靴ノ目輪刺ぎ	暗灰	灰軸	18c	瀬戸・美濃
128	A	町5	II	A Ⅱ 水6-1	水道遺構6	陶器	碗(黒縁部)				外面へつ工具による面取り、漆漉ぎあり	灰	鉄軸	17c前	美濃
129	A	町5	II	A Ⅱ 水6-2	水道遺構6	陶器	天目茶碗				腹部割附	淡黄灰	鉄軸	17c	美濃
130	A	町5	II	A Ⅱ 水6-3	水道遺構6	磁器	香炉	(6.9)			三足形付、底面靴ノ目刺ぎ	灰	青磁軸	17c	肥前(長良見)
131	A	町5	II	溝状遺構3-4-1	溝状遺構3-4	陶器	香炉	(12.2)	(8.6)	7.2	三足形付	淡黄灰	灰軸	17c後半	瀬戸・美濃
132	A	町5	II	A Ⅱ 水道遺構8-1	溝状遺構5	陶器	皿				2重開脚に唐文	淡褐色	長石	17c前	瀬戸・美濃
133	A	町5	II	A Ⅱ 水道遺構8-2	溝状遺構5	陶器	鉢				異瀬戸型に開脚の淡し掛け	淡黄灰	灰・踏輪	17c	瀬戸・美濃

№	地区 区域	横断面 構造	横断面 形状	実測番号	遺構	種類	形状	法厚 (cm)			技法・文様・彫刻の特徴	粘土	胎土	想定製作 年代	想定産地	
								口径	底径	器高						
134	A	町5	II	A	日鏡-1	横出面	陶器	皿	(11.1)	(6.0)	(2.6)	口縁部付近保存者。二次焼熱あり。内面足込み目跡あり。外面白磁あり。高台端部輪割ぎ	淡灰	長石釉	17c 後 登3~4期	瀬戸・美濃
135	A	町5	II	A	日鏡-2	横出面	陶器	鉢鉢		(9.6)		内外面鉄輪刷毛塗り	淡黄灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
136	A	町6	II	A	日土55-1	土坑55	陶器	鉢鉢		(10.1)		内面磨目。使用により摩滅	淡黄灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
137	A	町6	II	A	日土56-1	土坑56	陶器	輪光皿	(17.2)	8.7	3.4	底部足込みに帯書あり。内面輪光。裏面磨目付	淡灰	灰釉	18c 中 登7	瀬戸・美濃
138	A	町6	II	A	日土56-2	土坑56	陶器	内光皿	(10.2)	(5.8)	(2.3)	底部足込み輪割ぎ	黒灰	灰釉	16c 末 大室IV	瀬戸・美濃
139	A	町6	II	A	日土56-3	土坑56	陶器	皿		(4.9)		高台端部砂目。鉄輪の白磁に土よりに磨目	暗黒	鉄釉	17c 末	現川
140	A	町6	II	A	日土56-4	土坑56	陶器	香炉	10.6	5.1	6.7	外表面に黒目の磨目・帯書あり。鉄輪	黄灰	灰釉・鉄釉	17c 後	京焼
141	A	町6	II	A	日土56-5	土坑56	磁器	小杯	4.4	1.7	1.5	内面足込み部に松文	白	鉄釉	不明	肥前
142	A	町6	II	A	日土56-6	土坑56	磁器	茶碗	(12.2)	(4.6)	5.9	内面足込み部に高台一線部3重磨滅	白	染付	不明	肥前
143	A	町6	II	A	日土56-7	土坑56	磁器	皿	(9.8)			内面に乾の目輪割ぎ	淡灰	白磁	17c 中	肥前
144	A	町6	II	A	日土56-8	土坑56	磁器	皿	(12.4)	(7.6)	3.15	内面口縁部部突きあり。外面磨目3重磨滅。高台内面1重磨滅。底部足込み4重	灰	染付	17c 後	肥前
145	A	町6	II	A	日土56-9	土坑56	陶器	茶碗	10.9	4.0	5.14	高台輪割ぎ付。鉄輪の白磁による打ち網目	黒灰	鉄釉	17c 末~ 18c 初	肥前
146	A	町6	II	A	日土56-10	土坑56	磁器	小杯	(3.8)	(1.4)	1.5	磨なつくり	白	染付	不明	肥前
147	A	町6	II	A	日土56-11	土坑56	陶器	碗		(4.2)		内外面に打ち網目。高台端部砂目	暗灰	鉄・白磁	17c 末	現川
148	A	町6	II	A	日土136-1	土坑136	陶器	皿	(10.6)	(6.5)	2.1	内面足込みに目跡あり	淡黄灰	長石釉	17c 中	美濃
149	A	町6	II	A	日土136-2	土坑136	陶器	皿か		6.8		内面足込みに目跡あり	淡	灰釉	17c 後	瀬戸
150	A	町6	II	A	日土136-3	土坑136	陶器	天目茶碗	(10.0)	(4.4)	6.0	底部欠削	灰	鉄釉	17c 前 登2期	瀬戸・美濃
151	A	町6	II	A	日土136-4	土坑136	土師器	皿	10.5	6.0	2.5	回転糸切りのちナデ	暗黒	—	不明	在産
152	A	町6	II	A	日土136-5	土坑136	土師器	皿	(9.4)	5.8	3.7	回転糸切りのちナデ	暗黒	—	不明	在産
153	A	町6	II	A	日土136-6	土坑136	陶器	茶入	3.0			別所の鉄輪の跡付か? 斜衝茶入れ	白	鉄釉	不明	美濃
154	A	町6	II	A	日土136-7	土坑136	陶器	鉢鉢	30.0				淡黄白	鉄釉	17c 前~中 登2~3期	瀬戸・美濃
155	A	町6	II	A	日土136-8	土坑136	陶器	鉢鉢	38.2	12.5	13.6		灰白	鉄釉	17c 前 登2期	瀬戸・美濃
156	A	町6	II	A	日石河-1	石河1	陶器	碗(皿に加工)		(4.2)		天目碗の転用品。破の破断面を磨き、打ち欠いている。高台に保存者(ヌールか?)	淡黒	鉄釉	不明	瀬戸
157	A	町6	II	A	日石河-2	石河1	陶器	碗		(4.6)		内面足込みに目跡あり	灰	長石釉	不明	瀬戸
158	A	町6	II	A	日石河-3	石河1	磁器	皿	7.6	4.2		内面足込みに帯磨目(磨後者部に施すものもあり)	白	染付	不明	肥前
159	A	町6	II	A	日石河-4	石河1	磁器	小杯		2.7		内面足込みに帯花文・1重磨滅。高台端部輪割ぎ・外面2重磨滅。底部中央カケ幅	白	染付	17c 末~ 18c 初	肥前
160	A	町6	II	A	日鏡-1	横出面	陶器	天目茶碗	(12.2)	(5.6)	5.6		淡黄灰	鉄釉	大室IV 16c 末	瀬戸・美濃
161	A	町6	II	A	日鏡-2	横出面	磁器	皿		(6.6)		高台端部砂目	白	染付	18c 中頃	肥前
162	A	町6	II	A	日鏡-3	横出面	土師器	内耳罎	28.3			外面穿孔部の上部割れた痕跡。何でけり? 17c 前後か? 内面にも使用痕	暗黒	—	不明	在産産か?
163	A	町6	II	A	日鏡-1	横出面	磁器	茶碗	(12.4)				白	染付	不明	肥前
164	A	町	II	A	日土-1	土坑3	陶器	灯明皿	8.1	4.8	1.35	口縁と内面に保存者。口縁の欠損部分を灯明志の測定に利用したか。	灰	長石釉	17c 後 登4	瀬戸・美濃
165	A	町	II	A	日P13-1	P13	土器	皿	10.0	6.4	2.5	口縁端部保存者	暗黒	—	不明	在産産
166	A	町	II	A	日水1-2-1	水道遺構1-2	陶器	天目茶碗	(11.4)	3.05	5.35		白	鉄釉	16c 末~ 17c 末 大室IV	瀬戸・美濃
167	A	町	II	A	日水1-2-2	水道遺構1-2	陶器	耀文茶碗	(11.9)	(5.1)	7.5	内外面鉄輪のち灰釉の二度塗り	黒	鉄釉・灰釉	18c 中 登8	瀬戸
168	A	町	II	A	日水1-2-3	水道遺構1-2	土器	皿(かわらけ)	(5.8)	(3.3)		手づくね成形。内外に指張圧製。在産産ではないもの	灰	—	不明	不明
169	A	町	II	A	日溝3-1	溝状遺構3	陶器	碗		(10.6)			淡黄白	灰釉	17c 後 登4	瀬戸・美濃
170	A	町	II	A	日溝3-2	溝状遺構3	陶器	碗		4.9			淡黄白	灰釉	17c 後 登4	瀬戸・美濃
171	A	町	II	A	日溝3-3	溝状遺構3	陶器	折縁皿	(20.1)			破断面に漆跡あり。黄銅口縁に銅縁跡の痕し跡付	白	黄銅口縁	17c 前 登2	瀬戸・美濃
172	A	町	II	A	日溝3-4	溝状遺構3	陶器	盃	(10.9)			底部に帯書あり。高台一線部磨目	灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
173	A	町	II	A	日溝3-5	溝状遺構3	陶器	鉢鉢	(9.6)			内面磨目。底部回転糸切のちケズリ	白	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
174	A	町	II	A	日溝3-6	溝状遺構3	磁器	杯か	2.05			内面に付着物あり。底部放射状のケズリ	白	白磁釉	不明	肥前
175	A	町	II	A	日溝3-7	溝状遺構3	青磁	皿	(15.1)	(8.4)	3.35	高台端部砂目。口縁に磨目	白	青磁釉	17c 中	肥前
176	A	町	II	A	日溝3-8	溝状遺構3	土器	灯明皿	(10.5)	(6.6)		口縁端部に保存者	暗黒	—	不明	在産産
177	A	町	II	A	日溝3-9	溝状遺構3	長黄陶器	火鉢か	(23.4)			内面一部にミナネ前。内外ナデ調整。体部下部に5条の沈	灰白	—	不明	不明
178	A	町	II	A	日溝3-4-1	溝状遺構3-4	陶器	碗		5.35		高台端部は鉄輪後ふき取り	白	灰釉	17c 前 登2	瀬戸・美濃

№	地区	出土	出土層	出土品	用途	種類	形状	法長 (cm)		技法・文様・彫刻の特徴	胎土	胎調	製造年代	産地		
								口径	底径							
228	B	Ⅰ	B 1 様-1	横出面	陶器	碗	(10.8)			内面・片輪、外面・鉄輪・白塗のち鉄輪、薄作り	黄白	灰輪	17c	京焼		
229	B	Ⅰ	B 1 様-2	横出面	陶器	鉢か		(8.8)		底面から外面にかけて厚付き、内面見込みは口縁3か所	白	鉄輪	17c	瀬戸・美濃		
230	B	Ⅰ	B 1 様-3	横出面	陶器	不明	(25.4)	(18.4)		鉄輪、底面に厚付き、脚部欠損	灰	鉄輪・長石輪	17c 初登之	美濃		
231	B	Ⅰ	B 1 様-4	横出面	磁器	皿	7.1	4.0		口縁7単位、内面に雲肌彫	白	染付	17c 末～18c 中期	肥前		
232	B	Ⅰ	B 1 様-5	横出面	磁器	皿				松葉文、透明釉白っぽい	白	染付	不明	肥前		
233	B	Ⅰ	B 1 様-6	横出面	陶器	盥	(4.0)			焼熱により内外面の釉不明	灰	不明	不明	不明		
234	B	Ⅰ	B 1 様-7	横出面	陶器	茶碗	(14.0)			輪硝のみ成形、漆塗き痕あり	灰	鉄輪・鉄輪	不明	丹波		
235	B	Ⅰ	B 1 様-8	横出面	土器	磁筒	(29.9)	(24.2)	6.1		高台部分のみ、内面に耳部彫り付け	灰	不明	不明	在地	
236	B	Ⅰ	B 1 様-9	横出面	陶器	碗		(5.2)			鉄輪・鉄輪部分け (内面鉄輪・外面鉄輪)	白	鉄輪・鉄輪	17c 後	瀬戸・美濃	
237	B	Ⅰ	B 1 様-10	横出面	陶器	碗		4.5			内外面鉄輪、外面に厚付き	白	鉄輪	17c 後	瀬戸・美濃	
238	B	Ⅰ	B 1 様-11	横出面	磁器	小杯	(6.2)	3.3			白	透明釉	17c	肥前		
239	B	Ⅰ	B 1 様-12	横出面	磁器	小杯	(5.9)	(2.8)	4.05		白磁	白	透明釉	不明	肥前	
240	B	Ⅰ	B 1 様-13	横出面	磁器	中碗		(5.8)			高台部分砂目あり、外面草花文	白	染付	不明	肥前	
241	B	Ⅰ	B 1 様-14	横出面	磁器	湯呑碗	(6.8)	(3.4)	5.5		内面黒線と見込みに五弁花、5 割高台内面に厚付きか? 罫入品か	白	染付	18c 後 V 期	肥前	
242	B	Ⅰ	B 1 様-15	横出面	磁器	碗		(3.7)			高台内面に付着物あり	白	染付	18c 後 V 期	肥前	
243	B	Ⅰ	B 1 様-16	横出面	磁器	碗		(9.8)			靴の目形高台、底部見込み輪硝ぎ	白	透明釉	18c 後 V 期	肥前	
244	B	Ⅰ	B 1 様-17	横出面	磁器	花瓶		(5.7)			耳部彫り付、高台端部砂目付着、脚部に草花文、底に見込み	灰	透明釉	18c 後 V 期	肥前	
245	B	Ⅰ	B 1 様-18	横出面	陶器	鉢鉢		(9.7)			使用により塗り目層	白	鉄輪	不明	瀬戸・美濃	
246	B	Ⅰ	B 1 様-19	横出面	陶器	鉢		(17.9)			無熱風あり	白	長石輪	17c 後	瀬戸・美濃	
247	B	Ⅰ	B 1 様-20	横出面	陶器	植木鉢	(13.0)	(8.2)	12.9		底部中央穿孔孔	白	鉄輪	18c 後～19c 初	瀬戸・美濃	
248	B	Ⅰ	B 1 様-21	横出面	土製品	不明			3.45		ランタ型の土製品、手づくね調整	黒	—	不明	不明	
249	B	Ⅰ	B 1 T-1	トロンチ	陶器	丸瓶	(12.2)	(4.7)	7.1		外面上部 1/4 が黒っぽい	白	鉄輪	17c 末登之 5 期	瀬戸・美濃	
250	B	Ⅰ	B 1 様-1	排土	陶器	付付灯明受皿	(6.85)	5.4	4.6		上面の罫入品か	鉄輪～灰調	鉄輪	19c 前	信楽	
251	B	Ⅱ	B Ⅱ 土 4-1	土坑 4	磁器	皿	7.8	4.4			型打ち成形、花の彫筋	白	白磁	17c 末～18c 前期	肥前	
252	B	Ⅱ	B Ⅱ 土 13-1	土坑 13	土器	灯明皿	9.2	4.4	2.8		内外面厚付き	黒	—	不明	在地産	
253	B	Ⅱ	B Ⅱ 土 20-1	土坑 20	陶器	鼠足野鉢					鼠利な工具による滑き落としの文様一部あり	淡灰	鉄輪・長石	16c 末～17c 初	美濃	
254	B	Ⅱ	B Ⅱ 土 27-1	土坑 27-1	陶器	黒海輪部赤茶碗					淡黄灰	鉄輪	17c 初	美濃		
255	B	Ⅱ	B Ⅱ 溝 3-1	溝 3	陶器	鳴海輪部付付					型打ち成形、底部に平環彫り付、底舌と脚部の接合部内面に段あり、底裏に無熱風あり	白・淡赤黒	鉄輪・長石	17c 前登之 2	美濃	
256	B	Ⅱ	B Ⅱ 溝 4-1	溝状遺構 4	磁器	碗		3.6			漆塗き痕あり	白	染付	不明	肥前	
257	B	Ⅱ	B Ⅱ P4-1	P4	陶器	碗	10.6	4.6	7.3		磨良な胎土	黄白	灰輪	17c 末	肥前	
258	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-1	横出面	陶器	碗		6.2			底部高台彫筋	黄黒	灰輪	不明	瀬戸・美濃	
259	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-2	横出面	陶器	碗	12.8	5.8	8.8		陶器製付、外面側部二本比類か?	白	染付	18c 初登之	瀬戸・美濃	
260	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-3	横出面	陶器	小天目碗	6.3	2.6	3.5			淡灰	灰輪	16c 末～17c 初大登之 IV	瀬戸・美濃	
261	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-4	横出面	陶器	天目茶碗	11.9	5.0	6.1			白	鉄輪	17c 中登之 3	瀬戸・美濃	
262	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-5	横出面	陶器	碗	11.6					白	鉄輪	17c 中登之 2	瀬戸・美濃	
263	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-6	横出面	陶器	皿	12.6	4.4	4.0			白	染付	18c 初登之 6	瀬戸・美濃	
264	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-7	横出面	陶器	皿	13.8	4.2	4.3			灰	鉄輪・長石輪	17c 初	唐津	
265	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-8	横出面	陶器	鉢か		9.0				外面リール付着、内面見込みに口縁彫り	淡灰調	鉄輪	不明	瀬戸・美濃
266	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-9	横出面	陶器	鉢						白	鉄輪	不明	瀬戸・美濃	
267	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-10	横出面	陶器	鉢		7.6				白	長石・鉄輪・鉄輪	17c 前登之 2	美濃	
268	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-11	横出面	陶器	仏花輪		8.6				白	鉄輪	不明	瀬戸・美濃	
269	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-12	横出面	磁器	皿	14.4	7.8	4.7			灰	染付	17c 中期	肥前	
270	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-13	横出面	磁器	皿		8.2				白	染付	17c 中期	肥前	
271	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-14	横出面	磁器	碗		3.2				白	染付	17c 中期	肥前	
272	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-16	横出面	土器	灯明皿	11.0	6.8	3.2			黒	—	不明	在地産	
273	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-17	横出面	土器	火鉢	38.4	27.4				黒	—	不明	在地か	
274	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-18	横出面	陶器	鉢鉢		13.6				白	鉄輪	不明	不明	
275	B	Ⅱ	B Ⅱ 様-19	横出面	磁器	青花						灰	染付	17c 前	中国	

№	地区	区画	横断面	実測番号	遺構	種類	形状	法量 (cm)		技法・文様・彫刻の特徴	粘土	胎土	製造年代	所在地	
								口径	高さ						
276	B	Ⅱ	B Ⅱ 横 20		横出面	陶器	皿 (唐津)				灰	鉄胎	17c前半	唐津	
277	A	Ⅲ	A Ⅲ a 横 11-1		炭椀脚 11	土器	灯明皿	10.45	6.4	3.15	口ロコナデ、内面・外面口縁部に傷付着	暗褐色	—	不明	在地産
278	A	Ⅲ	A Ⅲ a 横 11-2		炭椀脚 11	土器	灯明皿	10.05	5.2	3.3	口ロコナデ、内外面に傷付着	暗褐色	—	不明	在地産
279	A	Ⅲ	A Ⅲ a 横 14-1		炭椀脚 14	陶器	白土目茶碗 (10.9)				外面に鉄胎あり	白	長石	17c前半	瀬戸・美濃
280	A	Ⅲ	A Ⅲ a 横 15-1		炭椀脚 15	陶器	小次目碗 (6.9)				白～灰	鉄胎	16c末～17c初 大室IV	瀬戸・美濃	
281	A	Ⅲ	A Ⅲ a 横 15-2		炭椀脚 15	陶器	菊皿	13.3	6.9	3.1	鉄胎痕あり	白	長石軸	16c末～17c初 大室IV	瀬戸・美濃
282	A	Ⅲ	A Ⅲ a 横 21-1		炭椀脚 21	青花	皿 (唐州窯系)				中国唐州窯系 (伊都)	灰	染付	16c末～17c初	中国
283	A	Ⅲ	A Ⅲ a 横 21-2		炭椀脚 21	土器	灯明皿	6.7	4.5	1.9	内面に傷付着	暗褐色	—	不明	在地産
284	A	Ⅲ	A Ⅲ a-1		横出面	陶器	小杯				外面に唐津系、内面にも唐津系、底面にも唐津系あり	暗褐色	灰胎	16c末～17c初	瀬戸・美濃
285	A	Ⅲ	A Ⅲ a-2		横出面	陶器	小杯	5.0	2.9	2.8	口縁を歪めている。鉄胎痕あり	淡灰緑	長石軸	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
286	A	Ⅲ	A Ⅲ a-3		横出面	陶器	小杯	8.3	3.7	3.15	内外面の一部に傷付着	白	長石軸	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
287	A	Ⅲ	A Ⅲ a-4		横出面	陶器	小杯	7.95	5.15	4.15	内面に傷付着	灰	長石軸・灰胎	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
288	A	Ⅲ	A Ⅲ a-5		横出面	陶器	碗 (10.8)	(4.9)	7.65			白	灰胎	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
289	A	Ⅲ	A Ⅲ a-6		横出面	陶器	天目茶碗 (12.0)					白	鉄胎	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
290	A	Ⅲ	A Ⅲ a-7		横出面	陶器	天目茶碗 (11.8)					淡灰	灰胎	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
291	A	Ⅲ	A Ⅲ a-9		横出面	陶器	皿 (11.6)				鉄胎、底面	白	長石軸・銅緑胎	17c初	美濃
292	A	Ⅲ	A Ⅲ a-10		横出面	陶器	皿 (10.4)	(5.5)	2.5		内面と口縁部に傷付着、底面に目録あり、灯明皿	白	灰胎	16c末～17c初 大室IV	瀬戸・美濃
293	A	Ⅲ	A Ⅲ a-11		横出面	陶器	皿 (10.0)	(5.8)	2.15		内面見込みに使用痕あり	淡灰～淡黄灰	灰胎	16c末～17c初 大室IV	瀬戸・美濃
294	A	Ⅲ	A Ⅲ a-12		横出面	陶器	皿 (10.1)	(4.8)	2.0		内面見込みに使用痕、付着物、鉄胎痕	黄白	灰胎	16c末～17c初 大室IV	瀬戸・美濃
295	A	Ⅲ	A Ⅲ a-13		横出面	陶器	皿 (9.6)	(6.6)	2.4		口縁内面見込みに3か所、底面にも唐津系あり	白	長石軸	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
296	A	Ⅲ	A Ⅲ a-14		横出面	陶器	皿 10.85	6.25	2.3		内面2か所、底面2か所目録あり、二次焼痕あり、傷付着	灰	長石軸	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
297	A	Ⅲ	A Ⅲ a-15		横出面	陶器	皿 10.2	6.0	2.45		傷付着 (口縁大頸部にも)、内面3か所目録あり、底面にも	白?	長石軸	17c前半 登1～2	瀬戸・美濃
298	A	Ⅲ	A Ⅲ a-17		横出面	陶器	皿 (12.0)	(7.6)	2.45		鉄胎	白	長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
299	A	Ⅲ	A Ⅲ a-18		横出面	陶器	皿 (11.9)	(7.8)	2.5		底面に目録2か所、内面見込みに小さい目録2か所	白	鉄胎・長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
300	A	Ⅲ	A Ⅲ a-19		横出面	陶器	皿 (11.6)	(6.1)	2.8		内面見込みに小さい目録1か所、底面に大きい目録1か所、鉄胎痕ありか?、外面に焼成時に他の遺物を植した痕あり	白	鉄胎・長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
301	A	Ⅲ	A Ⅲ a-20		横出面	陶器	皿 11.35	6.5	2.75		内面に炭、口縁と底面にターム状のもの付着	白	鉄胎・長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
302	A	Ⅲ	A Ⅲ a-21		横出面	陶器	青磁師鉢 (14.3)	(7.5)	3.55		内面見込みに目録あり、底面に唐津系あり	白～暗灰	銅緑胎	17c前半 登2	瀬戸・美濃
303	A	Ⅲ	A Ⅲ a-22		横出面	陶器	向付				鉄胎あり、鉄胎のち長石軸 (長石軸のち銅緑胎)	白～暗灰	長石軸のち銅緑胎	17c前半 登2	瀬戸・美濃
304	A	Ⅲ	A Ⅲ a-23		横出面	陶器	鐵師鉢 (14.8)				内面鉄胎による同心円状の網線のち長石軸、網線がつくか?	黄白	鉄胎・長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
305	A	Ⅲ	A Ⅲ a-24		横出面	陶器	鐵師鉢 (13.6)				内面鉄胎による同心円状の網線のち長石軸、網線がつくか?	黄白	鉄胎・長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
306	A	Ⅲ	A Ⅲ a-25		横出面	陶器	志野向付 (12.3)	9.9			鉄胎痕あり、平履足取り付、鉄胎	白	長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
307	A	Ⅲ	A Ⅲ a-26		横出面	陶器	唐津向付				鉄胎のち長石軸	暗褐色～灰	長石軸	17c初	唐津
308	A	Ⅲ	A Ⅲ a-27		横出面	陶器	唐津向付				鉄胎のち長石軸	暗褐色	長石軸	17c初	唐津
309	A	Ⅲ	A Ⅲ a-28		横出面	陶器	唐津向付				鉄胎	暗褐色	長石軸	17c初	唐津
310	A	Ⅲ	A Ⅲ a-29		横出面	陶器	向付				鉄胎のち長石軸	淡灰	長石軸	16c末～17c初 大室IV	美濃
311	A	Ⅲ	A Ⅲ a-30		横出面	陶器	向付				鉄胎のち長石軸	淡灰	長石軸	16c末～17c初 大室IV	美濃
312	A	Ⅲ	A Ⅲ a-31		横出面	陶器	向付				菊唐津系、赤土・白土層を合わせた	白・淡緑	銅緑・灰胎	17c前半 登2	美濃
313	A	Ⅲ	A Ⅲ a-32		横出面	陶器	鉢か (唐津)				鉄胎により釉が剥がれ	暗褐色	鉄胎・長石軸	17c前半 登2	瀬戸・美濃
314	A	Ⅲ	A Ⅲ a-33		横出面	陶器	鉄師鉢 (15.8)				内外面に目録あり、内面に網線文様	白	灰胎・銅緑胎	17c前半 登2	瀬戸・美濃
315	A	Ⅲ	A Ⅲ a-34		横出面	陶器	茶入 (5.7)				大海茶入	淡灰	鉄胎	不明	不明
316	A	Ⅲ	A Ⅲ a-35		横出面	陶器	茶入 3.4					淡灰	鉄胎	不明	不明
317	A	Ⅲ	A Ⅲ a-36		横出面	陶器	徳利 4.4					白	鉄胎	17c前半 登2	瀬戸・美濃

№	地区	区画	横断面	実測番号	遺構	種類	形状	法層 (cm)		技法・文様・形状の特徴	粘土	胎土	想定製作年代	想定産地
								口径	残存 器高					
318	A	a	Ⅲ	AⅢ a-37	横出面	陶器	德利	(6.8)		外面鉄線2度掛け、底面に口跡1か所	白	鉄胎	17c 初登2	瀬戸・美濃
319	A	a	Ⅲ	AⅢ a-38	横出面	陶器	德利	(7.6)			灰灰	灰胎	17c 初登2	瀬戸・美濃
320	A	a	Ⅲ	AⅢ a-39	横出面	陶器	德利	13.9		底面に付着物(口跡)あり	淡黄陶	鉄胎	17c 初登2	瀬戸・美濃
321	A	a	Ⅲ	AⅢ a-40	横出面	青花	皿(青花)			被熱痕あり、F類	灰	染付	16c末~17c初	中国
322	A	a	Ⅲ	AⅢ a-41	横出面	青花	皿(青花)			赤・緑の上絵	白	透明胎	16c末~17c初	中国
323	A	a	Ⅲ	AⅢ a-42	横出面	青花	皿(青花)			高台端部に砂目、裏面直線(調子線)、後部深部、赤・緑の上絵	灰灰	透明胎	16c末~17c初	中国
324	A	a	Ⅲ	AⅢ a-43	横出面	青花	大皿(青花)	(9.7)		底面まで丁寧に調整、被熱痕あり	白	染付	16c末~17c初	中国
325	A	a	Ⅲ	AⅢ a-45	横出面	土器	灯明皿	9.6 5.0	2.25	内面と口縁部に優付着	硝灰陶	—	不明	在産
326	A	a	Ⅲ	AⅢ a-46	横出面	土器	皿	(10.4) (5.8)	2.9	ロクロナデ、前面・破断面に優付着	陶	—	不明	在産
327	A	a	Ⅲ	AⅢ a-47	横出面	土器	灯明皿	(9.8) (5.9)	2.9	ロクロナデ、口縁部・内面に優付着	陶	—	不明	在産
328	A	a	Ⅲ	AⅢ a-48	横出面	土器	灯明皿	10.5 5.75	3.1	ロクロナデ、内面に優付着	硝灰陶	—	不明	在産
329	A	a	Ⅲ	AⅢ a-49	横出面	土器	皿	(11.5)		ロクロナデ、内面に優付着	硝灰陶	—	不明	在産
330	A	a	Ⅲ	AⅢ a-50	横出面	土器	皿	9.3 9.35		内外面にタール付着、内面板状工具ナデ、体部外面ミナリ調整、腰部分ズリ	灰陶	—	不明	不明
331	A	a	Ⅲ	AⅢ a-51	横出面	土器	灯明皿	(10.0) (6.0)	2.8	ロクロナデ、内面と口縁部に優付着	淡黄陶	—	不明	在産
332	A	a	Ⅲ	AⅢ a-52	横出面	土器	灯明皿	9.85 5.4	2.65	ロクロナデ、内面と口縁部に優付着	陶	—	不明	在産
333	A	a	Ⅲ	AⅢ a-53	横出面	土器	皿	9.8 5.95	2.4	ロクロナデ、静止糸切り	黒灰	—	不明	在産
334	A	a	Ⅲ	AⅢ a-54	横出面	土器	火鉢	(35.8) (31.2)		体部外面上方に波形の突起付、腰部分にも突起付、体部中央に3種の印花文多数、腰部分3単位	硝灰陶	—	不明	在産
335	A	a	Ⅲ	AⅢ a-55	横出面	陶器	皿	30.0 19.2		内面鉄胎、脚残り1か所	淡黄	長石胎	17c 初登1~2	美濃
336	B	a	Ⅲ	BⅢ a-1	横出面	陶器	碗	10.8 4.4	6.0	大目茶碗、被熱痕あり	硝灰	鉄胎	17c 初大塚IV	美濃
337	B	a	Ⅲ	BⅢ a-2	横出面	陶器	皿	(10.5) (5.8)	2.3	内面見込み菊印(16弁か?) 底部見込みに華雲、底部見込みあり、高台端部輪削ぎ、土野	白	長石胎	16c末~17c初大塚IV	美濃
338	B	a	Ⅲ	BⅢ a-3	横出面	陶器	皿	(10.7) (5.7)	2.2	2次的に被熱し、内面の輪が明確、高台端部削ぎ	淡黄灰	長石胎・鉄胎	17c 初差房登1	美濃
339	B	a	Ⅲ	BⅢ a-4	横出面	陶器	向付			型打ち成るのちヘラケリ調整、外面に鉄粒、土野腰部	灰白	長石胎	差房	美濃
340	B	a	Ⅲ	BⅢ a-5	横出面	陶器	鉢			底部削り出し高台、内面に鉄粒	灰	長石胎	17c 初	唐津
341	B	a	Ⅲ	BⅢ a-6	横出面	陶器	小壺か	(7.0)		結合せ口部は露筋だが、胴部段の端部と口縁端部には鉄粒、体部に鉄粒	灰・黄灰	灰	17c?	肥前か
342	B	a	Ⅲ	BⅢ a-7	横出面	陶器	平向付	(27.5) 15.5	5.8	底部に平窟足取り付け、体部外面に土野見込み部に鉄粒(内面に凹文あり)	白	長石	17c 初(登2)	美濃
343	B	a	Ⅲ	BⅢ a-8	横出面	陶器	鳥形積き立て	幅2.5	高3.7	千づくね成形、尾端欠損、下部に優付着、瓦貫陶器	灰	—	不明	不明
344	B	a	Ⅲ	BⅢ a-9	横出面	陶器	双耳水注				黒灰	鉄胎	16c末大塚IV	瀬戸・美濃
345	B	a	Ⅲ	BⅢ a-10	横出面	磁器	皿	(7.7) (3.6)	1.6	裏人品か、コンニャク印判	淡黄灰	染付	18c 中登期	肥前
346	B	a	Ⅲ	BⅢ a-11	横出面	磁器	皿(青花)			断面に波線彫、赤絵青商売文、一部緑絵胎付	灰陶	赤絵	16c末~17c初	中国
347	B	a	Ⅲ	BⅢ a-12	横出面	土師器	灯明皿	9.85 6.4	2.8	ロクロナデ、内外面優付着	陶	—	不明	在産
348	B	a	Ⅲ	BⅢ a-13	横出面	土師器	灯明皿	10.0 6.3	2.6	ロクロナデ、内外面優付着	陶	—	不明	在産
349	B	a	Ⅲ	BⅢ a-14	横出面	土器	内耳鍋	(26.1) 04.0		外面炭化物・優付着、内面と底部に炭化物・煤なし、口縁内面に2条の強いナデ	硝灰陶	—	不明	在産
350	A	b	Ⅲ	AⅢ b-1	土坑2	陶器	皿	(11.0)		胎唐津(口縁部鉄胎、内面鉄粒)	灰陶	灰胎	17c 初	唐津
351	A	b	Ⅲ	AⅢ b-1-1	炭焼Ⅰ	土師器	内耳鍋	26.0		外面優付着、底部全体透明胎	黒色	—	17c 初	在産
352	A	b	Ⅲ	AⅢ b-6 1	炭焼Ⅳ	陶器	鉢か	(15.4)		内面見込みに赤むね積き痕	硝灰	灰胎	17c 前登2	美濃
353	A	b	Ⅲ	AⅢ b-1	横出面	陶器	志野皿	(11.0) (6.5)	2.6	被熱痕あり、見込部には2重線削りに唐文	白	長石胎	17c 前登2	美濃
354	A	b	Ⅲ	AⅢ b-7	横出面	陶器	志野皿	(11.75) (7.2)	2.3	削り出し高台、底部見込みにクマノ子母、高台径大きく高低差あり	淡黄灰	長石胎	17c 前登1~2	美濃
355	A	b	Ⅲ	AⅢ b-3	横出面	陶器	志野皿	11.9 6.6	2.2	底部見込み口縁あり(3点)、削り出し高台、口縁部優付着	淡黄灰	長石胎	17c 前登1~2	美濃
356	A	b	Ⅲ	AⅢ b-10	横出面	陶器	皿(志野菊皿)	(11.6) (6.4)	2.5	口縁部端を切り取り、内面を丸ノミで菊文装にしたもの、削り出し高台	白~灰	長石胎	17c 前登1~2	美濃
357	A	b	Ⅲ	AⅢ b-5	横出面	陶器	志野皿	(11.6) 6.4	2.4	見込部鉄粒	淡黄灰	長石胎	17c 前登2	美濃
358	A	b	Ⅲ	AⅢ b-12	横出面	陶器	皿	(9.5) (5.8)	2.8	底部削り出し高台、全面鉄胎	淡黄灰	灰胎	16c末~17c 初大塚IV	美濃
359	A	b	Ⅲ	AⅢ b-6	横出面	陶器	志野皿	(11.4) (7.4)	2.35	底部鉄胎3か所	灰白	長石胎	17c 前登2	美濃
360	A	b	Ⅲ	AⅢ b-13	横出面	陶器	皿	(7.9) (4.5)	1.9	削り出し輪高台	淡黄灰	灰胎	16c末~17c 初大塚IV	美濃

№	地区	区画	棟出	実測番号	遺構	種別	形状	法冊 (cm)			技法・文様・形状の特徴	土質	軸周	想定製作年代	想定産地
								口径	底径	器高					
361	A	b	Ⅲ	AⅢ b-14	横出面	陶器	皿	(9.8)	(6.2)	3.0	高台部高いコナア、削り出し高台台不明	黒灰	灰輪	16c 後半～IV 大宮Ⅲ～IV	美濃
362	A	b	Ⅲ	AⅢ b-18	横出面	陶器	皿	10.6	(6.4)	(9.25)	内面輪内ハゲ	白	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
363	A	b	Ⅲ	AⅢ b-15	横出面	陶器	皿	(10.6)			削り出し輪高台	灰	灰輪	16c 後半～ 大宮Ⅲ～IV	美濃
364	A	b	Ⅲ	AⅢ b-19	横出面	陶器	ヒタ皿	(9.7)	5.3	2.1	口縁部へ少許工器具でヒタをつけている、削り出し輪高台	淡黄灰	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
365	A	b	Ⅲ	AⅢ b-16	横出面	陶器	皿	(10.2)	(5.75)	2.6	削り出し輪高台	灰	灰輪	16c 後半 大宮Ⅳ	美濃
366	A	b	Ⅲ	AⅢ b-25	横出面	陶器	折縁皿	11.1	5.8	2.3	高台輪割ぎ	白	踏輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
367	A	b	Ⅲ	AⅢ b-26	横出面	陶器	椀	10.25	(5.6)		被熱痕あり、口縁部つまみ上げて波状に調整	白	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
368	A	b	Ⅲ	AⅢ b-17	横出面	陶器	皿	(10.0)	5.5	2.3	内面輪内ハゲ、削り込み高台	白	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
369	A	b	Ⅲ	AⅢ b-28	横出面	陶器	皿	(10.1)	(5.8)	2.3	底輪部トチン痕	灰白	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
370	A	b	Ⅲ	AⅢ b-33	横出面	陶器	志野平筒茶碗				口縁部から体部透磁き痕あり	白	長石輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
371	A	b	Ⅲ	AⅢ b-20	横出面	陶器	小杯	(6.75)	3.2	3.4	丸碗形の小杯	白	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
372	A	b	Ⅲ	AⅢ b-21	横出面	陶器	小杯	7.7	3.25	2.9	被熱痕あり、削り込み高台	白	長石輪	17c 前 登1～2?	美濃
373	A	b	Ⅲ	AⅢ b-22	横出面	陶器	小天目小碗	6.9	3.0	3.7	底裏保存着	白	長石輪	17c 前 登2?	美濃
374	A	b	Ⅲ	AⅢ b-23	横出面	陶器	小杯	6.75	3.5		被熱痕あり	黒灰	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
375	A	b	Ⅲ	AⅢ b-27	横出面	陶器	黒織部音茶碗				外面に強い沈痂	淡灰	踏輪	17c 前 登2?	美濃
376	A	b	Ⅲ	AⅢ b-30	横出面	陶器	黒織部音茶碗				胴部に強い口ロロ目が見える	暗黄灰	踏輪	17c 前 登1～2?	美濃
377	A	b	Ⅲ	AⅢ b-37	横出面	磁器	小杯(青花)	(2.6)			花の文様、口縁部彫反る。底部に文字、外面脚線2本、内面脚線1本 16c 第2四半期～中頃	白	染付	16c 中	中国
378	A	b	Ⅲ	AⅢ b-38	横出面	磁器	小杯(青花)	(3.0)			外面脚線2本、内面脚線2本	白	染付	16c 後	中国
379	A	b	Ⅲ	AⅢ b-2	横出面	陶器	志野皿	10.6	6.1	2.2	底部非着あり、内面足込み印短(菊文)、削り出し高台	白	長石輪	17c 前 登2?	美濃
380	A	b	Ⅲ	AⅢ b-4	横出面	陶器	志野皿	(12.2)	7.5	2.5	足込部踏込、削り出し高台	淡黄灰と塩灰	長石輪	17c 前 登2?	美濃
381	A	b	Ⅲ	AⅢ b-8	横出面	陶器	志野皿	(10.4)	(6.0)	2.75	外面脚線、背文	白	長石輪	17c 前 登2?	美濃
382	A	b	Ⅲ	AⅢ b-11	横出面	陶器	皿	(7.0)			内面足込み部に蔓状の植物の彫刻あり、底裏に菊の線刻あり	淡灰	脚線	17c 前 登1～2?	美濃
383	A	b	Ⅲ	AⅢ b-29	横出面	陶器	折縁皿	(12.0)	6.1	1.75	外面に花文印	黄白	灰輪	大宮Ⅳ	美濃
384	A	b	Ⅲ	AⅢ b-36	横出面	磁器	皿(青花)	(7.0)			外面脚線2本、内面脚線2本、高台端部砂目、足群	白	染付	16c 末～ 17c 初	中国
385	A	b	Ⅲ	AⅢ b-40	横出面	磁器	皿(青花)	(7.4)			高台端部砂目、外面脚線1本、内面脚線2本	白	染付	16c 後	中国
386	A	b	Ⅲ	AⅢ b-24	横出面	陶器	向付				内面踏込	暗黄	踏輪、長石輪	16c 末～ 17c 初	唐津
387	A	b	Ⅲ	AⅢ b-9	横出面	陶器	織部鉢				脚線欠部、足込部同心門文	淡黄灰	長石輪	17c 前 登2?	美濃
388	A	b	Ⅲ	AⅢ b-34	横出面	陶器	水注				志野水注、口口と把手が付く、底部に円柱状の脚部、外面に踏込	白	長石輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
389	A	b	Ⅲ	AⅢ b-31	横出面	陶器	花瓶か徳利	4.6			口縁部のみ、被熱痕あり	黒	踏輪・灰輪	不明	瀬戸・美濃
390	A	b	Ⅲ	AⅢ b-32	横出面	陶器	合子の蓋				外径：5.9、返り径：14.5	淡黄白	灰輪	17c 前 登2?	美濃
391	A	b	Ⅲ	AⅢ b-35	横出面	陶器	鉢鉢	(34.2)			片口あり	淡黄灰	踏輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	美濃
392	A	b	Ⅲ	AⅢ b-41	横出面	土師器	灯明皿	9.0	4.0	3.0	内外面全体に保存着、対面ターム付着	暗黄	—	不明	在地産
393	A	b	Ⅲ	AⅢ b-42	横出面	土師器	灯明皿	10.8	6.95	2.6	内面に黄・ターム・付着物多量	暗黄	—	不明	在地産
394	A	b	Ⅲ	AⅢ b-43	横出面	土師器	灯明皿	10.1	5.0	3.0	口縁部付着物多量	暗黄	—	不明	在地産
395	A	b	Ⅲ	AⅢ b-44	横出面	土師器	灯明皿	11.4	5.6	3.35	内面黄変多量	暗黄	—	不明	在地産
396	A	b	Ⅲ	AⅢ b-45	横出面	土師器	かわらけ	(9.2)	(5.4)	2.15	内外面・脚部に黄付着(被熱)、白色土の貫貫なもの	灰白	—	不明	不明
397	A	b	Ⅲ	AⅢ b-46	横出面	土師器	灯明皿	10.3	7.3	2.95	内外面・脚付蓋ターム付着	暗黄	—	不明	不明
398	A	b	Ⅲ	AⅢ b-47	横出面	土師器	不明	(23.8)			口縁付蓋被熱痕、胴部に透かし孔あり、内外面保存着、口縁部端部受け口状。部類不明	暗黄	—	不明	不明
399	B	b	Ⅲ	BⅢ b-土34	土坑3	土器	火鉢	(25.3)	19.8		赤帯部先端に等間隔の切込みあり、内外面保存着、脚一部欠部の痕跡あり	暗黄	—	不明	在地産か?
400	B	b	Ⅲ	BⅢ b-土41	土坑4	陶器	小杯	(5.8)			被熱痕あり	淡黄灰	灰輪	16c 末～ 17c 初 大宮Ⅳ	瀬戸・美濃

№	地区	区画	用途	実測番号	遺構	種別	形状	法量 (cm)		技法・文様・形態の特徴	出土	輪調	想定製作年代	想定産地		
								口径	底径							
401	B	Ⅰ	Ⅳ	BⅢb-2	2-1	講状遺構 2	陶器	志野菊皿	(12.7)	(6.6)	2.6		白	長石軸	16c 末～17c 初 大宮IV	瀬戸・美濃
402	B	b	Ⅲ	BⅢb-1		横出面	陶器	長輪丸皿	(10.2)	(5.5)	2.3	内面にトチン痕あり	淡黄灰	灰軸	16c 末～17c 初 大宮IV	瀬戸・美濃
403	B	b	Ⅲ	BⅢb-2		横出面	陶器	長輪丸皿	11.1	(6.3)	2.0	内面足込み跡あり、高台端部刺割ぎ	白	灰軸	16c 末～17c 初 大宮IV	瀬戸・美濃
404	B	b	Ⅲ	BⅢb-3		横出面	陶器	皿	10.2	6.2	2.2	内面足込み部刺割ぎ、輪トチン痕	白	灰軸	16c 末～17c 初 大宮IV	瀬戸・美濃
405	B	b	Ⅲ	BⅢb-4		横出面	陶器	皿	(12.35)	(7.0)	2.2	内面日跡あり、志野	淡黄灰	長石軸	16c 末～17c 初 大宮IV	瀬戸・美濃
406	B	b	Ⅲ	BⅢb-5		横出面	陶器	皿	(10.6)	(5.2)	2.8	内面刺割、高台端部刺割ぎ、底部の引線、輪割ぎ時に削りつけられている、志野	白	長石軸	16c 末～17c 初 大宮IV	瀬戸・美濃
407	B	b	Ⅲ	BⅢb-6		横出面	陶器	皿	11.45	6.5	2.2	被熱痕あり、口縁部タール付着	白	長石軸	17c 初～17c 中	美濃
408	B	b	Ⅲ	BⅢb-7		横出面	陶器	縁部付				被熱痕あり、鉄軸	淡黄灰	縁軸	17c 初～17c 中	美濃
409	B	b	Ⅲ	BⅢb-8		横出面	陶器	天目茶碗	11.8	4.3	5.9	縁軸のち鉄軸	白	縁軸・鉄軸	17c 初～17c 中	美濃
410	B	b	Ⅲ	BⅢb-9		横出面	陶器	皿		(6.2)		内外面覆付	白	灰軸	16c 末～17c 初 大宮IV	美濃
411	B	b	Ⅲ	BⅢb-10		横出面	陶器	皿	12.6	6.75	2.7	被熱痕	白	長石軸	16c 末～17c 初 大宮IV	美濃
412	B	b	Ⅲ	BⅢb-11		横出面	磁器	皿	(12.96)	(7.0)	2.8	青花か、高台端部刺割ぎ、漆部あり	白	染付	16c 末～17c 初	中国
413	B	b	Ⅲ	BⅢb-12		横出面	磁器	合子	(9.0)			赤絵、蓋が付くもの	白	染付	16c 末～17c 初	中国
414	B	b	Ⅲ	BⅢb-13		横出面	土師器	皿	(10.3)	(4.9)	3.2	口縁端部の一部にタール付着、印明として使用か	黒	—	不明	在産地か
415	B	0	Ⅲ	BⅢb-14		横出面	陶器	小杯	(8.7)	3.4	3.3	足込み部に漆着(鉄軸)あり	淡黄灰	長石軸	16c 末～17c 初 大宮IV	美濃
416	B	b	Ⅲ	BⅢb-15		横出面	土器	火酒器の蓋	(14.0)		1.3	上面以外覆付	暗黒	—	不明	不明
417	B	b	Ⅲ	BⅢb-16		横出面	土器	火酒器の蓋	(12.0)			上面以外覆付	暗黒	—	不明	不明
418	B	b	Ⅲ	BⅢb-17		横出面	土器	白かわらけ				手づくね成形、縁部ケズリ	乳白	—	不明	不明
419	A	—	Ⅳ	AⅣ土7-2		土坑 7	陶器	漆鉢	(27.2)	(10.8)	12.25	標目 16 本 1 単位	淡黄白	漆軸	16c 末～17c 初 大宮IV	不明
420	A	—	Ⅳ	AⅣ土7-3		土坑 7	須恵質陶器	漆鉢				標目、6 本で 1 単位	灰	—	14c	不明
421	A	—	Ⅳ	AⅣ土9-1		土坑 9	土器	皿	(9.6)	(6.0)		内面に覆付	黒黒	—	不明	在産地
422	A	—	Ⅳ	AⅣ土18-1		土坑 18	陶器	志野皿	(10.9)	(5.8)	2.2	底面に日跡・重ね焼き痕あり、鉄軸	白	長石軸	17c 前～17c 中	美濃
423	A	—	Ⅳ	AⅣ土18-2		土坑 18	陶器	煎茶碗赤茶碗				外面にへら状工具による強い沈痕	白	鉄軸	17c 前～17c 中	美濃
424	A	—	Ⅳ	AⅣ土44-1		土坑 44	陶器	鉢	20.2	11.7	3.9	内面刺割のち黄瀬戸軸	白	黄瀬戸軸	17c 前～17c 中	美濃
425	A	—	Ⅳ	AⅣビット158-1		P158	陶器	皿か		(3.7)		底面足込みに円形・印跡、京焼痕、鉄軸	白	灰軸	17c 後	肥前
426	A	—	Ⅳ	AⅣ溝1-1		溝状遺構 1	陶器	折縁深皿		(13.8)		内面に日跡あり	淡灰	漆軸か?	15c	瀬戸・美濃
427	A	—	Ⅳ	AⅣ溝1-2		溝状遺構 1	青花	碗	13.5			内外面に重層線、外面草花文	白	染付	不明	中国
428	A	—	Ⅳ	AⅣ溝1-3		溝状遺構 1	土器	灯明皿	9.8	5.9	2.95	内外面に覆付着(灯明具)	黒黒	—	不明	在産地
429	A	—	Ⅳ	AⅣ溝1-4		溝状遺構 1	陶器	皿	(10.4)	(5.5)	2.0	志野皿、内面足込み及び底部に日跡あり	白	長石軸	17c 前～17c 中	美濃
430	A	—	Ⅳ	AⅣ溝1-5		溝状遺構 1	陶器	菊皿	(12.9)	(7.2)	2.6	志野菊皿	白	長石軸	17c 前～17c 中	美濃
431	A	—	Ⅳ	AⅣ溝1-6		溝状遺構 1	陶器	筒茶碗	(11.5)			絵志野筒茶碗、鉄軸あり	白	長石	16c 末～17c 初 大宮IV	美濃
432	A	—	Ⅳ	AⅣ溝2-1		溝状遺構 2	土器	皿	(11.9)	(7.4)	3.2	内面にタール付着	暗黒	—	不明	在産地
433	A	—	Ⅳ	AⅣ溝3-1		溝状遺構 3	陶器	鉢か	(25.8)			長筒陶器	淡灰	—	不明	不明
434	A	—	Ⅳ	AⅣ溝5-1		溝状遺構 5	陶器	皿	(12.2)			底面に日跡あり、被熱痕あり	白	長石軸	17c 前～17c 中	美濃
435	A	—	Ⅳ	AⅣ溝1		横出面	陶器	皿	(10.9)	(6.2)	3.2	内面足込みに日跡、鉄軸あり	白	長石軸	17c 前～17c 中	美濃
436	A	—	Ⅳ	AⅣ溝4		横出面	陶器	天目茶碗	(11.0)				白	鉄軸	17c 前～17c 中	美濃
437	A	—	Ⅳ	AⅣ溝6		横出面	陶器	折縁皿					粉～淡黄灰	灰軸	15c	吉原戸
438	A	—	Ⅳ	AⅣ溝7		横出面	陶器	茶入		3.1		底面回転系切痕	灰	鉄軸	不明	不明
439	A	—	Ⅳ	AⅣ溝8		横出面	青花	皿	(5.9)			外面高台部に刺割、足込みに弦文	白	染付	16c 末～17c 初	中国
440	A	—	Ⅳ	AⅣ溝9		横出面	青花	皿	(10.1)	(5.8)		内外面に刺割	白	染付	16c 末～17c 初	中国
441	A	—	Ⅳ	AⅣ溝10		横出面	青花	皿	(11.4)	(6.9)	2.55		白	染付	16c 末～17c 初	中国
442	A	—	Ⅳ	AⅣ溝11		横出面	青花	皿	(7.2)				白	染付	16c 末～17c 初	中国
443	A	—	Ⅳ	AⅣ溝12		横出面	青花	皿					白	染付	16c 末～17c 初	中国
444	A	—	Ⅳ	AⅣ溝13		横出面	青花	碗	(4.3)			漆部痕あり	白	染付	16c 末～17c 初	中国

№	地区	検出面	実測番号	遺構	種類	形状	法則 (cm)		技法・文様・形制の特徴	胎土	胎調	想定製作年代	想定産地	
							口径	底径						
445	A	Ⅳ	AⅣ様-14	検出面	陶器	鉢鉢		(10.3)		暦日15本1單位で9方向	淡灰	鉄輪	16c末～17c初 不明	瀬戸・美濃
446	A	Ⅳ	AⅣ様-15	検出面	土器	皿	(10.3)	(6.8)	2.85	内面に留付首	塩焼	—	不明	在地産
447	A	Ⅳ	AⅣ様-16	検出面	須恵器	杯			(7.0)	傷欠不良、底部回転車切痕	淡灰	—	9c前半	在地産
448	A	Ⅳ	AⅣ様-17	トレンチ	土器	皿	10.8	6.9	3.3	内面と外面の凹縁部に留付首	灰	—	不明	在地産
449	B	Ⅳ	BⅣ様-1	検出面	陶器	天目茶碗	(11.6)				淡灰	鉄輪	16c末 大塚Ⅴ	瀬戸・美濃
450	B	Ⅳ	BⅣ様-2	検出面	陶器	折縁深皿	(10.85)	(5.6)	2.45	被熱痕あり、内面見込みに輪刻首・筋輪・輪刻(蓮の花)	淡灰	灰輪	16c末 大塚Ⅴ	瀬戸・美濃
451	B	Ⅳ	BⅣ様-3	検出面	陶器	折縁深皿				古瀬戸	塩焼	灰輪	15c	瀬戸・美濃
452	B	Ⅳ	BⅣ様-4	検出面	陶器	折縁深皿				古瀬戸	塩焼	灰輪	15c	瀬戸・美濃
453	B	Ⅳ	BⅣ様-5	検出面	土器	鉢鉢	(27.2)			土師貫直様、内面に暦日あり	塩焼	—	15c	在地産
454	B	Ⅳ	BⅣ様-6	検出面	白磁	皿		3.3		中国産か	白～灰	白磁	15c	中国産?
455	B	Ⅳ	BⅣ様-7	検出面	青磁	磁瓶	(21.4)			漆黒飯、輸入青磁	淡灰	青磁輪	15c	中国産?
456	A	V	AⅤ様-1	トレンチ	須恵器	杯		5.9		底部見込みに筆書「本意」	塩焼	—	9c	在地か
457	A	V	AⅤ様-1	検出面	須恵器	杯	13.2	6.8	3.7	内面火だき	灰	—	9c	在地か
458	A	—	A様-6	検出面	青花	皿		(5.7)		漆黒飯あり、高台端部砂目、外面高台付付痕1重凹線	白	染付	16c末～17c初	中国
459	A	—	A様-7	検出面	青花	皿		(6.3)		高台端部砂目、内面1重凹線	白	染付	16c末～17c初	中国
460	A	—	A様-8	検出面	青花	皿		(7.05)		高台端部砂目、外面2重凹線、底部見込みに筋七伏ナデ、漆黒飯あり	白	染付	16c末～17c初	中国
461	A	—	A様-9	検出面	青花	皿か		(6.7)		外面1重凹線	白	染付	16c末～17c初	中国
462	A	—	A様-2	検出面	陶器	向付(唐津)		(4.3)		足込部に鉄粒	塩焼	鉄粒	16c末～17c初	唐津
463	A	—	A様-3	検出面	陶器	鉢(黄瀬戸)		(8.3)		底部目録あり	淡黄灰	鉄輪	16c末 大塚Ⅴ	美濃Ⅳ
464	A	—	A様-4	検出面	陶器	水筒か(美濃伊賀)				漆黒飯?穿孔あり	塩焼	灰輪	不明	美濃伊賀?
465	A	—	A様-10	検出面	土製品	双八割か定面子か	2.2		0.6	全面漆ナデ調整	塩焼	—	不明	不明
466	A	—	A様-1	検出面	土師器	薬味か		2.1		ナデ調整(ロクロナデか不明)	淡灰	—	不明	不明
467	A	—	A様-5	検出面	陶器	茶入または合子	4.9			内外面全面鉄輪	白	筋輪	不明	瀬戸・美濃
468	B	—	B様-1	検出面	陶器	皿		6.1		底部見込みに筆書あり	白	灰輪	不明	瀬戸・美濃
469	A	—	A様Ⅷ-1	検出面	陶器	鉢鉢		(20.45)		底裏に筆書あり「大門村 倉二 念の部」	白	灰輪	19cか	瀬戸・美濃

表 15 軒丸瓦一覧表

№	注記番号	検出面	地区	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	径 (cm)	家紋	珠文の数	内面調整	備考
1	2371	I	A	検出面		(9.4)		9.4	連珠左巻三つ巴	12	不明	模瓦
2	2372	I	A	検出面	4.2			13.5	連珠左巻三つ巴	不明	不明	
3	2345	I	A	検出面	4.3			13.0	連珠右巻三つ巴	10	不明	
4	2444	Ⅲ a	A	整地層中			2.1	18.0	連珠左巻三つ巴	24	瓦当面と丸瓦部接合部に強いヨコナデ	瓦当面に被熱痕顕著
5	2455	Ⅲ b	A	整地層中			2.3	(17.7)	連珠左巻三つ巴	24	瓦当面と丸瓦部接合部に強いヨコナデ、瓦当面裏面はナデ調整、瓦当裏面周縁部ナデ1周	瓦当部表・裏面に被熱痕顕著
6	2460	Ⅲ b	A	整地層中	(16.1)		2.9		不明	—	瓦当部と丸瓦部の接合部に強いヨコナデ、広端部内側に挟りあり	瓦当部欠損、被熱痕あり

表 16 平瓦一覧表

№	注記番号	検出面	地区	出土地点	縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	額厚さ (cm)	文様	特徴・調整等
7	2373	I	A	検出面			1.8		不明	「勝」の刻印あり
8	2412	Ⅱ	A	土136			2.2	5.5	中心三つ葉文唐草文	軒平瓦、瓦当裏面の平瓦接合部のヨコナデ顕著、平瓦部ナデ調整
9	2461	Ⅲ b	A	検出面	(19.7)	(13.1)	1.8		—	凹面：ヨコナデ、周縁部は縁に沿ったナデ調整、刻印1か所あり、凸面：縦方向のナデ調整

A区I椽 町屋2

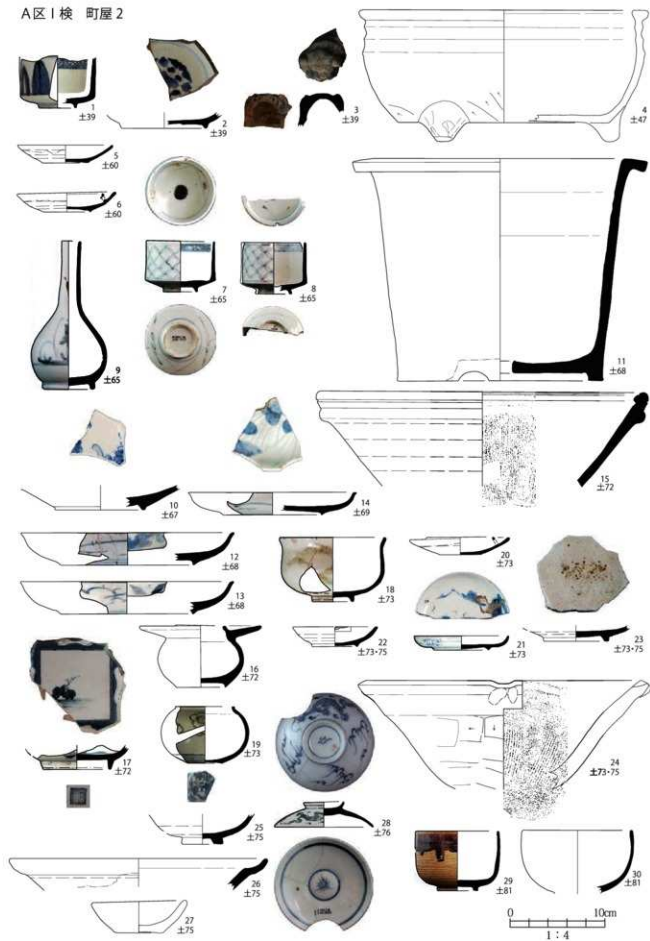
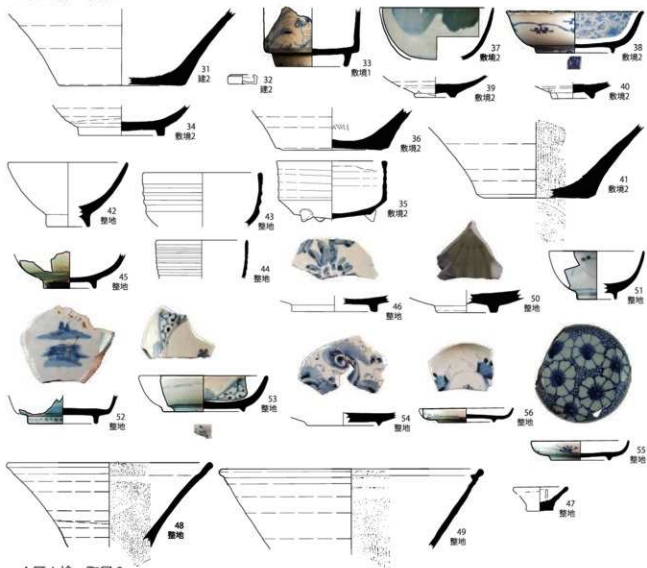


图 37 土器·陶磁器(1)

A区I棟 町屋2



A区I棟 町屋3

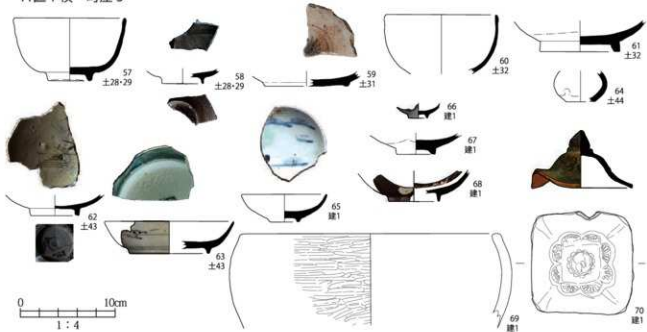
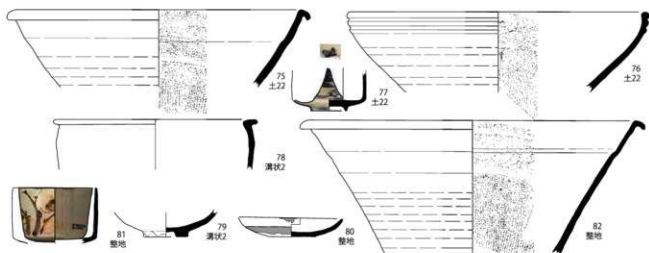


图 38 土器・陶磁器(2)

A区 | 検 町屋3



A区 | 検 町屋4



A区 | 検 御使者宿



A区 | 検 検出面(整地層)

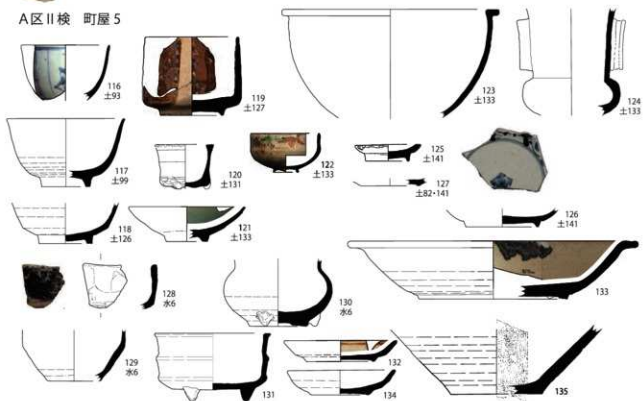


図39 土器・陶磁器(3)

A区I 検 検出面 (整地層)



A区II 検 町屋5



A区II 検 町屋6

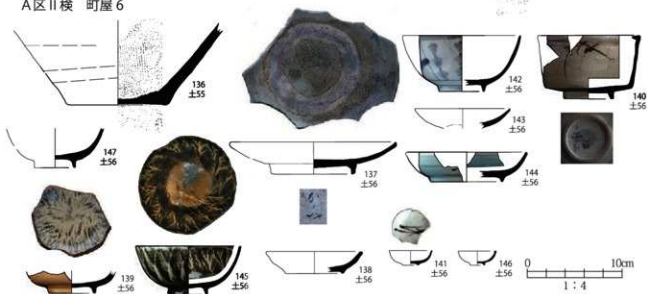
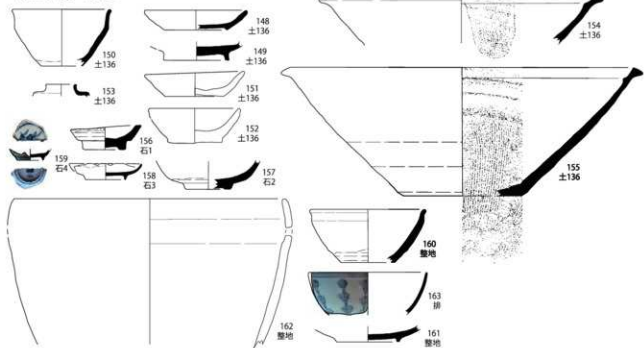


图 40 土器・陶磁器 (4)

A区II検 町屋6



A区II検・B区I検 御使者宿

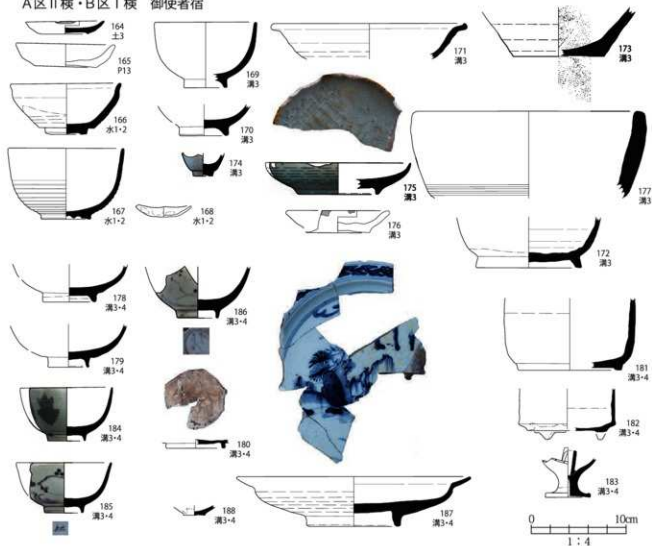


图 41 土器・陶磁器(5)

A区II検・B区I検 御使者宿

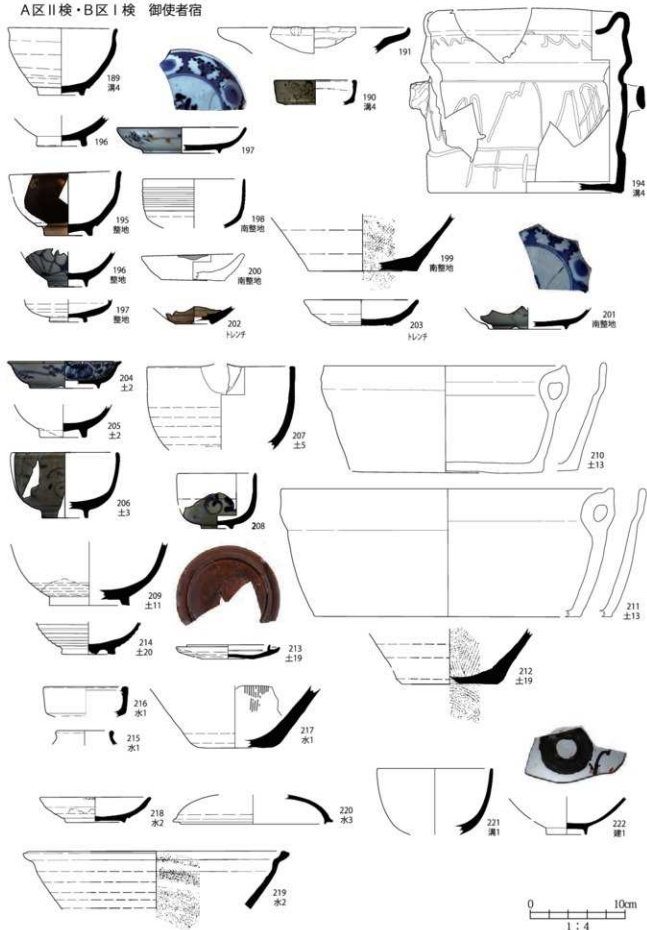
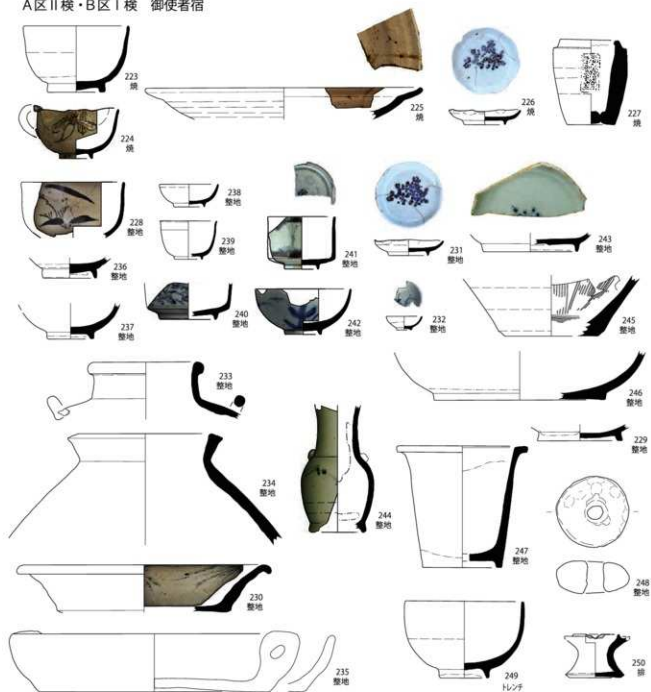


図42 土器・陶磁器(6)

A区II検・B区I検 御使者宿



B区II検 御使者宿

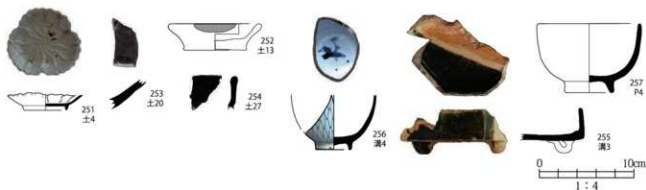
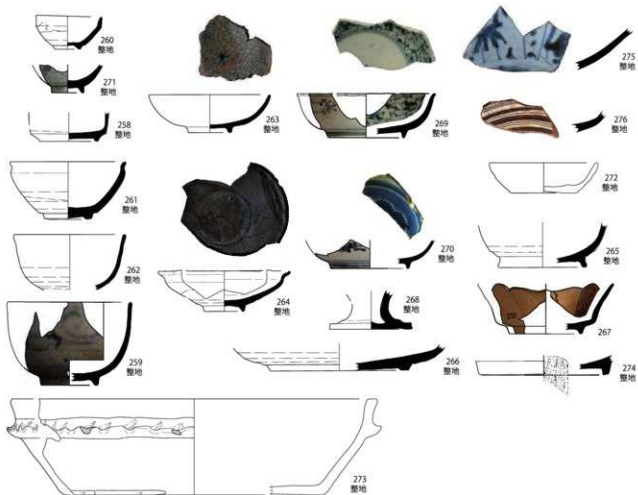


図43 土器・陶磁器(7)

A区II棟・B区I棟 御使者宿（整地層）



A区III a

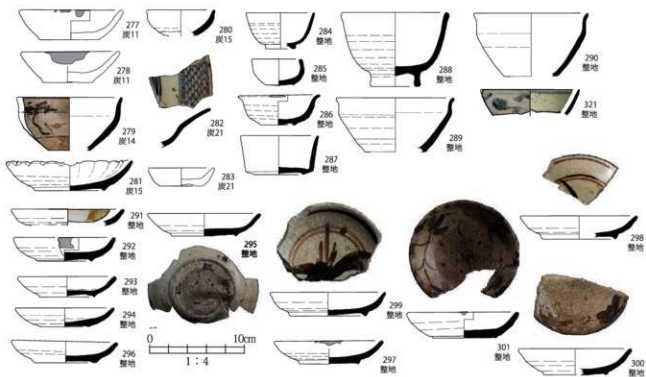


图 44 土器・陶磁器 (8)

A区III a (整地层)

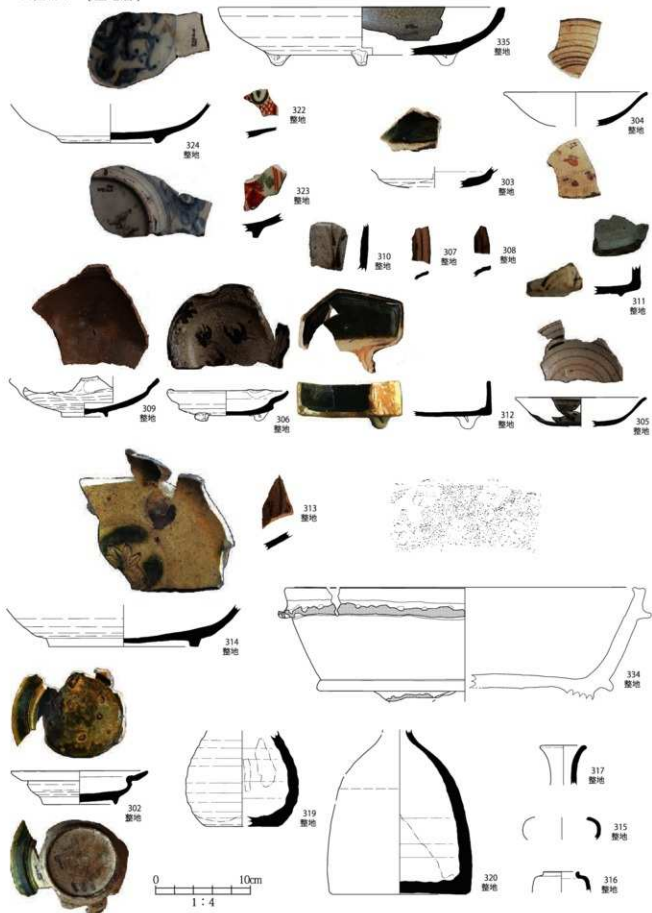
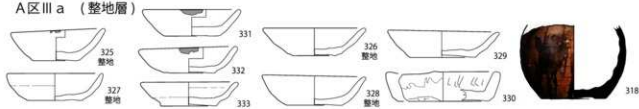
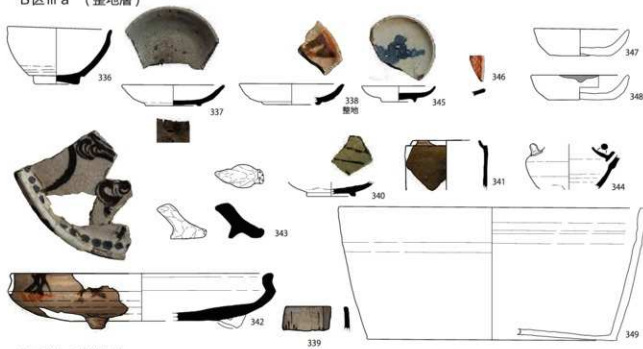


图 45 土器·陶磁器(9)

A区III a (整地层)



B区III a (整地层)



A区III b (整地层)

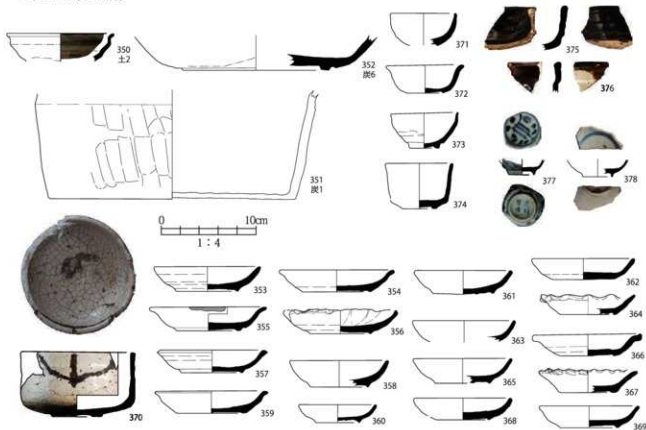
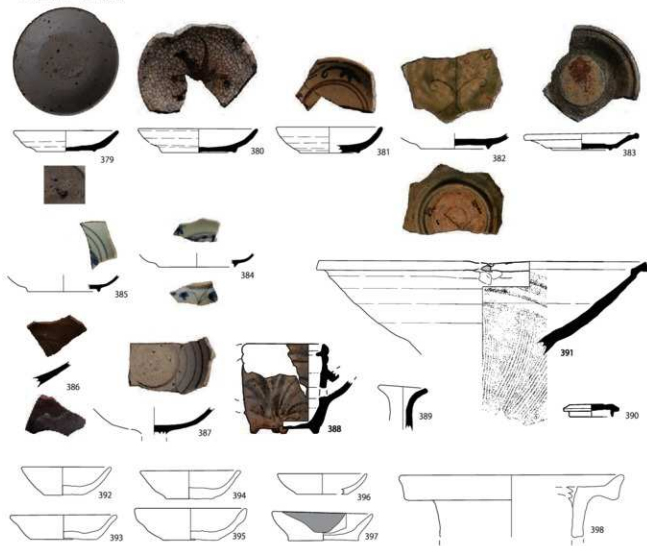


图 46 土器·陶磁器 (10)

A区III b (整地層)



B区III b (整地層)

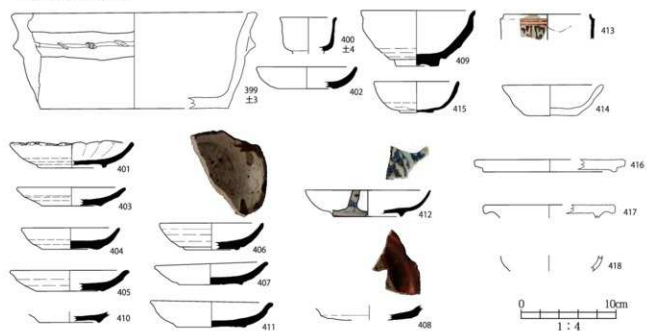
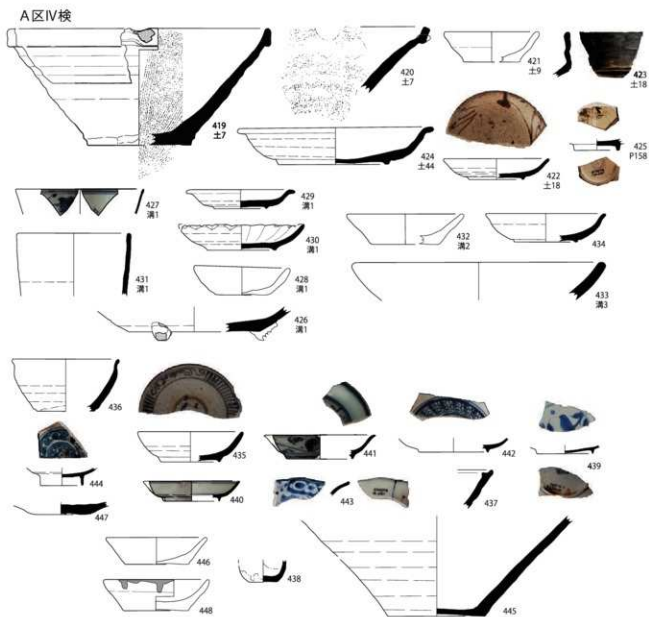
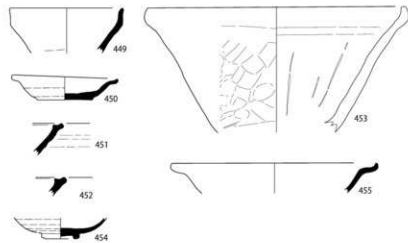


图 47 土器・陶磁器 (11)



B区IV椽



A区V椽

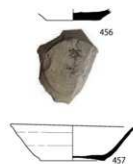


图 48 土器·陶磁器 (12)

排土 (A·B区)

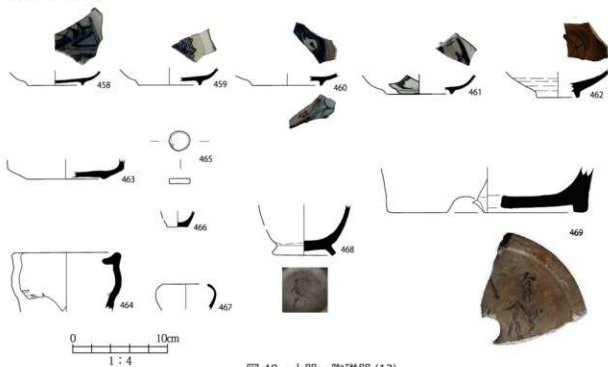


图 49 土器·陶磁器 (13)

瓦

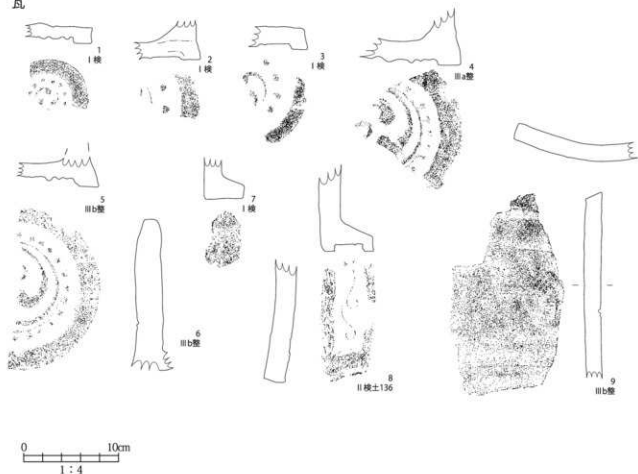


图 50 瓦

3 木製品 (表 17、図 51～57、写真図版 14～17)

今回の調査では、調査区全体から 603 点の木製品が出土した。このうち本報告書では、遺存状態の良い 59 点を提示し、概要を述べる。出土資料の所属時期は、戦国期から江戸期にかけてのものと比定される。以下、器種別に記述する。

下駄 (1～18)

18 点を図化した。1 は A 区 I 検、3～5 は A 区 II 検、2 は B 区 II 検、6～11・13 は A・B 区 III 検、12・14～18 は A・B 区 IV 検から出土している。いずれもほぼ原形に近い連歯下駄である。隅丸長方形が多いが、6・7・16 は長円形を呈する。指頭圧痕ないし指腹圧痕は 16 以外ほぼ全てに残り、ノミによる整形加工痕も多数認められる。17 には表面に漢数字の一八に似た形の刻みがある。

大型木製品 (19～25)

概ね 25cm 以上のものとし、7 点を図化した。23・25 は A 区 I 検、19・21 は A 区 II 検、20・24 は A 区 IV 検から出土しており、22 は出土地点不明。19 は鎌の刃で、先端部には使用痕と思われる摩滅や欠損が認められる。20・23 は篋で、20 は先端部がやや潰れている。全体に漆の痕跡とみられる朱色の付着物が残る。23 は先端部に欠損があり、全体に平らに加工されている。21 は鎌の柄と思われる棒状木製品で、側面には加工痕が認められる。22 は櫂と考えられるが正確な用途は不明。板目板材で、幅の広い部分は片側の側面が尖り、柄の断面は中央が四角く、先端付近は円柱状に加工されている。24 は杓子で、表裏面に黒漆が塗られている。先端部は漆が剥げ、摩滅している。25 は柄杓の柄の可能性のある角柱状木製品。板目角材で、全体に加工痕が認められる。

漆製品 (26～34)

9 点を図化した。26～28・32・33 は A 区 I 検、30・31・34 は A 区 II 検から出土している。29 は I 検出土だが正確な地点は不明である。26 は黒漆塗りの皿で、口縁の一部を欠損。全体にやや歪んでいる。27～29 は椀。27 は内外下地に朱漆、その上に黒漆を施す。28 は内面朱漆、外面黒漆を施し、外面には金で松紋様の蒔絵が描かれている。ゆがみは少ない。29 は内外両面の下地に黒漆、その上に朱漆を塗り、歪みが多い。底部中央に黒漆で「上」の文字が書かれている。30・31 は膳の脚で、30 の表面はほとんど剥がれているが黒漆の痕跡が残る。全体に加工痕が認められる。31 も漆の大部分が剥がれている。膳との接続用と思われる出っ張りが認められる。32 は折敷と考えられる。全体が朱漆塗りで、縁には下地の黒漆が認められる。表面には金および黒漆で菊紋様を描かれている。欠損が激しい。33 は札で、側面まで全て黒漆が塗られる。中央部には径 1mm の穴が 2 か所開き、針金状の金属が穴に通されて輪の形に付着する。34 は台形上の柁目板材で、全体に黒漆が塗られた用途不明品。

文字資料 (35～45) 文種⁹

11 点を図化した。35～38・40・41 は A 区 I 検、39・44・45 は A 区 II 検、42・43 は A 区 IV 検から出土している。全て板材で、柁目 (35・36・39・40・42・44)、板目 (37・38・41・45)、追柁目 (43) がある。ここでは 37～39・43 について記述する。37・38 は表裏両面に墨書が見られ、中央付近に径 2mm 程度の穴が穿たれている。37 は「□□松本 山久 大坂屋久次郎 名古屋堀部孫右衛門殿」「信の夜」、38 は「□□□松本 山久 大坂屋久次郎 (郎か) 名古屋堀部孫右衛門殿」「信のや」と判読でき、ほぼ同内容である。「山久」の字は、山のような記号の下に久の文字を組み合わせて一文字で表現される。店屋の表号で「大坂屋久次郎」の「久」をとったものと思われる。裏面に書かれた「信の夜」「信のや」は、商

店名と推定される。「名古屋堀部孫右衛門」宛の荷札であり、広範囲での取引が行われている様子が窺える。39・43は表裏両面に墨書があり、いずれも上部両側面に切込みが入れられている。39は「上 寺廿百之三 幸重郎」「徳□□寄」、43は「上 地百詫 半十」「徳□カ寄」と判読できる。「上」の字は、くにかまえの中に上の字、上部に漢数字の一を組み合わせて一文字で表現される。形状から荷札と考えられるが、内容が十分に釈読できていない。

その他木製品 (46～59)

14点を図化した。46・50・53・56・59はA区Ⅰ検、48・49・54・55はA区Ⅱ検、52・58はB区Ⅲ検、47・51・57はA区Ⅳ検から出土している。46・47は篋で、ほぼ完形。46は柾目板材、表面には加工痕・刃物痕が多数あり、両端部には使用痕とみられる摩滅・欠損が認められる。47は板目板材で、側面には摩滅およびささくれ立った箇所が認められる。48は用途不明の棒状木製品。柾目板材で、断面は逆三角形を呈し、両先端が細く尖る。49はしゃもじで、小口が切り落とされ、側面には加工痕が認められる。柄の先端が欠損している。50は削り出しの丸木材で、用途不明。中心部には角釘が刺さる。側面及び縁には加工痕があり、釘が飛び出た部分の反対の面は摩滅している。51は人形代と考えられる。表面全体に加工痕が認められる。52は完形の男根状木製品である。柱状で全面に加工痕が見られる。53は匙と考えられ、全体に加工痕が残る。54は柾目角材を加工した用途不明品。全体に工具での加工痕が残る。55・56は柾目角材の用途不明品。55の形状は三角形に近く、中央は四角形の穴が開いている。釘穴と考えられる穴が2か所あり、片方には釘が貫通している。56は障子のレールの一部とも考えられる形状で、全面に加工が施されるが、摩滅や圧痕が残る。57は篋で、先端部は薄く尖らせているが、それ以外の側面部は角を面取りしている。58・59は用途不明品。58は棒状で削り出しの板目角材で、先端部に鉄分が付着しており、全体に加工痕が見られる。59は芯も丸太材で、表面中央がすり鉢状に掘り込まれ、無数の工具痕が認められる。裏面にはのこぎり痕と思われる工具痕が残る。両面に深さ1～4cm程度の小穴があり、一部に黒く焦げたような跡が見られる。

参考文献 (文献番号第二章の続き)

文献9 宮島義和 2018 「長野・松本城下町跡本町」『木簡研究』第40号 pp.65～67 木簡学会

表 17 木製品一覧表

ID	図 No.	区	棟	造構	出土地点	部種	手法	長・口径 (cm)	幅/底径 (cm)	厚・高 (cm)	破損状況	備考
10	26	A	I	検出面		漆皿		11.9	6.5	3.0	ほぼ完形	一部口縁欠損
11	32	A	I	検出面		折敷か?	板材	20.6	(12.7)	1.2	不明	朱漆に黒・金絵あり
12	33	A	I	検出面		漆札	板材	6.5	4.2	0.4	完形	黒漆塗り
13	35	A	I	検出面		木札	板材	6.0	4.7	0.6	完形	墨書あり
14	36	A	I	検出面		木札	板材	7.2	5.2	1.0	ほぼ完形	墨書あり
28	29		I	検出面		漆椀		13.5			ほぼ完形	ゆがみ有 高台つげ根径 6.0cm
35	40	A	I	上 22	No.9	木札	板材	15.8	3.8	0.6	完形	表裏面墨書あり φ 3mmの穿孔あり
38	56	A	I	上 36		不明	角材	8.5	3.5	5.1	不明	建築部材か
56	59	A	I	上 74	No.1	不明	角材	10.7		5.3	完形	正面が削り抜かれている
58	25	A	I	上 81		不明	板材	26.8	1.9	1.2	不明	
73	21	A	II	上 133		蹴の棒	角材	109.4	5.2	3.0	ほぼ完形	
75	1	A	I	検出面	No.11	下駄	角材	21.1	10.3	4.1	ほぼ完形	
78	46	A	I	検出面		籠	板材	15.9	3.3	0.8	ほぼ完形	
79	53	A	I	検出面		匙?	板材	(8.6)	0.7	0.4	ほぼ完形	
80	23	A	I	検出面		籠	板材	28.8	5.5	1.0	ほぼ完形	
130	2	B	II	上 1	No.1	下駄	角材	22.4	10.5	3.4	ほぼ完形	角下駄
136	44	A	II	上 50		木札	板材	19.5	2.3	0.5	完形	墨書あり
137	55	A	II	上 50		不明	角材	5.9	9.2	2.2	ほぼ完形	
161	30	A	II	上 92	No.9	漆製の脚	角材	5.2	14.0	2.1	完形	
172	31	A	II	上 92	No.25	膝の脚	角材	5.5	14.0	1.9	完形	
175	3	A	II	上 96	No.2	下駄	角材	22.3	9.1	3.8	ほぼ完形	片端がかなり磨り減っている
181	54	A	II	上 103		不明	角材	5.0	1.5	1.0	完形	
227	4	A	II	上 136		下駄	角材	22.5	10.1	4.6	ほぼ完形	角下駄
231	49	A	II	上 136		しゅもじ	板材	(11.3)	5.1	0.5	ほぼ完形	祭事用か
234	39	A	II	上 136		木札	板材	17.7	2.2	0.5	完形	表裏面墨書あり
246	34	A	II	上 136		不明	板材	11.9	4.1	1.3	完形?	
247	48	A	II	上 136		不明	板材	16.7	0.6	1.6	完形	
248	5	A	II	上 136		下駄	角材	21.8	9.7	3.9	完形	
249	19	A	II	上 136		簾	板材	32.1	11.9	3.0	完形?	簾の刃の部分
301	6	A	III a	検出面	No.136	下駄	角材	22.6	10.0	7.8	完形	高歯下駄
302	7	A	III a	検出面	No.137	下駄	角材	21.4	8.3	3.3	ほぼ完形	歯の摩耗強い
304	8	A	III a	検出面	No.140	下駄	角材	20.9	11.8	4.7	完形	
306	9	A	III a	検出面	No.149	下駄	角材	20.4	11.5	4.6	ほぼ完形	
376	10	B	III b	溝 2	No.10	下駄	角材	20.5	10.0	5.7	完形	
378	58	B	III b	上 2	No.2	不明	棒材	18.3	1.5	1.6	完形	
380	11	B	III b	上 3	No.4	下駄	角材	22.8	10.4	5.0	ほぼ完形	丸下駄
399	12	B	IV	検出面	No.413	下駄	角材	17.3	10.3	5.0	完形	
419	52	B	III b	検出面	北側	男根杖木製品	角材	5.9	1.3	1.0	完形	
434	13	A	III a	検出面	No.117	下駄	角材	17.7	10.1	3.5	完形	
455	14	A	IV	溝 1	No.17	下駄	角材	21.2	11.4	4.9	完形	
458	24	A	IV	上 18	No.2	木籠	角材	28.9	8.1	1.5	完形	
459	15	A	IV	上 18	No.5	下駄	角材	22.0	10.0	4.6	完形	
467	20	A	IV	上 44		籠	板材	29.4	2.3	0.7	ほぼ完形	
468	57	A	IV	上 44		籠	板材	24.2	1.8	0.7	完形	
482	16	A	IV	上 76		下駄	角材	21.4	9.4	3.5	ほぼ完形	
483	17	A	IV	上 76		下駄	角材	22.5	10.1	3.2	ほぼ完形	中央部やや下に「へ」の字の刻印あり
484	42	A	IV	上 136	No.8	木札	板材	(15.2)	5.6	0.8	不明	表裏面墨書あり 穿孔1箇所あり
485	43	A	IV	上 136	No.9	木札	板材	17.9	3.2	0.6	完形	表裏面墨書あり 側面に2箇所すり込みあり
486	51	A	IV	上 136	No.10	人形	角材	10.3	3.5	1.3	完形	
488	47	A	IV	P.22	No.1	籠	板材	16.2	3.3	0.5	完形	
493	18	A	IV	溝 1	No.4	下駄	角材	20.4	11.0	6.3	完形	
549	22			出土地不明		籠		107.0	12.8	3.0	不明	
552	50	A	I	検出面		杓?	丸木材 (削だし)	3.1		7.9	ほぼ完形?	上面に鉄釘が刺さる
568	28	A	I	検出面		漆椀		12.0		9.2	ほぼ完形?	内面朱漆、外面黒漆。金の模様。ゆがみ多 局台つげ根 3.8cm
569	41	A	I	上 8	南側	荷札 (黒書)	板材	(14.3)	3.1	0.5	下部欠損	墨書あり 上部にφ 2mmの穿孔あり
571	37	A	I	上 81		木札	板材	22.6	5.9	0.8	完形	両面墨書 φ 2mmの穿孔あり
572	38	A	I	上 81		木札	板材	23.1	6.1	0.9	完形	両面墨書 φ 2mmの穿孔あり
573	27	A	I	検出面		漆椀		12.4	5.8	5.0	完形?	内・外下地に朱漆で黒漆
583	45	A	II	上 56	No.28	荷札 (黒書)	板材	13.5	3.3	1.0	完形	墨書あり φ 2mmの穿孔あり

※ () 内数値は残存値を表す。

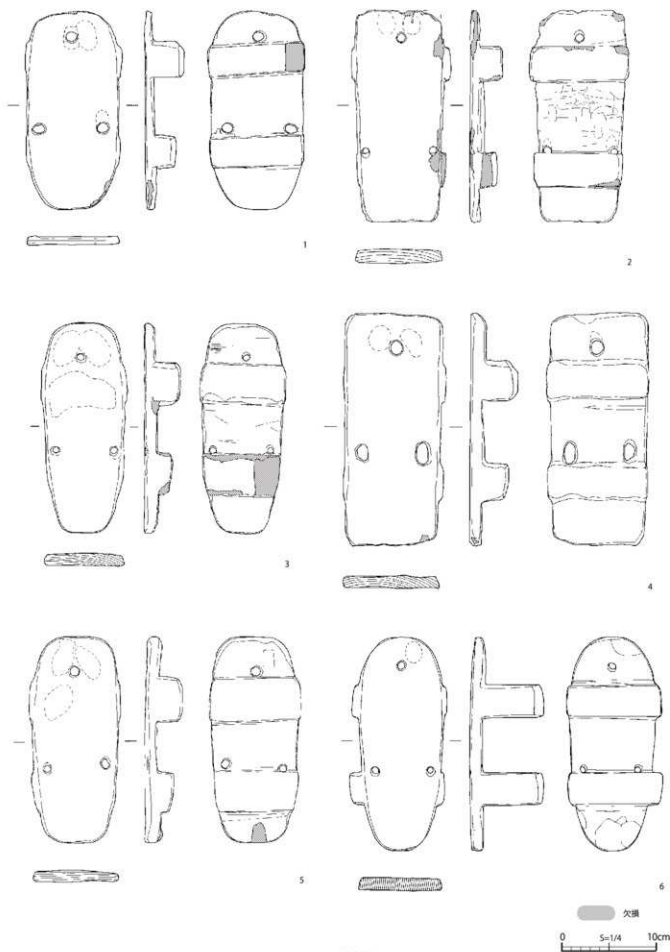


图 51 木製品 (1)

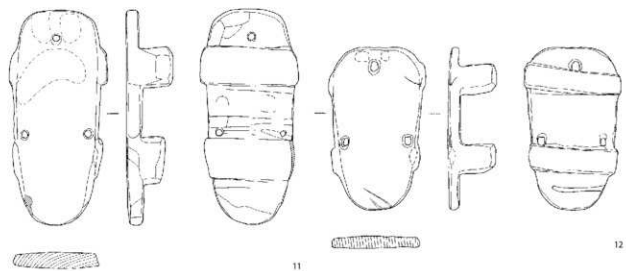
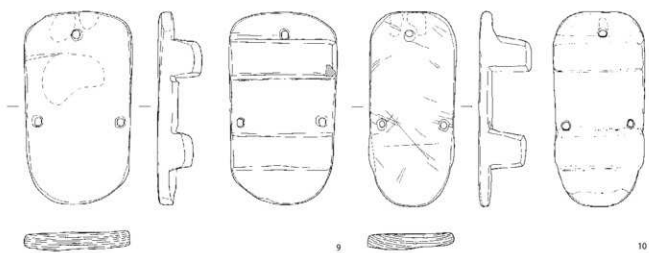
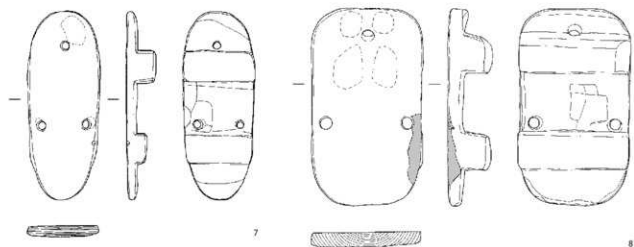


图 52 木製品(2)

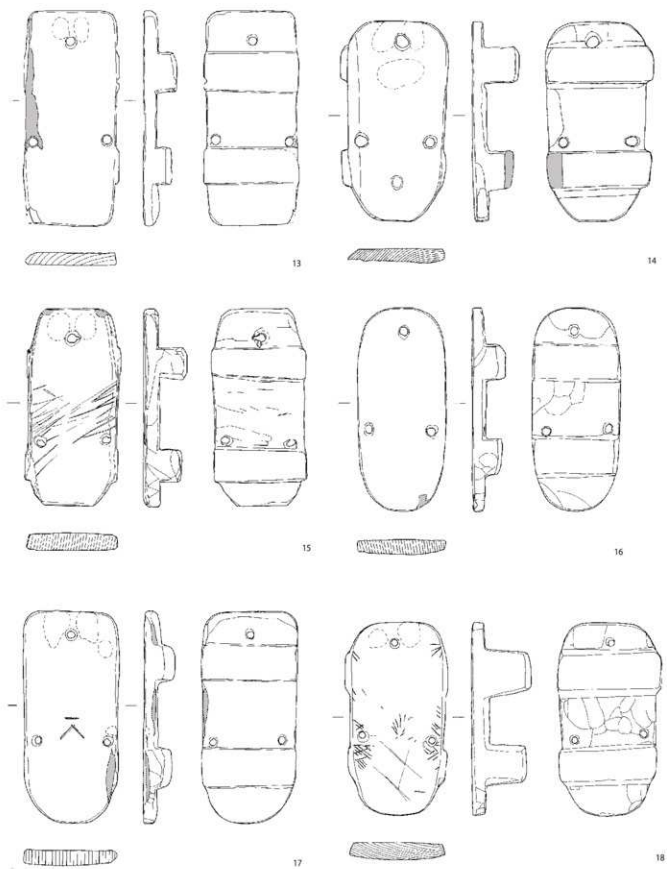


图 53 木製品 (3)

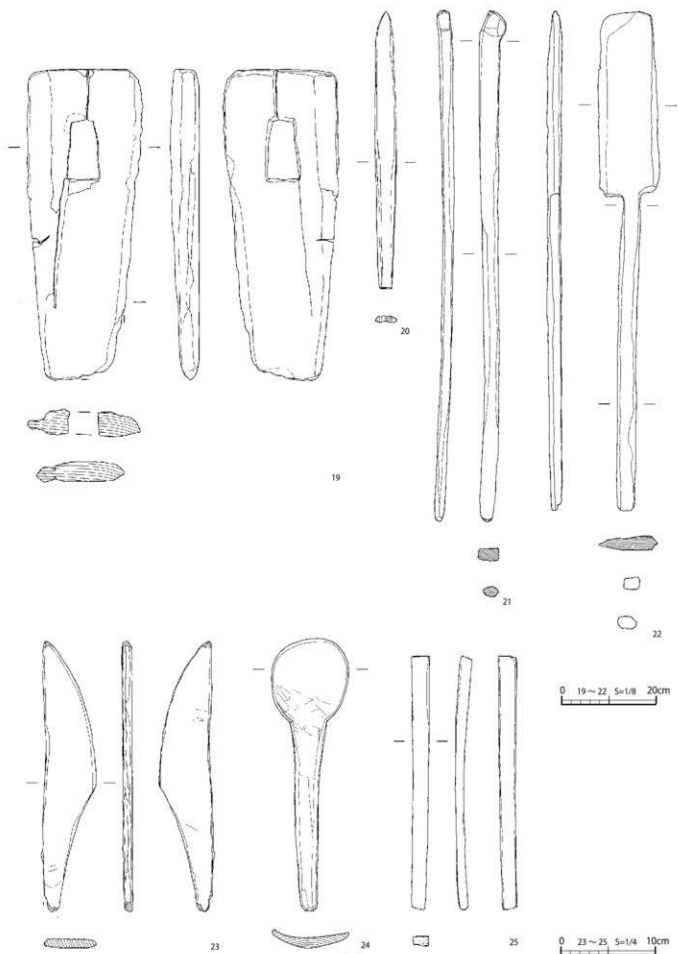


图 54 木製品 (4)

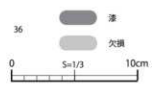
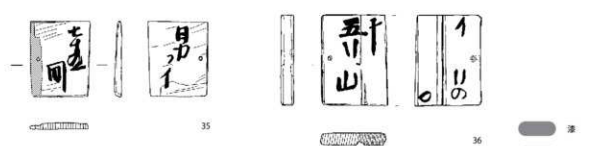
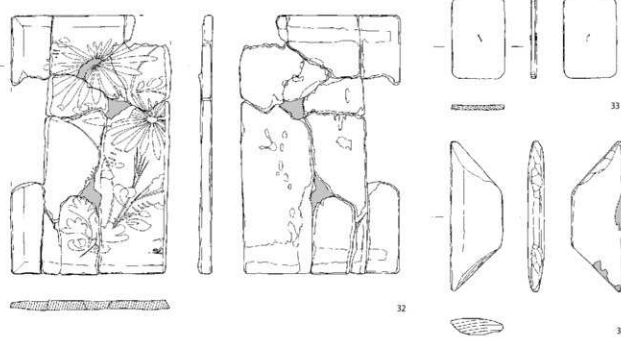
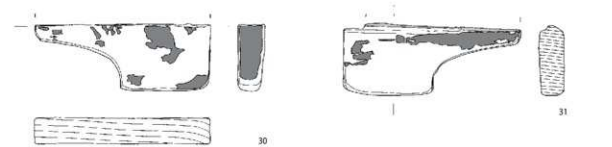


図55 木製品(5)



37



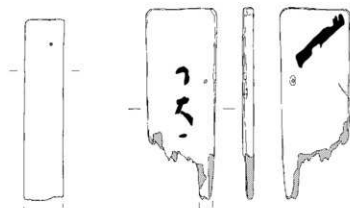
38



39



40

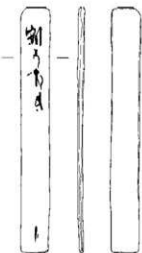


41

42



43



44



45



図 56 木製品 (6)

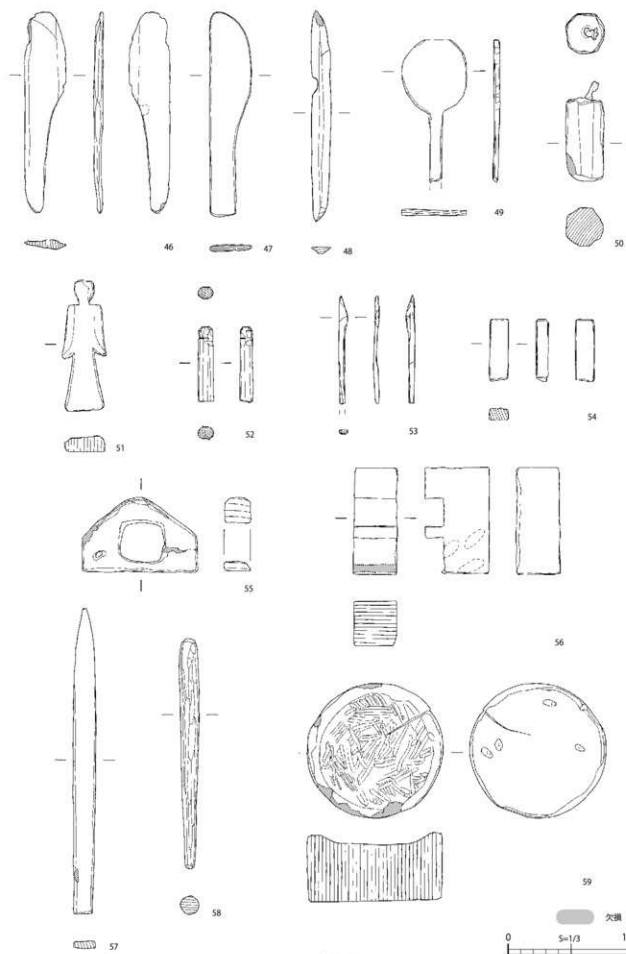


图 57 木製品 (7)

4 石製品（表 18、図 58、写真図版 18）

今回の調査では計 93 点の中へ近世に帰属すると考えられる石製品が出土した。その内訳は、砥石 45 点、硯 16 点、石臼 13 点、碁石 9 点、火打石 3 点、温石 1 点、数珠 1 点、不明 5 点がある。またこのほかに、古代の石製品 9 点と縄文石器が 17 点出土し、その内訳は、掲き臼 7 点、帯金具 1 点、紡錘車 (?) 1 点、スクレーパー 5 点、石錐 1 点、研磨礫 (?) 1 点、剥片 6 点、原石 4 点がある。このうち中へ近世に帰属すると考えられるものを中心に 19 点と古代の帯金具について図示し、概要を述べる。縄文石器については、紙面の都合上割愛した。

碁石 (1~9) 9 点出土し、すべて図示した。使用石材は、粘板岩ないし砂岩である。2 以外は、あまり加工がされず、平面形が楕円形もしくは歪んだ楕円形を呈し、断面形が長楕円形を呈す。2 は、丁寧に研磨加工されており、断面形は柳葉形を呈している。9 は、白みを帯びている砂岩製の碁石である。

温石 (10) 10 は、粘板岩性の温石である。長軸に半割れ、半分程度欠損している。最大径 7.2mm の孔が上部に認められる。孔の断面形状から、片側からの穿孔と考えられる。正面中央やや上部に刻書が認められ、3 文字あることが確認できる。1 文字目は「厘」もしくは「厄」と読み、2 文字目は「木」と読める。3 文字目は傷があり判読不可である。

砥石 (11~13) 11 は、石質とその特徴的な仕上げ方法から砥沢産の砥石と考えられる。表面は、砥沢砥石の特徴である「ゴザ目」と呼ばれる櫛目状のタガネ痕が認められる。本調査地から南西に 50m 離れた本町第 4 次調査地から砥沢砥石 4.859 点が出土しており、絵図・文献から砥石間屋があったとされる。12 は、縦断面が三角形状を呈し、砥石の上部と下部を別々に砥面として使用している。図示していないが、同様の使用痕が残る砥石が複数点出土している。13 は、緑色片岩製の砥石である。右側面と裏面にはタガネでの整形加工痕が認められる。

硯 (14~16) 3 点を図示した。14 は、内外面平面形は長方形を呈し、被熱が認められる。15 は、表裏面に硯面を持ち、正面の内面は楕円形で、裏面の内面は長方形を呈している。16 は、縁部が意図的に割られていることが確認できる。別の使用に転用しようとしていたものだろうか。

石臼 (17) 17 は、茶臼の下臼受け皿に縁部である。受け皿部の外径は推定 35.8cm である。茶臼は 17 以外にも 2 点出土しており、出土地点は、B 区Ⅱ検の推定御使者宿地から 1 点と B 区Ⅲ検から 1 点である。

不明石製品 (18・19) 18 は、砂岩製の楕円礫を素材にしたもので、正面に幅 2~8mm、深さ 1.5mm 程の溝状研磨痕が認められる。また、中央から右側面にかけて凹みが見られ、上下方向の研磨痕が確認できる。特殊な工具専用の砥石であろうか。19 は、粘板岩製で、上端に突出部が見られる細長い形態をし、正面を中心に研磨されている。用途は不明である。

帯金具 (20) 蛇紋岩製の丸軋である。扁平楕円の一端を直に切り落とした形状を呈する。裏面は、内部で貫通する径約 2mm の一対の孔が 2 箇所認められる。

表 18 石器・石製品一覧表

発掘	種別	地区	検	遺物	出土地点	石材	長径 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
2	不明	A	1	建物 1	tr 北	粘板岩	5.70	1.51	0.68	8.31		平面両面削、全面研磨
3	砥石	A	1	建物 2	tr 西	砂岩	(11.60)	(9.32)	(2.29)	(314.0)	1/3 欠	2 個体に割れ、砥面 1 面、高砥
5	碁石	A	1	敷地端 2	西側	凝灰岩	(3.63)	(2.25)	(0.58)	(2.8)	側面の一部欠	
6	砥石	A	1	石割り	西側	頁岩	(7.52)	(3.73)	(0.75)	(122.3)	短軸に 1/2 欠	砥面 2 面、仕上げ中砥、直方体
8	砥石	A	1	土 15	西側	千枚岩	(7.25)	1.38	(0.95)	(11.7)	1/2 欠	砥面 3 面、中へ高砥、手持ち砥石、直方体
9	碁	A	1	土 28・29		頁岩	(3.53)	(3.57)	(0.04)	(12.0)	側面一部欠	内外長方形か
10	砥石	A	1	土 28・29		頁岩	(4.90)	(3.79)	(1.79)	(1.7)	1/4 欠	砥面 4 面、中へ高砥、直方体
12	砥石	A	1	土 68	№ 15	頁岩	(8.83)	(5.49)	(1.70)	(82.2)	1/2 欠	砥面 2 面、中へ高砥
14	不明	A	1	土 73・75	№ 9	頁岩	2.82	2.64	6.40	4.41		中心に穿孔あり、孔径 4.1mm
15	不明	A	1	土 75	№ 4	頁岩	(6.51)	(6.15)	(0.50)	(41.6)	1/4 欠	研磨面 1 面
16	砥石	A	1	19	北側	頁岩	5.24	3.13	1.24	37.5		砥面 1 面、仕上げ中砥、手持ち砥石、直方体
17	石臼	A	1	横出面	№ 12	安山岩	13.40	11.70	7.70	1530.0	完	研面 1 面、仕上げ中砥、手持ち砥石、直方体
18	不明	A	1	横出面		粘板岩	10.48	4.33	1.72	158.1	短軸に半分割れ	研磨あり、孔径 7.2mm (片側穿孔か)
19	不明	A	1	横出面		粘板岩	2.62	2.20	0.77	6.51	完	
20	砥石	A	1	横出面		凝灰岩	(6.85)	(3.89)	(3.97)	(195.5)	短軸に 1/2 欠	砥面 2 面、仕上げ中砥、直方体

行	区	種別	地	種別	出土地	石材	厚(1000)	厚(500)	厚(200)	重量	破損状況	備考	
21	麻石	A	I	横山		凝灰岩	(4.48)	(3.97)	(3.49)	(93.9)	3/4 欠	縦面 2 面、縦、直方体	
22	麻石	A	I	横山		凝灰岩	(7.28)	(6.32)	(5.35)	(117.1)	3/4 欠	縦面 1 面、縦、直方体、側面 3 面に縦毛目状の溝あり	
23	麻石	A	II	惣持中		凝灰岩	16.30	11.50	7.55	1650.0		隅 2 面(φ 8.62mm、深さ 3.72mm / φ 5.43mm、深さ 0.94mm)	
24	麻石	A	II	水道遺跡 6	東側	凝灰岩	(5.51)	(1.98)	(2.14)	(29.8)	3/4 欠	縦面 1 面、縦	
25	石臼	A	II	溝 3	No. 3	火山岩	26.80		11.50	12500.0		上臼、溝 5 分	
26	麻石	A	II	溝 3	No. 4	火山岩	20.75	20.20	13.80	7500.0		隅 2 面(φ 9.23mm、深さ 2.93mm / φ 5.31mm、0.99mm)	
27	麻石	A	II	溝 4		凝灰岩	10.21	8.80	(3.82)	(32.2)	1/4 欠	縦面 1 面、仕上げ~中域、直方体、溝状縁縁あり	
28	麻石	A	II	溝 4		凝灰岩	(3.80)	(2.20)	(1.51)	(28.0)	3/4 欠	縦面 2 面、仕上げ~中域、直方体、溝状縁縁あり	
29	麻石	A	II	溝 4	No. 4	凝灰岩	(5.87)	6.97	1.94	(99.7)	溝・面欠	内外平面長方形、縦横	
30	麻石	A	II	溝 4		砂岩	(4.95)	6.70	(4.65)	(208.0)	3/4 欠	縦面 2 面、縦、直方体	
31	麻石	A	II	溝 5	No. 5	頁岩	(12.50)	(7.48)	(4.12)	(472.0)	1/4 欠	縦面 3 面、仕上げ~中域、小口に溝あり、2 側に割れ	
32	麻石	A	II	溝 5	No. 14	凝灰岩	6.46	(3.38)	(2.48)	(84.7)	割縁 1/2 欠	縦面 2 面、縦、直方体、側面 2 面に縦毛目状の溝あり	
33	麻石	A	II	溝 5		頁岩	(5.77)	(3.17)	(1.25)	(18.0)	3/4 欠	縦面 2 面、縦	
34	麻石	A	II	溝 5		砂岩	(3.05)	(2.20)	(1.03)	(8.0)	3/4 欠	縦面 2 面、縦	
35	麻石	A	II	溝 5	No. 30	凝灰岩	8.61	(3.94)	(4.89)	(242.8)	割縁 1/2 欠	縦面 4 面、縦、直方体	
37	石臼	A	II	溝 119		凝灰岩	(2.19)	(2.15)	(0.51)	(3.0)	1/4 欠	上臼に彫形	
38	石臼	A	II	溝 127	No. 1	火山岩	(29.30)		(10.05)	2910.0	1/2 欠	上臼	
39	麻石	A	II	溝 127	No. 2	頁岩	15.05	3.45	2.55	1430.0		縦面 1 面、縦、直方体、側面ノミ加工	
40	石臼	A	II	溝 131	No. 1	火山岩	(32.40)		(8.85)	(1440.0)	3/4 欠	上臼、縦横	
41	麻石	A	II	溝 132	No. 1	火山岩	14.40	12.20	7.50	1640.0		隅 2 面(φ 6.01mm、深さ 1.05mm)	
42	麻石	A	II	溝 132	No. 2	火山岩	12.90	9.90	5.55	880.0		隅 1 面(φ 6.24mm、深さ 1.04mm)	
43	麻石	A	II	溝 133	橋内北側					26.3	3/4 欠	縦面 2 面、縦、直方体、縦溝縁、同一傾角か?	
44	麻石	A	II	溝 133		頁岩	(5.04)	(3.44)	(0.03)	(9.4)	1/4 欠	縦面 2 面、仕上げ~中域、縦横	
45	麻石	A	II	溝 136	東側	砂岩	7.01	2.10	1.30	188.0	完形	縦面 3 面、手持ち縦石、縦横	
46	麻石	A	II	溝 136		凝灰岩	22.30	16.60	14.60	6500.0		隅 2 面(φ 5.20mm、深さ 1.56mm)	
47	麻石	A	II	溝 136	水道 8	砂岩	(13.09)	(6.52)	(3.14)	(178.9)	1/4 欠	縦面 2 面、縦	
48	麻石	A	II	溝 136	西側	凝灰岩	(3.94)	(3.95)	(0.80)	(18.3)	割縁の一部のみ欠	縦面 1 面、縦	
49	麻石	A	II	溝 136	西側	砂岩	(5.52)	(4.33)	(0.74)	(8.7)	割縁の一部のみ欠	縦面 1 面、縦	
51	麻石	A	II	溝 136		砂岩	(15.80)	6.40	(5.97)	(74.0)	1/2 欠	縦面 1 面、仕上げ~中域	
52	麻石	A	II	溝 136		頁岩	(4.55)	(2.18)	(1.33)	(22.8)	1/4 欠	縦面 2 面、縦、直方体、2 側に縦毛目状の溝あり	
53	麻石	A	II	溝 136		緑色片岩	(7.05)	6.00	(1.38)	(86.1)	1/4 欠	1 縦辺使用	
55	火打石	A	II	溝 137	チャート	5.80	3.75	4.38	108.6				
56	麻石	A	II	溝 137	チャート	12.91	5.31	2.74	370.0			縦溝縁、縦、縦、未使用	
57	石臼	A	II	溝 138	凝灰岩	2.68	2.23	0.53	4.6				
58	麻石	A	II	溝 138	凝灰岩	(7.94)	4.47	1.33	(82.2)	溝部一部欠		内外平面長方形、縦横、板状	
59	麻石	A	II	溝 138	東側	頁岩	5.87	3.09	0.88	21.1			縦面 3 面、仕上げ~中域、縦横
60	麻石	A	II	溝 138	南側	頁岩	6.94	(3.12)	(0.69)	(24.0)	割縁のみ欠	縦面 2 面に割れ	
61	麻石	A	II	溝 138	南側	凝灰岩	(5.10)	(4.45)	(0.99)	(23.4)	3/4 欠	縦面 2 面に割れ	
62	麻石	A	II	溝 138	惣持中	凝灰岩	8.93	3.27	1.53	81.3	完形	縦面 2 面、仕上げ~中域、直方体、本取色面片行	
63	麻石	A	II	溝 138	惣持中	頁岩	(18.35)	(5.86)	(0.89)	(126.0)	割縁のみ欠	仕上げ~中域	
64	麻石	A	II	溝 138	惣持中	頁岩	6.12	3.23	1.18	37.8		縦面 2 面、仕上げ~中域、縦横	
65	麻石	A	II	溝 138	惣持中	頁岩	22.30	2.85	2.45	221.2		縦面 4 面、縦、直方体(縁に近い)	
66	不明	A	II	溝 138	惣持中	凝灰岩	(3.53)	(2.63)	(0.39)	(2.0)	3/4 欠	研削面 1 面	
67	火打石	A	II	溝 138	惣持中	チャート	3.74	4.33	2.71	70.2		1 縦辺使用	
68	不明	A	II	溝 138	惣持中	砂岩	2.82	8.33	2.43	29.6			
69	不明	A	II	溝 138	惣持中	砂岩	13.80	8.70	2.82	520.0		未製品または特殊な工場の縦石か	
70	麻石	A	II	溝 138	惣持中	頁岩	8.10	8.10	7.05	590.0		隅 1 面(φ 4.27mm、深さ 0.8mm)、縦、横あり	
71	石臼	A	II	溝 138	惣持中	火山岩	(32.60)		(8.65)	(5500.0)	1/2 欠	上臼(溝 6 分)	
72	石臼	A	II	溝 138	惣持中	火山岩	(19.00)		(12.65)	(6500.0)	1/4 欠	新臼(1 面)、1 輪縁	
73	麻石	A	II	溝 138	惣持中	凝灰岩	(8.14)	8.90	(2.51)	(98.4)	割縁 1/2 欠	縦面 4 面、縦、直方体	
74	火打石	A	II	溝 138	惣持中	チャート	4.25	4.83	4.55	104.2		1 縦辺使用	
76	麻石	A	IV	溝 14	No. 1	頁岩	(20.60)	(0.90)	(9.25)	(1580.0)	1/4 欠	縦面 1 面、仕上げ~中域、置き縦石	
77	防風壁?	A	IV	溝 14	西側	砂岩	(3.86)	(1.95)	(1.10)	(9.7)	1/2 欠		
78	不明	A	IV	溝 14		凝灰岩	(10.89)	(2.84)	(0.59)	(19.9)	底部一部欠	隅 1 面	
79	不明	A	IV	溝 14		頁岩	(3.33)	(2.3)	(1.07)	(13.8)	側面一部欠	隅 1 面	
80	石臼	A	IV	溝 14	表土上	凝灰岩	(27.60)		(8.35)	(860.0)	1/2 欠	上臼、目洗い	
81	麻石	A	IV	溝 14		頁岩	(4.50)	(2.69)	(1.39)	(29.1)	1/4 欠	縦面 2 面、縦、直方体	
82	麻石	A	IV	溝 14		頁岩	(5.65)	(2.14)	(0.63)	(7.0)	3/4 欠	縦面 1 面、仕上げ	
83	石臼	A	IV	溝 14		火山岩	(32.80)		(12.35)	(7000.0)	3/4 欠	上臼、溝 5 分	
84	石臼	A	IV	溝 14		火成岩	(35.80)		(3.50)	(173.4)	下臼受け部	新臼	
85	石臼	A	IV	溝 14		砂岩	2.65	2.44	0.54	4.9			
86	石臼	A	IV	溝 14		火山岩	(16.40)		(12.50)	(4740.0)	1/2 欠	下臼(新臼)	
87	麻石	A	IV	溝 14		凝灰岩	(10.31)	(4.35)	2.03	(120.0)	割縁 1/2 欠	縦面(使用)、内外平面長方形	
88	不明	A	IV	溝 14		凝灰岩	(4.78)	(2.75)	(0.59)	(5.4)	溝縁表面のみ欠	2 面に割れ、縦面使用か	
89	不明	A	IV	溝 14		凝灰岩	(8.74)	(4.81)	(1.10)	(62.7)	溝・面欠	2 面に割れ、縦面使用か	
92	珠	B	I	焼土焼瓦 1	No. 10	花崗岩質 ペグマタイト	1.37	(1.49)	(1.40)	(3.4)	1/4 欠	孔径 3.8mm	
93	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 258	凝灰岩	(2.12)	(2.10)	(0.29)	(1.8)	1/2 欠		
94	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 276	石灰(水産)	4.84	7.00	2.46	95.2	完形		
96	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 292	石灰(水産)	5.14	5.72	1.50	41.6	完形		
97	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 299	石灰(水産)	11.07	5.85	3.52	256.8	完形		
98	6 基石	B	I	焼土焼瓦 2	東側	砂岩	2.56	2.41	0.68	6.5			
99	7 基石	B	I	焼土焼瓦 2	東側	砂岩	2.27	1.65	0.31	1.8			
100	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	南側	頁岩	3.63	3.44	0.66	9.5		縦面 1 面、仕上げ~中域、多角形板状	
101	麻石	B	I	焼土焼瓦 2		凝灰岩	6.84	(4.03)	(0.75)	(32.0)	1/4 欠	縦面 2 面に割れ	
102	麻石	B	I	焼土焼瓦 2		凝灰岩	(3.10)	(4.29)	(4.90)	(266.4)	3/4 欠	縦面 2 面、仕上げ~中域、直方体	
103	麻石	B	I	焼土焼瓦 2		緑色片岩	13.63	3.17	2.20	119.9		縦面 1 面、仕上げ~中域、直方体	
104	麻石	B	I	焼土焼瓦 2		頁岩	5.85	6.87	1.39	80.5		縦面 1 面、仕上げ~中域、置き縦石、平面形五角形	
105	石臼	B	I	焼土焼瓦 2	No. 2	火山岩	(22.80)		(14.20)	(3800.0)	3/4 欠	新臼(1 面)、1 輪縁具	
106	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 330	砂岩	(22.20)	(25.10)	(11.45)	(7500.0)	1/2 欠	縦面 2 面、縦、直方体	
107	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 339	頁岩	18.10	3.70	3.73	354.0		縦面 2 面、仕上げ~中域、直方体、側面ノミ加工	
108	石臼	B	I	焼土焼瓦 2		凝灰岩	(2.96)	3.41	(0.80)	(8.0)	溝・面欠	上臼	
109	石臼	B	I	焼土焼瓦 2		火山岩	33.20		12.70	29000.0		下臼、溝 6 分	
110	8 基石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 2	砂岩	2.21	2.02	0.77	5.4			
111	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 14	砂岩	(22.70)	(12.20)	(6.90)	(2500.0)	1/4 欠	縦面 2 面、縦、置き縦石	
112	麻石	B	I	焼土焼瓦 2	No. 366	緑色片岩	10.33	2.65	1.46	64.7		縦面 1 面、仕上げ~中域、直方体	
113	20 部金具	B	I	焼土焼瓦 2	No. 390	凝灰岩	(2.80)	(1.98)	(0.70)	(6.0)	1/2 欠	丸駒	
114	石臼?	B	I	焼土焼瓦 2	No. 391	火山岩	(32.40)		(2.61)	(157.9)		上臼縁の一部の 破れ	
115	麻石	B	I	焼土焼瓦 2		頁岩	3.09	2.20	0.45	6.1	完形	縦面 2 面、仕上げ~中域、手持ち縦石、板状	
116	9 基石	B	IV	焼土焼瓦 2	東側	砂岩	2.82	2.64	0.40	4.4		白粉石か	
118	不明	B	IV	焼土焼瓦 2		凝灰岩	12.33	7.73	(1.98)	(354.0)	縁部全欠	内外平面長方形	
119	石臼	B	IV	焼土焼瓦 2		火山岩	(34.40)		(14.60)	(10500.0)	1/3 欠	下臼、溝 6 分	

※ () 内の数字は積存数を表す。



图 58 石製品

5 金属製品（表 19・20、図 59、写真図版 19）

（1）概要

金属製品は 409 点出土し、その内訳は鉄製品 200 点、銅製品 120 点、金属種別不明 7 点、銭貨 82 点である。その他、滓が 200 袋、58261.0g 出土している。

器種は、鉄製品が刀子・鎌・鋸・小型スコップ・鉄・燧鉄・釘・火箸・包丁・匙・その他不明品、銅製品が小柄・切羽・刀装具・煙管・分銅・釘・毛抜き・吊金具・取っ手・匙・鏡・鈴・銅線・針金・その他不明品、銭貨である。銭貨・滓は第 IV 章に詳細を記載し、本項ではその他の製品について記述する。製品は比較的残存状態の良いなもの、特徴的なものを中心に 25 点を図示している。実測遺物の出土地点・器種・寸法等については表 19、全出土金属製品の出土地点・器種の一覧については表 20 を参照されたい。遺物の記載にあたっては図番号を使用している。遺物の形状等については、X 線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

（2）鉄製品

刀子（1） 2 点が出土し、1 点を図示している。1 は両刃であり、小柄の小刀の可能性が考えられる。

鉄（2） 1 点が出土し、図示している。2 は和鉄であり、刃部の断面は三角形、頸部の断面は方形である。

燧鉄（3） 1 点が出土し、図示している。3 は頂部及び裾部の両面に木質が付着している。

釘（4・5） 141 点が出土し、2 点を図示している。図示していないものも含めて全て断面が方形もしくは長方形の和釘である。4・5 とともに、頭部は基部上端を叩き伸ばし、折り返した形状をしている。

不明（6・7） 49 点が出土し、2 点を図示している。6 は断面円形の棒状製品で、片端を折り返して輪状にした形状をしている。輪の断面は方形を呈している。7 は板を折り曲げ、折り曲げ部を膨らまして輪状にした形状をしている。

（3）銅製品

小柄（8～12） 7 点が出土し、5 点を図示している。いずれも柄である。8・11 は刃部が一部残存している。9・10・12 は片面に文様が見られ、9・12 は草花の装飾が施されている。10 は棟側に鉄が打ち込まれる。

煙管（13～16） 50 点が出土し、4 点を図示している。いずれも羅字煙管である。また、14・16 には金鍍金が施される。13 は小口の断面が八角形を呈し、「保知」の刻書がされる。近江日野の「保知煙管」とみられる。15 は小口の断面が十角形を呈する。

分銅（17・18） 2 点が出土し、図示している。17 は四角柱の一面が窪む凹型で、上部に孔を開けた取っ手、下部に四角錐台が 2 つ重なった形状のものが付く。18 は丸みを帯びた角の四角柱で、上部に孔を開けた取っ手が付く形状をしている。側面には何らかの刻印が施されているが、錆化などにより、「天下一」と読み取れるのみである。

釘（19） 2 点が出土し、1 点を図示している。19 の頭部は丸型の皿が基部に覆いかぶさる形状をしている。鋸と推定される。

毛抜き（20） 1 点が出土し、図示している。20 は断面が扁平な長方形で、逆 U 字形の先端を内側へ曲げた形状をしている。

吊金具（21・22） 5 点が出土し、2 点を図示している。21 は片面の上端部に八弁花 3 輪が施される。22 は金鍍金が施され、片面の上端部には装飾が見られる。

鏡（23） 1 点が出土し、図示している。23 は柄が欠損した方形の柄鏡と推定される。裏面には、「布」、「天下一上村大和守」と陽刻される。

鈴 (24) 1点が出土し、図示している。24の鈕は棒状の先端を輪状にした形状で、頂部を穿孔し差し込み留めている。中央部には上下のつなぎ目が見られる。変形しており、下部のスカシ孔の形状は不明である。

不明 (25) 45点が出土し、1点を図示している。25は板を筒状に丸めた形状で、金鍍金が施される。

表 19 金属製品一覧表

実測 No.	ID	地区	検出面	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	金属種別	備考
1	296	A	Ⅱ	水道遺構 8		刀子	144.2	12.5	2.6	11.6	Fe	某欠
2	196	A	Ⅲ b	灰坑 6	No 1	鏡	120.3	25.9	4.0	17.6	Fe	端部欠
3	135	A	Ⅱ	水道遺構 4		鑄鉄	76.7	25.1	3.1	7.7	Fe	取部欠/木質付着
4	120	A	Ⅱ	上 93		釘	80.5	10.2	3.8	3.9	Fe	脚部先端欠/断面方形
5	121	A	Ⅱ	上 93		釘	76.5	13.3	3.7	6.2	Fe	脚部先端欠/断面方形
6	12	A	I	上 3	東平	不明	67.1	12.0	4.7	6.7	Fe	断面円形の棒状製品
7	297	A	Ⅱ	水道遺構 1		不明	40.9	8.8	6.5	2.1	Fe	板を折り曲げた形状
8	173	A	Ⅲ a	検出面	No 184	小柄	106.7	12.8	5.4	22.4	Cu + Fe	柄/対部の一部が残る
9	182	A	Ⅲ a	周観門 11	No 4	小柄	50.3	12.9	4.5	6.2	Cu	柄/片面に草花の装飾あり
10	208	A		排上		小柄	93.7	12.0	3.3	10.9	Cu + Fe	柄/片面に線状の文様あり
11	306	A	Ⅱ	上 141	No 8	小柄	100.7	118.0	5.7	13.0	Cu + Fe	柄/対部の一部が残る
12	307	A	Ⅱ	上 133	No 5	小柄	50.9	12.0	3.8	6.7	Cu	柄/片面に草花の装飾あり
13	15	A	I	上 27		煙管	84.5	10.8	10.5	9.5	Cu	吸口/小口断面八角形/「保知」の刻書あり
14	57	A	I	上 81	No 6	煙管	50.8	14.3	8.2	5.5	Cu	雁首/金鍍金
15	106	A	Ⅱ	上 28	No 1	煙管	71.6	15.2	9.4	11.7	Cu	雁首/小口断面十角形
16	319	A	Ⅳ	上 10	No 3	煙管	47.1	14.6	14.5	4.1	Cu	雁首/金鍍金
17	195	A	Ⅲ b	検出面	No 231	分銅	22.6	12.2	12.2	20.7	Cu	完形
18	202	A		東壁		分銅	32.8	14.3	14.3	48.4	Cu	完形
19	214	A	I	建物 1	十字トレンチ西	釘	35.3	10.3	5.7	1.3	Cu	完形/断面円形
20	403	B	Ⅲ b	整地上		毛抜き	30.0	28.8	2.6	2.8	Cu	完形/断面扁平な長方形
21	340	B	I	溝 1	No 3	吊金具	38.3	6.0	1.0	1.8	Cu	完形/片面の上部部に装飾あり
22	401	B	Ⅲ b	上 3	No 9	吊金具	32.5	6.3	1.2	1.2	Cu	完形/片面の上部部に装飾あり/金鍍金
23	138	A	Ⅱ	溝 3・4		鏡か	77.0	60.8	1.5	53.6	Cu	裏面に蘭刻あり
24	172	A	Ⅲ a	検出面	No 183	鈴	19.0	18.9	18.6	2.7	Cu	完形
25	336	B	I	水道遺構 2	No 6	不明	132.0	5.7	5.7	6.0	Cu	筒状製品/金鍍金

表 20 金属製品分布表

金属種別	器種	調査区・検出面														計
		A-I	A-II	A-Ⅲ a	A-Ⅲ b	A-Ⅳ	A	B-I	B-II	B-Ⅲ a	B-Ⅲ b	B-Ⅳ	B	立会	排上	
鉄製品	刀子		2													2
	鏡	1														1
	鍔	1														1
	小型スコップ	1														1
	鏡				1											1
	鑄鉄		1													1
	釘	81	36				1	16	6	1						141
	火箸		1													1
	包丁		1													1
	匙							1								1
	不明	20	16	1		2	2	5	2	1						49
	小柄		2	3			1	1								7
	切刃	1														1
	刀装具		1													1
銅製品	煙管	13	14	10		1	1	5	1	3					2	50
	分銅				1		1									2
	釘	1	1													2
	毛抜き										1					1
	吊金具				1			2	1	1						5
	取っ手	1														1
	匙			1												1
	鏡			1												1
	鈴				1											1
	銅板	1														1
	針金	1														1
	残貨	23	20	7	6	3	2	11	4		3	1	1	1		82
	不明	17	11	3	1				10	2		1				45
	不明	3	1							2	1					7
計		165	109	26	9	6	8	51	18	6	6	1	1	1	2	409

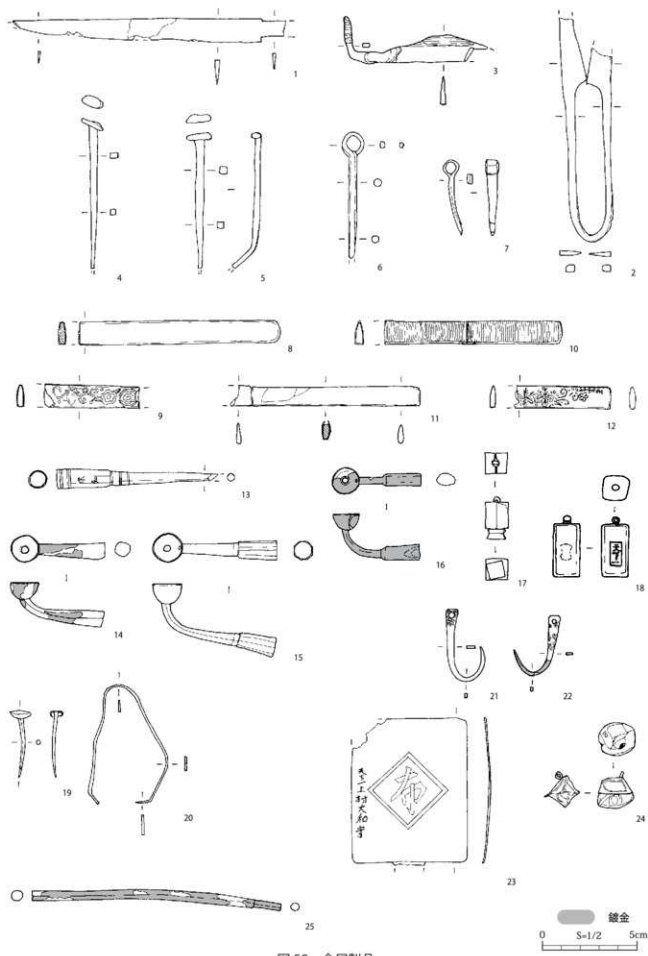


图 59 金属製品

6 自然遺物（表21～26、写真図版13）

今回の調査で、動物遺存体 379 点と植物遺存体 394 点で、自然遺物として合計 773 点が出土した。遺存状態が良く、本市でも出土事例の多いものの同定は文献 11・12 を参考に肉眼観察で行った。同定が困難なものについては、一般社団法人文化財科学研究センターに委託した。

(1) 動物遺存体

ア 哺乳類

本次調査において、哺乳類の出土骨の同定数（NISP）は 234 個体を数える。検出面別各部位の出土点数は表 21 のとおりである。出土試料は主に獣骨であり、10 種と不明 1 種があると同定された。

A 区 I 検からはほとんど骨の出土はみられず、鹿角が 1 点確認できただけである。A 区 II 検・B 区 I 検では、イヌやシカ等 6 種の骨が出土し、その点数は 22 点である。A・B 区 III 検は、最も骨が多く含まれていた検出面で、全体の 7 割程を占める。特に B 区 III b 検の溝 2 からイヌの骨が 125 点と集中して見つかり、指骨から頭蓋骨まで様々な部位が認められた。また、イヌの最小個体数は 4 匹であることがわかった。A・B 区 IV 検でも多種の骨が見つかり、シカ骨の出土点数は最も多いことがわかった。

イ 鳥類

鳥類の骨は 4 点出土した。いずれもニワトリの骨で、A・B 区 III 検で脛足根骨が 1 点、A・B 区 IV 検で脛足根骨 1 点と大腸骨 2 点が土坑から出している。

ウ 爬虫類

イシガメの腹甲骨板 8 点が、A 区 II 検の土 56 からまとまって出た。甲羅などの他部位が見つからないことから、なんらかの目的で解体され、土坑に廃棄されたものと推定される。

エ 魚類

A・B 区 III 検からタイ科の椎骨が 1 点と、A 区 I 検の土 60 から硬骨魚類と考えられる部位不明の骨が 6 点出している。

オ 貝類

貝類は、大きく二枚貝と巻き貝に分けて表に検出面別の出土点数を提示した。出た貝殻の総数は 128 点で、このうち 95% 程度を海生種が占める。サザエの出土量が最も多く 38 点を数え、次いでハマグリとシジミも多く、それぞれ 23 点と 24 点が出ている。A・B 区の I～III 検は、貝殻の種類も点数も多くみられるが、A・B 区 IV 検では、アサリ 4 点と不明種 1 点が出たのみである。

推定御使者宿の範囲内での主な貝類の出土は、サザエ 15 点、ハマグリ 9 点、アワビ 4 点、ホタテ 4 点など、高級な魚介料理に使用される種類が目立つ。客人をもてなすために高級な食膳が振る舞われたことが想像でき、御使者宿の当時の様子をうかがうことのできる資料が得られた。

A・B 区 III 検においても、御使者宿が本調査地に設けられる前の時期にも関わらず、整地層中から同じような高級魚介類が多く出ている。これが何を意味しているのか不明な点が多いが、おそらく松本城内や裕福な商家があった場所から土を運び入れたのであろう。

表 21 哺乳類骨出土地別一覧表

種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480	1481	1482	1483	1484	1485	1486	1487	1488	1489</
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------

表 22 鳥類・爬虫類・魚類骨出土地別一覧表

調査区/検出面	鳥類		爬虫類		魚類			
	ニワトリ		イシガメ		タイ科		不明	
	個数	部位	個数	部位	個数	部位	個数	部位
A区Ⅰ検							1	不明
A区Ⅱ検・B区Ⅰ検			8	腹甲骨板				
B区Ⅱ検								
A・B区Ⅲ検	1	脛足根骨			3	椎骨		
A・B区Ⅳ検	1	大腿骨						
計	2		8		3		1	

表 23 二枚貝出土地別一覧表

	ハマグリ		アサリ		シジミ		ホタテ		クロアワビ	
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
A区Ⅰ検	2	8.8	-	-	16	19.6	5	31.2	1	13.8
A区Ⅱ検・B区Ⅰ検	11	89.3	-	-	3	5.5	5	8.8	3	316.8
B区Ⅱ検	-	-	-	-	-	-	2	5.3	1	13.1
A・B区Ⅲ検	10	57.5	2	3.9	4	3.3	3	6	5	35.3以上
A・B区Ⅳ検	-	-	4	94.7	-	-	-	-	2	22
排土	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
計	23	155.6	6	98.6	24	30.4	15	51.3	12	365.7

表 24 巻き貝出土地別一覧表

	サザエ		ダンベイキサゴ		タニシ科		カワニナ		不明	
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
A区Ⅰ検	15	108.8	-	-	-	-	1	0.6		
A区Ⅱ検・B区Ⅰ検	12	447.7	1	3.1	-	-	-	-	3	3.6
B区Ⅱ検	5	123.6	-	-	-	-	-	-	-	-
A・B区Ⅲ検	6	96.6	-	-	1	2.3	-	-	-	-
A・B区Ⅳ検	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4.2
計	38	776.7	1	3.1	1	2.3	1	0.6	4	7.8

(2) 植物遺存体

植物遺存体の出土数は394点がある。その内訳は、モモ182点、オニクルミ137点、アンズ4点、ウメ2点、ニホンカボチャ69点がある。検出面の時期ごとの出土量については表25を参照されたい。

特に目立った遺構としては、A区Ⅱ検の溝5でモモ10点、土56でモモ22点、土93でオニクルミ9点・モモ4点が出土した。土56・93は遺物の出土状況からゴミ穴と考えられる。溝5は木桶を設置する際に入り込んだものである。また、B区Ⅰ検の土8からニホンカボチャの種が69点まとまって出土した。

表 25 種子類出土地別一覧表

	モモ		オニクルミ		アンズ		ウメ		ニホンカボチャ	
	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)
A区第Ⅰ検出面	24	36.7	32	62.8	-	-	2	0.6	-	-
A区第Ⅱ検出面・ B区第Ⅰ検出面	88	126.2	59	96.8	1	0.5	-	-	69	1.5
B区第Ⅱ検出面	4	4.6	7	10.5	-	-	-	-	-	-
A・B区第Ⅲ検出面	41	69.9	26	54.5	2	1.2	-	-	-	-
A・B区第Ⅳ検出面	25	43.7	13	28.2	1	0.3	-	-	-	-
計	182	281.1	137	252.8	4	2	2	0.6	69	1.5

表 26 種名表

軟体動物門 Mollusca	鳥綱 Aves
腹足綱 Gastropoda	キジ目 Galliformes
古腹足目 Vetigastropoda	キジ科 Phasianidae
リュウテン科 Turbinidae	ニワトリ Gullus domesticus
サザエ Turbo sazae	哺乳綱 Mammalia
ミミガイ科 Haliotidae	食肉目 Carnivora
ミミガイ科の一種 (アワビ類) Haliotidae gen. et sp. indet.	イヌ科 Canidae
ニシキウズガイ科 Trochidae	イヌ Canis familiaris
ダンベイキサゴ Umbonium giganteum	キツネ属 Vulpes
盤足目 Discopoda	ネコ科 Felidae
タニシ科 Viviparidae	ネコ Felis catus
タニシ科の一種 Viviparidae gen. et sp. indet.	イタチ科 Mustelinae
吸腔目 Sorbeoconcha	テン Martes melampus
カワナナ科 Pleuroceridae	奇蹄目 Perissodactyla
カワナナ Semisulcospira libertina	ウマ科 Equidae
斧足綱 Bivalvia	ウマ Equus caballus
マルスダレガイ目 Veneroida	偶蹄目 Artiodactyla
マルスダレガイ科 Veneridae	ウシ科 Bovidae
ハマグリ Meretrix lusoria	ウシ Bos Taurus
アサリ Ruditapes philippinarum	イノシシ科 Suidae
シジミ科 Cyrenoidae	イノシシ Sus scrofa
シジミ Cyrenoidae	シカ科 Cervidae
イタヤガイ目 Pectinoidea	ニホンジカ Cervus nippon
イタヤガイ科 Pectinidae	霊長目 Primate
ホタテガイ Mizuhopecten yessoensis	オナガザル科 Cercopithecidae
脊椎動物門 Vertebrata	ニホンザル Macaca fasciata
骨魚綱 Osteichthyes	ヒト科 Hominidae
スズキ目 Perciformes	ヒト Homo sapiens
タイ科 Sparidae	オニグルミ Juglans ailanthifolia Carr.
爬虫綱 Reptilia	モモ Amygdalus percia
カメ目 Testudines	ウメ Prunus mume
イシガメ科 Bataguridae	アンズ Prunus armeniaca L.
イシガメ科の一種 Bataguridae gen. et sp. indet.	ニホンカボチャ Cucurbita moschata Duch.

参考文献 (文献番号は第三章 3節 3の続き)

- 文献 10 金原美奈子 2018 『松本城跡出土遺物自然科学分析業務委託報告書』(一社)文化財科学研究センター (松本市教育委員会所蔵)
- 文献 11 松井 章 2006 『動物考古学の手引き』奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター
- 文献 12 長野県埋蔵文化財センター 2000 『松原遺跡 弥生・総論 8 総論・自然科学分析』
『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 5』埋蔵文化財センター発掘調査報告書 36

第四章 鑄造関連資料について

吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体・吉野ヶ里公園管理センター
歴史専門員 梅崎 恵司

平成 30 年 (2018)11 月 6・7 日に、松本城下町跡本町 (松本市中央 2 丁目所在) 第 8 次発掘調査出土の鑄造関連資料を、埋蔵文化財整理作業所で拝見させて頂いた。考古学的な非鉄系関連資料は、福岡県北九州市小倉南区の尾崎遺跡 (平安時代の銅製鎌 文献 14)、同八幡西区の黒崎城跡第 17 区 [寛永通寶鑄造以前の福岡藩黒崎鑄銭場 (いせんぼ) 文献 15] などがある。報告作成にあたり先学の御指導をいただき、成果は 2008 年にまとめた。よって、これまでの所見と比較しながら進める。述べるに当たり「松本銭座 (江戸幕府公認寛永通寶銭座)、松本銭 (松本銭座で鑄銭された寛永通寶)」の意である通称を使用する。又、銭座一覧表 (表 27) と略年表を作成したので参照していただきたい。

1 調査地

第 8 次発掘調査地は長野県松本市中央 2 丁目に所在。そこは江戸時代の本町で、国宝松本城天守から南に約 700m (女鳥羽川の南 150m) に位置する。又、西からの野麦街道と北からの善光寺街道との交差点の南東に御使者宿があったとされる。以下に市史などから関連記事を列挙する。

天正 17 年 (1589) 小笠原貞政領す。倉科七郎左衛門、松本町間屋職に任命される。

文禄元年 (1592)3 月 29 日『信濃資料』巻 17 (今井文書、桐原進逸保管) に「石川三長、康長、今井勘右衛門等に命じて、近在奉公人等の国役人足役を免除す」とある。

慶長 11 年 (1606) 今井勘右衛門、肝煎職 (町役人) に任命される。

寛文 7 年 (1667) 常設の御使者宿が本町 2 丁目に設けられる。

延宝 2 年 (1674) 御使者宿の運営が今井家に任命。以後、幕末まで続く。

享保 13 年 (1728) 享保十三年秋改松本城下絵図では、「使者宿 六右衛門」とある。

天明 3 年 (1783) 中町裏小路～本町正安小路まで焼失。御使者宿が本町 4 丁目に移る。

上記の内容から、寛文年から享保年までのおよそ 100 年余りは、今橋家あるいは今井家屋敷兼御使者宿があり、後、江戸後期の地震と火災に見舞われたのである。『古実伝述記』(河辺久雄文書)、「寛永銭なども庄内分、堀米村分二ヶ所にて御免、鑄之候由」とある。庄内は飯田町鍋屋小路三輪忠兵衛工場のことで、堀米は (島立) のことである。現島立は松本城から西に約 2km である。

2 整地層出土遺物

銭、埴塼、鉾津などの銭座関連資料は A 区 I 検・A 区 II 検/B 区 I 検・B 区 II 検の整地層の内、A 区 II 検/B 区 I 検から主に出土。層位の年代は、A 区 I 検が 18 世紀後半～19 世紀初頭、A 区 II 検/B 区 I 検が 17 世紀後半～18 世紀前半、B 区 II 検が 17 世紀中頃である。従って、発掘された内容は、銭座解散後の状態である。つまり、寛永 17 年 (1640) 銭座解散、慶安元年 (1648) 乾瑞寺創建、寛文 7 年 (1667) 御使者宿常設、本町 2 丁目に設置。宝永 4 年 (1707)、宝永大地震。天明 3 年 (1783)、中町裏小路～本町正安小路まで焼失。御使者宿本町 4 丁目に移設。嘉永 7 年 (1854)、大地震。慶応元年 (1865) 博労町山城屋出火、中町まで被

害及ぶ。この経緯の中で、用地は時の事情により改変された。調査地は町屋と御使者宿を主体として事あるたびに、撤去と新設を行ってきた。整地はその都度、行われていたのであるから、混入も同時に起こり、埋め土となっていたと予測される。調査では、大きく18世紀中頃の前後で層が二分されていた。この上下層の中で、特に下層のⅡ層から以下の遺物が出土している。

(1) 古銭(表28～30、図60・61、写真図版20)

古銭82枚出土の内、北宋銭他中国銭等は25枚(A区Ⅰ検1枚、A区Ⅱ検/B区Ⅰ検6枚、A/B区Ⅲ検12枚、A/B区Ⅳ検3枚、出土層不明3枚出土)出土で、Ⅲ検に多い。銭種は以下のとおりである。

開元通寶・初鑄621年2枚、乾元重寶・初鑄758年1枚、宋通元寶・初鑄968年1枚、至道元寶・初鑄995年1枚、祥符通寶・初鑄1008年1枚、天禧通寶・初鑄1017年1枚、景祐元寶・初鑄1034年1枚、皇宋通寶・初鑄1039年1枚、至和元寶・初鑄1054～55年1枚、嘉祐元寶・初鑄1056年1枚、治平通寶・初鑄1064年1枚、熈寧元寶・初鑄1068年4枚、元豐通寶・初鑄1078年3枚、元祐通寶・初鑄1086年2枚、景定元寶・初鑄1260年1枚、洪武通寶・初鑄1368年1枚、永樂通寶・初鑄1408年2枚、寛永通寶・初鑄1636年51枚(Ⅰ～Ⅲ面)、鋳銭1枚。

寛永通寶は全体で51枚出土。完成品の古寛永26枚(A区Ⅰ検12枚、A区Ⅱ検/B区Ⅰ検12枚、B区Ⅱ検1枚、A/B区Ⅲ検1枚)。バリ付9枚(A区Ⅰ検1枚、A区Ⅱ検/B区Ⅰ検6枚、B区Ⅱ検2枚出土)。新寛永11枚(A区Ⅰ検6枚、A区Ⅱ検/B区Ⅰ検4枚、出土層不明1枚)。背文銭4枚、背十一波銭1枚。不明3枚。明治時代の一銭2枚。

(2) 鑄放(バリ付寛永通寶)(表29・30、図62・63、写真図版21)

前述のなかで、寛永通寶資料は51枚の内、バリ(鑄造後に鑄造品の表面に残る突起・英burr)付が9枚である。これらは仕上がりが不具合な銭、破損品などで、研磨されたものではない。鑄造後に枝から離された銭の内、研磨仕上げ(成品化)をしない銭で、次回の材料として使用される銭や銭片である。表の文字が残る資料から字体が読みとれる。文字からして、いわゆる鑄放で市場に出回ることはない。従って調査地点は古寛永通寶銭座内、もしくは周辺にあたる。残りの成品26枚はやはり字体からして古寛永である。他に新寛永11枚、背文銭4枚、背十一波銭1枚あり。他の宋銭は、改鑄の素材となる銭であった可能性がある。中国銭はⅢ検出土が12枚でまとまっている。Ⅲ検の年代は、出土遺物から下限が1620年代と考えられる。

(3) 枝銭(棹付銭)他(図63、写真図版21)

当地の発掘資料ではないが、今井家(当時、大名主で御使者宿兼務の今井勘右衛門が藩に寛永通寶鑄造役を出願した家柄)に伝わっている枝銭(1995.市指定文化財・長野県松本市立博物館常設展示)1点がある。他二の丸御殿跡出土棹片(模鑄銭、寛永通寶の棹は断面三角形が特徴)1点(松本市教育委員会 1985)がある。尚、棹とは銭を鑄造する時に溶銅が流れる溝のことで、ここに流れた溶銅が固まって残った棒状の小片である。通常、回収され再利用される。

(4) 出土銭の法量と字体

寛永通寶の法量はおおよそ、外径22.3～28.3mm、内径18.4～21.2mm、方孔巾5.2～8.4mm、厚み0.8～2.0mm、外輪巾1.4～3.3mm、郭巾0.1～1.0mm、背郭巾0.7～2.8mm、重量1.1～5.0gである。色調は黒銀が大半を占めるが、緑青や赤褐のものも見られる。

バリ付寛永通寶(松本銭の基本資料)の部位詳細は次のようである。外輪巾は中広、背外輪巾は広い。方

孔郭巾は巾狭く、背方孔郭巾は広い。字体は、「寛」のウカンムリがつぶれ、「永」は平で最後の画は長足。「通」は方孔内に納まるチヂミ。「寶」は方孔内に納まらず、タカラ部は長めで、左上に仰ぎ斜めにひずむ。概観したが、詳細の比較研究は課題である。

(5) 金属片 (写真図版 24)

外面灰色、粉吹き状で、長さ 39.3mm、幅 19.0mm、厚み 5.6mm、重さ 14.6g の金属片が 1 点ある。一見、鉛のように見えるが、分析を要する。

(6) 埴塼 (表 31、図 64・65、写真図版 22・23)

埴塼片 200 点余り、推定埴塼個体数約 30 点。形状は砲弾型でおよそ、高さ(復元値)15.5cm、口径(復元値)10.0cm、厚み(胴部)0.8～1.1cm である。胎土は陶質で、須恵質や磁器質はない。肉眼観察の外面色調は、黒、白、茶、黄、灰、緑、赤紫などの酸化色である。これらは比熱を受け、使用時にタレたり、アワ状になって付着したものである。内面は胎土色で、やはり外面同様に酸化色である。中でも内側に緑青が残る例がある。断面は表裏からの受熱のため色調が 2～3 層に分かれる例がある。

(7) 埴塼片利用の砥石

数cm大の埴塼片の内面を使用した砥石で、凹状にくぼむ例が多い。福岡藩黒崎城跡の鋳銭場や備前岡山藩二日市遺跡の銭座で出土しているが、ここでは見られない。

(8) トリベ (取鋼) (表 31、図 64・65、写真図版 24)

加熱され黒灰色を呈し、表面が剥がれた様になっている。胴部径 7.6cm、口径 3.0cm、体部厚み 1.1cm、高さ 7.7cm の小形湾型のトリベ 1 点 (59) および胴部の破片が 1 点 (60) が出土。59 は、つまみ部分が欠けている。これは黒崎城跡で出土している例に類似する。これまでの例は、赤紫に変色していることや分析から亜鉛の割合が高いことから、真鍮精錬時の色見に使用されたのではないかとされている。蓋と組み合わせて使用される。

(9) 砥石 (表 18、図 58、写真図版 18)

全長 10cm 大の角柱上の細長い砥石 6 点の他、長方形砥石が 21 点、板状のものや欠損品が 15 点ある。いずれも堆積岩で砂岩や泥岩系である。岡山藩出土の銭幅で砥石面がくぼみ、溝になった銭の表裏を研ぐ平研砥石は出土していない。これらが銭の研磨に使用されたかは不明である。

(10) サヤ (匣) (写真図版 24)

10cm 前後の土師質の円板状破片が数点出土している。これらは小吹き用炉(鋳込みを行う時に埴塼内容物の温度が下がらないようにするための可動式炉)の小片とみられる。

(11) 鋳滓 (写真図版 24)

整理用コンテナ 23 箱が出土している。数cm大の平面円盤状で、厚さ 1cm ほどの板状の破片が多数出土している。上面は黒く変色した粘土、木片、炭などが付着している。下面は比較的平で粗砂が付着している。これは製錬の初期段階で、カラミ(空身)のようである。

他、黒色でアワをふいたような形状の鋳滓、ガラス質の鋳滓などがある。これらは銅を主とした非鉄系金

属の製錬の各工程から排出されたものの可能性が高い。具体的内容については理化学的な分析を要する。

(12) まとめ

前述の出土遺物を概観した。鑄放の寛永通寶、中国銭、砲弾型増場、トリベ、砥石、サヤ、鋳滓などについて概略を述べた。これらは鑄銭の工程の前半（熔土・ほど）に関わる資料である。後半の仕上げ工程の研場（ときば）に伴う大量の砥石は見られない。成果の中で、砲弾型増場やサヤは寛永通寶鑄銭のみに使用される鑄銭専用道具である。ここでは古寛永通寶鑄銭に使用されたものと考えられる。鑄放は松本銭座に関連した確証であり、松本銭の基準資料である。これらは信濃松本藩の寛永通寶銭座に関わる好資料である。

砲弾型増場は量的に、黒崎城跡^{文獻15}や加治木銭工房^{文獻13}の整理用コンテナ 100～200箱出土と比較して少ない。よって調査地は銭座工房建物部分ではなく、その周辺部にあたと予測される。従って、炉跡などの工房施設は周辺（鍋屋小路）に埋蔵されている可能性がよりいっそう具体的になった。又、松本銭の字体の特徴については概略したものの詳細は、これまでの出土品、もしくは所蔵品の要検証、他の銭との比較検討が進められ、銭貨研究の貴重な成果が希望される。さらに、寛永通寶鑄銭の契機になった、銅材料が足尾銅山から求められたかなどは、要理化学的な分析検証である。尚、市史^{文獻2}などでは、松本銭座設置と解散の理由は、以下のように言われている。

ア 経済の要衝として、本州内陸部の銭貨流通を促すため。

イ 足尾銅山等の生産量増加により操業、松平直政、松江転封により銭座解散。

ウ 徳川将軍家光の従兄弟関係を気遣い、親藩直政に対して月見柵築造など増築した優遇措置の一つとして銭座操業を許した。

以下に松本銭の略歴を作成した。

永正年間(1504～) 深志城築城か。

天正 10 年(1582) 小笠原貞慶、松本を領し、深志城を松本城と改称。城下町整備。

天正 17 年(1589) 小笠原貞政領す。倉科七朗左衛門、松本町間屋職に任命される。

文禄元年(1592)3月29日『信濃資料』巻17(今井文書・桐原連逸保管)

「石川三長、康長、今井勘右衛門等に命じて、近在奉公人等の国役人足役を免除す」

文禄 2 年(1593) 石川康長領す。松本城天守完成。

慶長 5・6 年(1600・1601) 江戸幕府、金座・銀座設置。

慶長 11 年(1606) 今井勘右衛門、肝煎職(町役人)に任命される。

慶長 13 年(1608) 永楽銭廃止。

寛永 10 年(1633)4月7日 松平直政藩主 33才入封7万石。5月下旬入城。

寛永 13 年(1636) 足尾銅山等の生産量増加。

寛永 13 年(1636)6月 徳川幕府特命により江戸の芝と、近江坂本の2か所で寛永通寶鑄造。

寛永 13 年(1636)6月10日触書 金一両4貫目、金一分一貫目の公定歩合を破るもの、大かけ、われ銭、かたなし、ころ銭、なまり銭、新悪銭を使用するものは連帯責任とする。

寛永 13 年(1636)12月27日 松本銭座、藩奉行人7名連署により許可書が出される。

請元は大名主(酒庄屋、穀物商、貸家業)・肝煎職(町役人)で御使者宿兼務の今井勘右衛門(子の六右衛門が後に御使者宿を運営)である。鑄銭方三輪忠兵衛、銭座は鍋屋小路(庄内分)と堀米分・島立である。

「寛永通寶」の書体は伝僧天海書。特長は「寶が仰く斜寶」「斜寶縮寶」。銅 10 貫匁、錫 6 貫匁の割合で鑄銭。銭座は鍋屋小路「田中、濱、三輪、戸田の 4 軒の鑄物師屋」。
濱石見、田中弦右衛は河内の国丹南郡の鑄物師。元和 8 年 (1622) 飯田町に住む。寺の鐘鑄造。
濱氏、天正 12 年 (1584) 小笠原貞慶招きで、飯田町に住み梵鐘製作。

寛永 14 年 (1637) 水戸、仙台、三河吉田、信濃松本、越後高田、長門萩、備前岡山、豊後竹田の 8 か所に銭座を設ける。松本銭座操業開始。

寛永 14 年 (1637) ~ 正保 3 年 (1646) 銅輸出禁止措置(銅銭不足の原因・寛永通寶の鑄造材料確保のため)

寛永 15 年 (1638) 2 月 出雲松江藩 26.4 万石京極若狭守忠高亡。松平直政転封出雲松江 18.6 万石。

松平因幡守勝義松本城番。直政 6 年在城。

寛永 16 年 (1639) 駿河井之宮にも銭座を設ける。

寛永 16 年 (1639) 銭貨相場の下落、1 貫文は銀 16-12 匁の交換。

寛永 17 年 (1640) 萩藩江戸留守居役福岡彦右衛門の『福岡隴』に

「近年諸国にて寛永の新銭仰せ付けられ候ところに、いずれも沢山に鑄出し、もはや御用無しに候条、国々鑄銭きつと差し留め、鑄させ申す間敷き」旨仰せ渡された。そして、他の銭座とも同様であった」とある。松本銭座操業開始から 4 年間操業した後、銭座解散。

寛永 17 年 (1640) 松本銭座、鍋屋小路で鑄造鑄銭の解散。

寛永 18 年 (1641) 地方鑄銭禁止。

寛永 21 年 (1645) 中町周辺で火災。

慶安元年 (1648) 乾瑞寺(禪寺)創建。水野忠職(ただもと)の弟(京都妙心寺養賢院、後性宣の龍天和和尚)を招き、水野家由緒寺とす。現郵便局の裏に墓地有。

『信府統記』に「境内飯田町南北 31 間 3 尺、東西 22 間 3 尺、本町南北 18 間 3 尺、22 間」とあり、本町矢島茂左衛門の持ち地間口 1 間、奥行 10 間 5 尺を買い、本町に通ずる裏門を造る。この小路を乾瑞寺小路と呼んだ。

万治 2 年 (1659) 万治 2 年までの鑄造寛永通寶を古寛永通寶という。

寛文 7 年 (1667) 常設の御使者宿が本町 2 丁目に設けられる。

寛文 8 年 (1668) 寛文 8 年以降鑄造された寛永通寶を新寛永通寶と言う。

延宝 2 年 (1674) 御使者宿の運営が今井家に任命。以後、幕末まで続く。

元禄 9 年 (1696) 本町越後屋出火、本町・中町に被害がでる。

宝永 4 年 (1707) 宝永大地震発生。

享保 13 年 (1728) 享保 13 年秋改松本城下絵図では、「使者宿 六右衛門」とある。

元文 4 年 (1739) 鉄 1 文銭出現。

明和 2 年 (1765) 金座・銀座が銭貨鑄造兼任。

安永 5 年 (1776) 中町の綿屋出火、広域焼失。

天明 3 年 (1783) 中町裏小路～本町正安小路まで焼失。御使者宿が本町 4 丁目に移る。

文化 11 年 (1814) 十返舎一九松本来訪。

天保 14 年 (1843) 『善光寺道名所図会』で、松本城下町紹介。

嘉永 7 年 (1854) 松本地方大地震。

万延元年(1860) 鉄4文銭出現。

慶応元年(1865) 博労町山城屋出火。中町まで被害及ぶ。

昭和43年(1968) 旧市民会館の北側に松本銭座記念碑建立。

昭和60年(1985) 松本市教育委員会社会教育課(松本市 1985)に、松本城二の丸御殿跡から古寛永13枚、新寛永92枚、鋳棒1枚が出土し報告された。

平成3年(1991) 今井敬三氏より、今井家に代々伝えられてきた枝銭と許状が松本市に寄贈される。

平成7年(1995)4月28日 市重要文化財指定・今井家文書と枝銭。長野県松本市立博物館常設展示。

平成27年(2015)8月3日～28年(2016)9月13日。松本城下町跡本町第8次発掘調査。

平成30年(2018) 松本城下町跡本町第8次発掘調査報告書作成。

平成30年(2018) 『月刊「収集」』7月号によると、昭和63年(1988)8月21日付『松本市民タイムス』の記事に「松本藩でも鋳造 寛永通寶 枝銭 文書など保存」とあり、榎原健の母榎原すみみが保管。後、平成2年(1990)7月号『月刊「収集」』に静岡いづみの会「穴銭入門」にも掲載。

参考文献 (文献番号は第Ⅲ章の続き)

文献13 岩元康成 2018「加治木銭跡銭所跡の調査」『始良市埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集』始良市教育委員会

文献14 梅崎忠司・柴尾俊介 1992『尾崎遺跡』北九州市埋蔵文化財調査室報告書 第118集

(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

文献15 梅崎忠司 2008『黒崎城跡8』北九州市埋蔵文化財調査室報告書 第392集

(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

文献16 梅崎忠司 2008『福岡藩黒崎鋳銭場』九州と東アジアの考古学—九州大学考古学研究室50周年記念論文集

文献17 小川 浩 1967『寛永通寶銭譜』日本小銭研究会

文献18 嵯峨祐之 2018『古寛永通寶松本銭について』月刊「収集」7月号 Vol.43 No.7

文献19 佐藤浩司 2005『黒崎城跡1』北九州市埋蔵文化財調査室報告書 第336集

(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

文献20 松本市教育委員会 1968『寛永通寶 松本銭座』

文献21 松本市教育委員会 1985『松本城二の丸御殿跡 発掘調査・史跡公園整備』

文献22 1993『お城がすき まつもとが好き』文化財の知識シリーズ第3集

文献23 松本市教育委員会 1998『松本のたから～受け継ぎ伝える郷土の文化財～』

文献24 松本城管理事務所 2009『銭座が松本にあった』『城下町探訪32』『国宝松本城を世界遺産に』推進実行委員会

1 毎3.75g 1貫3.75kg 1000匁1000文

1 砲型型用堀と鋳造が共伴 = 銭専用= 堀土 = ほど工程を示す

2 鋳放9枚 = 松本銭の基準資料は極めて重要

3 銭座は銅屋小路という証左になる成果= 銅屋小路の銭座が具体的になった

*これまで、豊後竹田、長州、岡山などが知られる。今回は「松本銭」で知られる松本銭座の具体的な証拠は、今後の寛永通寶研究において重要な資料となる。

表 27 錢座一覧表 (中世・近世・近代)

内 容	錢 座		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
	堺	加 泊 木	黒 崎	岡	長 州	岡 山	大 阪	近 江	吉 田	松 本	高 田	江 戸	水 戸	仙 台	南 部(1)	南 部(2)			
文 献	文献	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	絵図	-	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	○	○	○	○	-	-	○
建 物	全面積	-	-	150 × 30	-	140 × 100	-	2700 坪	-	-	-	-	-	-	207 × 126	209 × 152	-	100 × 60	
	長堀工房	-	○	1	-	2	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	
	お通り	-	-	1	-	1	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	
	岡小屋	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	
お け	槍焼炉	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コシキ炉 (大吹)	-	-	1	-	31	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	吹床 (小吹)	-	3	~ 12	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	匣 (可動小吹炉)	-	-	6~	-	-	○	○	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	
道 具	羽口 石製・土製	-	-	石 4 土 6	-	± 4	±	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	砲弾型ルツボ	-	1738 個	200 箱	10個	32個	2000 個	-	-	-	-	203 個	-	-	-	-	-	-	
	スタンプ付ルツボ	-	-	銭 1 他 3	-	-	銭	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	椀型ルツボ	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	蓋付トリベ	-	-	6	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	鋳型	○	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	砥石	-	-	1	124	43	~ 3000	-	-	-	-	15	-	-	-	○	-	-	
ルツボ片砥石	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
製 品	中国銭	○	○	(60)	1	33	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	
	模鑄銭	○	7	9~	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	枝銭	○	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	鋳樟	○	-	5	1	-	16	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	144	
	寛永通寶	-	2	(300) ○	41	20	881	-	-	-	-	56	-	-	-	○	○	-	
鉄製寛永通寶	-	-	(20) ○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	86		
分 析	メタル Cu	-	-	○	-	○	○	-	-	-	1	-	-	-	-	-	○	-	
	合金	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	他	7	-	○	-	-	-	-	-	-	-	鉛	-	-	-	-	-	-	

※○は有、一は無し。全面積は上が東西長、下が南北長で単位はm。他数字は点数。黒崎は箱数。

各都道府県は1 大阪、2 鹿児島、3 福岡、4 大分、5 山口、6 岡山、7 大阪、8 滋賀、9 愛知、10 長野、11 新潟、12 東京。

13 茨城、14 宮城、15・16 岩手。1~3は中国銭の模鑄銭座。4~16は寛永通寶銭座。

13 石巻鋳銭場、14 岩手県駒板鋳銭、15 釜石市栗林銭座。

表 28 古銭(中国銭)一覽表

拓本	ID	地区	検出面	遺構	出土地点	器種	最大外径(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	金属種別	備考
○84	A	I		表土		應寧元寶	23.8	1.3	3.2	Cu	初鑄 1068 年(宋)
○87	A	I		覆瓦		一銭	22.9	1.3	3.6	Cu	昭和 10 年鑄造
○101	A	I		表探		一銭	23.8	1.7	3.9	Cu	大正 8 年鑄造
○103	立会					天禧通寶	24.5	0.9	2.4	Cu	初鑄 1017 年(宋)
○137	A	II		水道遺構 6	東側	元豊通寶	23.5	0.8	1.7	Cu	初鑄 1078 年(宋)
○147	A	II		検出面	No 104 (溝状遺構 3・4 の間)	嘉祐元寶	23.6	1.0	2.5	Cu	初鑄 1056 年(宋)
○148	A	II		検出面	No 112	元豊通寶	23.5	0.7	2.0	Cu	初鑄 1078 年(宋)
○149	A	II		検出面	No 113	景定元寶	24.2	1.0	2.5	Cu	初鑄 1260 年(南宋)
○150	A	II		検出面	No 115	元豊通寶	23.8	1.1	2.2	Cu	初鑄 1078 年(宋)
○170	A	III a		炭焼圓 11	No 9	銭貨	22.4	1.1	2.2	Cu	
○171	A	III a		炭焼圓 15	No 20	祥符通寶	24.2	1.1	3.0	Cu	初鑄 1008 年(宋)
○183	A	III a		炭焼圓 11	No 5	元祐通寶	24.6	1.1	3.1	Cu	初鑄 1086 年(宋)
○184	A	III a		西壁		元□□寶	23.0	1.1	2.1	Cu	
○187	A	III a		整地土		應寧元寶	24.2	1.2	3.5	Cu	初鑄 1068 年(宋)
○191	A	III a		整地土	北側	至道元寶	24.2	1.2	2.5	Cu	初鑄 995 年(宋)
○192	A	III b		検出面	No 213	乾元重寶	23.2	0.9	2.1	Cu	初鑄 758 年(唐)
○193	A	III b		検出面	No 226	元祐通寶	24.3	1.3		Cu	
○194	A	III b		検出面	No 227	洪武通寶	21.6	1.4	1.2	Cu	初鑄 1368 年(明)
○197	A	III b		整地土		景祐元寶	24.2	0.8	1.2	Cu	初鑄 1034 年(宋)
○199	A	IV		溝 1	No 1	應寧元寶	24.0	1.0	2.6	Cu	初鑄 1068 年(宋)
○206	A	I		整地土		應首銭	22.5	1.2	2.6	Cu	
○209	A			排土		開元通寶	24.5	1.1	2.5	Cu	初鑄 621 年(唐)
○320	A	IV		土 31	No 1	永安通寶	24.7	1.0	3.1	Cu	初鑄 1408 年(明)
○321	A	III b		土 4	No 1	宋通元寶	24.6	1.0	3.1	Cu	初鑄 968 年(宋)
○322	A	IV		溝 7	No 4	□□□寶	24.9	1.0	2.9	Cu	
○325	B			排土		治平通寶	23.9	1.5	3.6	Cu	初鑄 1064 年(宋)
○334	B	I		水道遺構 1		開元通寶	24.6	1.2	2.7	Cu	初鑄 621 年(唐)
○399	B	III b		検出面	No 387	至和元寶	23.0	1.1	3.0	Cu	初鑄 1054 ~ 1055 年(宋)
○400	B	III b		検出面	No 394	應寧元寶	23.3	1.3	3.0	Cu	初鑄 1068 年(宋)
○402	B	III b		整地土		永安通寶	21.9	0.7	1.3	Cu	初鑄 1408 年(明)
○409	B	IV		検出面	No 414	皇宋通寶	24.0	0.9	2.2	Cu	初鑄 1039 年(宋)

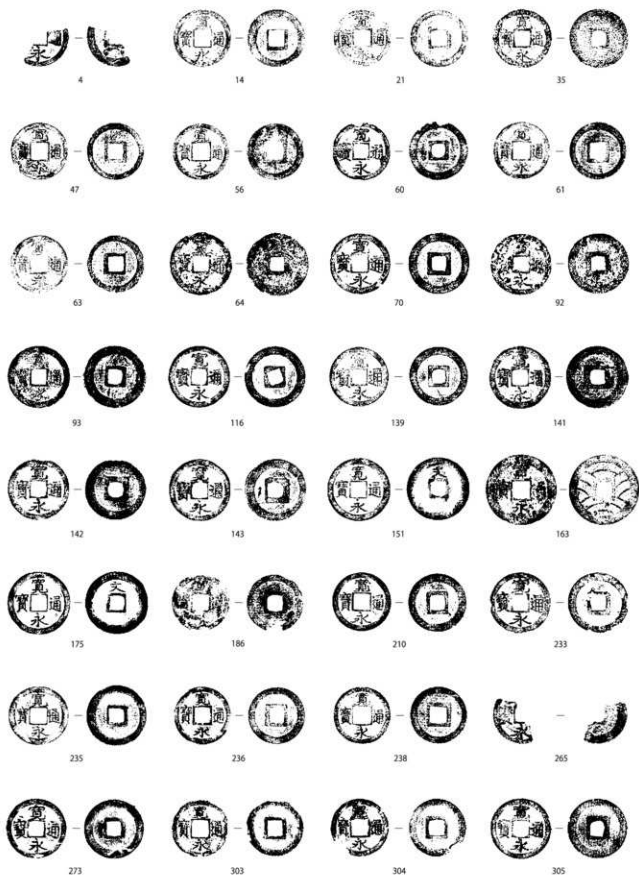
表 29 古銭(寛永通寶)一覽表

ID	地区	検出面	遺構	出土地点	器種	最大外径(mm)	最大内径(mm)	最大外輪巾(mm)	最大方孔巾(mm)	最大郭巾(mm)	最大背郭巾(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	金属種別	備考	
4	A	I		建 2	北西隅トレンチ	□永通寶	17.3	-	2.0	-	0.1	1.8	1.2	1.1	Cu	寛永通寶か
14	A	I		土 22	No 11	寛永通寶	23.2	19.0	1.6	7.1	0.2	1.0	0.9	2.2	Cu	新寛永
21	A	I		土 48		寛永通寶	22.9	20.0	1.4	6.4	1.0	1.1	1.0	2.0	Cu	新寛永
35	A	I		土 68		寛永通寶	23.6	19.2	2.2	6.1	0.4	0.8	1.0	2.5	Cu	
47	A	I		土 72		寛永通寶	23.0	18.9	1.7	6.5	0.5	1.0	1.1	2.9	Cu	
56	A	I		土 81	No 2	寛永通寶	22.7	19.5	1.7	6.8	0.3	1.8	0.8	2.0	Cu	新寛永
60	A	I		建 2	検出面 No 32	寛永通寶	23.7	20.8	1.8	5.4	0.4	0.9	1.4	3.2	Cu	
61	A	I		検出面	No 40	寛永通寶	23.1	18.7	2.1	6.6	0.7	1.0	0.9	2.1	Cu	新寛永
63	A	I		石列 7・土 69	検出面 No 108	寛永通寶	23.2	19.8	1.7	6.1	0.7	1.2	0.9	2.2	Cu	新寛永
64	A	I		検出面	No 109	寛永通寶	25.2	20.5	2.3	5.6	1.0	2.2	1.4	2.8	Cu	
70	A	I		検出面	西側	寛永通寶	24.7	19.9	2.1	5.9	0.5	1.1	1.2	3.0	Cu	
92	A	I		排土		寛永通寶	24.3	20.2	1.9	5.4	0.6	2.8	2.0	3.4	Cu	
93	A	I		排土		寛永通寶	25.0	20.7	2.5	6.0	0.6	1.0	1.2	2.9	Cu	
100	A	I		北壁		寛永通寶	25.0	20.1	1.9	6.5	0.6	1.7	1.2	2.7	Cu	未成品
116	A	II		土 93	No 26	寛永通寶	24.6	20.1	2.0	5.8	0.4	1.2	1.1	2.7	Cu	
123	A	II		土 127		寛永通寶	24.3	19.8	1.9	6.1	0.6	1.5	1.2	2.4	Cu	未成品
139	A	II		溝 3・4		寛永通寶	23.6	19.7	1.7	5.6	0.4	1.3	1.2	3.4	Cu	
141	A	II		土 29	No 1	寛永通寶	24.9	20.1	2.7	5.8	0.6	2.0	1.4	4.0	Cu	
142	A	II		土 29	No 1	寛永通寶	24.3	20.0	1.9	6.3	0.7	2.0	1.0	2.8	Cu	
143	A	II		土 29	No 1	寛永通寶	24.7	20.3	2.0	5.9	0.8	2.4	1.3	3.0	Cu	
144	A	II		検出面	No 54	寛□通寶	24.2	-	2.0	-	0.6	1.8	1.0	1.3	Cu	寛永通寶か/未成品

ID	地区	検出面	遺構	出土地点	器種	最大外径(mm)	最大内径(mm)	最大外輪巾(mm)	最大方孔巾(mm)	最大郭巾(mm)	最大背郭巾(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	金属種別	備考	
151	A	Ⅱ	土	119	検出面 № 209	寛永通寶	25.2	20.2	2.1	6.0	0.7	1.4	1.1	3.0	Cu	背文
163	A	Ⅱ	掃土			寛永通寶	28.3	21.1	3.3	6.4	0.9	1.3	1.3	5.0	Cu	背十一波
175	A	Ⅲ b	検出面		№ 189	寛永通寶	25.1	20.4	2.2	5.9	0.3	1.2	1.2	3.8	Cu	背文
186	A	Ⅲ a	掃土			寛永通寶	22.9	18.5	2.1	8.4	0.8	1.5	1.0	1.7	Cu	
210	A		掃土			寛永通寶	23.4	19.5	1.9	6.2	0.5	1.7	1.1	3.2	Cu	新寛永
233	A	I	検出面		№ 1	寛永通寶	24.2	21.2	2.1	6.2	0.7	1.9	1.1	2.6	Cu	
235	A	I	検出面		№ 3	寛永通寶	24.1	18.4	2.2	6.4	0.5	0.9	0.9	2.7	Cu	
236	A	I	検出面		№ 4	寛永通寶	23.0	19.5	1.9	6.2	0.7	1.1	1.0	2.6	Cu	新寛永
238	A	I	検出面		№ 47	寛永通寶	22.9	18.7	1.7	6.6	0.8	1.8	1.0	2.7	Cu	新寛永
265	A	I	検出面		南側	□永□寶	17.6	-	1.5	-	0.9	1.7	1.2	1.3	Cu	寛永通寶か
273	A	Ⅱ	土	34	№ 2	寛永通寶	23.9	19.7	2.0	5.8	0.4	1.1	1.1	3.0	Cu	
295	A	Ⅱ	溝	4	№ 24	□永通□	20.2	-	2.0	-	0.5	1.8	1.4	1.9	Cu	寛永通寶か/未成品
303	A	Ⅱ	検出面		№ 65	寛永通寶	22.8	18.7	1.9	6.3	0.9	1.0	0.9	2.0	Cu	
304	A	Ⅱ	検出面		№ 66	寛永通寶	23.1	19.0	2.0	6.5	0.7	1.7	1.1	2.0	Cu	新寛永
305	A	Ⅱ	溝	3・4	検出面 № 79	寛永通寶	24.1	19.5	2.0	6.3	0.5	2.2	1.5	3.4	Cu	
308	A	Ⅱ	検出面		№ 97	寛永通寶	27.0	19.6	2.8	5.2	0.9	1.5	1.5	4.2	Cu	未成品
339	B	I	水道	3		寛永通寶	25.1	19.8	2.8	6.1	0.9	1.5	1.0	3.3	Cu	
352	B	I	検出面		東側	寛永通寶	24.5	20.0	1.9	6.1	0.9	1.1	1.3	3.1	Cu	
353	B	I	検出面		東側	寛永通寶	22.9	19.0	1.6	6.1	0.6	1.3	1.2	2.7	Cu	新寛永か
354	B	I	検出面		東側	寛永通寶	22.3	18.4	1.7	6.9	0.7	0.9	0.8	2.0	Cu	新寛永
355	B	I	検出面		東側	寛永通寶	23.5	18.8	1.7	5.8	0.8	1.6	1.4	2.9	Cu	未成品
364	B	I	検出面		西側	寛永通寶	23.9	19.4	1.9	6.0	0.4	0.7	1.4	3.2	Cu	
365	B	I	焼土範囲	1		寛永通寶	25.4	20.1	2.5	5.9	0.5	1.7	1.1	3.0	Cu	背文
367	B	I	検出面			寛永通寶	26.3	19.7	2.4	5.5	0.4	2.0	1.5	4.0	Cu	未成品
368	B	I	掃土			寛永通寶	24.0	18.7	2.2	5.9	0.2	1.0	1.2	3.0	Cu	
369	B	I	掃土			寛永通寶	23.5	18.7	2.1	6.3	0.9	1.6	0.9	2.6	Cu	新寛永
383	B	Ⅱ	検出面			寛永通寶	25.4	20.1	2.6	5.7	1.0	1.6	1.2	3.0	Cu	背文
384	B	Ⅱ	検出面		中央南	寛永□寶	24.2	19.7	2.0	6.0	1.1	1.7	1.3	1.6	Cu	寛永通寶か/未成品
385	B	Ⅱ	検出面		東側	寛永通寶	25.8	19.9	2.1	-	0.8	2.5	1.1	2.7	Cu	未成品
392	B	Ⅱ	整地土			寛永通寶	24.4	20.2	2.2	5.3	0.4	1.5	1.0	2.9	Cu	

表 30 古銭分布表

銭貨名	王朝名	初鋳年	調査区-検出面											計		
			A-I	A-II	A-Ⅲ a	A-Ⅲ b	A-Ⅳ	A	B-I	B-II	B-Ⅲ a	B-Ⅲ b	B-Ⅳ		B	立会
開元通寶	唐	621						1	1							2
乾元重寶	唐	758				1										1
宋通元寶	宋	968				1										1
至道元寶	宋	995			1											1
祥符通寶	宋	1008			1											1
天禧通寶	宋	1017													1	1
景祐元寶	宋	1034				1										1
皇宋通寶	宋	1039												1		1
至和元寶	宋	1054~1055										1				1
嘉祐元寶	宋	1056		1												1
治平通寶	宋	1064												1		1
嘉寧元寶	宋	1068	1		1			1				1				4
元豐通寶	宋	1078		3												3
元祐通寶	宋	1086			1	1										2
景定元寶	南宋	1260		1												1
洪武通寶	明	1368				1										1
永樂通寶	明	1408						1					1			2
寛永通寶	日本(明正)	1636	19	15	1	1			1	10	4					51
一銭			2													2
應首銭			1													1
不明					2		1									3
計			23	20	7	6	3	2	11	4	0	3	1	1	1	82



0 S=2/3 5cm

圖 60 寬永通寶 (1)

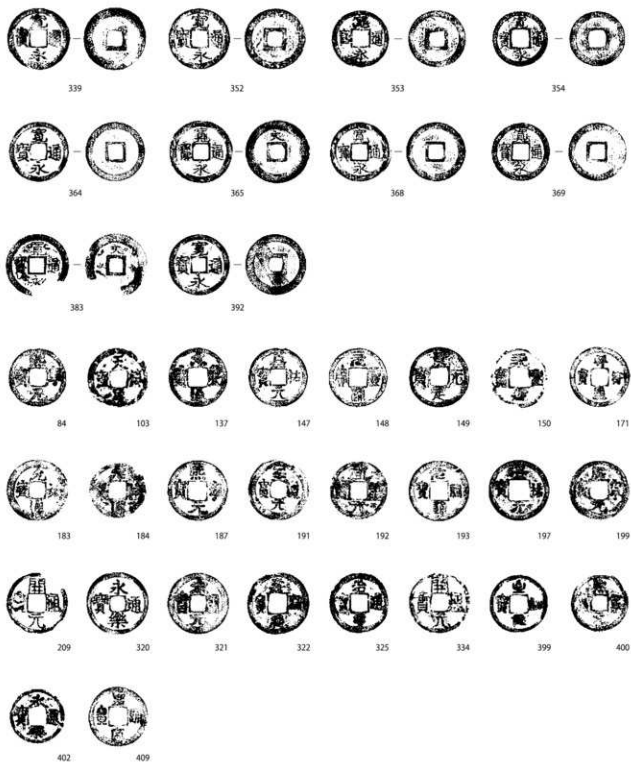


图 61 宽永通宝(2)·中国钱

0 5=2/3 5cm

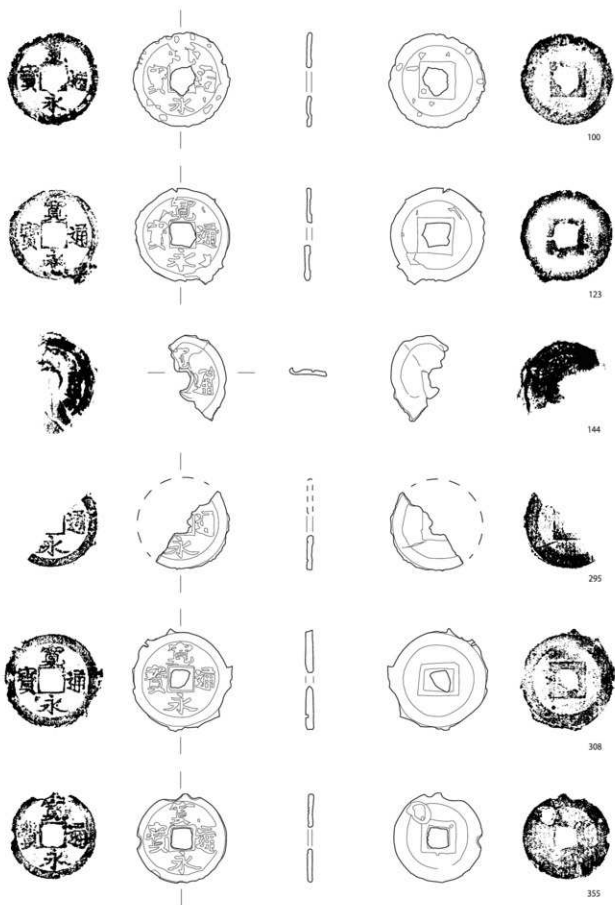
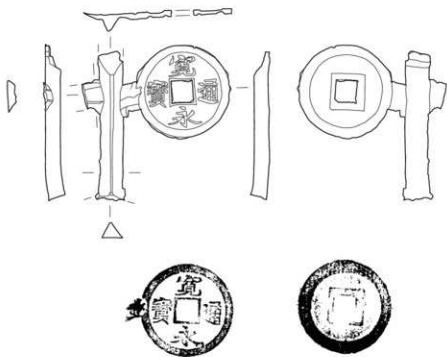
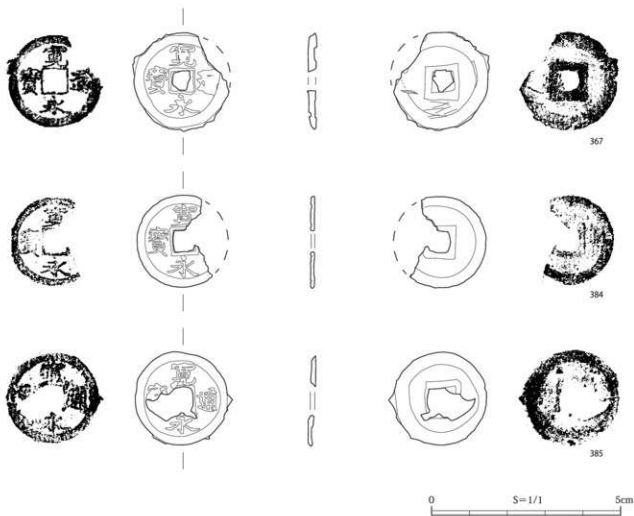


図 62 鑄放（ハリ付寛永通寶）(1)



参考資料 枝銭 (松本市立博物館所蔵)

図 63 鑄放 (ハリ付寛永通寶) (2)

表 31 埴塙一覽表

開掘期	地区	区画	検出面	遺構	実測番号	注記	種類	形状	法基 (cm)			技法・文様・形状の特徴	胎土
									口径	底径	器高		
1	A	町屋2	I	土43	ろつぼ-54	本マチ8 I 検土43-2636	土師瓦	埴塙	—	—	—	内面：ナデ調整、外面：器口は直張り、腰部から底部にかけて赤色の溶融金属付着、胎土は在来地産内口土に似る	褐色（中卒型）
2	B	窟	I	惣地土（火災層）	ろつぼ-1	本マチ8 I 検セー-2601	瓦葺	埴塙	—	7.0	—	碗形、内面：ナデ調整、一部に溶融金属付着、外面：赤褐色・黒褐色の溶融金属付着、底部：炭・小石・溶融金属付着	暗灰（顕密）
3	B	窟	I	水道2	ろつぼ-50	本マチ8 I 検B水2-2619	瓦葺	埴塙	—	6.0	—	碗形、内外面ナデ調整、内面：黒褐色・白色の溶融金属付着、外面：赤褐色・黒褐色の溶融金属付着、底部平坦	暗灰（顕密）
4	A	窟	I	検出面	ろつぼ-59	本マチ8 I 検検-2657	土師瓦	不明	—	—	—	器形他の碗形とは異なるもの、胴部最大径 12.6cm、内面：ナデ調整、外面：褐色・黒褐色の溶融金属厚く付着	黄褐色・糖褐色（密）
5	B	窟	I	トレンチ	ろつぼ-2	本マチ8 I 検Bトレンチ排水溝附セー-2601	瓦葺	埴塙	9.6	5.2	—	碗形、口縁端部は平坦、内面：ナデ調整、緑色の溶融金属付着、外面：赤褐色・黒褐色の溶融金属付着	暗灰（顕密）
6	A	窟	I	溝3	ろつぼ-3	本マチ8 I 検A溝3-2677	瓦葺	埴塙	10.0	—	—	碗形、口縁端部は平坦、内面：板状工具ナデ調整、口縁内面に溶融金属付着、外面：溶融金属付着	暗灰（顕密）
7	A	窟	I	検出面南側（惣地層）	ろつぼ-28	本マチ8 I 検A検出面南側-2655	瓦葺	埴塙	9.6	—	—	碗形、内面：ナデ調整、黒褐色・淡灰色の溶融金属付着、外面：赤褐色・黒褐色の溶融金属付着、口縁端部は平坦	暗灰（顕密）
8	A	窟	II	溝3	ろつぼ-24	本マチ8 II 検A溝3-2674	瓦葺	埴塙	7.4	—	—	碗形、碗形、内面：赤褐色・暗赤褐色の溶融金属付着、外面：赤褐色・黒褐色の溶融金属付着、口縁端部は平坦	暗灰（顕密）
9	A	窟	II	溝3	ろつぼ-35	本マチ8 II 検A溝状遺構3-2678	瓦葺	埴塙	—	4.0	—	碗形、内面：白色・暗褐色の溶融金属付着、外面：赤褐色・暗灰色の溶融金属付着、底部平坦	暗灰（顕密）
10	A	窟	II	溝3	ろつぼ-40	本マチ8 II 検A溝3-2678	瓦葺	埴塙	—	5.0	—	碗形、内面：暗赤褐色・褐色の溶融金属付着、外面：淡灰色・黒褐色・赤褐色の溶融金属付着、底部は平底	暗灰（顕密）
11	A	窟	II	溝3	ろつぼ-42	本マチ8 II 検A土4-2704	瓦葺	埴塙	—	—	—	碗形、内面：ナデ調整か、黒褐色・緑色の溶融金属付着、外面：黒褐色・黒褐色の溶融金属付着	暗灰（顕密）
12	A	窟	II	溝4	ろつぼ-4	本マチ8 II 検A溝4-2679・2680、II 検A壁-2782	瓦葺	埴塙	9.0	—	—	碗形、内面：板状工具ナデ調整、外面：溶融金属付着、内面：溶融金属一部付着、底部：炭・小石・溶融金属付着	暗灰（顕密）
13	A	窟	II	溝4	ろつぼ-5	本マチ8 II 検A溝4-2686・2687・2688	瓦葺	埴塙	—	8.8	—	碗形、内面：ナデ調整、外面：黒褐色・緑色の溶融金属付着、内面：溶融金属一部付着、底部：平底	暗灰（顕密）
14	A	窟	II	溝4	ろつぼ-6	本マチ8 II 検A溝4-2685	瓦葺	埴塙	—	9.2	—	碗形、内面：ナデ調整、外面：赤褐色・緑色の溶融金属付着、底部：平底	暗灰（顕密）
15	A	窟	II	溝4	ろつぼ-7	本マチ8 II 検A溝4-2681	瓦葺	埴塙	—	—	—	碗形、内面：板状工具ナデ調整、黒褐色の溶融金属僅かに付着、外面：赤褐色・黒褐色の溶融金属付着、底部：炭・小石・灰色の溶融金属付着、底部は平底	暗灰（顕密）
16	A	窟	II	溝4	ろつぼ-22	本マチ8 II 検A溝4-2690	瓦葺	埴塙	(10.4)	—	—	碗形、内面：ナデ調整、一部に緑色の溶融金属付着、外面：赤褐色・黒褐色・緑色の溶融金属付着、口縁端部は平坦	暗灰（顕密）
17	A	窟	II	溝4	ろつぼ-48	本マチ8 II 検A溝状遺構4 No18-2683、II 検A溝状遺構4 No19-2684	瓦葺	埴塙	—	5.6	—	碗形、内面：暗褐色・淡灰色、淡緑色の溶融金属付着、外面：黒褐色・暗赤褐色の溶融金属付着、底部平坦	暗灰（顕密）
18	A	窟	II	溝4	ろつぼ-49	本マチ8 II 検溝4-2689	瓦葺	埴塙	—	—	—	碗形、内面：ナデ調整、一部黒褐色の溶融金属付着、外面：淡灰色・赤褐色・緑色の溶融金属付着	暗灰（顕密）
19	A	窟	II	溝4-26	ろつぼ-41	本マチ8 II 検A溝4-2692	瓦葺	埴塙	9.6	—	—	碗形、内、外面：淡灰緑色・緑色の溶融金属付着、口縁端部平坦	暗灰（顕密）
20	A	窟	II	溝2	ろつぼ-8	本マチ8 II 検A水道遺構2-2665	瓦葺	埴塙	9.9	—	—	碗形、内面：板状工具ナデ調整、口縁端部から5cm程の部分に黒褐色の溶融金属付着、外面：赤褐色・黒褐色の溶融金属付着、口縁端部は平坦	暗灰（顕密）

開掘期	地区	区画	掘出面	遺構	実測番号	注記	種類	形状	法量 (cm)			技法・文様・形状の特徴	出土
									口径	底径	高さ		
21	A	窟	Ⅱ	± 29	ろつび-33	本マチ 8 日機 A 横出面 No51 - 2734、土坑 29 No 2	瓦葺	円筒	9.4	—	—	底弾形、内面：板状工具ナズ調整、暗 褐色の滑融金属付着。外面：淡灰・暗 緑色・一部赤褐色の滑融金属付着。口 縁端部は平坦	暗灰 (顕密)
22	B	窟	Ⅱ	± 141	ろつび-25	本マチ 8 日機 B ± 141 - 2730	土葺	円筒分	9.2	—	—	他の階層と異なり土葺。内面：現存 片下層に属する。板状工具ナズ面。外 面：赤褐色・黒褐色の滑融金属付着。 上部に黒褐色の滑融金属付着。口縁端部コ コナ調整	褐色 (やや粗)
23	A	町屋 6	Ⅱ	± 136	ろつび-9	本マチ 8 日機 A 土坑 136 - 2725	瓦葺	円筒	—	3.8	—	底弾形、内面：ナズ調整。一部に赤 褐色の滑融金属付着。筋面じわ状凸存。 外面：赤褐色・黒褐色の滑融金属付着。 底部：平底。灰・滑融金属付着	暗灰 (顕密)
24	B	窟	Ⅱ	± 166	ろつび-29	本マチ 8 日機 B B 土坑 166 - 2729	瓦葺	円筒	9.6	—	—	底弾形、内面：ナズ調整。外面：赤 褐色・黒褐色の滑融金属付着。口縁端部： 成形時に押し当てて底部を平坦とす ている。押しが強い。ため、口縁端部が内 側へ飛び出している	暗灰 (顕密)
25	A	町屋 6	Ⅱ	± 33	ろつび-30	本マチ 8 日機 A 土坑 33 南側 - 2709	瓦葺	円筒	—	—	—	底弾形、内面：暗灰色の滑融金属付着。 外面：赤褐色・灰色の滑融金属付着。 口縁端部平坦	暗灰 (顕密)
26	A	町屋 6	Ⅱ	± 40	ろつび-31	本マチ 8 日機 A 土坑 40 東側 - 2716	瓦葺	円筒	8.3	—	—	底弾形、内面：口縁端部内面に沈線あ り・口縁端部を平坦成形時の線跡か、 端部に緑色の滑融金属付着。外面：黒 褐色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
27	A	町屋 6	Ⅱ	± 47	ろつび-32	本マチ 8 日機 A 土坑 47 - 2717	瓦葺	円筒	8.9	—	—	底弾形、内面：灰緑色・黒褐色の滑 融金属付着。外面：黒褐色の滑融金属 付着。口縁端部は平坦	暗灰 (顕密)
28	A	町屋 6	Ⅱ	± 136	ろつび-47	本マチ 8 日機 A 土坑 136-2727	瓦葺	円筒	—	4.0	—	底弾形、内面：淡灰色の滑融金属付着。 ナズ調整。外面：黒褐色・淡灰色・緑 色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
29	A	町屋 6	Ⅱ	± 136	ろつび-57	本マチ 8 日機 土坑 136 - 2728	瓦葺	円筒	—	—	—	底弾形、内面：板状工具ナズ調整。一 部に筋線じわ状凸存。外面：黒褐色・ 灰色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
30	A	窟	Ⅱ	溝 3・4 (西底面)O	ろつび-0	本マチ 8 日機 A 溝状遺構 3・4 - 2751	瓦葺	円筒	9.2	—	—	底弾形、内面：淡緑色の滑融金属付着。 外面：淡緑色の滑融金属付着。口縁端 部は平坦	暗灰 (顕密)
31	A	窟	Ⅱ	溝 3・4 (西底面)O	ろつび-1	本マチ 8 日機 A 溝状遺構 3・4 - 2751、Ⅱ機 A 横出面-2738	瓦葺	円筒	9.2	—	—	底弾形、内面：緑・褐色・黒褐色の滑 融金属付着。外面：淡褐色・黒褐色の 滑融金属付着。口縁端部は平坦	暗灰 (顕密)
32	A	窟	Ⅱ	溝 2	ろつび-51	本マチ 8 日機 AT 2 - 2770	瓦葺	円筒	—	—	—	底弾形か、内面：黒褐色・暗赤褐色の 滑融金属付着。外面：黒褐色・赤褐色 の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
33	A	窟	Ⅱ	横出面 (惣地層)	ろつび-2	本マチ 8 日機 A 横出面-2741	瓦葺	円筒	—	8.9	—	底弾形、内面：ナズ調整。褐色・淡緑色・ 黒褐色の滑融金属付着。外面：赤褐色・ 緑色の滑融金属付着。底部は平坦	暗灰 (顕密)
34	A	窟	Ⅱ	横出面 (惣地層)	ろつび-3	本マチ 8 日機 A 横出面-2744	瓦葺	円筒	—	6.4	—	底弾形、内面：工具ナズ調整。外面： 赤褐色・黒褐色の滑融金属付着。底部： 灰・黒褐色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
35	A	窟	Ⅱ	横出面 (惣地層)	ろつび-4	本マチ 8 日機 A 横出面-2736	瓦葺	円筒	—	—	—	底弾形、内面：ナズ調整。黒褐色の滑 融金属付着。外面：工具ナズ調整。黒 褐色の滑融金属付着。底部：平坦。灰付 着	暗灰 (顕密)
36	A	窟	Ⅱ	横出面 (惣地層)	ろつび-36	本マチ 8 日機 A 横出面 No86 - 2742	瓦葺	円筒	8.0	—	—	底弾形、内面：暗褐色・緑色の滑融金 属付着。外面：赤褐色・淡灰色・黒 褐色の滑融金属付着。口縁端部平坦	暗灰 (顕密)
37	A	横 Ⅱ	横出面-2 (惣地層)	ろつび-43	本マチ 8 日機 A 横出面-2759	瓦葺	円筒	9.6	—	—	—	底弾形、内面：暗灰色の滑融金属付着。 外面：赤褐色・黒褐色。一部緑色の滑 融金属付着。口縁端部平坦	暗灰 (顕密)
38	A	窟	Ⅱ	横出面 (惣地層)	ろつび-52	本マチ 8 日機 A 横出面 No49 - 2733	瓦葺	円筒	—	—	—	底弾形、内面：暗赤褐色の滑融金属付 着。外面：暗赤褐色。黒色の滑融金属 付着	暗灰 (顕密)
39	A	横 Ⅱ	横出面南側 (惣地層)	ろつび-44	本マチ 8 日機 A 横出面南側 - 2756	瓦葺	円筒	9.6	—	—	—	底弾形、内面：口縁端部内面に筋線じ わ状凸あり。外面：茶褐色の滑融金属 付着。口縁端部平坦	暗灰 (顕密)
40	A	窟	Ⅱ	トレンチ	ろつび-38	本マチ 8 日機 A トレンチ排水溝 南側外-2774	瓦葺	円筒	—	(4.4)	—	底弾形、内面：板状工具ナズ調整か、 白色・一部緑色の滑融金属付着。外面： 赤褐色・黒褐色の滑融金属付着。底部 平坦	暗灰 (顕密)

開 掘 期	地 区	区 画	掘 出 面	遺構	実測番号	注記	種別	形状	法量 (cm)			技法・文様・形状の特徴	胎土
									口径	底径	高さ		
41	A	窟	Ⅱ	南壁地土	ろつぽー21	本マチ8Ⅱ横A 調査区南壁地土 中-2761	瓦質	円筒	9.8	—	—	砲弾形、内面：ナデ調整か、口縁端部に 淡灰色の滑融金属付着、外面：淡灰色 ・赤褐色滑融金属付着、口縁端部は 平坦	暗灰 (顕密)
42	B	窟	Ⅱ	トレンチ	ろつぽー39	本マチ8Ⅱ横B トレンチ排水溝 跡部中-2774	瓦質	円筒	8.7	—	—	砲弾形、内・外面：黒褐色の滑融金属 付着	暗灰 (顕密)
43	A	窟	Ⅱ	トレンチ5	ろつぽー53	本マチ8Ⅱ横 Aトレンチ5- 2771	瓦質	円筒	—	5.4	—	砲弾形、内面：ナデ調整、淡灰色の滑 融金属付着、一部に黒緑シブ状痕あり、 外面：黒褐色・赤褐色・淡灰緑色の滑融 金属、底部平坦	暗灰 (顕密)
44	B	Ⅲb	Ⅲb	土2	ろつぽー26	本マチ8Ⅲ横 土坑2-2822	瓦質	円筒	(10.5)	—	—	砲弾形、内面：ナデ調整、灰色の滑融 金属付着、外面：灰色・淡緑色の滑融 金属付着、口縁端部平坦	暗灰 (顕密)
45	B	Ⅲb	Ⅲb	土2	ろつぽー27	本マチ8Ⅲ横 土坑2-2822	瓦質	円筒	8.8	—	—	砲弾形、内面：黒褐色・暗緑色の滑融 金属付着、外面：赤褐色・淡灰緑色の 滑融金属付着、口縁端部は平坦	暗灰 (顕密)
46	A	Ⅲa	Ⅲa	整地層	ろつぽー5	本マチ8Ⅲ横 A整地層中- 2787	瓦質	円筒	—	—	—	内面：ナデ調整、外面：赤褐色・黒褐 色の滑融金属付着、底部：灰・淡褐色 の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
47	A	Ⅲa	Ⅲa	整地層	ろつぽー6	本マチ8Ⅲ横 A整地層中- 2792	瓦質	円筒	—	8.2	—	砲弾形、内面：ナデ調整、緑色の滑融 金属付着、外面：灰色・赤褐色の滑融 金属付着、底部：淡緑色の滑融金属厚 く付着	暗灰 (顕密)
48	A	Ⅲa	Ⅲa	整地層	ろつぽー7	本マチ8Ⅲ横 A整地層中- 2791	瓦質	円筒	—	9.4	—	砲弾形、内面：ナデ調整、縦縞じわ状 痕あり、外面：赤褐色・黒褐色の滑融 金属付着、底部：灰・暗灰色の滑融金 属付着	暗灰 (顕密)
49	A	Ⅲa	Ⅲa	整地層	ろつぽー55	本マチ8Ⅲa横 A登機部跡中北 部-2804	瓦質	円筒	—	—	—	砲弾形、内面：淡灰緑色の滑融金属付 着、外面：赤褐色・淡灰色の滑融金属 付着	暗灰 (顕密)
50	B	Ⅲa	Ⅲa	廃土-2	ろつぽー37	本マチ8Ⅲa横 B廃土-2817	瓦質	円筒	9.2	—	—	砲弾形、内面：黒褐色の滑融金属付着、 外面：赤褐色・黒褐色の滑融金属付着、 口縁端部は平坦	暗灰 (顕密)
51	A	Ⅲa	Ⅲa	整地層	ろつぽー20	本マチ8Ⅲa横 A廃土中- 2786	瓦質	円筒	9.4	—	—	砲弾形、内面：灰色・緑色の滑融金属 付着、外面：赤褐色・黒褐色の滑融金 属付着、口縁端部平坦	灰 (顕密)
52	A	Ⅲa	Ⅲa	掘出面 (整地層)	ろつぽー23	本マチ8Ⅲa横 B-2805	瓦質	円筒	8.4	—	—	砲弾形、内面：褐色・淡灰色の滑融金 属付着、縦縞シブ状痕あり、外面：黒 褐色・淡灰色・赤褐色の滑融金属付着、 口縁端部は平坦	暗灰 (顕密)
53	B	Ⅲa	Ⅲa	掘出面 (整地層)	ろつぽー45	本マチ8Ⅲa横 B掘出面No357 -2795	瓦質	円筒	—	—	—	砲弾形、内面：灰緑色・暗褐色の滑融 金属付着、外面：淡灰色・赤褐色の滑 融金属付着	暗灰 (顕密)
54	A	Ⅲa	Ⅲa	掘出面東側 (整地層)	ろつぽー58	3a横A掘出面 東側-2799	瓦質	円筒	—	—	—	砲弾形、内面：黒褐色の滑融金属付着、 外面：黒褐色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
55	A	Ⅲa	Ⅲa	掘出面中	ろつぽー56	本マチ8Ⅲa横 A掘出面中-2813	瓦質	円筒	—	—	—	砲弾形、内面：淡緑色の滑融金属付着、 外面：淡緑色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
56	A	Ⅲb	Ⅲb	整地層	ろつぽー9	本マチ8ⅢB 横整地層中-2 821	瓦質	円筒	9.0	—	—	砲弾形、内面：暗褐色・緑色の滑融金 属付着、外面：暗灰色・一部緑色の滑融 金属付着、口縁端部は平坦	灰〜灰期 (顕密)
57	A	Ⅳ	Ⅳ	掘出面西壁 (整地層)	ろつぽー34	本マチ8Ⅳ横 A掘出面西壁付 近-2836	瓦質	円筒	10.1	—	—	砲弾形、内面：ナデ調整、口縁端部内 面に縦縞じわ状の痕跡あり、外面：暗 色・黒褐色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)
58	A	Ⅳ	Ⅳ	掘出面西壁 (整地層)	ろつぽー46	本マチ8Ⅳ横 A掘出面西壁付 近-2836	瓦質	円筒	(9.5)	—	—	砲弾形、内面：緑色・灰色の滑融金属 付着、外面：黒褐色・緑色の滑融金属 付着、口縁端部平坦	暗灰 (顕密)
59	A	Ⅲa	Ⅲa	整地層	ろつぽー8	本マチ8Ⅲ横 A整地層中- 2793	瓦質	取調	—	—	8.0	卵形、内面：ナデ調整か、外面：側面 に把手が付いた痕跡あり、上面に 径3cmの孔があり蓋付くもの、外 面：赤褐色滑融金属付着、底部：赤褐 色・一部黒褐色滑融金属付着	灰〜灰期 (顕密)
60	A	Ⅲa	Ⅲa	掘出面東 (整地層)	ろつぽー60	本マチ8Ⅲa横 A掘出面東側- 2799	瓦質	取調か	—	—	—	卵形、内面：ナデ調整、外面：ナデ調 整、赤褐色・黒褐色の滑融金属付着	暗灰 (顕密)

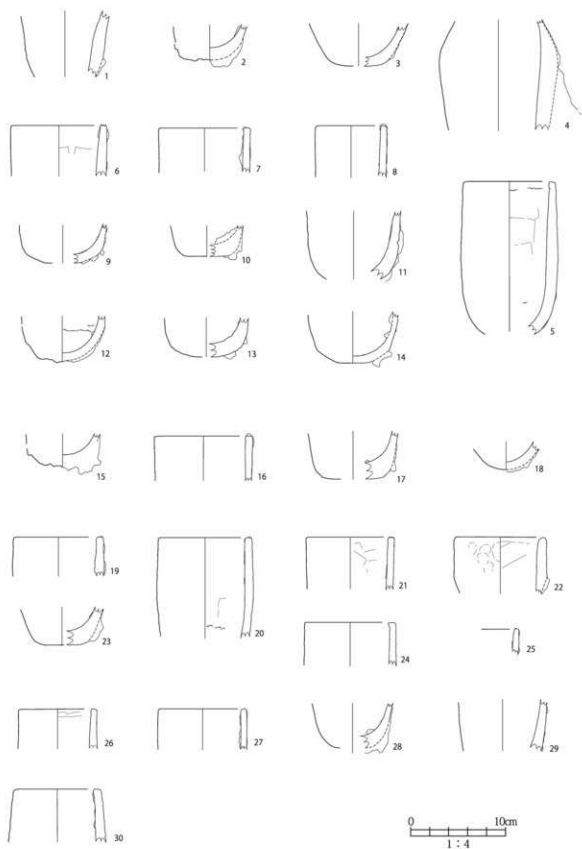


图64 埴塙(1)

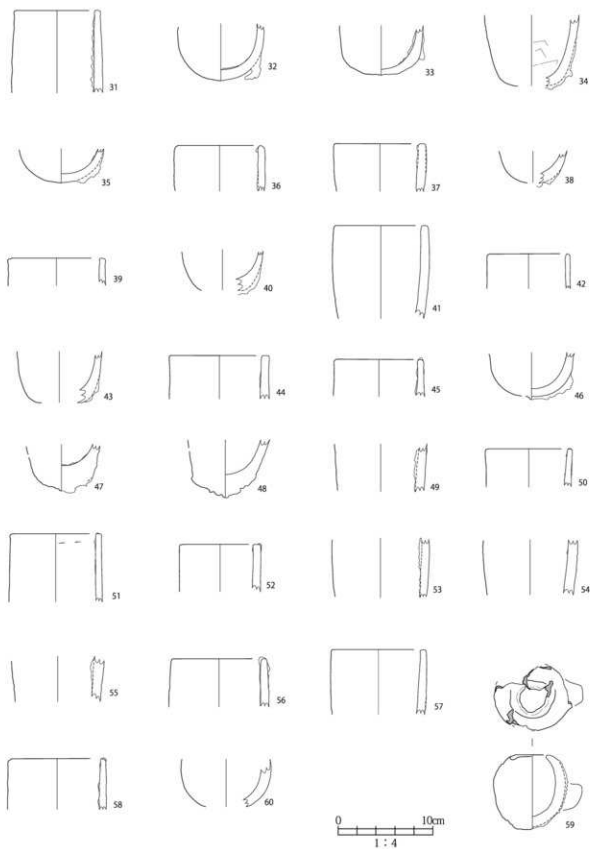


图 65 埴埴(2)

第V章 自然科学分析

一般社団法人 文化財科学研究センター

第1節 樹種同定

1 はじめに

本報告では、松本城下町跡（本町第8次調査）より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

2 試料

試料は、本町第8次調査のA区第IV検出面溝2より出土した杭№14、16、19から23、28、38、40、44、60、88、89、91の15点である。時代は戦国時代後半から末である。

3 方法

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

4 結果

表35に結果を示し、同定された分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった木材構造の特徴を記す。

(1) サワラ *Chamaecyparis pisifera* Endl. ヒノキ科 杭№14、19、20、21、28、38、89、91

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型またはスギ型であり、1分野に2個存在する。分野壁孔の孔口はやや大きく、開口部の長軸が水平に近い。樹脂細胞は晩材部に散在し、水平末端壁は数珠状を呈する。放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からサワラに同定される。サワラは岩手県以南の本州、四国、九州に分布する日本特産の常緑高木で、高さ30m、径1mに達する。材は木理通直かつ肌目が緻密であり、広く用いられる。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 杭№16、22、23、40、44、60、88

年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少し、晩材部では小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する落葉の高木で、通常高さ20m、径0.4mぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性・保存性が高く、水湿によく耐える材で、現在では建築、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、ほだ木など広く用いられる。

5 所見

同定の結果、本町第8次調査の第IV検出面溝2より出土した杭はサワラ8点、クリ7点であった。

サワラの材は木理通直で割製加工が容易なうえ、水湿によく耐える材である。湿気の多い肥沃地や溪流沿いを好む常緑針葉樹で、中部地方の山地には多い。長野県では古墳時代以降、サワラは容器、器具類、土木材などとしてよく用いられるが、強度を必要とする柱や梁などの建築材にはあまり利用されない。クリの材は重硬で耐朽性・保存性が極めて高く、建築材や土木材などに適している。また、乾燥した台地や丘陵地を好む落葉広葉樹で、二次林要素でもある。出土例から見て、中部地方ではサワラやクリは古くから土木材、施設材などとしてよく用いられ、長野県の箕輪遺跡（戦国時代から江戸時代）から出土した土木材においてもサワラやクリが多用されている。

以上から、本遺跡から出土した杭には、耐朽性・保存性が高く木理通直で割製加工が容易なサワラや重硬で土木材に適したクリが使われている。いずれも温帯に広く分布する樹種であるが、当時の遺跡周辺地域には多く生育していたと考えられる。

第2節 放射性炭素年代測定

1 はじめに

放射性炭素年代測定は物質に含まれる炭素同位体のひとつである¹⁴Cを利用して年代を測定する方法である。動植物は生きていく上で¹⁴Cを取り込み続けており、生命が終えると¹⁴Cの取り込みが終了し、その時点から¹⁴Cは放出されてゆくようになる。そのため遺跡から出土した遺存体に残存する¹⁴Cを測定することによって、その生物の死後の経過時間が判明する。放射性炭素年代測定は木材、炭化材、種実、骨、土壌堆積物中の炭化物などの炭素を含むあらゆる遺存体に適応される。

2 試料

分析試料は、松本城下町跡より出土したNo 4（杭No 20）、No 9（杭No 38）、No 12（杭No 60）の3点で、いずれも戦国時代後半から末（16世紀）とされる第IV検出面溝2から出土である。なお、これらは樹種同定試料と同一である。

3 方法

(1) 化学処理工程

ア メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。

イ 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

ウ 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。

エ 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

オ 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

カ グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(2) 測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度 (14C/12C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (Hox II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(3) 算出方法

ア 13C は、試料炭素の 13C 濃度 (13C/12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 19)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

イ 14C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。14C 年代は δ 13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 32 に、補正していない値を参考値として表 33、34 に示した。14C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

ウ pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。pMC が小さい (14C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (14C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も δ 13C によって補正する必要があるため、補正した値を表 32 に、補正していない値を参考値として表 33、34 に示した。

エ 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1 \sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2 \sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 δ 13C 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 32、33 に示し、グラフを図 66、図 67 に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

4 測定結果

松本城下町跡における放射性炭素年代測定の結果、No.4 (杭 No.20) では 790 ± 20 yrBP、No.9 (杭 No.38) では 570 ± 20 yrBP、No.12 (杭 No.60) では 760 ± 20 yrBP である。No.4 では暦年較正年代 ($1 \sigma = 68.2\%$) は $726 \sim 687$ calBP、暦年較正年代 ($2 \sigma = 95.4\%$) は $734 \sim 677$ calBP である。No.9 では暦年較正年代 ($1 \sigma = 68.2\%$) は $630 \sim 601$ calBP (41.9%)・ $559 \sim 541$ calBP (26.3%) で、暦年較正年代 ($2 \sigma = 95.4\%$) は $640 \sim 590$ calBP (59.0%)・ $564 \sim 534$ calBP (36.4%) である。No.12 では暦年較正年代 ($1 \sigma = 68.2\%$) は $696 \sim 671$ calBP で、暦年較正年代 ($2 \sigma = 95.4\%$) は $727 \sim 667$ calBP である。化学処理および測定内容に問題は無いが、想定されていた戦国時代後半から末 (16 世紀) より古い主に 13 世紀から 14 世紀の年代が測定された。

これには試料である杭が丸太から四分割し芯を避けて製作された角材状の杭である点、樹皮が観察されな

い点から、試料の年輪の最外層から測定用試料を採取したが木材の辺材部や年輪の最外層などの伐採時期を反映しやすい部位が残存していない可能性があるため、より古い年代が測定されたと考えられる。また、一括で古い木材が転用された可能性もある。

表 32 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

試料 No	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり			
				Libby Age (yrBP)		pMC (%)	
4	木片	AAA	-21.05 ± 0.32	790 ± 20	90.65 ± 0.26		
9	木片	AAA	-21.11 ± 0.31	570 ± 20	93.12 ± 0.28		
12	木片	AAA	-28.14 ± 0.23	760 ± 20	91.01 ± 0.27		

表 33 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BP)

試料 No	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
4	720 ± 20	91.38 ± 0.25	788 ± 22	726calBP - 687calBP (68.2%)	734calBP - 677calBP (95.4%)
9	510 ± 20	93.86 ± 0.27	572 ± 23	630calBP - 601calBP (41.9%) 559calBP - 541calBP (26.3%)	640calBP - 590calBP (59.0%) 564calBP - 534calBP (36.4%)
12	810 ± 20	90.42 ± 0.27	756 ± 23	696calBP - 671calBP (68.2%)	727calBP - 667calBP (95.4%)

[参考値]

表 34 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 14C 年代、較正年代 cal BC/AD)

試料 No	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
4	720 ± 20	91.38 ± 0.25	788 ± 22	1224calAD - 1264calAD (68.2%)	1217calAD - 1273calAD (95.4%)
9	510 ± 20	93.86 ± 0.27	572 ± 23	1320calAD - 1350calAD (41.9%) 1391calAD - 1410calAD (26.3%)	1310calAD - 1361calAD (59.0%) 1386calAD - 1417calAD (36.4%)
12	810 ± 20	90.42 ± 0.27	756 ± 23	1254calAD - 1280calAD (68.2%)	1224calAD - 1283calAD (95.4%)

[参考値]

参考文献（文献番号は第IV章の続き）

- 文献 25 伊東隆夫・山田昌久 2012 「木の考古学」『出土木製品用材データベース』海青社 p.449
- 文献 26 佐伯浩・原田浩 1985 「針葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版 p.20-48
- 文献 27 佐伯浩・原田浩 1985 「広葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版 p.49-100
- 文献 28 島地謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣 296p
- 文献 29 三村昌史・植田弥生 2005 「箕輪遺跡における木材利用と木材資源」『国道153号 伊那・松島バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書 箕輪町内 箕輪遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書71 長野県伊那建設事務所・長野県埋蔵文化財センター p.368-387
- 文献 30 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究特別第1号』植生史研究会 242p
- 文献 31 Bronk Ramsey, C. 2009 「Bayesian analysis of radiocarbon dates」『Radiocarbon』51(1) p.337-360.
- 文献 32 Reimer, P.J. et al. 2013 「IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP」『Radiocarbon』55(4) p.1869-1887
- 文献 33 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 「Discussion: Reporting of 14C data」『Radiocarbon』19(3) p.355-363

表 35 松本城下町跡（本町第8次調査）における樹種同定結果

試料名	時代	結果（学名/和名）
A区IV検溝2 杭No.14	戦国時代後半から末	<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ
A区IV検溝2 杭No.16		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
A区IV検溝2 杭No.19		<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ
A区IV検溝2 杭No.20		<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ
A区IV検溝2 杭No.21		<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ
A区IV検溝2 杭No.22		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
A区IV検溝2 杭No.23		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
A区IV検溝2 杭No.28		<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ
A区IV検溝2 杭No.38		<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ
A区IV検溝2 杭No.40		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
A区IV検溝2 杭No.44		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
A区IV検溝2 杭No.60		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
A区IV検溝2 杭No.88		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
A区IV検溝2 杭No.89		<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ
A区IV検溝2 杭No.91		<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl. サワラ

図66 暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)

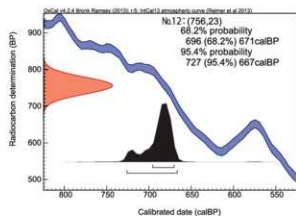
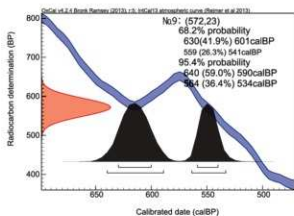
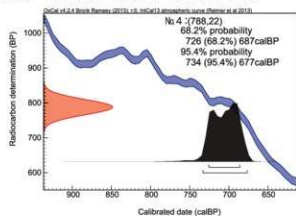
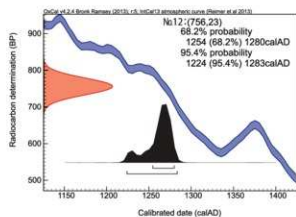
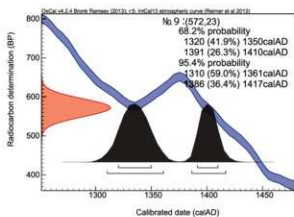
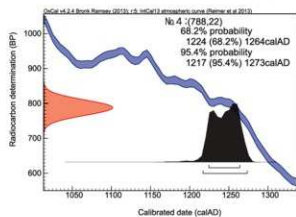


図67 暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)



松本城下町跡（本町第8次調査）の木材 1



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
 1. サワラ 第4検出面溝2 杭№14



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
 2. クリ 第4検出面溝2 杭№16



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
 3. サワラ 第4検出面溝2 杭№19

松本城下町跡（本町第8次調査）の木材 II



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
4. サワラ 第4検出面溝2 杭№20



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
5. サワラ 第4検出面溝2 杭№21



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
6. クリ 第4検出面溝2 杭№22

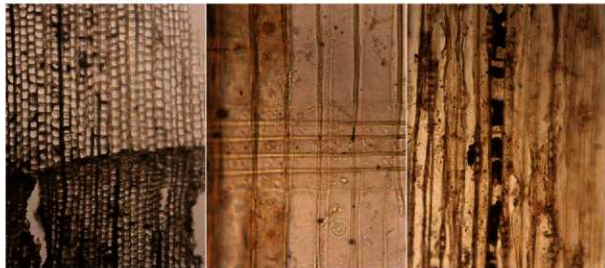
松本城下町跡（本町第8次調査）の木材Ⅲ



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
7. クリ 第4検出面溝2 杭№23



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
8. サワラ 第4検出面溝2 杭№28



横断面 ——— 0.1mm放射断面 ——— 0.1mm接線断面 ——— 0.1mm
9. サワラ 第4検出面溝2 杭№38

松本城下町跡（本町第8次調査）の木材Ⅳ



横断面 0.1mm放射断面 0.1mm接線断面 0.1mm
10. クリ 第4検出面溝2 杭№40



横断面 0.1mm放射断面 0.1mm接線断面 0.1mm
11. サワラ 第4検出面溝2 杭№44



横断面 0.1mm放射断面 0.1mm接線断面 0.1mm
12. クリ 第4検出面溝2 杭№60

松本城下町跡（本町第8次調査）の木材 V



横断面 0.1mm放射断面 0.1mm接線断面 0.1mm
13. クワ 第4検出面溝2 杭No88



横断面 0.1mm放射断面 0.1mm接線断面 0.1mm
14. サワラ 第4検出面溝2 杭No89



横断面 0.1mm放射断面 0.1mm接線断面 0.1mm
15. クワ 第4検出面溝2 杭No91

第VI章 調査のまとめ

1 城下町の町割りの変遷

本調査の平面積は1,000㎡以上となり、これまでの松本城下町跡での発掘調査で最大規模のものとなった。同規模の調査に伊勢町1次調査の920㎡の調査もあったが、多くの場合、町屋敷1軒分の調査にとどまっている。本調査のように、複数の町屋敷を同時に調査できるケースは非常に珍しいため、町屋敷の形成や歴史の変遷を詳細にみる機会になった。特に、城下町成立期から形成期までの事については、絵図や文献が少なく、不明な点が多かったため、今回の成果が城下町の歴史解明に寄与する部分は非常に大きいものである。以下のように変遷をたどることができる。

(1) A・B区Ⅳ検は、出土遺物から2時期に分かれることがわかり、古い方の時期は14～15世紀代の生活面である。本調査地から西に約80m離れた伊勢町1次では、13～14世紀の集落跡が見つかっており、そこの関連が考えられる。付近一帯に断続的に中世集落が営まれていたことが想像される。今回検出された方形の区割りはこの頃に造られたと考えられる。

(2) A・B区Ⅳ検の新しい方の時期は16世紀末～17世紀初頭である。14～15世紀に造られた集落の跡地を利用し、小笠原貞慶～石川親子時代に城下町として整備されている。近世城下町で見られるような短冊形の地割りはまだできてはいない。

(3) A・B区Ⅲ検の調査で、17世紀前半の慶長・元和期に大造成工事が行われたことがわかった。被熱した古い瓦や高級茶器が造成土に多量に含まれていたことから、城内で火災があり、その時の土が運び込まれた可能性が考えられる。この造成後に短冊形の地割りになっている。火災の後処理と地割り工事のタイミングが合った結果といえる。

(4) 方形地割りの面の上に厚さ最大1m近くの土で覆い、17世紀中頃の水野氏時代までに、短冊形の近世城下町が完成したことがわかった。また、各屋敷で出土遺物の年代観に差が見られたことから、屋敷単位で盛土造成を行い建て直しをしていることも確認できた。

2 御使者宿について

今回、御使者宿の範囲内で初めての発掘調査を実施し、遺構・遺物を確認できた。これまで、数少ない文献資料からのみであったが、発掘調査により、その実態に迫ることができた。

遺構 礎石建ち建物であり、他の町屋とは違う。水道施設が他よりも頑丈に作られており、インフラ工事にもお金をかけ、力を入れていた。

遺物 高級なものがたくさん出た。懐石料理に使用していたような茶器類や、焼塩壺や海鮮食材など一般的な町人地では見られないようなものが出土している。松本での焼塩壺の出土は二の丸御殿跡で59点^{文献21}と本町の塩間屋で1点^{文献34}と、非常に限られた範囲でしか見られない。文献7によると、身分の高い人が御使者宿を利用しているのがわかり、接待に使われたものと推定できる。

今回の調査では御使者宿と断定できる文字資料などは出土していないため、本書では推定御使者宿としている。しかし、上記のようにこれらの検出遺構と出土遺物はほぼ間違いなく御使者宿があったからこそと言える。

3 寛永通寶鑄造関連遺物について

松本錢座の存在は以前からわかっていたが、錢座の場所は特定できていなかった。今回の調査で初めて松本錢鑄造関連の遺物が出土し、錢座の様相を少なからず掴むことができた。鋳滓が多量に出土していることから、大鍛冶から小鍛冶まで松本で行っていたことがわかる。

未仕上げ寛永通寶の出土により、松本錢の基礎資料を得ることができた。これまでは、錢座請負元であった今井家に代々伝わる枝銭のみであり、今後の研究・分析により松本錢の特徴がより具体的にわかっていくことが期待される。

今回の調査では、鑄造に関わる遺構については確認することができなかった。鑄造関連遺物の多くは1検ないしはII検を造る整地層から出土している。このことから、錢座が解体され、残った未仕上げ品や鋳滓が土と一緒に別の場所の造成に使われたことを示唆している。造成に使われた土がどこから持ち運ばれたかは不明であるが、費用対効果を考えるとそう遠くない場所から土を得ていると考えられる。このことから、松本錢座は今回の調査地周辺にあったと推定している。

近世の錢座は、図68・69で見るように、1辺100m四方以上もある大規模な工房であることがわかる。これは、様々な作業工程を効率的に行うためにこれだけの敷地が必要であるためである。松本錢座も例にも

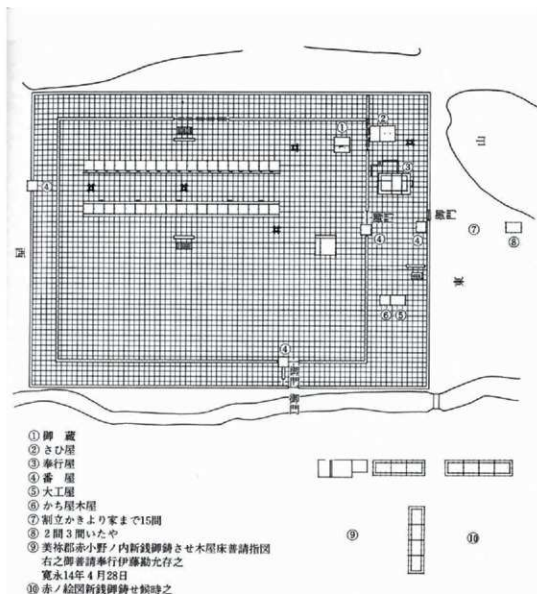


図68 長州藩錢座図模式図 (文献15より)

れず同じような規模であったとすると、これだけの規模の工房の痕跡が全く無くなってしまったとは考えにくい。城下町跡での今後の発掘調査や古文書等の調査で銭座の痕跡を注意深く探っていく必要がある。また、松本城下町跡でのこれまでの調査において、伊勢町や小池町等で増場や鉾津、羽口などの鑄造関係の遺物が多量に見つかっているため、過去の調査成果についても精査する必要が出てきた。



図 69 大坂「摂津国西成郡難波村鑄銭出張所之近景全図」(文献 15 より)

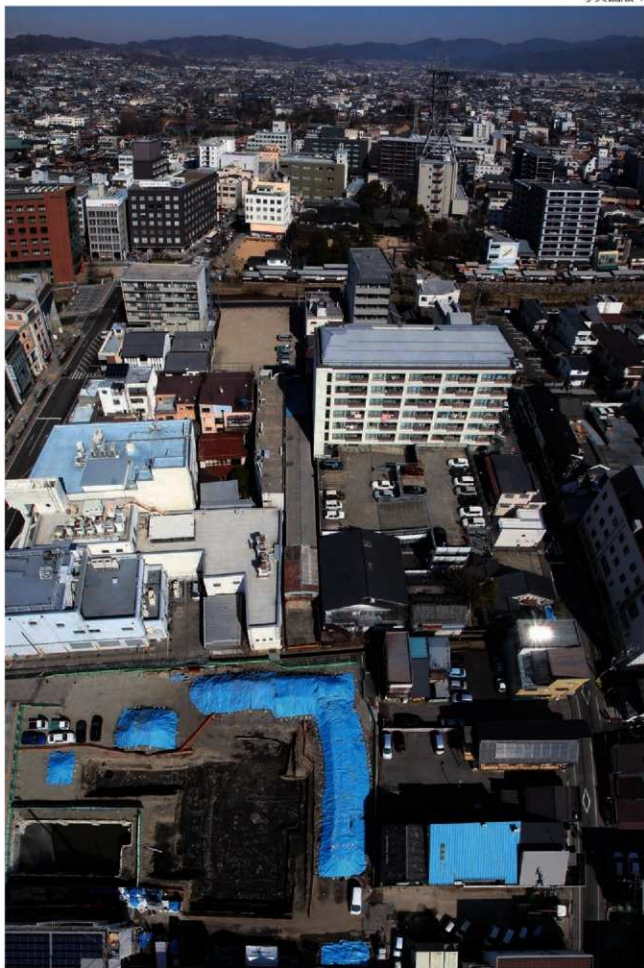
参考文献 (文献番号は第V章の続き)

- 文献 34 松本市教育委員会 1997 『松本城下町跡伊勢町第 8・9・12 次 本町第 1・2 次発掘調査報告書』
松本市文化財調査報告書 No.129

結 語

本調査の実施と報告書作成にあたっては、信濃毎日新聞株式会社からは多大なご理解とご協力をいただきました。現場作業の際には本町 2 丁目と飯田町 2 丁目の各町会の皆様、各町会長の皆様、松本市本町商店街振興組合の皆様にはご理解とご支援を受け賜りました。文末になりましたが、記して深甚なる謝意を表するものです。

また本書をまとめるにあたり、例言にお名前を記した皆様からたくさんのご助言、ご教示を頂戴しました。しかしながら、編者の力量不足により、それらを本文中に十分反映することができませんでした。深くお詫び申し上げますとともに、改めてご協力に感謝申し上げます。

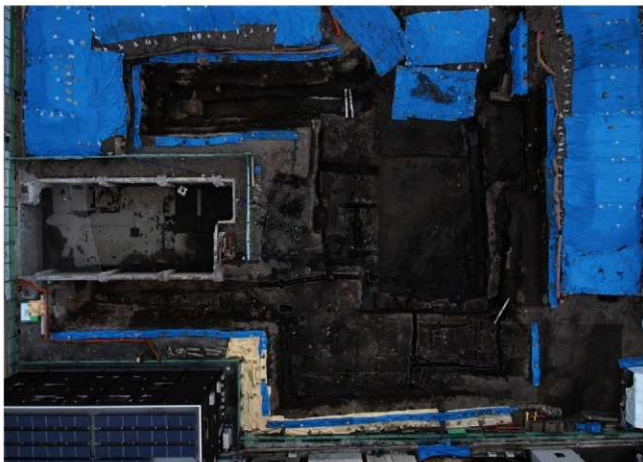


調査区から松本城を望む合成写真（北が上）

写真図版 2



A区I 検全景 (北が上)



A区V 検・B区I 検全景 (北が上)



A区1 検全景（南東から）



A区1 検建1（西から）



A区1 検建2（東から）



A区1 検土60・76（南から）



A区1 検推定御使者宿（東から）

写真図版 4



A区Ⅰ検土72（北から）



A区Ⅰ検土73・75（東から）



A区Ⅱ検全景（南東から）



A区Ⅱ検石列1・水道3（北東から）



A区Ⅱ検水道8（東から）



A区Ⅱ検水道 5～7・土 125 (西から)



A区Ⅱ検土 82 (西から)



B区Ⅱ検全景 (東から)



B区Ⅱ検溝 1 (東から)



B区Ⅱ検石列 1 (南東から)

写真図版 6



A区Ⅲ a 検炭 8～18 (東から)



B区Ⅲ a 検炭 2 (南から)



B区Ⅲ b 検土 3 (南から)



B区Ⅲ b 検土 3 (東から)



A区Ⅳ検溝 2・3・7 (南から)



A区IV検溝 1 (東から)



A区IV検溝 5 (東から)



B区IV検全景 (西から)



A区IV検溝 2 杭列 (南から)



A区V検全景 (南から)



A区西壁 (東から)



A区東壁 (西から)



A区北西部トレンチ (南東から)



A区I検 町屋2



A区I検 町屋3



A区I検 町屋4



A区II検 町屋5



A区II検 町屋6



A区I検 御使者宿①



A区I検 御使者宿②



A区II検 御使者宿



B区I検 御使者宿



B区Ⅱ検 御使者宿



A区Ⅲa検①



A区Ⅲa検②



B区Ⅲ a 検



A区Ⅲ b 検



B区Ⅲ b 検



A・B区IV検



A区V検



B区III b検



木製品 (1) (S= 約 1/4、No. は実測図中の番号と同じ)



木製品 (2) (18 : S= 約 1/4, その他 : S= 約 1/3, No. は実測図中の番号に同じ)



26



27



28



28(側面)



29



29(底裏)



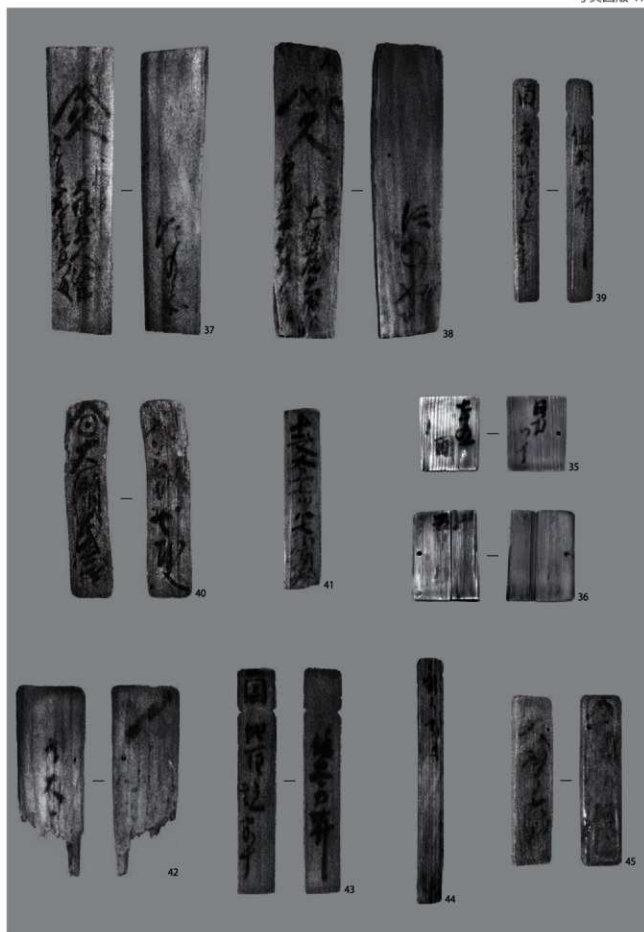
33



30



32



木製品 (4) (S= 約 1/3、No. は実測図中の番号に同じ)



石製品 (1～9・20 : S=約 2/3, 10～19 : S=約 1/3, No. は実測図中の番号と同じ)



刀子・小柄



煙管・不明



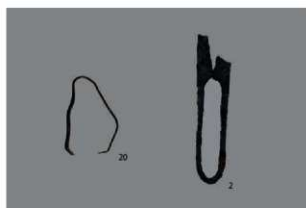
煙管 (13)



分銅



釘・燧鉄



毛抜き・鉄



鈴・吊金具

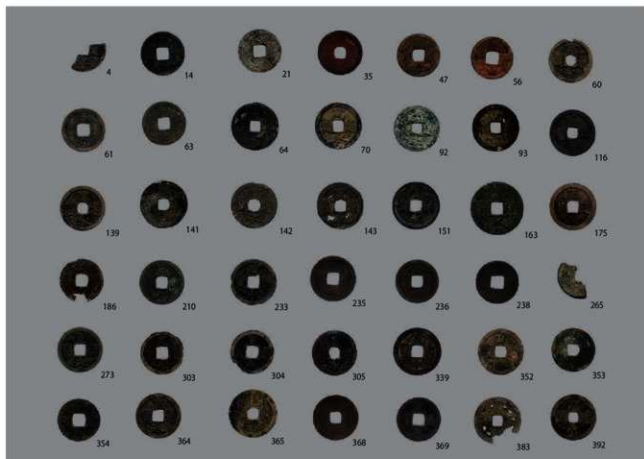


鏡 (23)

金属製品 (17・18 : S=1/2、その他不同、No. は実測图中的の番号に同じ)

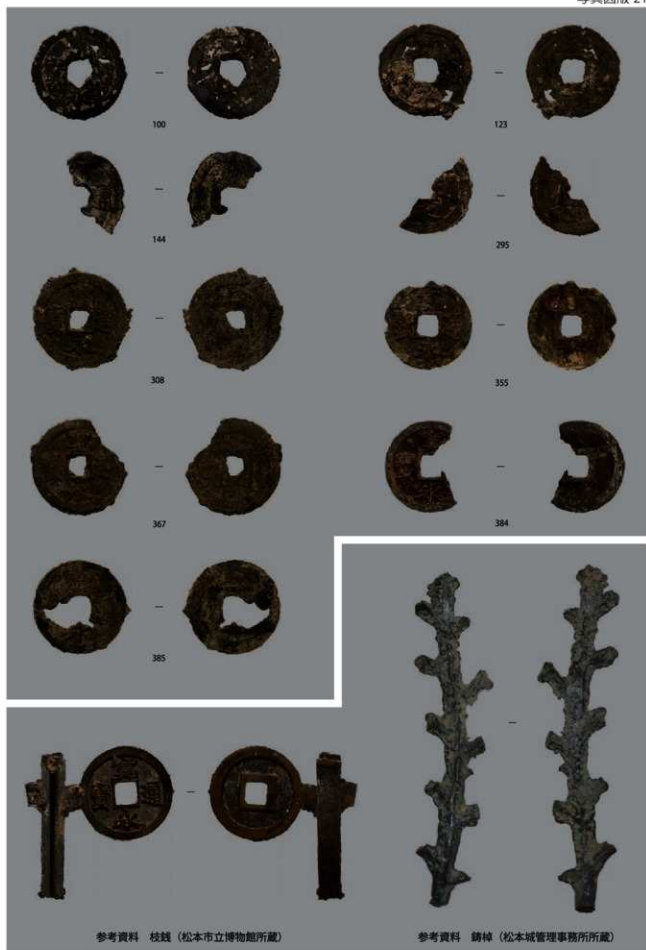


古銭（中国銭）



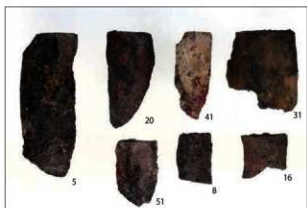
古銭（寛永通宝）

鑄造関連資料(1)（縮尺不同、No. は実測図中の番号と同じ）



寛永通宝 (未仕上げ品・失敗品)

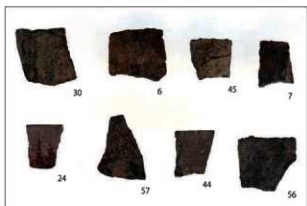
鑄造関連資料 (2) (S=1/1、No. は実測图中的の番号に同じ)



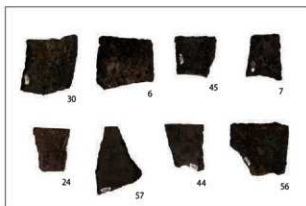
埴塙 (1) (外面)



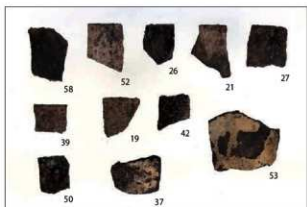
埴塙 (1) (内面)



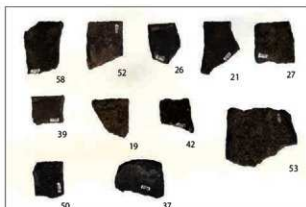
埴塙 (2) (外面)



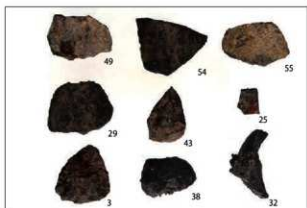
埴塙 (2) (内面)



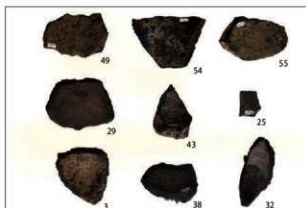
埴塙 (3) (外面)



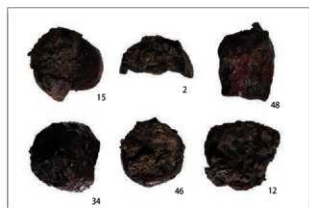
埴塙 (3) (内面)



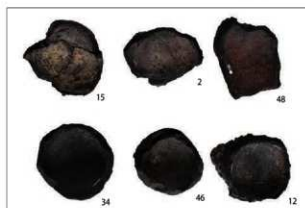
埴塙 (4) (外面)



埴塙 (4) (内面)



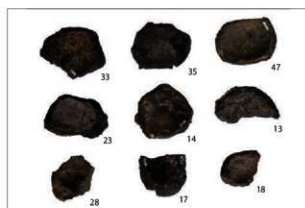
坩堝 (5) (外面)



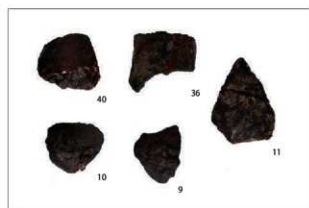
坩堝 (5) (内面)



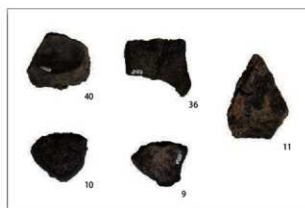
坩堝 (6) (外面)



坩堝 (6) (内面)



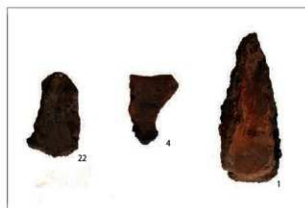
坩堝 (7) (外面)



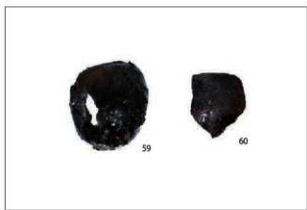
坩堝 (7) (内面)



坩堝 (8) (外面)



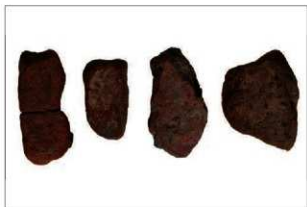
坩堝 (8) (内面)



トリベ (取鍋)



トリベ (取鍋) (59)



サヤ (匣) (1)



サヤ (匣) (2)



金属片 (表)



金属片 (裏)



鉋滓 (1)



鉋滓 (2)

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとしまつもとじょうかまちあとほんままだい8じはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	長野県松本市松本城下町跡本町第8次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	№234							
編著者名	小山奈津美、鈴木仁美、高山いづ美、竹内靖長、原田健司、宮下亮							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 松本市丸の内3番7号 TEL 0263-34-3000 (代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 松本市中山3738番地1 TEL 0263-86-4710)							
発行年/日	2019 (平成31) 年3月26日 (平成30年度)							
ふりがな	ふりがな	コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村						
まつもとじょうかまちあとほんままだい8じはつくつちょうさほうこくしょ 松本城下町跡 本町	長野県松本市 丸の内 中央2丁目 20番2ほか	20202	157	36度13分 58秒	137度58分 11秒	2015年8月3日 ～ 2016年9月13日	のべ4,177㎡ (1～V検 の合計)	民間建物 建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松本城下町跡 本町	屋敷跡 (町屋)	戦国 ～ 江戸	A区Ⅰ検 建物跡4軒、敷地境跡4条、 石列6条、集石遺構6基、 溝状遺構6条、水道遺構4条、 礎石1、土坑82基、ピット 18基 A区Ⅱ検・B区Ⅰ検 敷地境跡1条、水道遺構7条、 溝状遺構9条、石列1条、 土坑138基、ピット61基 B区Ⅱ検 溝状遺構4条、石列1条、土 坑21基、ピット15基 A・B区Ⅲ検 溝状遺構3条、炭範囲32基、 土坑4基、ピット9基 A・B区Ⅳ検 溝状遺構11条、土坑66基、 ピット158基 A・B区Ⅴ検 遺構なし		陶磁器 肥前産、瀬戸・美濃産、 京都産、輸入磁器ほか 土器 土師器(古代)、須恵器(古代)、 皿、内耳鍋、五徳ほか 木製品 漆器、下駄、男根状木製品、 木札、箸ほか 石製品 碁石、砥石、硯、石臼ほか 金属製品 煙管、鏡、分銅、銭貨ほか 鋳造関連遺物 古銭(寛永通宝)、埴塙、 トリベ(取鍋)、氈沓ほか		A・B区Ⅰ・Ⅱ検の御 使者宿の推定地から、 礎石建ち建物址や飛石 遺構など通常の町人屋 敷では見られない遺構 が検出され、高級茶器 や焼塩壺、海産物など の食材も出土している。 A・B区Ⅰ・Ⅱ検の整 地層中から松本銭(寛 永14～17年に松本銭 座で鋳造された寛永通 宝)の鋳造関連資料が 出土した。 A・B区Ⅳ検では、杭 列を伴う蛇行する溝が 検出された。	
要約	<p>GLから150cm程度は視乱により、調査はできなかった。視乱直下から17世紀後半～18世紀後半の生活面(Ⅰ検)を確認した。そこから城下町が成立する以前の堆積層(V検)まで1面ずつ調査を実施した。出土遺物から、各検出面の時期は、Ⅱ検が17世紀前半～18世紀中頃、Ⅲ検が16世紀末～17世紀初頭、Ⅳ検が14～15世紀・16世紀末～17世紀初頭、Ⅴ検が14～15世紀以前と考えられる。</p> <p>今回の調査により、城下町成立時(16世紀末)の方形区画の屋敷割りから、段階を経て、17世紀後半までに近代的な城下町に発展していく変遷が確認できた。これまで、城下町初期の様子が不明確であったため、町の歴史の変遷を検討する上で貴重な資料となった。また、Ⅰ・Ⅱ検では、絵図上に記されている御使者宿(公的な宿泊施設)に帰属すると考えられる遺構・遺物が確認できた。</p>							

松本市文化財調査報告 No.234
長野県松本市

松本城下町跡 本町
—第8次発掘調査報告書—

発行日 平成31年3月26日
発行者 松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内3番7号
印刷 株式会社 二光印刷
